んあ〜！ サダハルンバが青木真也に大激怒……!?

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

7.20 DREAM.10 徹底詳報

2009 AUGUST

880yen

シャオリン戦はなんだったのか？
真相に迫る独占インタビュー

青木真也

業界騒然！ 賛否両論!!
青木vsシャオリンは是か非か!?

川尻達也
髙阪 剛
笹原圭一
谷川貞治

確信犯か、愉快犯か？ 青木vsシャオリンという名の"踏み絵"！

だからアオキは嫌われる!?

新たな大物柔道家の『戦極』、いざ!!

泉 浩

超衝撃のメジャーデビュー!!
キミは"三日月蹴り"を観たか？

菊野克紀

この勢いは誰にも止められない!!
『UFC100』追撃特集!!

ランディ・クートゥアー
ホイス・グレイシー
町田嘉三

格闘大国リトアニアの伏兵が
ウェルター級GPを制覇!!

マリウス・ザロムスキー

kamipro Special 2009 AUGUST だからアオキは嫌われる!?

enterbrain

CONTENTS

ザロムスキーはUインターの遺伝子だった!!

DREAM.10=髙田最強!!

MMA

kamipro Special

Presents

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
表紙写真／菊池茂夫
2009 AUGUST

UFCへ向かえ！

青木真也よ、U

7・20『DREAM・10』さいたまスーパーアリーナ大会。〝軽量級寝技世界一決定戦〟と銘打たれた青木真也vsビトー〝シャオリン〟・ヒベイロの一戦は、観客の期待に反してスタンドの攻防に終始する展開に――。

数年前からムエタイ修練に励んできた青木は、序盤からシャオリン相手に左ミドル中心にローキック、ハイキック、前蹴りと、打撃を的確にヒットさせていく。なんとか寝技に持ち込みたいシャオリンだったが、そのたびに青木の左ミドルがヒットし、思うような試合運びをさせてもらえない。

2ラウンドに初めてシャオリンがテイクダウンに成功するも、青木は下から得意のラバーガードでコントロール。青木は徹底したスタンド勝負でシャオリンに決定打を許さず、フルマークの判定勝利をものにした。

試合後、マイクをつかんだ青木は「いや～、ムエタイっておもしろいでしょ!?（会場からブーイング）。このブーイングは想定内。今日、うだうだ言われてたシャオリンに勝ったから、10月はタイトルマッチやります！　いいですよね、笹原さん？　そして大晦日、川尻さんとやります！　ありがとうございました」とアピールしたが、寝技合戦を期待していた観客からは青木の物言いにブーイングが飛んだ。

な、なんたるKYなマイク!?　このよけいな発言がブーイングを誘発したことは間違いない。やっぱりこの男、「へらず口厳禁！」（立木文彦調）。

まあ、それだけではなんなので話を広げると、こういう〝期待の日本人vs強い外国人〟って、たいてい日本人が〝圧倒的現実〟の前に負け続けてきた歴史がある。

日本人が太刀打ちできない身体能力、それでいていやらしいほどの戦略を持ち、日々進化する技術を駆使する。日本人選手はその〝圧倒的現実〟の前にむなしく砕け散ってきた。

その文脈からすれば、青木は試合巧者のシャオリンにせつなく負けるはずだった。地味～に固められて負ける。カルバンにも、アルバレスにも、タコ殴りにされて負けちゃう。それを見届けてから「あ～あ、やっぱり現実は厳しいよねぇ」とかなんとか言いながら、京浜東北線で帰路につくのがいつものこと。

しかし、青木はいやらしいほどの戦略、日々進化する技術を持っていとも簡単に（見えてしまうように）打ち勝ってきた。いままで観たことのない格闘技の風景。つまり青木真也は日本格闘技界にとって〝エイリアン〟なのだ。

言動、ファイトスタイル。従来の常識からでは、ことごとく理解できない〝エイリアン〟。人間は理解できないものこそに最大の恐怖を抱く。現在の日本を支配する〝KY世論〟からすれば非常に嫌われやすいし、口を挟まずにはいられないだろう。そんな青木真也の〝エイリアン〟ぶりが正当化されるためには、さらなる〝圧倒的現実〟に挑むことじゃないか。

ミルコ・クロコップも、ヴァンダレイ・シウバも、あの〝魔王〟秋山成勲ですらも、〝普通の人間〟に見えてしまう世界――。本誌は「青木よ、UFCに行け！」と声を大にして言いたい。UFCのような舞台で暴れ回ってこそ、本当に頼もしい日本格闘技界の大黒柱となるだろう。

いまのDREAMには、青木真也という〝エイリアン〟を脅かす〝圧倒的現実〟は見当たらないということだ（もちろん競技的にはヨアキムや川尻に負ける可能性はあるが……）。

この一戦には、格闘技というものを深く考えざるをえない要素が多く詰め込まれていた。プロとは何か？　競技とは何か？　日本の興行論とは何か？　そして日本の格闘技界、それは今後のDREAMの方向性を考えるということでもある。青木真也は、そしてDREAMはどうあるべきなのか――？

シャオリンもファンもダマされた!?

どうして

ワオ木に
ミドルを
蹴り続けたのか？

「その理由は1年後にわかると思います」

新・魔王⁉

青木真也

寝技勝負が期待されたシャオリン戦だったが、ところがぎっちょん！
じつはムエタイ大好きの青木が左ミドルで主導権を握り続ける展開に。
う～ん、青木は寝技から逃げたのか？　それともシャオリンがＭＭＡファイターではなかったということか。
試合翌日、青木真也を直撃したぜ‼

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

——ブーイングを浴びた青木さんが一人で傷心旅行をするって話を聞きましたけど。

青木　また勝手なデマを流さないでよ。青春18きっぷで九州あたりを旅するの。とくに期間は決めずにね。シャオリン戦が終わったら、もともとやろうと決めてたんですよ。

——それはおもしろそうだなあ。

青木　でしょ？　所持金は5000円とキップだけ。で、どっかに「泊めてください！」ってお願いして回るの。九州の皆さん、その際はよろしくお願いします！

——よろしくお願いします（笑）。本題に入りますが、今回もまた物議を醸す試合になりましたねぇ。

青木　試合内容がファンの期待どおりにいかなかったことは申し訳なかったです！　今回の試合は、プロのファイターとしてはダメだったことは自分がよくわかってます。

——またまたぁ。ホントはそんなこと思ってないでしょ？（笑）。

青木　もうやめてくださいよ、ホントに。とくに試合後のマイクアピールはいろんな人から怒られたんだから。

——あのマイクアピールが、ブーイングを誘発したって声がありますけど。

青木　あれはホントに反省してます！　も～う、怒られた！

——あたりまえですよ！（笑）。

青木　違う、あれは違うの！　「ムエタイっておもしろいでしょ～？」っていうのは、全日本キックの藤原あらし選手が昔言ったんですよ。タイ人に勝って「K—1、K—1って騒ぐけど、ムエタイっておもしろいでしょ～？」って言ったのよ。

——凄くわかりづらいですよ（笑）。

Shinya Aoki

［09.7.20『DREAM.10』］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○青木真也vsビトー・“シャオリン”・ヒベイロ×
（2R終了 3-0）

左ミドルを蹴り続けた青木。シャオリンにキャッチを許さないテクニックは見事だが、観客から不満の声が漏れたのは、試合後の青木のマイクと、“寝技世界一決定戦”という触れ込みだった影響もある。黎明期ならいざ知らず現在のMMAで一つの分野だけで勝負が成立することは難しくなっているが、日本の興行論はそれは許さないということだ。

寝技をしなかったのはボクのほうか？ 突き放して逃げたのはシャオリン

青木　格闘技オタクの青木真也は「これだ！」と思ってさ。ボクはK—1が好きじゃないから。格闘技を世間に広めたのはK—1、そして薄っぺらくしたのもK—1だと思うから。

——そうなんだ（笑）。

青木　だから「K—1、K—1って騒ぐけど、ムエタイっておもしろいでしょ～？」っていう気持ちがあったんですよ。本当はあそこで「これ想定外、想定外。いや、予想外ソフトバンク」って言いたかったんだけど、やめといた。

——もっとブーイングを誘発していたでしょうね（笑）。

青木　でも試合はボクの勝ちですよ。こればっかりは誰にも文句を言わせない。

——シャオリンもファンも一杯食わされましたよ。ただ、みんなは寝技で勝利する青木真也を期待してたと思うんですけど。

青木　ちょっと待って。「寝技をしなかったのはボクのほうか？」と。たとえば、シャオリンの主張は「ボクは寝技をしたかったのにあいつは寝技をしてくれなかったんだよ」ってことですよね。でも、首相撲から四つの差し合いになりかけたけど、そのときボクを突き放して逃げたのはシャオリンです。ボクがバックを奪ったときにすぐにスタンドに戻したのもシャオリン。「おまえにとって寝技って何？」って聞きたい。

——自分の有利な体勢から寝技を始めたいというか。青木さんが下になってすぐにパスガードができる感じ。

青木　そんな都合がいい寝技はないですよ！

——最初から左ミドルキック作戦でいこうと決めてたんですか？

青木　ぶっちゃけ、全局面で圧倒してやろうと思ってたんですよね。

——寝技になっても圧倒しようと？

青木　寝技になっても上からコツコツやり続けて、スタンドは蹴って蹴って蹴りまくって。べつに下になっても同じことです。どの局面になっても主導権を握ろう、と。最初から「判定上等！」でしたからね。

——あのシャオリン相手にラバーガードを二度もセットしたのは凄いという声もあがってますけど。

青木　とくに問題なかったですね。（シャオリンは）パスガードはそんなに強くないと思ってたし、実際にする気はなかったみたいですし。

——スタンドであそこまでミドルが入るとは思ってました？

青木　正直、（左ミドルを）蹴れると思ってたんですよ。彼、ミドルをカットしないから。それは最初からわかってたんですけど、思ってた以上に蹴れたから。

——今回みたいに距離を制して時間いっぱいを使う闘い方をされたら「誰も青木真也には勝てないんじゃないか」って思っちゃうんですけど。

青木　だからボクは性格悪いって言ってるじゃないですか。勝負に関しては性格、悪いっすよ。ボクとか中井（祐樹）先生と

このまま頑張ったらUFCでもチャンピオンになれると思うよ

か北岡（悟）さんも相手が嫌がることをバンバンやりますよ。ミドルをカットできないなら、もうバンバン蹴りますって。

——あれ、よくキャッチされませんでしたね。

青木　あのミドルハイはキャッチされないようにわざと高めを蹴ってるんですね。そうやって蹴るリズムをとる。リズムをとったら、今度は相手のヒジのあたりを蹴るんです。で、今度は下から腹を蹴るとつかめない。だから3種類に分けてミドルを蹴ってるんですよ。

——シャオリンは「ミドルは腕でブロックしていた」と言ってましたね。

青木　正直、それを聞いて凍りましたね。「こっちは腕を蹴ってるんですけど」みたいな。そういう声に対しては不満じゃなくて優越感がありますね。

——優越感ですか（笑）。

青木　「何を言ってるんだ？」みたいな。そういう知識のなさを堂々とコメントすることで、また格闘技が誤解されると思うんですよ。それにボクのミドルはMMAのミドルキック、ボクの寝技はMMAのグラップリング。単体で「レベルが低い」とか語られても凄く困る！　だってボク、キックボクサーでも柔術家でもなんでもないもん。MMAファイターなんですから。

シャオリン相手ならこんな堅い試合でもしょうがない……と誰もが思っていたところに飛び出してしまった青木の失言マイク。青木らしいといえばそれまでだが、おもしろがれるほど、いまの世の中も格闘技界も、そんなに余裕はない……のか!?

a Aoki

——ある意味、青木さんって格闘技の啓蒙活動をしてますよね。全身に矢を受けながら（笑）。

青木　ボクはちゃんとした格闘技の見方を広めたいんですね。コラムでも、普通の人から見たらクソつまんない試合の技術論を書いてるじゃないですか。ちょっと偉そうな言い方になっちゃいますけど、あれはボクの中では啓蒙活動なんですよ。

——でも、最近は〝わかりやすい試合〟が求められがちじゃないですか。

青木　わかりやすい試合なんて誰にでもできると思いますけど。最近、素人のMMAイベントが増えてきてますけど、KOや一本ばっかでメチャクチャわかりやすいですよ。でも、ボクからすると「そこに戻っちゃうの？　せっかく頑張ったのに、またそこ!?」みたいな感情はありますね。

——青木さんはDREAMを盛り上げたいって気持ちに変わりはないんですか？

青木　シャオリンとやるってことが、そして勝つってことがDREAMを盛り上げることだと思ってます。ボクはね、へんな意味じゃないけど、ヨアキム（・ハンセン）や川尻選手との試合はホントにどうでもいいんですよ。ただ、強くなりたい。それだけ。ただ、主催者が望むんならやりますよ。ボク、DREAMが好きだから。そういう意味で背負ってます。

——DREAMとしては、ヨアキムとのタイトルマッチ、大晦日は川尻選手との試合が青写真じゃないですか。そこに応えるためにシャオリンはどうあっても勝たなきゃいけない試合だったんですか？

青木　そうですね。ここでシャオリンが勝ったら困る人がいっぱいいたんじゃないですか。

——シャオリンとはこのタイミングで正直、やりたくなかったんですか？

青木　そこはボクの考えはどうでもいい。「やりますか？」「やれますよ！」という感じですね。

——客観的に見て、シャオリンは凄くおいしくないとは思いますけど。

青木　まあリスクしかないですよね。

——でも、やるしかなかった？

青木　そうですね。ボクのほうが強いのはわかってましたよ。でも何があるのかわからないのが格闘技だから。

——ボクは普通に堅く攻めれば寝技でも打撃でも青木さんが完封すると思ったんですよ。ただ、ヘンに色気を出したら……っていう。でも、色気のない試合でお客さんは満足するのかなあ、と。

青木　そこは自分でも心配した。でも、ボク、K−1MAXを観てその色気が吹き飛んだんです。

——ああ、じつは自分はこの試合のポイントは魔裟斗vs川尻にあると思ったんですよ。この試合に関して青木さんのブログの書き方が意味深だったので。

青木　ですね。なんですかね。やっぱりボクはK−1が大嫌いだから。「MMAがK−1の道具にはならない！」っていう思いはありますし、DREAMの仲間がそうなっちゃうのは観ててイヤでしたねぇ。

——青木さんって、自分が道具になるのはいいけど、他人が道具になるのを見るといつも考えちゃうタイプですよね。

青木　ファイターって三沢（光晴）さんの論理なんですよ。三沢さん、亡くなったじゃないですか。みんながハードなプロレスを望むから、三沢さんはそれに応えたでしょ。そして亡くなったでしょ。ファイタ

ーも求められたらやっちゃうんだよ。それは周りが止めなきゃいけないの。

――なるほど。つまり川尻さんが「魔裟斗とやる」って言うのはしょうがないけど、周りが止めなきゃダメってこと？

青木 そうですね。それにあれって結局「ファイティングオペラ魔裟斗」だったじゃないですか。結果的に脇役にされて。

――でも、川尻さんが勝てばおいしかったわけですね。DREAMの露出も増える。

青木 だからこそやっちゃうんだよ。麻薬なんだよ。正直言うと、川尻選手に勝ってほしかった。勝って「K－1のバーカ！」って言ってDREAMに帰ってほしかった。ボク、武道館の帰り道で死ぬほど怒ってましたし、ああいう結果になったからこそボクはあくまでもボクを貫こうかと思いましたけどね。だから、今回のボクのモチベーションは〝怒り〟なんですよ。「シャオリンとやったら負けるから青木が逃げてる」っていう論調。「寝技だったら……」とかいう論調。俺は誰からも逃げないし、俺がやってるのは総合格闘技！

――なるほど。

青木 いろいろ考えてボクは決めたんです。「くっだらねえな。もうちゃんとした格闘技やろう!!」って。だから、川尻選手とかマッハ選手が表に出てくれてるのは、ボク的にはスゲエ助かってるんですよ。「ボクはボクの格闘技をやる！」みたいな。

――だから自分の結論を言っちゃうと、青木さんはUFCみたいな場所のほうが輝くんじゃないのかなっていう気はするんですけど。よけいなことを考えずに試合にだけ没頭できる環境って意味で。

青木 ボク、このまま頑張ったらUFCでもチャンピオンになれると思うよ。でも、DREAMが好きだし、まだまだ強くなりたいからね。で、強くなれると確信した。シャオリン戦は死ぬほどつまんなくはなかっただろうけど、まさかこんな攻め方をするとは誰も思わなかったでしょ？

――いや、ボクだけは大会パンフレットの勝敗予想で当ててましたけど（笑）。

青木 そうだ！ 「長渕キックで青木真也の勝ち」。『kamipro』だけ当ててしまったっていう（笑）。

――こうなっちゃうと、シャオリンにはこういう攻め方をしますかね？

青木 いやあ、なかなかできないと思うよ。だって、なんでボクがこういう攻め方できると思います？ それは組み技が強いから。あの程度のグラップリング力では倒されないから。

――そうか。倒されたの一回だけですもんね。

青木 あれもヒザを合わせて倒されただけじゃないですか。あそこでKOできると思ったから、ちょっと色気を出しちゃった。みんな「寝技をやらなかった」って言うけど、寝技が強い前提があるからあれができるんですよ。だったらキックボクサーはみんなシャオリンに勝っちゃう。

――青木さんが言ってることは理論的にも競技的にもまったく正しいです。でも、ファンが望むファイター像からすると、ヒールになると思うんですよ。

青木 ボクはベビーフェイスじゃないでしょ。

――レスナーみたいな存在になりたいですか？

青木 どんな存在ですか？

――圧倒的な存在じゃないですか。

青木 強くないですよ、レスナー。

――あれ、強くないですか？

青木 強くない。ぜんぜん。

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。日本が誇るライト級屈指のMMAファイター。ヨアキム、カルバン、アルバレスら世界の強豪を下している。柔道黒帯、柔術黒帯、MMA黒帯、人間白帯。180cm、70kg。

Shinya A

――そうなのか。青木さんって、声援とブーイングだったら声援のほうを受けたくないですか？

青木 受けたいですよ。あたりまえですよ（笑）。でも声援もあるじゃないですか。ボク、両方できるのかな。ヒールもベビーも両方できちゃうって。

――自分で言いますか（笑）。

青木 で、それができる選手って、いままでアントニオ猪木さんしかいないんですよ！ 目指せ、アントニオ青木！

――またオールドファンの神経を逆なでしそうだなあ。ウチの結論的には「青木真也＝落合博満」なんですよ。

青木 あ、オレ流ね。目指すは軽量級初の一億円プレイヤーだね。

――お金のほうかい（笑）。青木さん、これはちょっと現時点ではとても載せられないですけど、ボクは青木さんがファンを欺いてまで勝ちにこだわった最大の理由は〇〇〇〇〇〇〇〇〇があるからじゃないかって観ながら思ったんですけど。

青木 ………………まあ、そういうことですよね。

――あ～、やっぱりそうですか。魔裟斗vs川尻戦、そして「〇〇〇〇〇〇〇」がキーワード。

青木 だから絶対に負けらんねえと思いました。自分の夢をつなぐためにもね。

――この「答え」がわかるのは、1年後、いや、半年後かな。ホントは判明しないほうがいいのかもしれない（笑）。

青木 ククク！ そのときはオレ、ベビーになるかなあ。

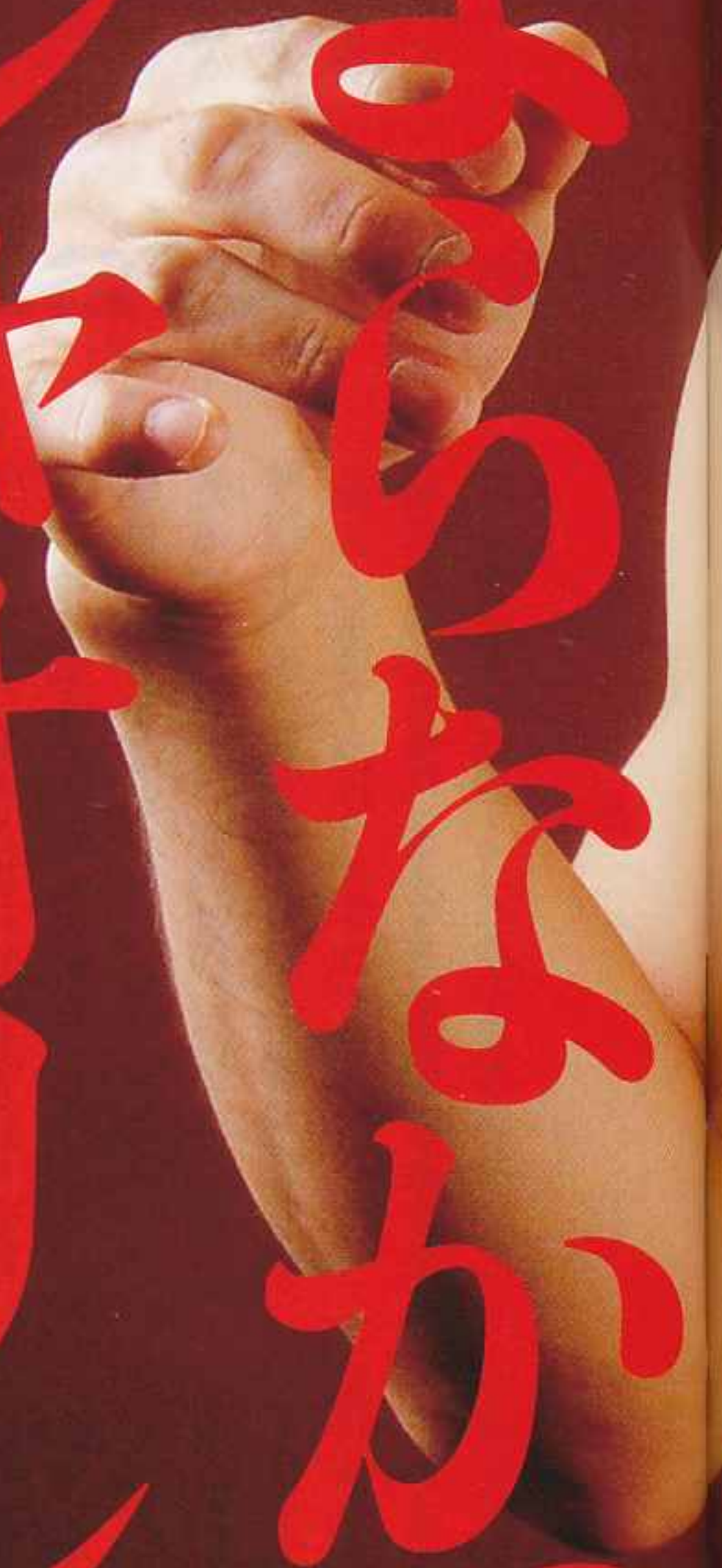
――とりあえずは〝へらず口厳禁〟のうえ、ヒールとして頑張ってください！

青木 押忍！

【09年7月21日／都内・某ホテルにて収録】

DREAMデビュー戦でジダに完勝！
菊野幻想ますます巨大化!!

青木選手の試合は

正直つまらなかった。僕ならシャオリンをKOで倒します

空手最強幻想をまとった人間凶器

菊野克紀

菊野克紀はやはり本物だった！　極真空手をベースにした独特のスタイルで、DEEPで無敵の強さを見せてきた菊野が、DREAMデビュー戦であのアンドレ・ジダに完勝！　得意の三日月蹴りで悶絶させ、TKOで葬った。一躍、ライト級の台風の目となったこの男をジダ戦の翌日に直撃。自信満々に青木真也、川尻達也への宣戦布告を行なった！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾真也

集中力が極限まで研ぎ澄まされると闘いながら顔が笑っちゃうんですよ（笑）

——昨日はDREAMデビュー戦勝利、おめでとうございます！
菊野　ありがとうございます。
——深夜TBSで放映されたのはご覧になりました？
菊野　10回ぐらい観ました。
——一晩で10回も（笑）。
菊野　もう嬉しくて嬉しくて（笑）。でも純粋にどんな試合だったか気にもなってたんですよ。
——テレビで客観的に自分の試合を観てどうでしたか？
菊野　正直、あんなにジダ選手が入ってこれないとは思わなかったですね、我ながら。
——ホント、あのアンドレ・ジダがじりじり下がるばかりでしたからね。でも、最初にパンチで前に出てこられたときは、ちょっとビックリしませんでしたか？
菊野　あれは最初から狙ってたと思うんですよね。僕のローキックに対してカウンターを合わせようって。実際、ドンピシャで合わされましたから。
——あのストレートのダメージは？
菊野　ダメージはなかったです。アゴを引いて額で受けられたんで。ただ衝撃が凄かったんで、吹っ飛びましたけどね。それだけです。
——ジダのパンチは見えてましたか？
菊野　全部見えてました。だからプレッシャーもかけられましたし。
——ジダが中に入ってこれなかったのは、なぜなんでしょうか？
菊野　武術には「先（せん）を取る」という言葉があるんですけど、常に僕が先を取ってた状態だったと思うんですね。だから向こうのイメージとして、手を出したらやられると思ったんでしょう。そういう状況を僕が作ったんです。DEEPでの松本（晃市郎）戦のときも同じですよ。僕は構えているだけで、攻めてないけどずっと攻撃していたんです。今回もそれができました。
——構えるだけで精神的に追い詰めていったわけですか。
菊野　だから自分が前に出て、ジダ選手が下がってという追いかけっこになりましたけどね。で、これじゃラチが開かないから、僕が（構えを）スイッチしたりして、三日月（蹴り）で崩していこうという感じで。そしたら三日月がストンと入って、「あ、効いた！」って思ったんで、一気にテイクダウンして攻めました。
——その前の前蹴りもけっこう効いたんじゃないかと思うんですけど。
菊野　効いてたでしょうね。あれも練習してたんですよ。ジャブに前蹴りを合わせるという。
——あの前蹴りも独特ですけど、どこで蹴ってるんですか？
菊野　中足（ちゅうそく）という、指を返したところです。
——じゃあ、効きめ的には三日月蹴りと同じような効果があるんじゃないですか？
菊野　そうですね。蹴る軌道と急所に当たるか当たらないかの違いだけです。
——じゃあ、相手としては三日月だけじゃなく、前蹴りも厄介ですね。
菊野　嫌だと思いますよ。実際、前蹴りをうまく使える選手ってあんまりいないと思うんですよね。しかも効かせる前蹴りですから。キックボクシングの前蹴りは、距離を取るためのっていうイメージだと思うんですけど、空手の前蹴りは一撃で倒す技なんで。その意識の差は大きいと思いますね。
——それにしても、あのジダが何もできないのは衝撃でした。
菊野　テレビで観て僕も衝撃でしたね。僕と向き合うって、そんなに嫌なもんなのかなって（笑）。
——ニヤニヤしながら、ジリジリ詰めてくるわけですからね（笑）。
菊野　なんか試合中、ずっと笑ってましたね。気持ち悪いですね（笑）。たぶんハイになってるから、笑ったような顔になってるんだと思います。集中力の極限ですよ。
——トリップみたいな感じですかね？
菊野　そうだと思います。スーパーサイヤ人みたいな状態です。
——スーパーサイヤ人は目が吊り上がりますけど、スーパー菊野克紀は、逆にニヤニヤしてしまうという（笑）。
菊野　嫌でしょうね（笑）。自分としては、もう相手しか見えないし、何が来ても怖くないって感覚ですよ。その状況を練習中のスパーリングでもパッと作れるようになったんです。
——自在にスーパーサイヤ人になれるように。
菊野　そうですね。「いまからやるぞ」っていうときにスッと入れるようになりました。いままでは試合前に「ウリャーッ！」とか叫んで、凄い気合い入れてやってたんですけど、いまはそんなの必要ないですね。スッと入れるんです。
——でも、初の大舞台で緊張はなかったんですか？

riKikuno

青木vsシャオリン戦は、僕とジダがヘタクソな寝技勝負をするようなもん

菊野　なかったですね（アッサリ）。

――ないんですか（笑）。

菊野　僕、DEEPのタイトルマッチまで、試合前は凄く緊張してたんですよ。やっぱり10年かけてきた夢の道だったんで、途中でコケたら、いままでの人生が否定されるような気がして。でも、もうここまで来たら、新しい夢に突入してるんで、プレッシャーより楽しさが上回るようになりましたね。

――でも、DREAMのデビュー戦こそ落とせない大一番なんじゃないですか？

菊野　もちろんそうなんですよ。でも、そういう恐怖は、DEEPでチャンピオンになった時点でもう突き抜けたみたいですね。DEEPのタイトルマッチの前日がホントに死にたくなるぐらいしんどかったんです。でもそれを乗り越えたことで、もう精神的にも突き抜けたみたいで、また違う境地に来たんだと思います。だから笑っちゃうんですね。

――笑っちゃう境地に（笑）。

Katsunori Ki

菊野　そういうことになってましたね。

――では、大舞台でも浮き足立つこともなく。

菊野　まったくなかったですね。むしろ楽しいな、熱いなっていう。ホントに夢の舞台で闘えてるなっていうか。プラスのことしか浮かばなかったですね。「こんな大きなとこで闘える！　俺を見て！」みたいな（笑）。

――たいしたタマですねえ。今回、菊野応援団はどのくらい来てたんですか？

菊野　200人ぐらいですね。

――今回の勝利で、いままで「DREAMに出る」「大晦日に闘う」と公言してきたことが、ようやく証明できた感じじゃないですか？

菊野　ホントにそうですね。幻想が妄想で終わらずにすみました（笑）。

――反響はどうですか？　深夜ですけど地上波のテレビで放映されて。

菊野　昨夜はケータイのメールも鳴りやまず、ブログのアクセス数も凄いことになってましたね。あと「菊野克紀」で検索したら、もう数えきれないぐらいブワーッと出てきたり。

――そういうことは一通りやってみたんですか（笑）。

菊野　そうですね、やっぱり興味あるじゃないですか、世間の評価っていうのは。まあ、純粋にいい評価も悪い評価も受け入れたいと思ってるんで。「気持ち悪い」とかも書いてありましたし（笑）。

――ガハハハハ！「なんだあの薄ら笑いは」とか（笑）。

菊野　あとは「試合がつまんねえ、もっと動け」とかもありました。

――でも、ほとんどは驚きの声なんじゃないですか？

菊野　そうですね。結果が出たんで、よかったです。

――あの打撃に定評があるジダをノックアウトですからね。

菊野　そうですよね。最後はパウンドでTKOですけど、実質は三日月で終わってますからね。

――あれは三日月で動けなくなったから、簡単にテイクダウン、パウンドの流れになった感じですか？

菊野　そうです。最後はもう力がなくて、反応できてませんでしたから。一応、三日月から柔道の小外掛けで倒して、そこから髙阪さん仕込みのグラウンドの流れがあり、バックマウントを奪ってからのパウンドですね。

――あのパウンドもやたら強烈でしたよね（笑）。

菊野　「すげえパウンドだな」って自分でも思いました（笑）。まあ、相手がほとんど無抵抗でしたからね。

――無抵抗なのをいいことに（笑）。

菊野　いいことに（笑）。僕はレフェリーが止めるまでは何をしてもいいと思ってるんで。チョン・ブギョンを踏みつけようが何をしようが。

――あれも「ひどいことするな」って思いましたよ。もう悶絶してるのに。

菊野　でも、お互いそういう覚悟のうえで闘ってるんで、むしろそうしなきゃいけないと思いますね。

――完全に勝負がつくまでは、破壊するぐらいのつもりでいく、と。

[09.7.20『DREAM.10』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○菊野克紀vsアンドレ・ジダ×
(1R 3分47秒　TKO)

菊野はMMAのトップストライカーであるジダに対し、空手の三戦（さんちん）の構えからプレッシャーをかけ、得意の三日月蹴りで悶絶させ、最後はパウンドでTKO！ 見事な完勝だった。

三日月蹴りと前蹴りを使い分け、相手との空間を支配する菊野克典。あのブアカーオ・ポー.プラムックからもダウンを奪ったジダを完封した実力は、ファンに巨大なインパクトを与えた。

Katsunori Kikuno

菊野　そうです。一切、手加減するつもりはないです。

——DEEPとDREAMのルールの違いは気になりませんでしたか?

菊野　ちょっと心配でしたね。やっぱり自然と身体が動いちゃうんじゃないかなって思って。

——自然とサッカーボールキックや踏みつけをやってしまうんじゃないか、と。

菊野　あとは、たとえば青木選手がマッハ選手にグラウンドのヒザ蹴りで負けましたよね？　ああいう危険なポジションにいることに自分が気づかずに、ヒザを食らってしまう可能性とかあるんで。やっぱり慣れないルールでやるというのは、ちょっと心配がありましたけどね。

——それはやっぱり慣れていくしかないんでしょうかね。

菊野　そうですね。

——1ラウンド10分という試合時間はどうですか？　5分に慣れるとかなり長く感じると思いますが。

菊野　僕のスタイルは、時間が長いほうがいいんじゃないかって思いますけど(笑)。

——それだけ長い時間かけて追い込める、と。

菊野　でも、動いてないように見えて、精神力は凄く使うんですよ。すっごい集中してるんで。

——運動量は少ないけど、精神的にもの凄く疲れるわけですか。

菊野　もう、とんでもない汗かきますよ。でも、10分なら集中力はもちますし、疲れも問題ないですけどね。

——集中力を高めるトレーニングとかもしてるんですか？

菊野　日頃のスパーリングが僕にとっては集中力を高めるトレーニングですね。僕はダラダラとしたスパーリングは絶対したくないんですよ。マススパーならマススパーでやることはありますけど、緊張感のない中途半端なスパーリングはしないし、僕にとっては意味がないですね。

——間合いと一瞬の呼吸で勝負するわけですから、試合と同じ緊張感でやらないと意味がないわけですね。

菊野　そうなんです。だから僕のこの構えが凄いんじゃないんですよ。その内面、先を取るっていう気持ちが大事なんですよ、気が。だから、その気を作らないと意味がないんですよね。

——真剣で斬り合う練習をするのに、普段の練習が「竹刀だから練習は打たれても大丈夫」と思ってたらダメだ、と。

菊野　そんな気持ちじゃ絶対にダメです。きっと試合でも相手の攻撃を食らっちゃいますよ。

——だからこそ練習から、やるかやられるかの気持ちで闘う、と。

菊野　もちろんスパーリングだけじゃなく、その前に技術の練習というのも必要不可欠ですけどね。それをみっちりやったうえで、試合と同じテンションでスパーリングをするのが僕のスタイルです。

——なるほど。この勝利でいろんな可能性が見えてきたと思いますけど、次はどんな試合を希望しますか？

菊野　やっぱりDREAMのチャンピオンを目標にやってますんで、そのために一つ一つ実績を積み重ねていって、資格を得たいですね。やっぱりまだ青木選手や川尻選手とは実績に大きな開きがありますんで、それを少しずつ埋めて、チャンスをいただきたいです。

——昨日行なわれた青木真也vsビトー・"シャオリン"・ヒベイロ戦はご覧になりま

川尻選手とやったら僕が勝ちますね。僕を仕留める技を川尻選手は持ってない

した？

菊野　観ました。

——どう思いましたか？

菊野　よくあの戦法をやりきったな、と。青木選手は鉄の心臓ですよね。あの戦法について、選手としては文句を言うところはないですけど、プロとしてはいろいろと言われるとは思いますね。

——プロとしては、いただけない試合でしたか？

菊野　いや、それを判断するのはお客さんですから。ただ僕は単純に観ててあまりおもしろくなかったですから。少し眠くなりましたね。

——眠くなっちゃいましたか！（笑）。

菊野　みんな寝技勝負を期待してたと思いますし。あの試合は、僕とジダが寝技勝負するようなもんですよ。しかもヘタクソで中途半端な勝負。そんなのお客さんは観たくないでしょうし、もし僕がそんな試合したら、絶対に次は使ってもらえないですよね。

——やはり打撃をずっとやってきた人間からすると、あの二人の打撃戦は見応えはなかった、と。

菊野　あの青木選手のミドルキックはいい蹴りですよ。ただ、ミドルキックだけの技術なんで、スタンドの攻防として考えたら、どうにでもなりますよね。もちろん相手がシャオリンだからあの闘い方をしただけで、勝つための手段、戦術としては間違ってないと思います。ただ、おもしろくなかったというのが、率直な感想です。

——あの試合を観て、自分ならシャオリンをKOできると思ったりしませんでしたか？

菊野　正直、勝てると思います。僕は青木選手よりシャオリンのほうがずっとやりやすいですね。

——シャオリンは自分の距離に入ってこられない、と。

菊野　そうですね。それにシャオリンって、たぶんちょっと僕のスタンドに付き合ってくれる部分もあると思うんですよ。でも、青木選手は勝つことに徹するじゃないですか。その姿勢は厄介ですよ。絶対に組みついてくるし、勝つために最高の手段をとってくると思うんで。

——ぴったりくっつくか、絶対に打撃が当たらない距離を取ったりするでしょうね。

菊野　はい。しかも飛び蹴りしながら組みついたり、下から潜って組みついたり、ありとあらゆることをしてくるでしょうからね。その一瞬のコンタクトで僕が仕留められなかったら、僕はやられる。だからこの試合はおもしろいんですよ。どっちが先に当たるか。どれだけ神経を研ぎ澄ませるかっていう。観たいですよね？

——はい、観たいです（笑）。

菊野　じゃんじゃん煽ってもらいたいですね。

——青木戦へのステップとして、次はシャオリンとやるっていうのもいいかもしれないですね。

菊野　ただ、シャオリンに勝つ自信はあるんですけど、シャオリンって固めることが多いじゃないですか。だから次はシャオリンか○○選手以外にしたいですね（笑）。

——もっとおもしろくなる相手とやりたい、と。

菊野　僕もおもしろくない試合をする選手だと思われたくないんで。相手が強いぶんには一向にかまいませんから。エディ・アルバレスでもJZカルバンでもやりますよ。そのレベルを倒したいですね。僕とアルバレスやカルバンの試合って観たいですよね？　観たいって言ってください！（笑）。

——はい、観たいです（笑）。

菊野　僕みたいな新しい選手が大物と闘うには、皆さんの後押しが絶対に必要ですから（笑）。

——でも、いまの菊野選手だったら、トップクラスの選手なら誰とやっても興味ありますけどね。

菊野　よく川尻選手との試合が観たいとか言われますね。

——それもいいですね～。

菊野　やれば僕が勝ちますけど。川尻選手には負ける気しないですから。

——負ける気がしない！　それは、これまでのMMAの試合や、先日の魔裟斗戦を観て思ったんですか？

菊野　僕に勝つ技がないと思うんですよ、川尻選手は。打撃では僕が勝つと思いますし、寝技で僕を仕留めきれるとは思えないし。

——ということはイコール「勝てる」と。

菊野　そうですね。

——そこまで言われると、俄然、川尻戦も観たくなりますね。

菊野　まあ、今年はあきらめますよ。しっかり結果を残したあと、来年できたらと思います。それまでに僕の闘い方を研究されるかもしれないけど、ネタバレしても全然大丈夫ですから。自分には引き出しがいっぱいあるんで。

——もしいまの闘い方を研究されても、違う引き出しを開けるだけだ、と。

菊野　そうですね。それに僕の打撃はバレたからといって、防げるようなもんじゃないんで。三日月にしても、あの三日月蹴り自体が凄いんじゃなくて、それを当てる技術が凄いんですよ。来るのがわかってても食らうわけですから。

——いやあ、なんだか菊野幻想がますます巨大化してきますね。

菊野　その幻想を最初に誌面で作ってくれたのは『kamipro』ですから。もっともっと煽ってください（笑）。どんどん巨大化させても自分は幻想で終わりませんから！

【09年7月21日／都内・某ホテルにて収録】

きくの・かつのり■1981年10月30日、鹿児島県出身。極真会館鹿児島支部内弟子を経て、04年に高阪剛の弟子となり、翌年DEEPでMMAデビュー。三日月蹴りを武器に着実に実績を積み上げ、今年4月にDEEPライト級王座を獲得した。170cm、70kg。

目指すは視聴率30パーセント!?

川尻達也が宣戦布告！

「青木くんとの試合で世間を巻き込みたい」

「おい、青木真也、しっかりベルト獲ってこいよ！」祭り（魔裟斗戦）も終わり、〝本業〟である『DREAM・10』のリング上で挨拶を行なった川尻が、青木の「大晦日に川尻さんとやります」というアピールを受けて、高らかに対戦表明！　日本MMAのキーマンであるクラッシャーが、今大会を振り返りながら今後の展望を語る！

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也

川尻　ちょっと聞いてくださいよ〜。

――どうしたんですか、いきなり？

川尻　会場入りするときに、駐車場近くで毛虫に刺されたんですよ！

――ダハハハ！

川尻　笑いごとじゃないですよ！　茂みに腕が触れたときに何かに刺された感触があって、「いってぇ！　トゲか？」と思ってよく見たら、葉っぱに毛虫がついてて。で、腕のしびれと痛みが止まらなかったんで、大会前のファンイベントには薬を塗って包帯巻いて出たんですから。刺されたときは「あぁ、今日はもう終わったな」っていうくらいに気分が落ちましたよ……（しみじみと）。

――そんな大げさな（笑）。でも魔裟斗戦の激闘を終えて、今日は会場が歓迎ムードでしたね。

川尻　いや〜、ホント嬉しかったですよ（満面の笑みで）。「やっと本業に戻れる。このリングでいいところを見せないと」って思いましたね。今日も試合を観てて、あらためて自分がMMAを好きだってことを実感しましたし。

――さて、川尻さんに今日の大会を振り返ってもらいたいんですけど、お互いに大晦日での対戦をアピールした青木選手の試合はどうご覧になりました？

川尻　う〜ん……（熟考）。あの、僕は格闘技をやっていて、グラップラー同士が寝技をお互いに警戒して打撃戦になるほどつまらない試合はないと思ってるんですね。

――おぉ、バッサリ斬りましたね！

川尻　いや、これはべつに青木くんがどうとかじゃなく、前から思ってることなんで。あとは同じようにストライカー同士が打撃を警戒しすぎて手が出なくなる試合とか、やっぱり観る側としてはキツいですよね。でも、今回の青木くんは「日本のMMAの未来を考えたら絶対に負けられない」というのもあっただろうし、いちばん勝つ確率の高い闘い方をしたという意味では間違ってないと思います。ただ一つ間違っているとすれば、僕の（JZ）カルバン戦もそうでしたけど、あのスタイルでやるなら〝KO〟っていう説得力のある結果を出さなきゃいけなかったってことじゃないですかね。

――展開としてああいう攻防は予想してました？

川尻　もちろん寝技を期待してましたけど、「もしかしてグラウンドを避けて打撃戦になっちゃうんじゃないの？」って話は仲間としてました。シャオリンはグラウンドにいきたかっただろうけど、青木くんのミドルの間合いから踏み込めなかったし、強引にタックルにはいかなかった。たぶんシャオリンのパンチも一発も当たってないし、青木くんが封じ込めた試合だったと思います。

――川尻さんは過去2回シャオリンと闘ってますが、以前「あぁいう地味な選手とおもしろい試合をするのは地味に難しい」ってコメントしてましたね。

川尻　難しいですね、手堅くて穴がないし。一本取るのは絶対に無理だと思うんで、いい試合をするとしたらKOしかない。お客さんにしてみれば「あの二人なら寝技の勝負が観たい」って思ったでしょうけど。

――1ラウンドがスタンドだけの展開で終わり、お客さんも「あれ、おかしいぞ？」っていう雰囲気になって。

川尻　僕も「このまま終わっちゃうの？」ってハラハラしましたよ。隣に座ってた笹原（圭一・DREAMイベントプロデューサー）さんに、「これ、大丈夫なんですか？」って聞いちゃいましたもん（笑）。

――ダハハハ！　笹原さんはなんと？

川尻　「ヤバいねぇ〜」って苦笑いし

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て08年からはDREAMを主戦場とする。同年の『Dynamite!!』では武田幸三からKO勝利。続いて09年5月のJZカルバン戦にも勝利を収め、魔裟斗のK-1 MAX最終試合の相手を務めた。171cm、69.9kg

てました（笑）。まぁ、単純に試合としてはおもしろくはなかったですから。もし万が一、青木くんが最初から判定狙いであのスタイルでいこうとしてたのなら、ちょっとプロとしてどうかなとは思います。お客さんからブーイングも起こってましたし。

——だからなのか、川尻さんが青木選手に対戦アピールしたときの会場の反応が、ちょっといまいちな感じがしましたね。本来ならもっと盛り上がっていい場面なのに。

川尻　確かに思ったよりはちょっと反応が薄かったですね。でも、僕も魔裟斗戦で負けてるんで「そんな人間が何をアピールしてるんだ？」って思ったファンもいたかもしれないし。僕が魔裟斗選手に勝って、青木くんがシャオリンから一本取った中でお互いアピールしてたら盛り上がったんでしょうけど……なかなか人生ってうまくいかないですね（笑）。

——そんなに都合よくはいかない、と（笑）。

川尻　とにかく青木くんが一歩進んでくれたことと、僕も魔裟斗選手には負けたもののタイトル戦線に絡める状態にあるというのは、日本のMMAにとっていいことだと思います。とりあえずは10月のタイトルマッチで青木くんには（ヨアキム・）ハンセンに勝ってもらわないと。じゃないとこの先のストーリーも始まらないですし。まぁ、ハンセンはハンセンで僕は過去に遺恨はあるんですけどね。

——修斗時代に対戦して、ハンセンの金的攻撃でノーコンテストになってますね。

川尻　はい。でももう一回、世間を巻き込むためには絶対に日本人対決のほうがいいと思います。大晦日という、格闘技を一般層にもテレビで一番観てもらえる日に、青木くんとベルトを賭けて闘いたいですね。去年のDREAMのライト級は青木くんだけが頑張っているような部分もありましたけど、ようやく僕も肩を並べられる位置まできたと思うんで、やるならいましかないなって。

——これから大晦日に向けて魔裟斗戦ばりに盛り上げていく、と。

川尻　何も言わずに「対戦が決まりました、練習しました、試合しました」よりは、ファンの期待を高めるようなものを投げかけたほうがいいですよね。アンチにしろ、反応があることが大事だと思うし。でも、まずはリングの上で説得力のある闘いを見せないと。そうじゃないのにアピールばっかしたら、お客さんに「なんでそんなにエラそうなんだよ？」とか言われちゃいますから。青木くんは10月に試合があって、僕も大晦日の前にもう一試合挟むかもしれない。お互いそこでコケないようにしないと！

——なるほど。で、結論としては「今回の青木真也の闘い方は非だ」ということでいいですか？（笑）

川尻　う〜ん、非ではないですけど……（笑）。ホント、そこは難しい。たとえば「勝ちたいけどおもしろい試合をしなくちゃいけない」って思ってる野球選手やサッカー選手、バレーボール選手や陸上選手ってそんなにはいないと思うんですよ。でも、プロの格闘家となると……。

——競技と興行のバランスも考えないといけない、と。

川尻　大変な職業ですよね（笑）。でも、やっぱり最終的にはお客さんあってのものなんで、お客さんが満足してくれるような試合をしないと食っていけなくなっちゃいますから。とりあえず、今日の微妙な会場の反応を覆すように、これから大晦日に向けて青木くんと盛り上げていきたいですね。目指すは視聴率30パーセントで（笑）。

——期待してます！　それと、今日はその混沌とするライト級戦線に菊野克紀選手というニューカマーが登場しました。

川尻　僕、菊野選手の試合をちゃんと観るのは始めてだったんですよ。DEEPのときは仲間のセコンドとかで忙しかったから観られなくて。でも、前評判は聞いてましたよ。

マッハはザロムスキーとの打ち合いに臨んだ結果、骨が見えるほど目尻をカット。結局、このカットがマッハを焦らせ、敗因につながってしまった。ちなみに開会式直前、川尻がマッハに「頑張ってください」と声をかけ握手したところ、野生のカリスマは無言で頷くのみだったとか。

——三日月蹴りはどうでした？

川尻　いや〜、凄いです。絶対に食らいたくないですね（笑）。カルバンや（エディ・）アルバレスと渡り合ってた（アンドレ・）ジダにあの勝ち方ですし、これからくる選手じゃないですか？　あの待ちのスタイルはやりづらいですよ。アグレッシブなジダが、菊野選手のプレッシャーで手が出せなくなってましたから。あの間合いから打ち合ったら相当強いと思います。近い将来、DREAMを背負って闘っていくような選手になる気がしますね。

——かなりの高評価ですね。あと、川尻さんの師匠であるマッハさんのウエルター級GPの話をうかがいたいんですが……。

川尻　（さえぎるように）ホンット残念です！　今日はマッハさんの優勝を観るためだけに来たくらいの気持ちだったんで。

——試合前の期待も凄かったですよね。

川尻　煽りVはグッときましたねぇ〜（しみじみと）。（佐藤）ルミナさんが登場したのはとくに感慨深かった。ボクはリアルタイムで修斗四天王をバリジャパとかで観てきて、めちゃくちゃ興奮してた世代ですから。師弟とか関係なく、同じファイターとしてマッハさんには優勝してほしかったんですけど……。

——試合展開的にどうでした？

川尻　一発目のザロムスキーの左ハイがまったく見えなかったのか、まともに食らってたんで「危ないな」とは思いました。スタンドじゃなく組みついたほうがいいと思いましたね。まぁ、打撃でいっちゃうのもマッハさんらしいと言えばらしいんですけど。

——マッハさんのパンチも当たってはいましたよね。

川尻　でも、ザロムスキーも打たれ強かったですよ。当たっても弱気な顔は見せないし、足下もフラついてなかった。というか、やっぱりマッハさんは減量失敗が響いてると思いますね。だって計量は前日の昼12時なのに、今回マッハさんがパスしたのはその日の19時半ですよ？　試合までに24時間経ってないんですから、絶対にベストコンディションとはほど遠かっただろうし。結局、それはマッハさん本人の責任なんですけど……でも、やっぱり悔しいですよ。

——返す返すも残念だ、と。

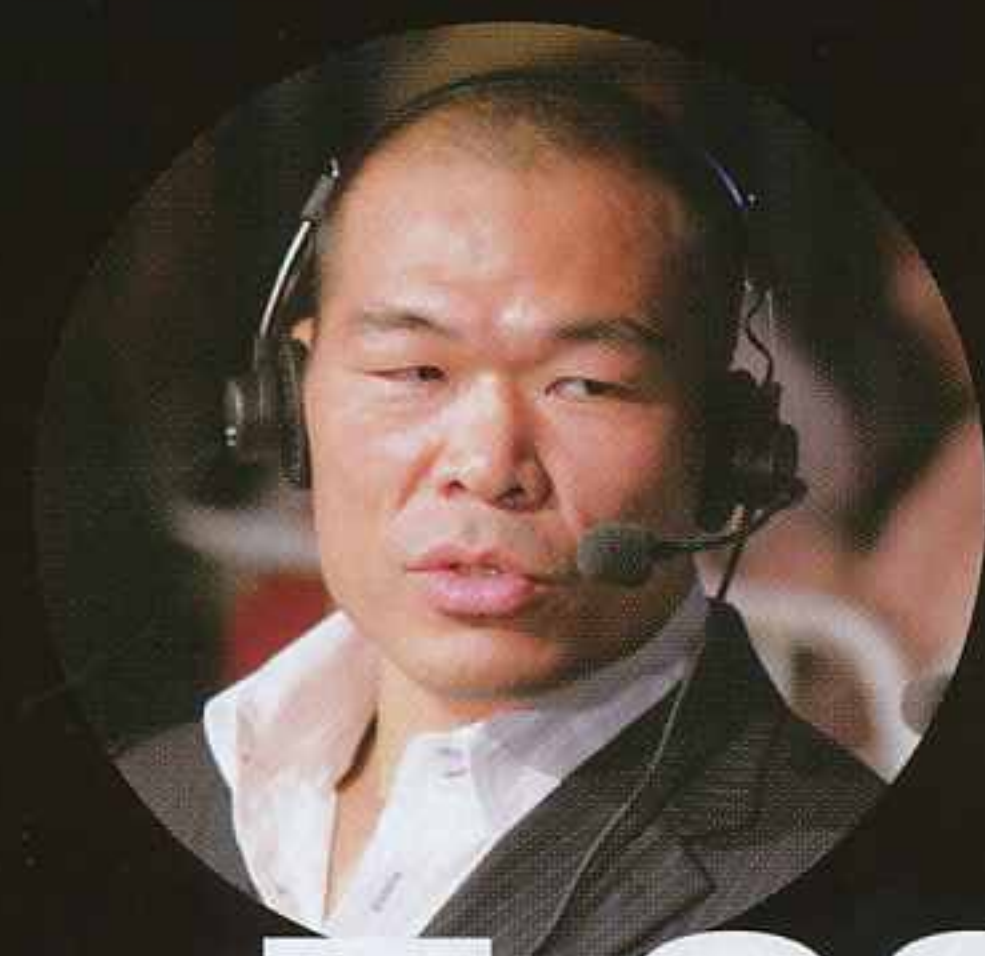
川尻　また一緒にDREAMを盛り上げるために、青木戦のときみたいな強いマッハさんを見せてほしいですね。まぁ、とにかく今日はいい刺激を受けたんで、また本業で頑張りますよ！　……さぁ、帰ってドラクエやろうかな。

——すっかりドラクエにはまってますね〜（笑）。もうけっこう進んでますか？

川尻　すでに何回も転職して、レベルも30後半です！（得意げに）。

——格闘技は“本業”で頑張るけどドラクエは“転職”しまくってる、と（笑）。では、毛虫に気をつけてお帰りください！

【09年7月20日／埼玉県・さいたまスーパーアリーナにて収録】

キーワードはズバリ「距離」!!

“世界のTK”

髙阪剛が 7.20 DREAM.10 日本人ファイターの明暗を語るでござる!!

毎度おなじみの“世界のTK”高阪剛のプロフェッショナル解説。
いろいろあった『DREAM.10』ですが、その中からTKの愛弟子の菊野、
無念のKO負けを喫した桜井マッハ、シャオリンに勝利した青木真也。
明暗を分けた3人の日本人選手の試合について語ってくれたでござる!

構成/阿修羅チョロ　試合写真/乾晋也

完勝でしたけど、あの展開だとジダが弱い選手と見られるんじゃないか心配で（笑）

——さて、髙阪さん。『DREAM・10』が数時間前に終わったばかりですが、今回もプロフェッショナル解説者に何試合か総括していただければと思います！

髙阪　了解。どの試合からいきます？

——やはり、"世界のTKの弟子"菊野克紀選手からでしょう。アンドレ・ジダ選手相手に得意の三日月蹴りも決めての完勝という結果で、DREAMデビュー戦を素晴らしいかたちで飾りましたよね。

髙阪　まあまあ、おかげさまで。

——予定どおりっていう感じですかね？

髙阪　いや、予定より早く終わった感じでしたね。

——そうなんですか。途中、ジダのパンチで吹っ飛ばされるシーンもありましたが、それ以外は危ないところもなく、試合中も笑顔を浮かべながら闘ってましたよね。

髙阪　そうですね。なんか今回は練習のときからあの顔でやってましたからね（笑）。

——それぐらい技術や精神面で自分に自信があるってことなんでしょうかね。

髙阪　そういうのもあると思うんですけど、試合が始まって、自分の距離で闘えてるっていう実感を持てたからでしょうね。

——初の大舞台ですし、当然プレッシャーともあったと思うんですけど、自分の距離で闘えてると実感を持てた自信からニヤニヤしてしまった、と。

髙阪　でしょうね。まあ、さんざん、その前の段階でプレッシャーとかを乗り越えられるように自分で気持ちをコントロールしてのあの状態だと思うんで。

——試合後にはどんな言葉をかけたんですか？

髙阪　終わってからは「おめでとう」ってぐらいで。要は、まだ先があるんで。いまは克紀も自分も気を抜けない。

——早速、試合後は青木戦や大晦日出場をアピールしてましたからね。

髙阪　まあ、今回の試合でとりあえず結果が出せたんで、ここからですね。とりあえず、スタートはできたかなって。

——髙阪さん的には、まだまだこんなもんじゃないという感じですか？

髙阪　そうですね。逆にね、これから映像を観てみないとわかんないですけど、わかってもらえたのかどうかっていう。なんか、あの展開だと、ジダが凄い弱いヤツって見られるんじゃないかな、とか（笑）。全然そんなことないんだけどね。

——先日のK-1MAXではブアカーオからダウンも奪ってますし、とんでもないストライカーですからね。

髙阪　そうですね。でも、途中からジダもビビって手も足も出ないような状態になったんでね。そうさせるような闘い方や、持っていき方を克紀がしてたってことなんですけど、そういう部分はなかなか伝わりづらいことだと思うんで（苦笑）。

——それはあるかもしれませんね。

髙阪　逆に格闘技をやってない人のほうがわかるかもしれないですね。「なんか知らないけど、この選手、強いんじゃないの？」って肌感覚で感じたかもしれないけど、多少でも格闘技のことを詳しく観てる人とか、ずっと応援してきた人にはわかりづらかったかなって。

——まあでも、煽りVでも三日月蹴りはさんざんクローズアップされてましたし、それが飛び出したときは場内も「おお～！」って、どよめいてましたからね。

髙阪　そうですね。三日月蹴りを最初に出したあと右の前蹴りにいったんですけど、あれが効いてましたから。

——あの前蹴りが効いてるんですか？

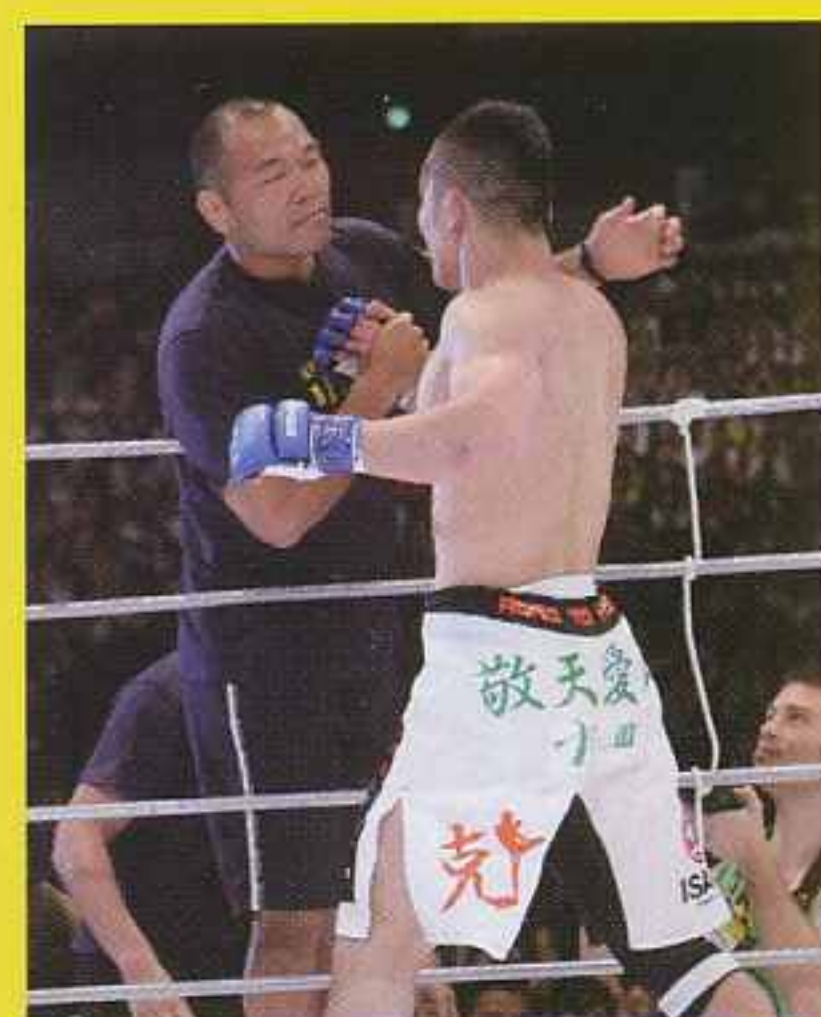
髙阪　あれは効いてますねぇ。だから、自分らもセコンドの連中とかで、「あ、これ一発入ったから絶対下がるな」って。で、実際に下がったんで、これは確実にイケるって。最後も左で三日月蹴って、で、すぐに組みにいって倒してますからね。言ってみたら、その2発だけですよ。

——あのジダ相手に、たった2発で勝っちゃいましたか（笑）。

髙阪　ジダも途中で、「これはディフェンスできない」って思ったかもしれないし、実際に闘ってて嫌だったと思いますよ。

——次は誰が被害者になるかはわかりませんけど、また必殺の三日月蹴りの炸裂を期待してます！

髙阪　まあまあ、克紀の武器はあれだけじゃないですからね（ニヤリ）。

極真空手出身の菊野は、おなじみの三戦（さんちん）の構えでジダにじわじわとプレッシャーをかけ、勝機と見るや、得意の三日月蹴りをめり込ませると一気にバックマウントからのパウンド連打で勝利！

素晴らしき師弟愛。ちなみにTKは菊野のセコンドについたため、解説席に残された須藤元気氏はかなり不安がってましたよ！

――次は今大会のメインで組まれたウェルター級GPですが、期待のマッハ選手はザロムスキーにKO負けを喫するという残念な結果に終わってしまいました。
高阪　そうですね。大会が終わってから、あらためてハイキックをもらったシーンを観たら、パンチには反応してたんですけど、ハイキックにはまったく反応してなかったんですよ。
――本人も「全然見えなかった」と言ってましたね。
高阪　いわゆる危機察知能力っていうのは、平たく言うと感覚的なモノなんですけど、その部分は本来、マッハの強みでもあるんだけど、今回は減量ミスも影響があったのか、それが鈍ってたっていうか、ちょっとズレがありましたよね。
――減量に苦しんで、3回目でようやくパスしたっていうのも影響があったのかもしれませんね。
高阪　まあでも、もう一つ敗因を挙げるとすれば、（菊野）克紀とはまた違うけども、相手との距離感でしょうね。
――ここでも、キーになるのは「距離感」！
高阪　そう。距離感っていうのも、ちょっとしたズレだと思うんですけどね。
――実際、目尻をカットしてドクターチェックが入るまでは、スタンドで優位に試合を進めてましたからね。
高阪　そうなんですけど、ザロムスキーのパンチもけっこう入ってましたからね。
――まあでも、ザロムスキーは距離感を計りづらいというか、突拍子もない動きをしてくる選手ではありますよね。
高阪　そうそう。結局、格闘技っていうのは、安全な距離と危ない距離っていうのをそれぞれが持ってて、お互いそれを感じながら試合をやっていくんですけど、とくに総合の場合は、寝かせたり、組みつくっていう部分もあるので、離れたところから組んで、また離れてっていうのを繰り返していくうちに、だんだんズレが出てくるんですよ。それが、ちょっとずつ広がっていったんじゃないかなって。
――マッハさんは、目尻のカットもあって、ズレが生じてしまった部分もあるかもしれないですね。
高阪　それもあると思います。でもね、カットしたのはザロムスキーの破壊力ってところもありますからね。ああいうタイプの選手って、スタートダッシュでなんとかしないとああいう結果になることが多いんですよ。
――といいますと？
高阪　こういう系の選手ってスタートダッシュをなんとかすると、そのあとはだんだん失速していくんですよね。1回戦の池本（誠知）戦もそんな感じでしたけど、いったん相手にしのがれると攻撃がバラバラになっていくんですよ。結局、マッハ戦も決勝戦も、スタートダッシュの延長で決めてしまったんでね。二人ともザロムスキーの攻撃パターンがつかめないまま、勢いに飲み込まれて負けてしまったというか。

マッハの敗因は微妙な距離感のズレだと思う。ザロムスキーはやる側は凄く嫌なタイプだね

人ファターの明暗を語るでござる!!

ウェルター級GP1回戦の池本誠知戦では猪木×アリ状態からバク宙を披露するなど、奇想天外な動きで注目を集めたザロムスキー。準決勝でマッハ、決勝ではジェイソンをどちらもハイキックで下し優勝をかっさらった。ザロムスキーのセオリーを度外視した距離感は対戦相手にとって驚異となるだろう。

――1回戦ときのように猪木×アリ状態からのバク宙は出ませんでしたけど、ザロムスキーは変則的な動きが多いですよね。
高阪　まだ、わからない強さっていうのがあるので、やる側の選手は凄く嫌なタイプの選手だと思いますよ。
――今回のマッハさんの敗戦に、年齢の影響もあるんじゃないかという声も出てましたけど。本人は否定してましたが。
高阪　それは関係ないんじゃないかな。ハッキリ言って、いい状態に仕上げられるかどうかだけだと思うんだよね。とくにマッハの場合は（笑）。それはいまに始まったことじゃなく、そういったイレギュラーなところもマッハのよさでもあるからね。もの凄く人間くさいというか（笑）。
――確かにイレギュラーな感じはしますよね（笑）。
高阪　まあ、今回のマッハは微妙な距離感のズレが敗因でしょうね。でも、そのズレを呼び起こしたのはザロムスキーの変則的な動きにもよると思うし、のびしろっていう部分では凄く可能性を持ったファイターだと思いましたね。

★

――最後に、いろんな反響が出ていますが、青木vsシャオリン戦について聞かせてください。
高阪　まあ、あの試合はいろんな見方があると思うんですけど、一つだけ間違いなく言えるのは、青木がシャオリンを完封したってことですよね。
――それってじつは凄いことですよね。
高阪　なかなかできないね。だから展開だけを見れば青木の完勝。作戦勝ちというか。まあ言ってしまえば、完璧なシャオリン対策を立てて、それを遂行したって感

じですね。これからシャオリンと試合をする選手とか、シャオリンのようなタイプの選手と闘う場合の戦術の一つを示してくれたんじゃないかな。あとは、試合の中身として、どこまで完成形に近づけるかっていうのが、プロとしてやらなきゃいけないことなんですよね。

——実際、寝技の攻防を期待したファンからはブーイングも飛んでいましたし。

高阪　まあ、わからないでもないけど、あのシャオリン相手に初めての闘い方で封じ込めたってことはホントに凄いことだと思うんだけどね。

——シャオリンは打撃も強いっていうイメージがあったんで、もう少し対抗できるかなとも思ったんですが。

高阪　いやでもね、あれだけミドルもらってたら、間違いなく右手は使えなかっただろうし、右でストレートは打てない。フックを打つのが精一杯って感じで。シャオリンはストレートも一応出してたけど、もし当たってもあれじゃあ倒れないよね。

——なるほど。やっぱり、この試合もキーになったのは「距離」ですか。

高阪　そうですね。シャオリンからすると「まだ安全だろう」っていうような距離

あのシャオリン相手に初めての闘い方で封じ込めたってことはホントに凄いと思う

シャオリン相手にミドルキックをバンバン蹴りまくり、判定ながらも完勝を収めた青木。試合後には「キックも全然効いてないし、マスコミは持ち上げてるけど、彼は普通の選手」と不満を爆発させ再戦要求をしていたシャオリンだがリベンジのチャンスはあるのか？　いや〜、ぶっちゃけ難しいでしょうね。

高阪剛がDREAM.10日本人ファイター

で青木のミドルをもらってたと思うんで。青木からしたら、自分の距離を徹底して作って闘えたのが勝因でしょうね。シャオリンも何回かタックルに入ってたけど、ケンカ四つの状態からヘタにタックルに入ると、ミドルがヒザ蹴りみたいになって、顔面にもらってしまうんですよ。

——実際、そういう場面もありましたね。

高阪　恐怖心もあったと思うし、そうなる前におもいっきりタックルに入るとか、そういうことをしなければいけなかったんだろうけど、それができなった。仕掛けたときにはもう遅かったっていうか。

——1ラウンドのあいだに、その攻略法が見つけだせないうちに2ラウンドにいってしまった、と。

高阪　そういう感じですね。たとえば、シャオリンが青木のミドルを食らわない距離に入るってことは、要は組み合ってる状態なんですよ。青木からしたら、そこからのパンチとかは怖くないんです。それに、組み合ってきてくれると相手の脇が抱えられるし、そのまま引き込んでしまえば、いわゆるハイガードっていって相手の脇の下に自分の足が入ってる状態に持っていける。そこからあとはガードからの寝技の攻撃が楽にできますから。

——リスクが少ないうえに、こちらからも攻撃を仕掛けられる、と。

高阪　そうそう。今日の青木はミドルを突破口にというか、それをメインウェポンとして闘って、周りについてくる動きとかをエサにするような試合のやり方だったと思うんですけど、距離感が絶妙でしたね。

——今回の『DREAM・10』は「距離」っていうのがキーになってますね。

高阪　そうですね。北岡（悟）とかもそういう闘い方ができてると思うし。ホント、距離の徹底っていうのは大事なんですけど、結局、距離っていうのは見えないものじゃないですか（笑）。

——見えそうで見えないというか（笑）。

高阪　そうそう。ちゃんとしたモノサシがあるわけじゃなく感覚的なモノなんで。その感覚で取れるかどうかっていうのはまた細かい駆け引きがあるんですけど、要は距離の取り方と相手の距離の潰し方。いかに自分の距離で闘えるかっていうのが、これからのMMAのキーポイントになってくると思いますね。

——わかりました。では最後に今大会最大の謎について聞きたいんですけど。煽りVでの髙阪さんの忍者姿はなんだったんですか？（笑）。

高阪　ああ、あれ（笑）。あれはねえ、〝第2弾〟とだけ言っておこうかな。

——ということは、第3弾もあると？

高阪　詳しくは言えないけど、第2弾。まあ次回も期待してください（ニヤリ）。

——愛弟子の菊野選手とともに、師匠のコスプレがどこまでいくかにも注目したいと思います！（笑）。

【09年7月20日／『DREAM・10』終了後、電話取材にて収録】

前回の『DREAM.9』に続き、煽りVではNHKの大河ドラマに出演したTKが忍者（正確には山伏）姿で登場。どうやら、このシリーズには続編もあるようなので、こちらも期待でござる！

〝ムエタイ戦法〟にブーイング！
青木真也はマット界の落合博満か!?

だからアオキは嫌われる!? 座談会

ウェルター級GPでマッハがKO負けを喫し、伏兵ザロムスキーが優勝。〝空手幻想〟をよみがえらせた男、菊野克紀がアンドレ・ジダに完勝し、衝撃のDREAMデビュー。そして、なんといってもビトー・〝シャオリン〟・ヒベイロとの〝寝技頂上対決〟に立ち技オンリーで勝利した青木真也など、さまざまな〝事件〟が起こった7・20『DREAM・10』をまるごと言いたい放題総括します！

座談会出席者

［本誌編集長］
ジャン斉藤

［本誌北米かぶれ］
堀江ガンツ

［スーパーハルク級ライター］
橋本宗洋

ザロムスキーのフィニッシュは高田の〝最強ハイキック〟だよ！

斉藤　『DREAM・10』がついさっき無事に終わったわけですが。

橋本　無事かどうかはわからないけどね（笑）。

ガンツ　まぁ、座談会で話すネタには事欠かない。

斉藤　今頃、ウェブは荒れてるんじゃないですか。とくに青木真也。試合をやるたびに口を開くたびに物議を醸しますね、あの人は（笑）。

橋本　青木が動けばネットが荒れる（笑）。

斉藤　ただ、今大会は事前の期待感がDREAM史上、一番低かったかなって思うんですよ。

橋本　そうかもしれない。

斉藤　青木vsシャオリン戦や菊野vsジダ戦はもちろん楽しみだったけど、なんかこう「絶対に観に行かなきゃ！」っていうムードはあまりなかった。

橋本　「いよいよだぜ！」みたいな感じとかね。

ガンツ　俺は大会一カ月前ぐらいのコラムで「DREAM史上最高のラインナップになるかもしれない」「巨大な隠し球が二つある」とか書いちゃってたんだけどね（笑）。

橋本　その隠し球ってなんだったの？

ガンツ　まあ一つはミルコですよね。「6月のUFCドイツ大会への出場が発表されて、このままUFC継続参戦と思わせておいて、じつはUFCとはワンマッチ契約で7月にはDREAM登場」っていうサプライズに向けての動きをキャッチしてたんだけど、結局、UFCがさらに奪い返したというか。

橋本　あと一人は誰のはずだったの？

ガンツ　あと一人はまだ伏せておいたほうがいいと思うけど、その選手とミルコが闘うっていうスーパーカードの可能性も耳にしてたんですけどね。その人がダメでも、ミルコvsレイ・セフォーとか、vsマイティ・モーなんて話もあったけど、結局なくなって、最後の最後にユン・ドンシクvsジェシー・テイラーが発表されちゃった。

今大会の"主役"だったマッハだが、減量失敗もありまさかのKO負け。マッハらしいといえば、マッハらしいが……。

橋本　ずいぶん隠してた球が小さくなっちゃって（笑）。

斉藤　だから見出しになるような選手の試合が実現しなかったのが、ちょっと痛かったところですよね。

ガンツ　本道であるウェルター級GPと、青木vsシャオリン、菊野vsジダという質で勝負になった。

橋本　これはこれで、俺は燃えてたけどね。お客さんも当日は燃えてたでしょ。

ガンツ　オープニングの煽りVで、あっさりマッハ応援モードになって燃えてきたんだけど……。

橋本　マッハがここで減量失敗で体調不良はねえだろっていう。

斉藤　マッハは76キロに落とすのもキツいんですかね？

橋本　キツかったんだろうけど、まあ、何キロにしたってギリギリで間に合うようにしちゃってるんだろうね。

斉藤　ボクはね、あのオープニングの煽りVも〝野生のカリスマ〟路線も、なんか乗りきりないんですよ。修斗時代の財産をいまだに引きずってるというか。PRIDE以降、そのデタラメかつ豪快でここぞというときにズッコケる愛すべきキャラは、どっちかというと〝日本のフィル・バローニ〟でしょう（笑）。

ガンツ　マッハも夕焼けが似合う番長だからね（笑）。

橋本　しかし計量の時点で1キロオーバーって大変なオーバーだよ。

斉藤　前回の青木戦の前は、青木の挑発に頭にきて、初めてちゃんと専門家と組んで減量に取り組んだんですよね？　長い現役生活で〝初めて〟というのも凄い話だけど（笑）。

橋本　そう。なんか、モチベーションのピークが1回戦にきちゃったのかなって感じが非常にするね。

ガンツ　でも、体調が悪いわりには動きはよかったですよね？

橋本　悪くはなかった。パンチが当たってたしね。でも、フィニッシュするだけのキレはなかったんだよ。そこはザロムスキーの打たれ強さもあるんだろうけど。リングサイドにいたカメラマンに聞いたところでは、セコンドのマット・ヒュームが「テイクダウンしろ！」って言ってるのに殴りにいっちゃってたらしいんだよね。だから、体調が悪いなら悪いでセコく勝つやり方もあったはずなんだけど、パンチが当たったんでスタンド勝負しちゃった。そこで歯車が狂ったかな、みたいな。

ガンツ　でも、ザロムスキーも思った以上にいい選手でしたね。リトアニア人として初のメジャータイトルじゃないですか？　リトアニアの国歌って初めて聴いたよ（笑）。

斉藤　GPがスタートした当初は人数合わせぐらいに思われてたザロムスキーが優勝とは……。

橋本　しかも、まだ荒削りのまま優勝したから、これからもっと強くなりそうだからね。1回戦でバック宙パスガード見せて、準決勝と決勝はハイキックでKOって、ちょっと凄いよ。

ガンツ　あれはね、高田延彦の〝最強ハイキック〟だよ！

斉藤　そうか。リトアニアはUWFインター人気から格闘技熱がスタートしてるから、ザロムスキーは高田のハイキックを観て育った可能性があるんだ。Uインター最強!!

ガンツ　マッハをKOしたのは、バービック殺しの左ハイキックで、決勝でジェイソン・ハイを倒したのは、北尾をKOした右ハイだから（キッパリ）。

橋本　絶対に違うと思うけど「高田最強」ってことにしておこう（笑）。

ガンツ　そんな結論でいいのかよっていうね（笑）。

斉藤　続いて菊野克紀vsアンドレ・ジダ戦。菊野は凄かった！

橋本　よかったなあ。ちゃんと三日月蹴りを効かせて勝ったからね。

ガンツ　ああいう〝必殺技〟を期待されて、期待どおりその技で勝つって、かつてのミルコのようだね。

斉藤　ここまで試合前から期待値が高い日本人選手もひさしぶりだし。待望のメジャー初登場がちゃんと売りになったのは川尻達也が最後だと思うんですけど、そういう意味でも菊野は新しいですよね。

ガンツ　まず試合のスタイルが新しいから。PRIDE末期に青木が出てきたときと同じような匂いがする。「なんかへんなのが出てきたぞ」っていう。

橋本　なんか凄いぞ、コイツって感じだよね。

斉藤　去年の北岡悟みたいな。

ガンツ　へんなのが出てきたっていう違和感があるっていうのは、要は斬新だってことだから。

だからアオキは嫌われるの?!

橋本　そういうことだね。菊野は次、誰とやらせたらいいかな？

ガンツ　名前がある選手なら誰でもおもしろいと思うけど、俺は中村大介戦が観たい。

橋本　いいね〜。でも、それはDEEPライト級のタイトルマッチで観たい気もするな。

斉藤　いやいや、きっとDREAM関係者から「佐伯さんよろしく」の一言で終わりでしょう。それで佐伯さんが「もうやってられんわっ!!」って感じでコーラをヤケ飲みして医者にまた怒られるという（笑）。

ガンツ　場所はどこであれ、やっぱり菊野vs中村大介は観たいな。二人とも独特のスタイルで、今後のDREAMライト級のキーマンになるだろうし。"変態世代"にとっては、TKの弟子vs田村潔司の弟子っていう見方もあるしね。

橋本　たまらんね〜。

斉藤　でも、いまの菊野なら誰とやってもドリームマッチになるから次がホントに楽しみですよ。

橋本　だから今後の課題は、いかに「DREAMの物語」に絡んでいくかだろうね。だから煽りVでも「青木」っていうのを匂わせてたけど、そういうことだよね。

ガンツ　では、そろそろ青木の話題に移りたいけど、ここでちょっとパウロvsマヌーフも語っておきますか。「○○はこのあとすぐ！」ってテロップ出しながら、なかなかやらないTBS的手法で青木vsシャオリンは後回しにして（笑）。

橋本　何言ってんだ（笑）。誌面も限られてるんだから、さっさと青木vsシャオリンにいこう。俺もキックファンとして声高に言いたいよ。「ムエタイっておもしろいでしょ？」って（笑）。

ガンツ　いやあ、あのマイクはなんというか……三崎和雄以来のKYマイクというかね（笑）。

橋本　でも、なんか俺、わざとやってるような気もするんだよなあ。

斉藤　なんか青木はキングコングの西野亮廣的ですよね。ある種の愉快犯というか。で、煽られたほうの炎上はもうどうにも止まらなくて、ずっと西野に文句を言い続けるという（笑）。

打ち合わずに一撃で仕留める打撃で、DREAMに新風を吹き込んだ菊野克紀。これからライト級の台風の目になることは確実だ。

橋本　青木は愉快犯であり確信犯ですよ。

斉藤　いまの時代はそういう人間は叩かれやすいけど、まあ、時代を象徴する格闘家であるんですかね。

ガンツ　あと生理的に絶対に認めたくないって人もいるだろうし。

斉藤　で、青木はいつ何時でも隙だらけじゃないですか。だから彼が現役であるかぎりは、「試合をする→炎上」「口を開く→炎上」のパターンは永遠に続くと思いますね。絶対にありえないけど、ヒョードルに勝利にしても大炎上（笑）。

橋本　だから、これで本来の青木になれるような気もするんだけどね。なんだか空気読まねえ、わけわかんねえ、だけど結果は残すヤツがいて、それに対して自分のスタイルに準じる愚直な川尻達也というベビーフェイスがいるという。そんな対立構造になれば凄くいい気がするな。それこそ大晦日、青木がブーイングで迎えられるような状況でもおもしろいと思う。

斉藤　だからそれはDREAMが青木をどう売ろうとするのかって問題ですよね。

ガンツ　大黒柱よりよっぽどしっくりはくるね。というか、前回のマッハ戦から青木は転機を迎えたんだと思う。『やれんのか！』から去年のアルバレス戦まで、旧PRIDEファンとともに歩んできた青木が、マッハを挑発して、今度は川尻を挑発するという、"同門対決"になってきたことによって、ファンとの関係に変化が生まれた。

橋本　PRIDEファンが"PRIDE代表"として青木を応援する時期が終わったんだろうね。

斉藤　『HERO'S』の匂いがする選手もいつの間にかいなくなっちゃいましたしね。

菊野の今後の課題は、いかにDREAMの物語に絡んでいくか

橋本　今日ブーイングが起こった理由としては、「今日は青木が負けてはいけないんだ」っていう重さが、観客と共有されてなかった気がするな。

斉藤　シャオリンというこの階級で1、2を争うような厄介な相手なのに、確かにそれは伝わってなかった。

ガンツ　青木にしたら勝利が期待されてたから勝ちに徹したけど、ああいう闘いは観客は望んでなかったという。

斉藤　青木からすれば、ヨアキム戦、川尻達也戦のレールが主催者から敷かれている以上、何がなんでもクリアすることが優先されてると思ってたはずなんですよ。言ってしまえば"一人ライト級GP"をやってたみたいなもんで。

橋本　1回戦シャオリン、2回戦ヨアキム、決勝は川尻達也。去年より豪華なGPだな（笑）。

斉藤　それをDREAMのために成立させるには「勝たなきゃならない」という思いは人一倍あったと思いますよ。

橋本　だからこれは、観客に対しても主催者に対しても選手に対しても、いろんなものを投げてるよね。「いったい何が観たいですか？」っていう。

ガンツ　勝つところが観たいのか、おもしろい試合が観たいのか。

橋本　壮絶な寝技合戦の末、一本勝ちするっていうのが一番観たいんだろうけど、それは口で言うほど簡単じゃないし。だけど、PRIDEのトップファイターはそれをやってきたんだっていう声もあるだろうし、青木だからそこまで求められるっていうのもあるだろうし。

斉藤　凄くつまんないこと言えば、シャオリンじゃなくてブラックマンバでもよかったんですよ。「打撃でやられるかもしれない」という緊張感を持ちつつ、勝つときは華麗な一本勝ちができる公算が高い。数年前ならタイトル前哨戦でそういうマッチメイクをしたはずだけど、いまはねえ。

橋本　難しいよね。そういう時代じゃない。

ガンツ　あと、根本的な疑問として「あの試合はホントにつまらなかったのか？」という問いもできる。試合後ブーイングだったんだから、多くの人がつまらなく感じたのは確かだけどね。

橋本　でも俺は大興奮したな。「青木、打撃うめえ！」っていう。

ガンツ　だけど青木はツメを誤った。最後にテイクダウンを奪われて、寝技でシャオリンを上回るシーンを見せられなかったでしょ？　あれによって、批判させる隙を作っちゃった。最後までスタンドで試合を

嫌われる?!座談会

支配し続けたら、青木の〝完全犯罪〟成立だったんだけど。

橋本　一度もグラウンドにいかずに終わったら、〝もしかしたらグラウンドでも勝てたかもしれない〟っていう含みを持たせられたんだけどね。

ガンツ　でも、最後にグラウンドに持ち込まれたことで、「寝技で勝負してたら青木負けてたかも」っていう、逆の想像を観客にさせてしまった。

橋本　ただ、総合好きの皆さん、また技術論に興味がない皆さんに一言言いたいんだけど、今日、青木がミドルキックをバンバン打ったじゃないですか。あれはシャオリンが腕でガードしてたんじゃないです、あれは腕を蹴っていたんです！

斉藤　さすが格闘技ライター、勉強になるなあ（笑）。

ガンツ　総合では金ちゃん（金原弘光）がよくその戦法で、腕を殺してるよね。本人は「俺があんなにミドルで腕を殺してるのに、ジャッジが全然ポイント取ってくれないんだよ〜」ってボヤいてたけど（笑）。

橋本　腕を蹴って相手のガードを下げさせたり、もしくは下になったとき腕を取りやすくするとか。あれはムエタイの常套手段。もっと言うと、腕を蹴るミドルとボディを蹴るミドルを使い分けてたね、青木は。

ガンツ　腕を折る蹴りですよね。

青木にとってシャオリン戦は〝一人ライト級GP〟1回戦だった

橋本　マヌーフとやった桜庭が、同じような蹴りを食らって腕が折れたからね。

斉藤　なるほど。立ち技はよくわかりましたけど、青木は寝技にいかなかったのかな？

ガンツ　それはわからない。でも、試合前からいろいろヒントは出してたよね。「寝技合戦じゃなく、MMAの闘いをする」とか。

橋本　もっと言えば、もの凄い寝技合戦に期待させられたお客さん込みで青木はだましたよね。だから青木はもしかして、「してやったり」かもしれない。そこも含めて今日の青木はよかったけどなあ。

斉藤　ああ、「してやったり」というのはあるかもしれない。青木って格闘技記者から技術論を知ったかぶりで質問されるのって凄く嫌うじゃないですか？　そういうところも含めて「俺の考えはわかってもらえない」っていうジレンマを抱えてるかもしれない。

徹底した左ミドルキックでシャオリンの腕を殺しながら、近づけば首相撲のヒザを叩き込む戦法で完封した青木。しかし、賛否両論が巻き起こった。

ガンツ　だからね、青木って落合博満みたいだなあ、とか思うんだよね。

斉藤　このあいだは「青木はイチローだ」って言ってたのに（笑）。

ガンツ　いやいや、存在としての立場は、マリナーズ内で浮きながら結果は残し続けるイチローみたいだけど、競技者としての考え方は落合だなって。

橋本　「キミらにはわからんだろ」っていう感じか。

斉藤　落合の記者への嫌味は、ノムさんのボヤキ劇場がかわいく見えるクラスですからね（笑）。

ガンツ　「あなたがそう思うのならそうなんじゃないですか。オレの考えは違うけどね」とか（笑）。

橋本　落合である以上、やっぱり一番重用視するのは結果であり数字なんですよ。

斉藤　落合って、名古屋財界があまり協力的じゃないんだよね、愛想がないから。

ガンツ　やっぱりもともとの中日ファンは星野仙一みたいな〝燃える男〟が好きだったわけよ。この〝火の玉ピッチャー〟を格闘技界に置き換えると誰を指すかは、あえて言わないけど（笑）。

橋本　火の玉ファイターね（笑）。

斉藤　セルフプロデュースがイマイチなところを含めて、確かに火の玉ファイターは仙一的だなあ。

ガンツ　やっぱり星野と落合同様、あの二人のあいだにはドラマがある（笑）。

斉藤　じゃあ今回、青木がスタンド一本槍でいったのも、落合が日本シリーズで完全試合目前だった山井投手を最終回に変えて、抑えの岩瀬を投入したのに通じるってことですか。青木のスタンド勝負も山井交替も、勝つ可能性を1パーセントでも上げるという意味では。

橋本　そして、ちゃんと結果は残すけど、物議を醸すというね。

斉藤　落合って凄く個人主義に見えるけど、結果のためにじつはチームプレーを重視するんですよね。そこも青木とかぶるところはある。

ガンツ　それが伝わってないから、青木のスタンド勝負が、ゴジラ松井に対する5打席連続敬遠みたいに見えちゃったんだろうね（笑）。それでも〝オレ流〟を貫くためには結果を出し続けなきゃいけないんだけどね。

斉藤　ただ、結果を出し続けるにしても、ハンセンと川尻を倒したら、もうDREAMでやるべき相手って、青木にとったら見当たらないんですけどね。

ガンツ　三冠王を3回獲るとかさ、そういう回数の問題になるんじゃないの？　何連勝とか。

斉藤　それなら、UFCに行ったほうがいいと思うんだけど。UFCという魔物の巣窟に入ることで、その存在感がやっと理解されると思うんですけどね。こんなに頼もしい日本人はいないって。

橋本　確かに、落合が現役時代にメジャーへの道っていうのがあったら、絶対にメジャー挑戦していただろうからね。海外でとにかく結果を出す選手の頼もしさって凄いんだよね。UFCでの岡見勇信もそうだし、イタリアで佐藤嘉洋を観たときも頼もしかった。

ガンツ　となると、やっぱり俺の青木＝イチロー理論が正しかったことになるな。

橋本　さっきまで落合って言ってたのに、今度はイチローかよ！（笑）。

斉藤　まあ、とにかく青木は〝オレ流〟でいけ！ということで、よろしいですか？

ガンツ　偉大な結果を残して、将来は青木真也記念館でも作ってもらおう！（笑）。

【09年7月20日／さいたまスーパーアリーナ近くの居酒屋にて収録】

青木真也、ヒール計画実行か!?

“数字を持つ男”笹原EPの DREAM.10 ひとり大反省会!

DREAMイベントプロデューサー 笹原圭一

なかなか思いどおりにいかないですねえ〜

桜井“マッハ”速人の敗戦から青木真也の“問題”まで、波乱の展開となった『DREAM.10』。さかのぼってカード発表のドタバタ劇、そして大会の総括まで、“笹原信長”ことDREAMイベントプロデューサーの笹原圭一氏にたっぷり話をうかがった。この先、マッハは、青木はどうすればいいの!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

ウェルターは日本人がギリギリ活躍できる階級と思ったが……

――〝笹原信長〟、昨日はお疲れさまでした!

笹原　お疲れさまでした……。

――あれ、あんまり元気ないですね。どうしたでござるか(TK調)。

笹原　いや、ホントに疲れたなあと思って(苦笑)。

――なるほど。いったい何がそんなに笹原さんを疲れさせたんでしょうか?

笹原　やっぱり一番はマッハ選手の敗戦ですかねえ。ある意味、ウェルター級GPはマッハのためにあったような大会だったわけじゃないですか。だから残念でしょうがないですよ。おそらくあの減量失敗がすべてだったかもしれないですね(※前日計量でマッハは約700グラムオーバー)。

――前回のマッハは、あまりの青木真也への怒りに初めてちゃんとした減量をして試合に臨んだという話でしたけど(笑)。

笹原　今回もモチベーションは凄く高かったんですけどね。絶対に優勝したいと思ってたでしょうし、優勝賞金というニンジンもブラ下がってたわけですから。だから、たぶん年齢的に体重が落ちづらくなってるということを本人が把握できてなかったんでしょうね。計量パスできなかったときはかなり慌てたと思いますよ。

――笹原さんも大慌てだったと思いますけど。

笹原　まあ、計量はボクらが慌ててもどうなるものでもないんですけど。興行はなかなか思いどおりにいかないですよね(しみじみと)。

――あらためてウェルター級GPを総括するといかがですか?

笹原　大会をやる前は、ウェルター級って日本人がギリギリ活躍できる階級じゃないかと思ってたんですよ。でもフタを開けてみると、ガウヴァオンやジェイソン・ハイ、優勝したザロムスキーなんかが出てきたら日本人はちょっとかなわないのかなあと思ってしまいましたね。さすが〝神の階級〟というか。

――そう考えると、1回戦にライト級が本職の青木選手が出場してたなんて信じられないですよね。

笹原　76キロ以下でも外国人のフィジカルの強さはズバ抜けてますよ。もしかしたら青木選手がマッハ選手に勝って今大会に勝ち上がっていた可能性もありますけど、そう考えたときに、ガウヴァオンやジェイソン・ハイとのフィジカル面の差は歴然ですよね。

――フィジカルだけで一気に持っていかれる可能性はかなりありますよね。

笹原　だから、この階級ですら日本人が勝つのは相当厳しいなあと、あらためて痛感しましたね。

――この階級の日本人というと、長南(亮)選手はまだ行く先を決めてないですよね?

笹原　まあ、いまのところはDEEPを主戦場にやっていくんじゃないですかね。だからボクとしてはそれでもマッハにもうひと踏んばりしてほしいですし、それしかないと思ってます。

――ちょっと細かい部分になるんですけど、ガウヴァオンvsジェイソン・ハイの判定に異議を唱える声もあるみたいですね。

笹原　あの試合が終わった瞬間に、谷川さんにも「あれ、ガウヴァオンじゃないのかなぁ?」って言われました。谷川さんに試合の内容のことを聞かれるとドキドキしちゃうんですけど(笑)。

――ま、いちおう『格闘技通信』の編集長でしたから(笑)。

笹原　確かにグラウンド状態のポジショニングを圧倒してたのはガウヴァオンだと思うんですけど、でも打撃の印象がよくなかったんだと思います。ちょっと逃げてるように見えましたし。なので、どっちが勝ってもおかしくないスプリットの判定は、妥当だったんじゃないですかね。

――あらためて聞きたいんですけど、DREAMの判定基準ってラウンドごとじゃないんですね?

笹原　違いますね。1ラウンド、2ラウンドの総合ですね。試合をやっている最中にジャッジが、有効な攻撃があったのか、相手に与えたダメージはあったのか、といったことをその都度ジャッジペーパーに書き込んでます。それで総合的にどっちが優位だったかというのを判断するという方式ですね。

――しかし、ジェイソン・ハイvsザロムスキーなんて、とんでもない決勝戦ですよね。

笹原　ビックリしましたよ。でも、ザロムスキーはよかったですけどね。

――あれは確実に髙田延彦の遺伝子ですよね。リトアニアに格闘技を広めたのは髙田さんですから。

笹原　あ〜、確かに!!

――きっとちっちゃい頃から、髙田延彦のハイキック映像をずーっと観てたんでしょうね。

笹原　じゃあ、あのハイキックは北尾(光司)を倒したハイなんですね(笑)。まさに〝変態〟が喜ぶアングル! そうかあ、そういう煽り方があったのかあ。

――もう遅いですけど(笑)。あとは菊野さんなんですが、衝撃的なメジャーデビューをはたしました。

笹原　よかったですね! ボクが観

前日計量でまさかの計量オーバーとなった桜井“マッハ”速人。ザロムスキー戦敗戦の理由は減量の失敗にあると多くの人が口を揃える始末。1回戦の青木戦がよかっただけに、マッハの“凡ミス”は非常に悔やまれる。

［09.7.20『DREAM.10』］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○ジェシー・テイラー vs ユン・ドンシク×

(1R 1分02秒 ギブアップ)

ダナの愛車をブッ壊した『TUF』出身ファイターで知られるテイラーは、ユンをテイクダウンしチョークに持ち込むが、ユンはこのときすでに苦悶の表情でギブアップ。足首をひねって苦しむユンに、リングサイドで観戦していた魔王は颯爽と駆け寄った。

［09.7.20『DREAM.10』］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○パウロ・フィリオ vs メルヴィン・マヌーフ×

(1R 2分36秒 腕ひしぎ十字固め)

いつものように序盤からエンジン全開で殴りかかるマヌーフ。フィリオをぐらつかせ、あわやKO勝ちかという場面もあったが、今度はフィリオが巻き返し逆転の腕十字! 会場では予想以上にフィリオへの歓声が巻き起こった。

“数字を持つ男”笹原EPの DREAM.10 大反省会（ひとり）！

て思ったのは、試合開始時にリングのセンターに来るじゃないですか。で、（アンドレ・）ジダが菊野選手に顔を近づけたあと、離れたときに菊野選手がニヤッと笑ったんですよね。TKなんかはよく「菊野は人を殺しかねない男」という言い方をしますけど、ボクはジダがあそこまで挑発してくれたおかげで、「このリングならリミッターを外していいんだ」と思って、嬉しくて思わずニヤけたんじゃないかなって想像してたんですよ。そう思って本人に聞いたんですけど、一拍間を置いて「……そうですね」って言ってくれました（笑）。

――菊野選手って一応武道の精神で自分を抑えてる感じがしますけど、ホントはかなり凶暴そうですもんね。

笹原 でも、本人は「ホントに楽しかった」って言ってましたね。あのジダにあんな勝ち方できる日本人っていないですからね。

――これは、早くもサダハルンバの魔の手が伸びそうだなあ。

笹原 （即座に）MAXには絶対に渡しませんよ！

――んあ～！（笑）。

笹原 まあでも、ゆくゆくはK―1MAX出場の可能性もあるでしょうけど、実際にいまはまだ菊野選手のためによくないと思いますしね。まだまだDREAMで実績を積んでいく時期だと思うんで。

――じゃあ、10月もDREAMのいずれかの大会には出そうですか？　遠くから「DEEPのほうが先だがや！」という声も聞こえてきそうですけど（笑）。

笹原 「ちょっと待っとけ！」という話ですよ。冗談ですけど（笑）。

――ダハハハハ！

笹原 そこはね、佐伯さんとじっくり相談しながらやっていきたいと思いますね。

――今後は誰との試合が観たいですか？

笹原 打撃系の選手だとJZとか（エディ・）アルバレスになっちゃうんですけど、やっぱり日本人との試合が観たいですよね。それこそ青木選手とか川尻選手とか、中村大介選手とかもおもしろそうですし。でも日本人選手は絶対にイヤがるでしょうね。みんな「厄介なのが出てきたなぁ」と思ってると思いますよ。そういう意味では、やっぱりライト級はホントにいい感じで日本人が揃ってますよね。

――そのライト級で、またもや“問題”を起こした方がいましたけど……。

笹原 青木真也ですか……。

――毎回毎回何かしらやってくれますよね、あの人は（笑）。

笹原 ま、ボクは試合内容に関しては、ああいう展開は全然起こりえると思ってましたけど。ただ、今回は試合後のマイクがよくなかったですね。試合直後で興奮してたこともあるでしょうし、言わんとする気持ちはよーくわかりますけど。

――あのマイクは藤原あらしとかいう選手のオマージュだったと本人は弁明してましたけどね。

笹原 そんなの誰も知らないですよ！　ただ、ボクは青木真也はけっこうブーイングが似合うなと思って眺めてました。だから、仮に青木選手がヨアキム（・ハンセン）に勝って年末に川尻選手とやるとしたら、川尻

7.13K-1MAXでの川尻達也の入場では、セコンド陣営とともに青木真也らDREAMファイターが入場。しかし“脇役”として協力するのは、万年主役希望の青木真也ならずとも、ファイターなら少なからず嫌がることだろう。

青木真也はけっこうブーイングが似合うなあと思って眺めてました

選手はどう考えても絶対にベビーフェイスじゃないですか。そうすると青木真也のヒールには、非常に魅力を感じますけどね。

――人気の出るヒールになると思いますよ。それにしても青木vsシャオリン戦はああいう展開になると思いました？

笹原 全然、なると思ってました。立ち技になるにせよ、寝技になるにせよ、達人同士だとああなっちゃうでしょう。ただ内容的には青木真也の完封勝利だと思います。

――その一方で、あの闘い方には「プロとしていかがなものか？」という声もあります。

笹原 競技者の立場からするとマッハに負けてるから、ここで2連敗はしたくないという気持ちは絶対あると思うんですよ。で、相手はシャオリンじゃないですか。だから「必ず勝ちたい」という思いは抑えようがないと思うんです。となると戦略を立てて、ああいう試合になること自体は競技者としては圧倒的に正しいと思うんです。シャオリンは、「青木は寝技に付き合わなかったからズルい」みたいなことをと言ってましたけど、四つで組み合ったときに逆にシャオリンのほうが突き放してる場面もけっこうありましたし。ただ、プロを評価するのはお客さんの目ですから。お客さんがおもしろくない、と言えば、その評価がすべてですからね。厳しいですけど。

――そうですね。

笹原 だから、MMAという競技で考えたら青木選手の闘い方は正しいでしょうけど、本人が「大黒柱」と公言してるわけですから、それ以上のものをお客さんに求められますからね。そういう意味で、今回はブーイングや批判をされてもしょうがないんじゃないんですか？

――いまって格闘技に“わかりやすさ”が求められてるじゃないですか。一方でMMAが進化すればするほど、その“わかりやすさ”ってドンドン削られていくと思うんですけど、やっぱり“大黒柱”にはああいう試合をしてほしくないってことですね。

笹原 でしょうね。ただ、あの内容はそもそも起こりえる組み合わせですからね。

――じゃあ、どうして組んだんですか？（笑）。

笹原 うーん。そう言われると困るなぁ（笑）。ホントはズバっとヨアキムとのタイトルマッチができればよかったんですよね。でもヨアキムのコンディションを考えるとまだ時期尚早だ、と。そうすると青木選手はライト級でほとんどの選手トップファイターと試合してるんですよね。

――弱い選手を連れてくることもできたけど、それじゃ意味がないからシャオリンにした、と。

笹原 さらに前回はマッハに負けて

川尻選手は文句を言わない非常に〝よくできた子〟ですから

ますし、その前の試合は、「ハロー、ジャパン！」（デイビッド・ガードナー）じゃないですか。そうすると、ある程度の相手とやらざるをえないですよね。やっぱり、いまの青木真也って昔とは違っていろんなものが求められますから、そこでハードルが上がるのはしょうがないですよね。

——べつに格闘技的にはつまらなくなかったと思うんですよね。寝技勝負という先入観があったり、試合後のマイクが問題だっただけで。日本の格闘技って今後、見方とか含めて成熟していくと思いますか？

笹原　しないんじゃないですか？　する必要もないと思いますし。だって、たとえばこのあいだのGSPの試合なんか圧倒的につまらないじゃないですか。もちろん圧倒的に強いんですけど。でも、それを楽しんで観られる人ってごくわずかしかいないと思うんですよ。あの一試合だけを観て、誰もがGSPは素晴らしくて、強くて、おもしろいと言わせることなんて絶対に無理だと思いますから。

——GSPはキャラがちゃんとできてますよね。だから、結局はつまらない試合でも、選手に個性や存在感があることが大事なのかなって。

笹原　それもありますね。GSPが築いた過去の実績もあるでしょうし。

——じつは青木さんにさっきインタビューしたんですけど、こういう堅い戦術をとったのは、魔裟斗vs川尻の影響も理由の一つにあったんですよ。要するに、青木さんって自分が興行のコマになるのはいいけど、ほかの人が興行のコマに使われてると思うと憤りを感じる人なんですよね。「本当の格闘技はこうじゃねえ！」と思っちゃうタイプ。

笹原　魔裟斗vs川尻戦に関して怒ってたんですか？

——結果的にK—1MAXでああいうふうにDREAMの選手が犠牲になっていくという部分でしょうね。

笹原　あぁ、なるほど。まあ、選手のそういう感情に関しても理解はできますよ。ただ本音を言うなら、ボクらだって川尻選手にK—1ルールの試合なんてやらせたくないですよ。それこそ全盛期の頃なら、こんなことしなくても総合は盛り上がってたわけですからね。でもいまはこういう状況なんで、看板を背負って誰かが外に出ていかざるをえない。その重たい荷を川尻選手に背負わせてしまっていることは「申し訳ない」という気持ちはありますけどね。

——川尻さんはよくできた子（笑）。

笹原　「家貧しくして孝子顕（あら）わる」という言葉がありますけど、川尻選手はまさしくそうだなって。って、DREAMが貧しいって意味じゃないですよ（笑）。

——では同じく、できるなら青木さんもウェルター級GPには出したくなかった、と？

笹原　総合が盛り上がっている状況ならば、出す必要はなかったでしょう。ただ、ウェルター級GP自体を盛り上げなきゃいけないと考えたときに、そういう仕掛けは必要になってくるじゃないですか。あそこで青木選手以外の日本人選手が出たところで、あまり引っかかりは作れないですよね。だから青木選手に対して「申し訳ない」という気持ちも……あんまりないんだよなぁ。

——ダハハハハ！　ないんですか。

笹原　あんまりないなぁ。

——それってMMAとK—1の違いですかね？　それとも青木さんならやって当然みたいな部分があるんでしょうか？

笹原　青木選手はつらい状況でも「じつは、やりたいんじゃないの？」みたいな感じで無理矢理にでも楽しんでいる部分があるからですかね（笑）。

——「こんな高いとこから落ちるのはイヤだよ！」と言いながら、しっかりヘルメットを用意しているという（笑）。

笹原　そうそう。そこは、二人のパーソナリティの違いだとは思うんですけどね。でも、青木選手は要はキツくても自分が主役でありたいってことでしょ？。魔裟斗vs川尻に関してもいろいろな思いはあると思うんですけど、まず青木選手は現実的にはMAXに出られないわけじゃないですか。だからそこに対するジェラシーもあるでしょうし。

——厄介な人ですねぇ。

笹原　ま、厄介だからこそ、おもしろいし、魅力的なんですけどね。

——あと、今回のシャオリン戦って、青木さん的には2回目の（JZ）カルバン戦と近い雰囲気というか。「何がなんでも勝つ」「周りなんか関係ねぇぜ」みたいなムードがあって、基本的に去年からの青木さんって、チームプレーに徹してた部分がありましたけど、シャオリン戦と2回目のカルバン戦って、勝利優先の個人主義でしたよね。で、そういった個人主義の青木真也もまた魅力的だなって。

笹原　確かに魅力的ですよね。

——こうなると、もし青木さんがUFCみたいな舞台に上がったら、メチャクチャおもしろいんじゃないかなとも思うんですよ。あるいはDREAMがUFCに近いような対戦相手や舞台を整えていったほうが青木真也はさらに光るんじゃないかな、と。

笹原　ああ、なるほど。

——その反面、今回みたいにシャオリンしか相手がいないような状況もあるわけじゃないですか。となるとヨアキム戦は必ず実現しないと……。

笹原　あ、それは大丈夫ですよ。おそらく10月6日の大会で実現できると思います。

——それから、今回は出場のウワサがあったミルコ（・クロコップ）はどうなるんでしょうか？

笹原　出場予定はあったんですけどね。ミルコの代理人の今井さんからは「食中毒」という話を聞いてました。

——海外では「UFCと契約した」という話も流れてますけど。

笹原　情報が錯綜しててどこまでホントかわからないですけど。ただ、ボクらは今井さんと向き合ってるんですけど、UFCのほうはミルコと直接交渉しているみたいなんですよ。だから、どっちがホントでどんな話になっているのかわからないんですよね。

——まだミルコもどうなるかわからないですか。

笹原　わからないですねぇ。どうなるか（その後、『UFC103』参戦が正式決定）。

——……さすがに次回の『DREAM』はやるんですよね？

笹原　やりますよ！（笑）。次回もいい意味で物議を醸せるように頑張りますので。しっかり青木選手も出ますしね（笑）。

——期待しています！

【09年7月21日／都内・某ホテルにて収録】

桜庭和志のリング上でのマイクの際に一瞬だけモニターに映った魔王・秋山。しかし、その一瞬だけでなんと会場ではブーイングが巻き起こった。ここにきて"ヒール転向説"が浮上してきた青木だが、ヒールの壁もなかなか厚い!?

青木、川尻、菊野のマイクにサダハルンバ怒り心頭!!

青木真也は“ボクの”川尻くんにもっと嫉妬していいんだよ～!

FEG代表

谷川貞治

すでに各方面で物議を醸している青木真也のシャオリン戦を、
“ミスター世間”サダハルンバはどう見たのだろうか?
また自称・川尻達也ファンの立場から理想の青木真也ストーリーも語ってもらった。
青木真也を挑発しかねないサダハルンバの上の発言の意味とは!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

——今日は谷川さんに青木真也の〝悪口〟を言っていただこうと思って取材にやってまいりました。

谷川　んあ〜。ボクにそれを語らせるの？　ズルいねぇ、『kamipro』は。

——いやいや、何をおっしゃいますやら。率直に青木さんの試合はどうでした？

谷川　ボクはダメだったね（キッパリ）。

——お、いいですねぇ。その調子でお願いします（笑）。

谷川　あれはダメじゃないの？　だって試合もあの内容じゃよくないと思うし、それよりも一番ダメだったのはマイクだよね。ああいう試合をしたあとに、ムエタイがどうだっていう話はないですよ。

——実際、マイクに関しては青木さん本人も反省してましたけど。

谷川　まず青木くんって滑舌が悪いじゃない。

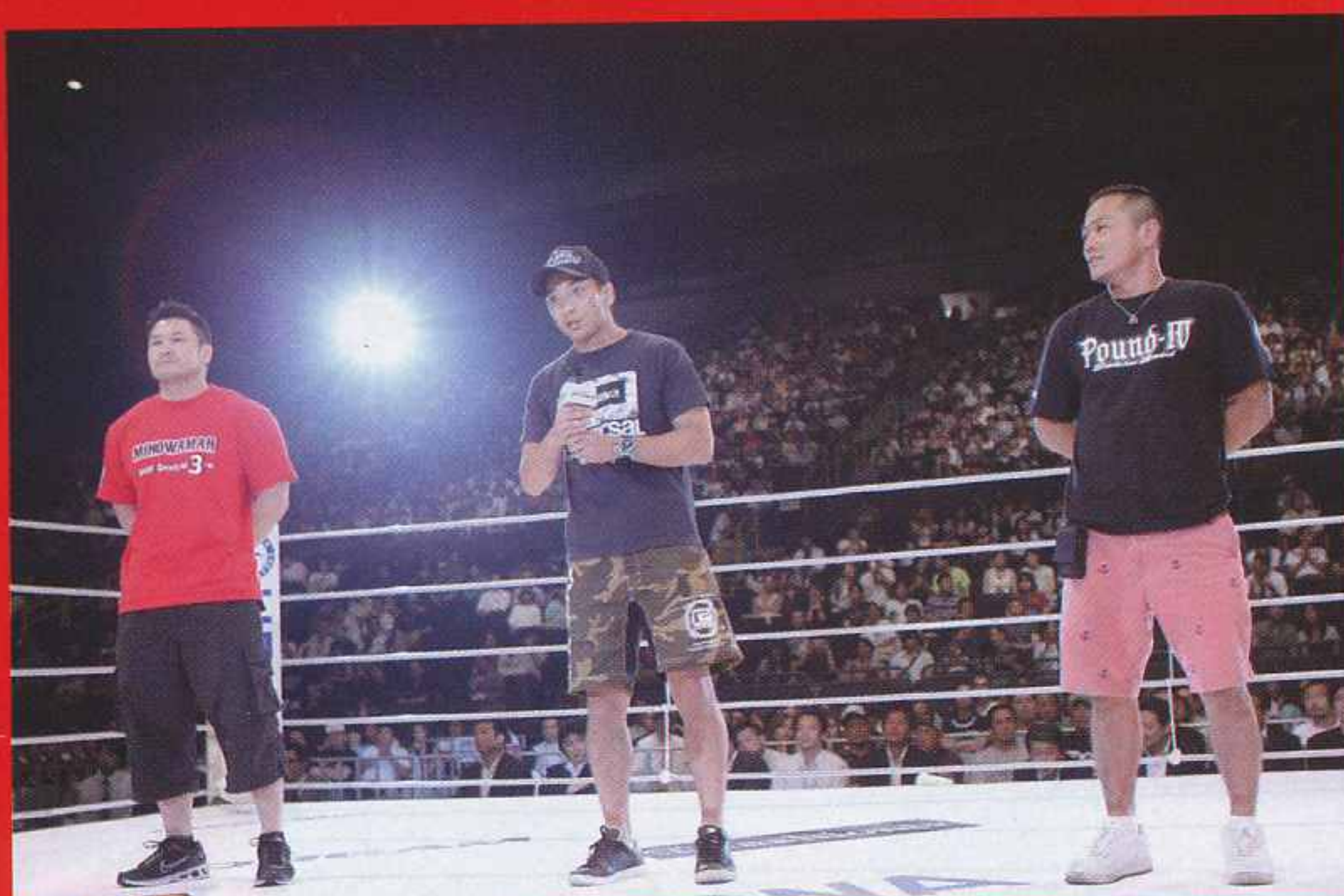
——ポイントはそこですか（笑）。

谷川　いやいや、これは大事だよ。だって『Dynamite!!』の前に秋山くんに対戦要求したときも思ったんだけど、あれだと何を言ってるかよくわからないからね。それに、ボクだったらもっと違う言い方をするなあ。たとえば「今日はこんな試合をしてスミマセンでした。でも、今日はどうしても勝ちたかったんです」とかさ。

——思ってなくてもそう言ったほうが、ファンは納得できるでしょうね。

谷川　納得できる。で、あのあと川尻くんが青木くんに対戦要求してたけど、川尻くんのマイクも今回はよくなかったよね。

——あれだと青木vs川尻戦の機運を高められないんじゃないかということですか？

谷川　それもあるし、魔裟斗くんとの試合がもったいなく感じるようなマイクだったよね。要するに「お祭りはこれまでで、これからは本業のMMAに戻ります」っていう言い方をしてたじゃない。でも、魔裟斗戦が〝お祭り〟だったというのを川尻くん本人が言っちゃダメですよ。たとえば佐藤大輔くんとかが煽りVで「祭りは終わった」とか言うのはいいんだけど。

——もちろん川尻選手は本気で魔裟斗戦に臨んだと思うんですけど、あの空気が薄まってしまった感じはありますよね。

谷川　もったいないよぉ。だって、KIDくんなんか魔裟斗くんに負けたときは本当に悔しそうだったからね。川尻くん本人はもちろん凄く悔しかったと思うけど、あのマイクだとその雰囲気が伝わりづらいですよ。あの日のK−1MAXの空間というのは魔裟斗くんと川尻くんしか体感してないわけで、その勢いをDREAMに持ち帰ってくるのが川尻くんがK−1MAXに参戦した意味だったと思うんだけど、DREAMに帰ってきたらまったく別次元の闘いだったと言ってしまうと、DREAMのファンは拍子抜けしますよ。だったら、「あの熱を今度はDREAMでもう一回作る。俺だったらそれができる」ってファンを煽ったほうが絶対にDREAMのためになるでしょ。

——魔裟斗戦に勝って言うのと、負けて言うのとでも、だいぶ印象が違いますし。

谷川　あと、マイクの話でいうと、試合はよかったけど菊野くんのマイクもよくなかった。マイクを持ってすぐ「世界のTKの弟子です」という言い方をしたけど、菊野くんがTKを大事にするのはとてもいいと思うけど、ああいうマイクではTKを全面に出すべきじゃないよね。それよりも菊野くんは空手で闘ってるんだという のを全面に出さないと、あれじゃ菊野くんの個性を消しますよ。そうしないと、まだ攻略されていないあの三日月蹴りも活きてこないよね。

——そこが最大のウリですよね。

谷川　菊野くんにとっては空手の技を使ってDREAMで勝負するんだということをアピールすべき。だから「TKの弟子」だということはチラッと見えるくらいのほうが逆に活きてくるんだよね。

——あの菊野の師匠はじつはTKだった、というふうになったほうが幻想が広がります。でも、総合のリングって勝った選手にはほぼ全員にマイクを渡すじゃないですか。以前はそこまでなかったですけど、最近は誰彼かまわず持たせすぎなんじゃないかなと思いませんか？

谷川　総合は多いよね。ボクはMAXの選手にはあんまり渡さないんですよね。唯一マイクを持たせるのは魔裟斗くんだけですよ。魔裟斗くんはやっぱり慣れてるし、しゃべるのもうまいから安心して渡せるんだけど、ほかの選手はあんまりうまくないから。しゃべってズッコケたら元も子もないからねえ。だから、よっぽどのことがないかぎりMAXの選手には渡さないですよ。

——DREAMでも〝よっぽど〟のことがあったときだけ渡してほしいなという気もします。

谷川　しゃべるんだったらちゃんと意味のあるマイクをしてもらわないといけないし、そこはやっぱりもっと勉強すべきだよね。でも、昨日は外国人はみんなよかったんじゃない？　優勝したザロムスキーも強かったし、負けたけどメルヴィンもジエイソン・ハイもよかったよね。だから不思議なんだけど、DREAMってなんか肉食系に見えるなあって。

——に、肉食系!?　草食系のMMAイベントってあるんですか？（笑）。

谷川　いやいや、草食系とは言わないけど、『HERO'S』をやってたときと比べると、DREAMは凄く肉食系に見えちゃうんだよね。マッチメイクなんかもボクのやり方と全然違うし。

——谷川さんの場合は、勝たせたい選手が見えてたからじゃないですか？

谷川　そう？　でもDREAMもそれは同じじゃないの？

——いや、青木選手や菊野選手も勝ってほしい試合だったと思いますけど、そうは思えないキツい相手を当ててますからね。

今回のインタビューではマイクに厳しいサダハルンバだが、途中で『DREAM.11』の告知マイクをした所英男にも「何しにきたんだよお！」と厳しい一言。求心力のあるマイクは選手にとってなかなかハードルが高い!?

『HERO'S』と比べるとDREAMは凄く肉食系に見えちゃうんだよね

谷川　ふーん。でも所くんや宇野くんも、けっこうキツい相手とやってるんだけどなあ。所くんなんて、ブラックマンバと2回も試合するなんてイヤじゃない？

——イヤですけど、『HERO'S』の場合はプロデュース側の意図がわかりやすかったと思うんですね。MAXにしても決勝直前でアンディ・サワーのロングスパッツを禁止にするとか（笑）。

谷川　そうかなあ。でも肉食系はなんかたくましくていいよね！

——そうですか（笑）。話を戻すと、そもそも谷川さんは青木vsシャオリン戦はどういう展開になると思ってました？

谷川　ボクはやっぱり青木くんが寝技で勝負して一本極めるかと思ってたんだよね。願望も含めて。だから、あの試合展開には逆にビックリしたし、ちょっと期待はずれだとは思いましたよ。ボクは素人目線で観るからね。

——ただ、グラップラー同士の試合で名勝負ってなかなかないですし、ヨアキム・ハンセンや川尻達也戦のレールが主催者から敷かれてる以上、堅い試合になるというのはある程度予想できたのかなって。

谷川　うーん、確かに青木くんのスタイルからいうと、アルバレスとかJZとか打撃系の選手には寝技にいくし、シャオリンみたいなグラップラーだとああいう立ち技での試合になるから、ある意味、相手のいい部分を消しちゃう闘い方だよね。前回のインタビューでも言ったけど、昨日の青木くんはそれこそMAXの〝ペトロシアン〟みたいに堅い勝ち方だった。

——〝距離の取り方〟がうまかったですね。

谷川　昨日の場合はそれが青木くんの戦略だというのはわかるけど、やっぱりお客さんにはわかりづらい試合になるよね。

——やっぱりわかりづらい試合はよくないですか？

谷川　よくないね。わかりづらい試合よりはわかりやすい試合のほうが絶対にいいし、わかりやすい試合ってシンプルなように見えるけど、じつはかなり難しいことだからね。格闘技はわかりづらさを極力排除しなきゃいけないと思う。

——じゃあ、青木真也をリリースしてUFCにレンタルしましょう！　そのほうがおもしろくないですか？

谷川　そ、それはかなり極論でしょ。

©Josh Hedges/UFC

UFCライト級王者であり、青木真也が常々「最強は彼です」と言っているBJペン。DREAMに引き抜いたならどこかとてつもない違和感を感じるが、逆に青木がオクタゴンに収まるのはしっくりこなくもない。

——そうですか？　〝DREAMの青木真也〟からはイベントへの〝犠牲心〟しか見えないから、UFCでもっとのびのびとやってもらいいんです。それでDREAMはハルク的な世界にしちゃいましょう！

谷川　う～ん、青木くんの個性は青木くんの個性で活かさないと、それはDREAMも活きないしDREAM自体の幅が狭くなるとは思います。それはやっぱり青木くんが活きる起用の仕方を主催者がやってあげることだと思うんだけど。

——では、主催者として青木選手はどうなっていくのが理想的ですか？

谷川　ボクは一つのポイントとしては、青木くんが川尻くんにどう嫉妬するかだと思うけどね。やっぱり川尻くんは魔裟斗戦をやって、ある意味〝ダイヤモンド〟になったわけでしょう。そこで青木くんがどう川尻くんに嫉妬して絡んでいくかでDREAMは変わっていくと思うよ。あの魔裟斗戦に対する嫉妬は絶対に青木くんの中にあるはずだから、それがいい具合に出ればいいなと思う。

——でも、川尻選手ってDREAMに戻ってくるとライト級の中に埋もれてしまいそうな不安はありませんか？

谷川　いや、ボクは魔裟斗戦で川尻くんは突き抜けたと思うなあ。だから川尻くんにはもう周りを気にせずに一人で突き抜けてほしいとボクは思いますけどね。歩く姿も一人でオーラ出して歩いてほしい。とにかく川尻くんだなあ。そこに青木くんの嫉妬がうまく出れば、ボクはやっぱり青木vs川尻は観たいと思うし。ただ、確かに柱がないというのはあるから、そこがやっぱりDREAMの難しいところだし、青木くんの難しい部分なんだよね。……ねえ、去年の青木くんってなんであんなによかったんだろうね？

——やっぱり〝巨大な敵〟に向かってたということじゃないですかね。いままで日本人は誰も勝てなかったJZとかアルバレスに勝ったり、秋山選手との抗争も含めてvs『HERO'S』に向かっていくというところに色気があったと思うんですけど、そういう意味では今年に入ってから青木選手には巨大な敵がいなくなりましたよね。だからUFCなんですよ！

谷川　（無視して）やっぱり思うのは、川尻くんが突き抜けて、それに嫉妬したり追いかけたりする青木くんがいるというのがいいと思うけど。だからやっぱり川尻くんがぶっちぎりのエースになるのが一番見やすいよね。

——（無視して）ボクは、もうBJペンとかをUFCから無理やり引き抜くとか、そのぐらいのことはやったほうがいいんじゃないかと思いますけどね。

谷川　あ、BJペンってまだUFCでやってるの？

——んあ～！　BJペンはUFCライト級のチャンピオンです！

谷川　あ、そう（あっけらかんと）。やっぱりさ、魔裟斗くんや川尻くんはわかりやすいからね。まずそういう人がDREAMの顔になって、そこに青木くんが絡んでくるのがいいと思うよ。やっぱり魔裟斗くんや川尻くんはわかりやすいんだよ。とくに魔裟斗くんの凄さは……（以下、延々と魔裟斗と川尻への賞賛が続くが省略）。

【09年7月21日／都内・某ホテルにて収録】

UFCを1000倍楽しむ方法、教えます!!

DREAM、戦極なんか 誰が飲むか!! オレは家に帰って UFCを飲むぞ!

座談会

「UFCが凄い!!」ということは知っているが、
じゃあ「どう凄いんだ?」という話になると、なかなか難しい
のである。それは海の向こうのイベントということもあるだろうが、
ここでは現地取材を幾度となく敢行している“密航者”に
その魅力を語ってもらったよ!

聞き手／ジャン斉藤（非UFC編集者）

UFC
3
BUD LIGHT

――いまや"世界最高峰の舞台"となったUFCですが、そのおもしろさが日本のファンに届いてるとは言い難いんですよね。そこで今日はUFC現地取材をしているお二人にUFCの魅力を語っていただけたらなあと思ってるんですけど。

ガンツ　UFCの魅力……。まあ、お金がある団体だよね（笑）。

――またストレートだなあ。

ガンツ　お金があることで、あらゆるスケールがでかいし、夢のようなことが実現できるってことだけど。

松林　実際にどうだったかは抜きにして、一時期のPRIDEにも"お金がある感"はあったけどね。確かにいまのUFCはそれが凄く目に見えて感じる。

――そういえば、PRIDEのプレスルームにおにぎりやサンドイッチが用意されるだけで記者がありがたがってましたよね。「ほかの団体ではありえない」とかって（笑）。

ガンツ　そういう面でもUFCは比べものにならないけどね。

――UFCはケータリングも世界最高峰なんだ（笑）。

ガンツ　だって立食パーティができるぐらいの料理がドーンと出ちゃうんだから。UFCって、公開計量や記者会見についてのタイムスケジュールが事前にメディアに配られるんだけど、そこに毎日「ディナー」って書かれた枠がある（笑）。

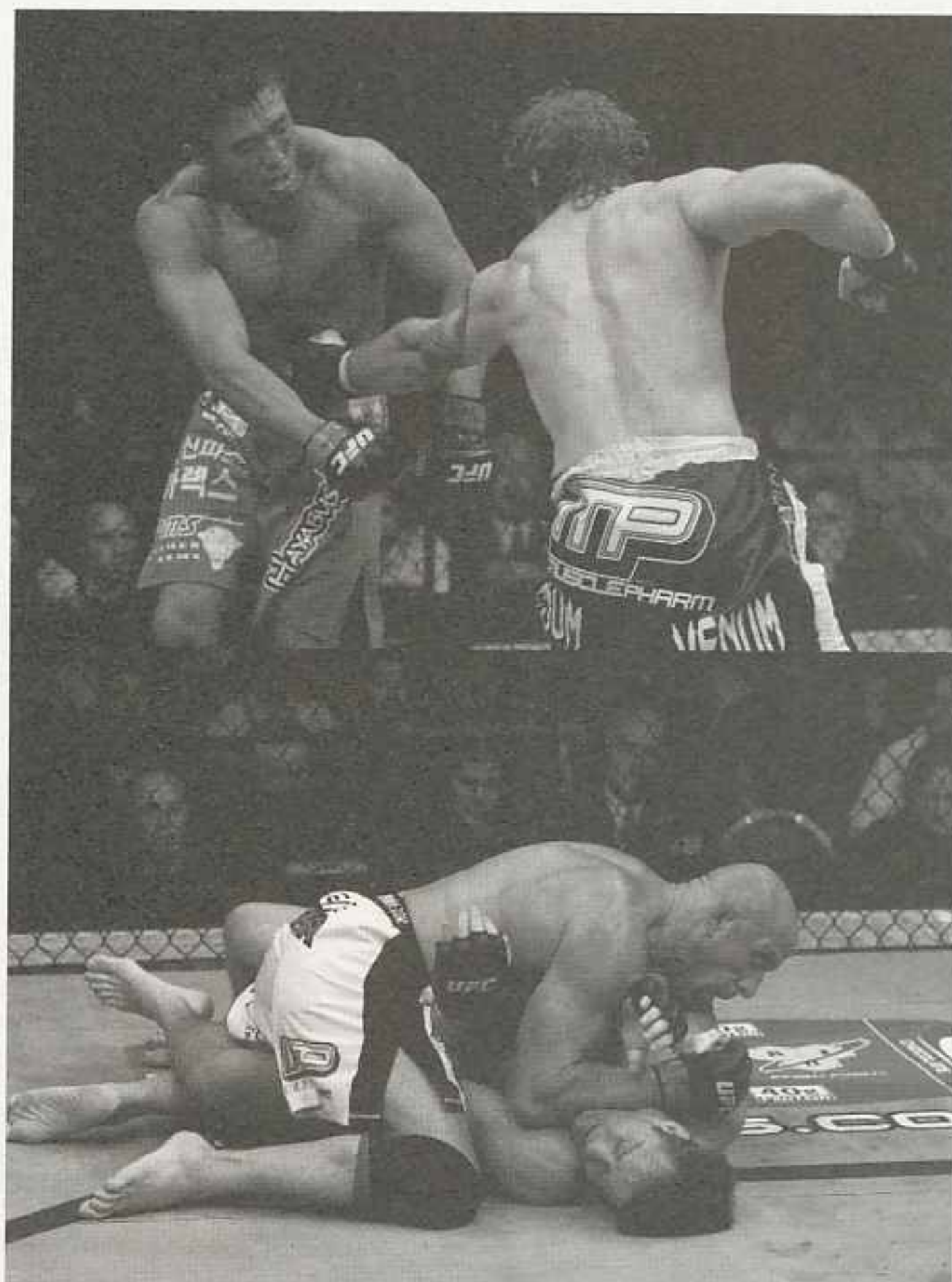
――ディナーも出る（笑）。

ガンツ　連日にわたってディナーやランチが用意されるんですよ。

――それを聞いて思い出した。『やれんのか！』の記者会見のあとにマスコミ懇親会があったじゃないですか。ケーキを食べながらサダハルンバを囲むっていう（笑）。あのときに某マスコミが「俺たちをこんなもので懐柔する気か！」みたいなことを吠えてて、同じマスコミとして本当に恥ずかしくて仕方なかったんですけど。あなた方はUFCに完全に取り込まれてますね（笑）。

ガンツ　いやいや、アメリカで一流と呼ばれているプロスポーツはそれが普通なんだよね。

松林　まあ、食事が用意されていたところで、こっちもいちいち食べに行くわけじゃないけどね（笑）。向こうはあたりまえのように国内外から取材に来ているメディアに対してそれだけ気配りをしているということで。

ガンツ　メディアの重要性をわかってるからこそ、ちゃんとした対応をするっていうね。広報体制も、今回からUFCには日本人広報と、日本語がしゃべれるアメリカ人がついて日本メディアの対応もバッチリ。

レスナーの怪物性、魔王の人間宣言やコールマンの"ロッキー劇場"。『UFC100』は格闘技の枠だけでは収まらないおもしろさが詰まっていた。

今回の『UFC100』から日本人広報と日本語がしゃべれるアメリカ人がついた

――UFCに日本人広報が誕生したことでマネージメントの人たちは戦々恐々としているという話もありますけど（笑）。どうして日本人の広報がついたんですかね？

松林　単純にアジアマーケットでの展開を見据えてるんだろうね。

ガンツ　そうそう。日本語版の公式ホームページも始まったし、UFCは全世界をマーケットにしてるから。凄く健全なお金の稼ぎ方をしてるというか。

松林　『kamipro』の先月号で「マット界にはお金がない」っていう特集をやったけど、「UFCにはなんでこんなにも金が集まってくるんだ！」っていう感じだよね（笑）。

ガンツ　UFCはホントに特別ですよ。いまはアメリカも大不況で、あのラスベガスのカジノにもまったくお客がいない。でも、UFCが開催されると客が凄く来るんだよ。いまのUFCってボクシング以上の集客力だって。

松林　そんなイベントが頻繁に行なわれてるんだから、ラスベガスからすれば超優良イベントだよね。

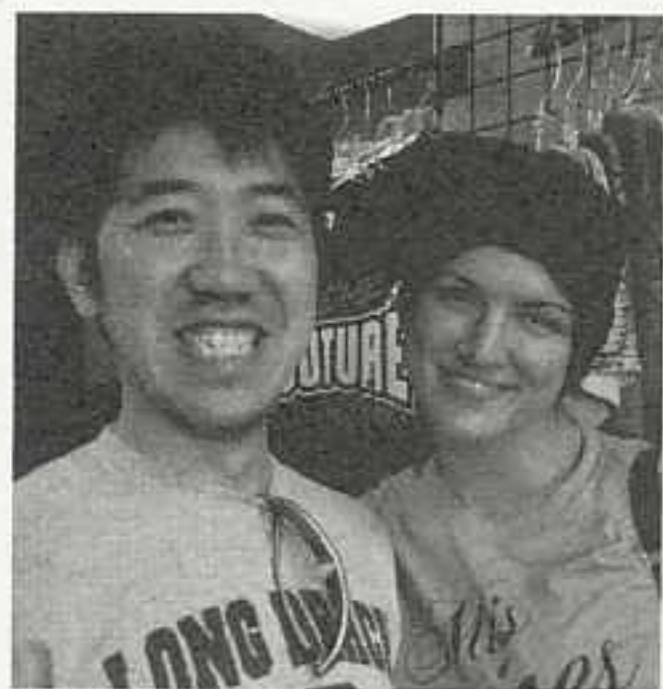
ガンツ　今回も会場に1万4000人、ちなみにこれ"実券"の数だからね。それから今回の100回大会を記念したファンイベントの『UFCエキスポ』に4～5万人のお客が来てて。エキスポは2日間の開催だから重なってカウントされてる人もいるんだろうけど。

松林　そのエキスポは大会当日と前日の2日間開催されていて、前日の入場チケットが40ドル、大会当日は45ドル、2DAYSパスを買えば60ドルになるんだけど、その入場券が飛ぶように売れてるんだよね（笑）。

――凄いなあ。

ガンツ　エキスポって簡単にいうと、サイン会やグッズ発売が主に行なわれてるんだけど、そのためだけに入場チケットを買ってる人の数がそんなにもいるっていう。

座談会出席者

松林 貴
うまいものと、おもしろイベントがある場所にぶらりと現われる本誌・編集次長。新日本・福岡大会にも足を運ぶ『kamipro』イチの"現場主義者"だが、なんか間違ってる。

堀江ガンツ
本誌編集部員。変態座談会主宰者にして、変態道はUFCにも通じている。高島学氏から"ミスター北米"の座を奪うほどの北米通(!?)。隣は女性MMA戦士ジーナ・カラーノ。

――コミケみたいなもんだ。

ガンツ　ホントにそう。そこにはいろんなブースがあって、UFCやWECのブース、ジムやブランドごとにブースがあるんだけども、なんとPRIDEブースがあってPRIDEのグッズがちゃんと売られてた。

――ウン十億円で買って、ようやく実現できたのはPRIDEブースのみ（笑）。

ガンツ　PRIDEのTシャツを着たロレンゾ・フェティータがニコニコしながらウロついてるんだから（笑）。で、そのサイン会だけのためにゲーリー・グッドリッジやヘンゾ・グレイシーまで呼んでたりね。

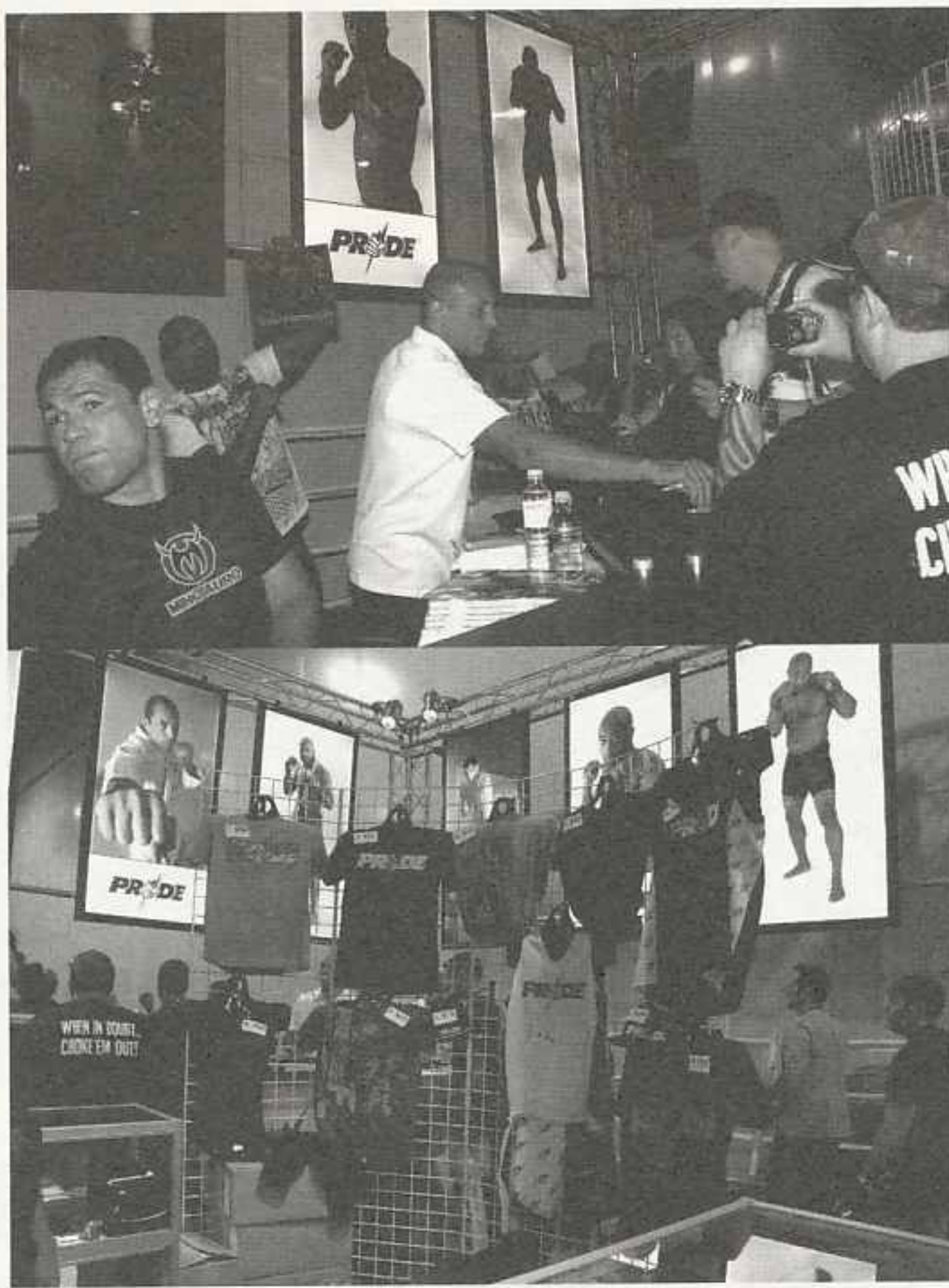
松林　それに、あれほど時間にルーズで有名なアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが午前中からサイン会をやってたからね。

ガンツ　あれにはビックリした。「行動は夕方から」がモットーのノゲイラが（笑）。

――橋本真也や蝶野正洋の遺伝子を受け継ぐ、あの遅刻常習犯のノゲイラが（笑）。

ガンツ　これはダナ・ホワイトが自慢げに言ってたんだけど、「ほかのスポーツは大きくなったらファンに冷たくなる。でも俺はファンと話をするのが好きだし、批判も何も全部を受ける。それは選手もそうだ。それがこのスポーツのいいところだ」と。確かにUFCってファンに近いスポーツとして広まってて、ファンもずいぶんと変わってきてるんだよね。

――けっこうライトな世界になってるんですか？

ガンツ　そう。ちゃんとお金を落とす層が見るようになってるんだよね。『MMA WEEKLY』のスコット・ピーターソンが言うには『TUF』以前・以後で何が違うといえば、お金を落とすファンが増えた」ってことなんですよ。

PRIDEブースでホイス、ランペイジ、ノゲイラたちがサイン会を開催。試合の過去映像もバンバン流れていた。日本でもこんなイベントをやってほしい。

UFCを観るために一人あたり1000ドルから1500ドルは使ってる

松林　一説では今回の『UFC100』の経済効果が4～5億ドルくらいなんていう話もあって。で、よくよく計算してみたら、入場チケットが一人平均で300ドル（約3万円）だよね。で、ラスベガスに来て宿泊するって考えたときに、だいたい2泊で約300ドル。アメリカ国内の各都市からラスベガスまでの往復の航空券代も平均してだいたい300ドルくらい。で、アメリカ人ってとにかくイベント中に飲み食いしてる人ばっかりなんだよね（笑）。会場で売ってるビールが1本8ドルだから、5～6本飲んだとして約50ドル。あとはエキスポの入場料やら、記念グッズ代やらラスベガス滞在中の飲食費やらを考えると、単純にUFCを観るために一人あたり1000～1500ドルぐらいは使ってるってことだよね。

――ラスベガスはUFC様々ですね（笑）。

松林　で、会場に入れないファン用に周辺のいくつかのホテルではちゃんとクローズド・サーキットも開催されていて、その入場料が50ドルくらいでPPV購入と同じくらいの金額。

ガンツ　ちなみに今回のPPV購入件数は120万件いくんじゃないかって予測が出てる。最近のPPVでけっこういった件数がマニー・パッキャオvsオスカー・デラホーヤの125万件だから、それに迫る数字だろうって。もし150万件いったらダナは「素っ裸になる！」という話もあって（笑）。

――阪神タイガースが優勝したら道頓堀に飛び込むみたいな（笑）。

ガンツ　ホントに盛り上がってるよ。「とにかくこのスポーツはおもしろい」っていうことを、いろんな選手や関係者があらゆる手段を使って広めてるんだよね。たとえばダナはいろんな国のインタビューを少しずつ受けて、毎回同じようなことを質問されるんだけど、ちゃんと対応してる。で、今回はヴァンダレイ・シウバが自分のジムでセミナーを開いてたの。それは今回集まってる世界中のメディアを自分のジムに招待して、練習を無料体験してもらうっていう。

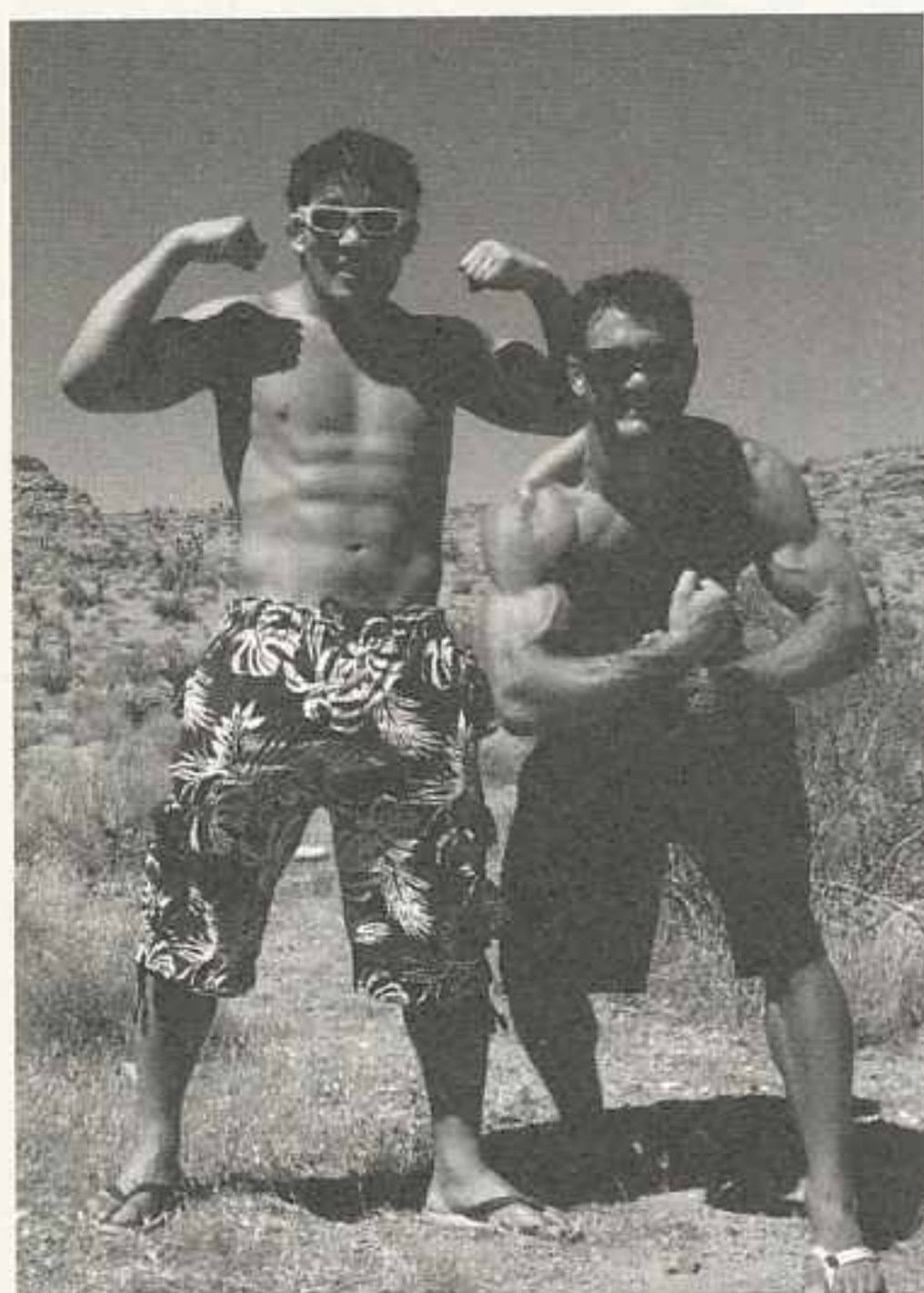
――記者に？

ガンツ　そう、記者に。スコット・ピーターソンがヴァンダレイとテイクダウンの差し合いの練習をずっとやってたから（笑）。そうやってでも、このスポーツがなんたるかを広めようとしてるんだよね。

――ヴァンダレイって普及活動に昔から熱心ですよね。フランスのMMA解禁にも力を入れてたし。

ガンツ　だからみんながこのスポーツに惚れ込んでて、「なんとか盛り上げようぜ！」って頑張ってる。ここがピークだって思ってないというか、もっと儲けられると思ってる。「ようやくメジャースポーツのスタート地点に立ったぞ」っていうような感じ。

――そういう話が全然日本には伝わってこないんですね。

松林　なんだろなあ、とにかく一回行ってみればわかる。あの熱は現地に行かないと体感できないよ。その結果、「俺はお

とにかくおもしろい"夕焼け番長"フィル・バローニ。"筋肉四兄弟"入りした石井慧とのズンドコ珍道中エピソードは絶賛発売中の『kamipro』No.137にて。

もしろいと思わない」という意見でも、まったくかまわないと思うけどね。

――WOWOWのUFC中継だと、アフレコ収録だからファンの歓声があまり伝わってきてないですよね。

松林　いやあ、とにかくあんなもんじゃないよ。誇張するわけじゃなくて、ホントに現場はとんでもなく凄いことになってるから。

ガンツ　UFCでいちばん凄いのは観客だって俺は言ってるんだけど（笑）。それに試合を観るたびに、選手のレベルもとんでもないところまできてるはずなのに、まだまだレベルアップしようとしてるのよ。

松林　回を重ねるごとにそういう技術の進化もありながら、逆に10年前から一歩も技術が進化してないマーク・コールマンの試合に大感動しちゃったりとかね（笑）。

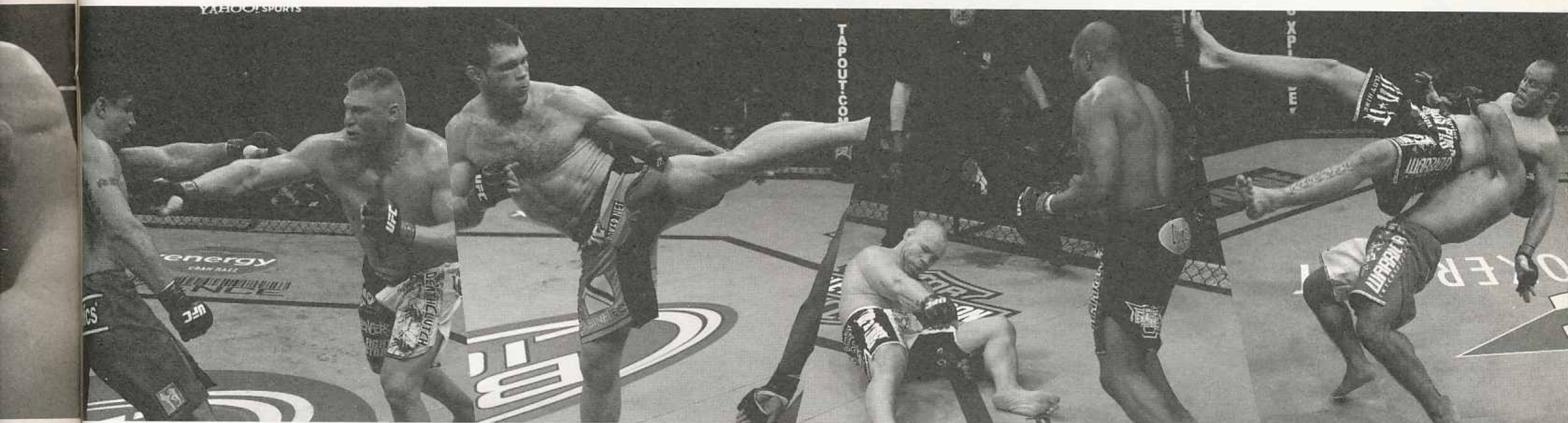
ガンツ　コールマンは映画『レスラー』の世界ですね。

松林　フィル・バローニとのセットで観ると、さらにいいよね。

ガンツ　試合前からいちばん気合いが入ってるのが、なぜかセコンドのフィル・バローニだから（笑）。

松林　セコンドなのに入場時にはなぜか、試合をするコールマンよりも激しいアップをしながら入ってきたからね。あの対戦相手のステファン・ボナーって、『TUF』で準優勝した人でしょ。

ガンツ　つまりUFCブレイクの立役者の一人。

松林　それなのに2ラウンドぐらいから会場全体はずっと「コールマン！」コールだから。「アメリカの客もわかってるなあ」って（笑）。

UFCでいちばん凄いのは観客の声援
現場はホントにとんでもないことになっている

ガンツ　試合後にフィル・バローニが涙ぐみながら「これぞ『ロッキー5』だ！」とか言ってて（笑）。

松林　俺はあのコールマンの泥臭い試合を観て感動しながら、「ケビン・ランデルマンと一緒にマスクを被って『ハッスル』に上がっていたのはどのくらい前だっけな？」って思い返したり（笑）。

――もしかしたらコールマンは『レスラー』よりコクがあるかもしれないですね。オリンピックに出て、UFCでチャンピオンになって、PRIDEでいろいろなことがあって、離婚もして、『ハッスル』に上がって。

ガンツ　娘との関係も微妙らしいからね。試合後に娘に電話してんだよ。「俺は負け犬じゃねえぞ！」って（笑）。

――なんで娘にそんなアピールするんですか（笑）。

ガンツ　元の奥さんが娘に「あの人はダメ親父よ。どうしようもない人なんだから」って吹き込んでらしくて（笑）。

――いいドラマだなあ。筋肉三兄弟はもっともっとUFCで活躍してほしいですね。まぁ、ドーピングの問題はありますけど（笑）。

ガンツ　バローニなんかもう割り切りが凄いよ。「カリフォルニア州はドーピングの検査がとくに厳しいから、カリフォルニアでは試合しないようにしてる」っていうんだから（笑）。

――ダハハハハ！　バローニ最高！

ガンツ　ストライクフォースっていうカリフォルニアの団体が主戦場なのに、カリフォルニアでは試合しないんだからね。

松林　昔の日本にはフィル・バローニみたいな心温まる存在がいっぱいいたと思うんだけどね（笑）。

ガンツ　ホント、バラエティ豊かだよね。ダンヘンなんて大ベテランなのにまだトップ戦線にいるし。ダンヘンは98年にUFCデビューしたんだけど、それはオリンピックに出るためのお金を稼ぐアルバイトだった。そういう時代からやってて、いまが全盛期かっていうぐらいにスッゲえ強い！

松林　今回もノックアウト賞で10万ドルもらってるしね（笑）。

――我らが魔王（秋山成勲）もファイト・オブ・ザ・ナイトで10万ドルをゲットしてますね。『kamipro』が秋山をイジメてるんじゃないかっていう批判もありますけど。

松林　えっ！　そんな話があるの？

――試合レポートで「判定にブーイングが起きてた」って書いたら、日本で中継を観たライターや関係者がウチの編集部員に「ブーイングなんか起きてませんでしたよ」って言ってきたらしくて。

松林　いやいや、会場ではスプリット判定がアナウンスされた瞬間に間違いなくブーイングは起こってたよ（笑）。

ガンツ　こっちは現地で生音聞いてるんだから。なんのために現地に行ってるのかっていったら、現地の本当の反応を包み隠さず伝えるためでしょ。

松林　もっと詳しいことを言ってしまうと、入場曲の『タイム・トゥ・セイ・グッドバイ』が流れた瞬間、場内はざわざわし始めたんだよね。

――「どうしてこんなオペラ調の曲を入場テーマにするんだ？」ってことですか？

松林　そういうこと。たぶん向こうの文化傾向としてああいう曲調のもので入場することがないからだろうね。ちょっと異質なものに触れたときのざわざわ感が

あったよ。で、秋山に対しては試合が終わって判定が出たときのブーイングがあったけど、それまで現地のファンはまったくの無反応だったんだよね。秋山成勲というファイターに対する反応がまったく皆無で、むしろ無関心という状態。

ガンツ　じつは現地でほとんど秋山の紹介ってされてなかった。PPVマッチにしたのもアジア戦略を考えてじゃないかな。前日会見で秋山が出てきたときも無反応。唯一、女性の声で「アキヤマーーッ!!」っていう声が聞えてきたけど……。

――ズバリ、秋山のオカンでしょ？

ガンツ　惜しい！　奥さんのSHIHOだったらしい（笑）。

――ダハハハハ！

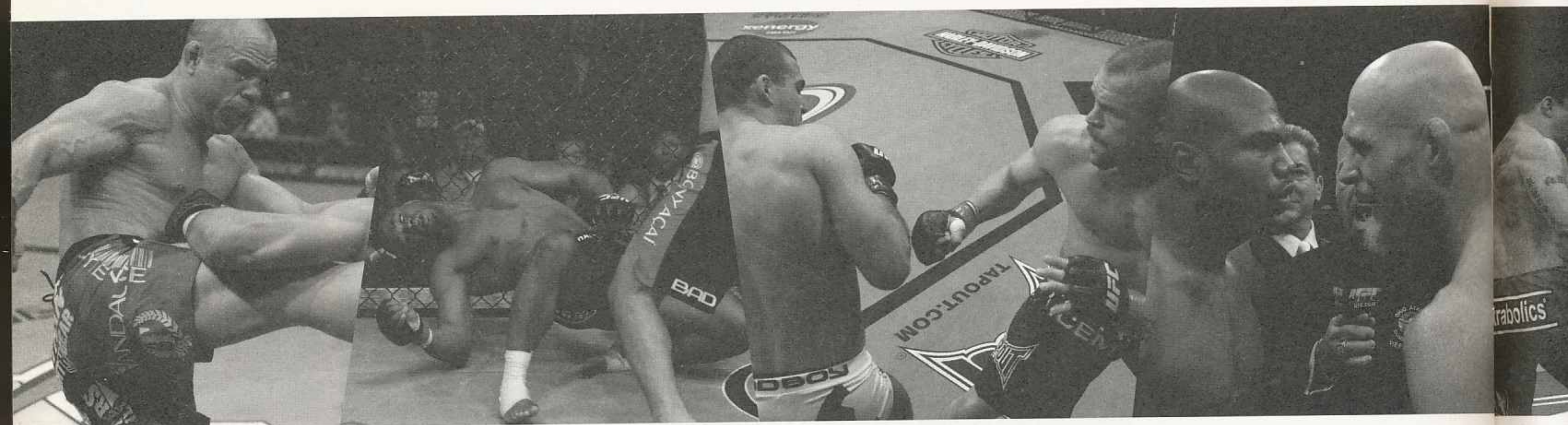
松林　これも現地に行った人間の証言として言わせてもらえば、会場内でハッキリと聞き取れる声援は女性2名のものだったよね。

ガンツ　それでなぜかプレスルームに秋山ファミリーがずっといてさ。その横で俺はあの原稿を書いてた（笑）。

――「秋山にブーイングが……」みたいな（笑）。でもそういうファミリー意識があると、ブーイングが送られたなんていうのは嫌なんでしょうね。

松林　まあ、そうはいっても会場の反応は事実だからねぇ（笑）。

――ヒョードルやミルコやヴァンダレイが最初から人気があったのは、PRIDEが海外でも放映されてたからですね。

ガンツ　そうそう、だからコア層からは最初から大歓迎されてた。でも、『HERO'S』は海外のテレビ放送がなかったから秋山のことはまったく伝わってないんだよね。で、DREAMでようやく放送が始まったんだけど、DREAMでやってる秋山の試合って柴田勝頼や外岡真徳との試合でしょ。

あの秋山が持っている異物感が感じられなかった 普通に競技の世界に入られちゃったということ

――ちなみに知らない読者もいるでしょうけど、秋山がブーイングに対して声明を発表したんですよね。「試合後のブーイングについても、大会関係者から自分の次の試合のマイケル・ビスピン選手が入場口に見え、起こったブーイングで秋山さんに対してではないから、誤解しないでほしいと言っていただきました」っていうことです（笑）。

ガンツ　あのね、UFCで大ヒールのマイケル・ビスピンの姿が見えたらあんなブーイングじゃすまされないし、実際にすんでなかったよ（笑）。秋山のブーイングってたいしたブーイングじゃないんだよね。いつも日本で起こるくらいのブーイング。

――だからその声明を読んで思ったのは、秋山ってブーイング恐怖症になってるんだなって。

ガンツ　秋山がいちばんカッコよかったのって、『やれんのか！』でブーイングを浴びながらニヤニヤしながら出てきてたところでしょ。あれがカッコいいのに何を言ってんだって。

松林　俺は凄く残念だったんだよね。今回ラスベガスまで何を観に行ったかっていうと、秋山が持っているあの異物感がUFCのオクタゴンに入ったときにどういう感じで出るのか、それに期待してたんだけど。それがまったく感じられなかったことが凄く残念だった。

ガンツ　異物感ゼロでしたね。秋山って良くも悪くもワン・アンド・オンリーで取り替えがきかないぐらいの存在だったのに、UFCに行ったらワン・オブ・ゼムだもん。

松林　アンデウソン・シウバを頂点とするミドル級の、要するにアンデウソンがいて、その下にコンテンダー候補という二番手勢力が何人かいて、さらにその下にいるその他大勢の中の一人に入っちゃったという印象を凄く感じてしまったね。

ガンツ　幕内でも、よくて小結くらいの感じですよね。あの秋山ですら、普通に競技の世界に入れられちゃったってことなんだろうね。

――でも、今回の秋山って満身創痍の闘いぶりで余裕もなかったから「初めて素の秋山が見られて感情移入した」っていう声が上がってるんですよ。

松林　感情移入できたって？　あれが素の秋山だったら、「秋山ってそんなに魅力のない選手だったのかよ」って思っちゃうけど。

――素の秋山はアラン・ベルチャー相手に観たくなかったなあってことですか。

ガンツ　今回、秋山は選手として凄く頑張ってたし、いい試合だったし、いい選手なんだよ。でも、あの試合を観て、これからミドル級のトップに食い込んで行くだろうなって思った人は、残念ながらいないでしょ。秋山の魅力って〝底知れなさ〟だったのに、ベルチャー相手にいきなり底を見せちゃったというかさ。

松林　だから、ホントに「競技」というものの中にポンッと入れられちゃったという残念な感じがする。で、今回の秋山の試合に関するコメントをいろんな人からもらったときに、「彼は77キロに適した選手じゃないか」っていうのはもっともな意見なんだよね。とはいっても、そこにはあのGSPがいるんだけど（笑）。

ガンツ　「UFCにはないけど、73キログらいがちょうどいい」とか言ってる選手

もいたしね。ライト級かよって。

――じゃあ、いまこそ青木vs秋山だ（笑）。

ガンツ　秋山ってUFCのミドル級の中だと、ホントにちっちゃいからね。で、アラン・ベルチャーってデカイやつなんだろうなと思ったら、あの階級だとべつに普通なんだって。アンデウソンとかもっとデカイし、ダンヘンも全然デカイ。

松林　まあ、UFCでは相当に頑張らないと、その他大勢で終わっちゃう可能性が高いよね。

――で、日本の"魔王"がそんなことになってるあいだに、アメリカには"真の魔王"が誕生したわけですけど。

松林　ブロック・レスナーね。真の魔王は入場から退場まで完璧だったね。「よっ！千両役者!!」って感じで。

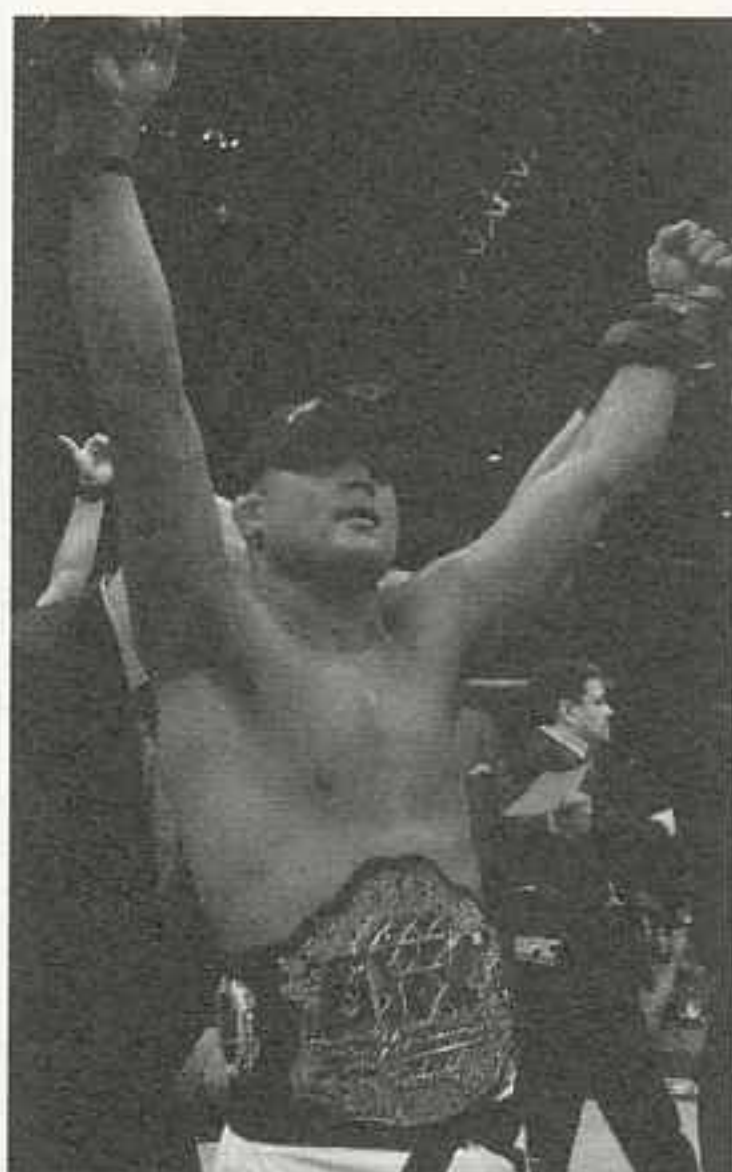
ガンツ　あの秋山がUFCのヒエラルキーの中に入れられちゃって、異物感はもう埋没しちゃってるのに、レスナーはそのヒエラルキー自体をぶっ壊しちゃったんだもん（笑）。

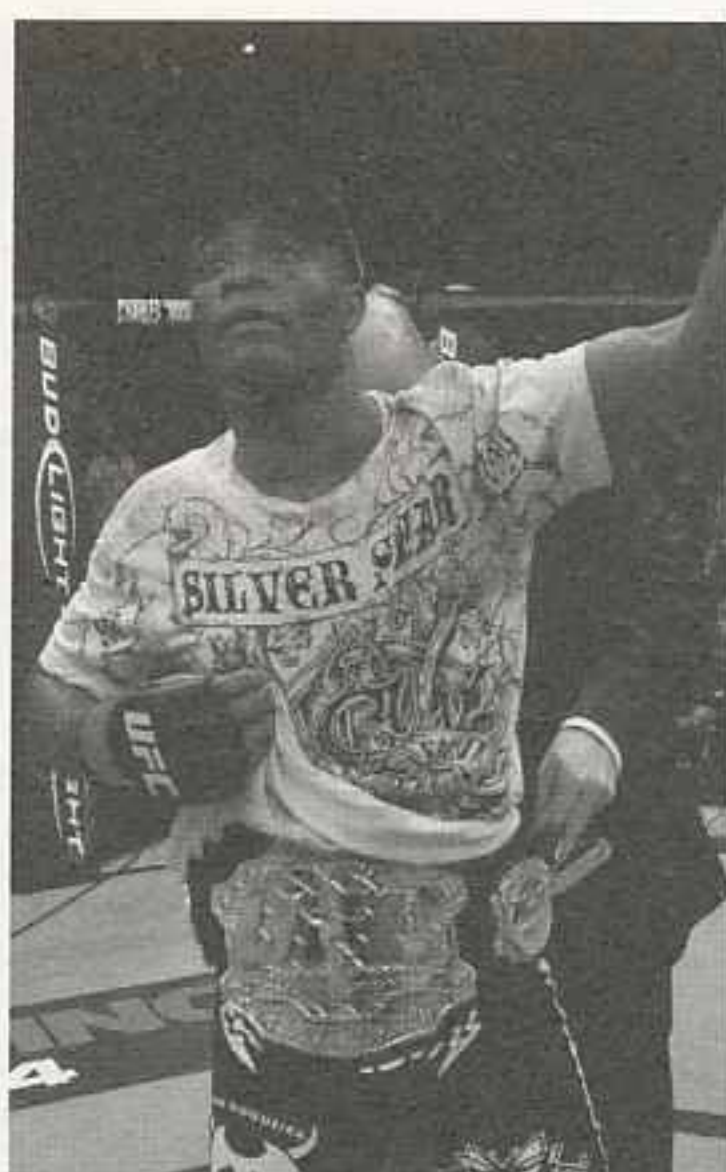
松林　しかも観客が「殺せ！」くらいの勢いで、本気でレスナーにブーイングを飛ばしてるでしょ。でも、まったくたじろがないし、逆にレスナーがさらに観客を煽るんだよね（笑）。

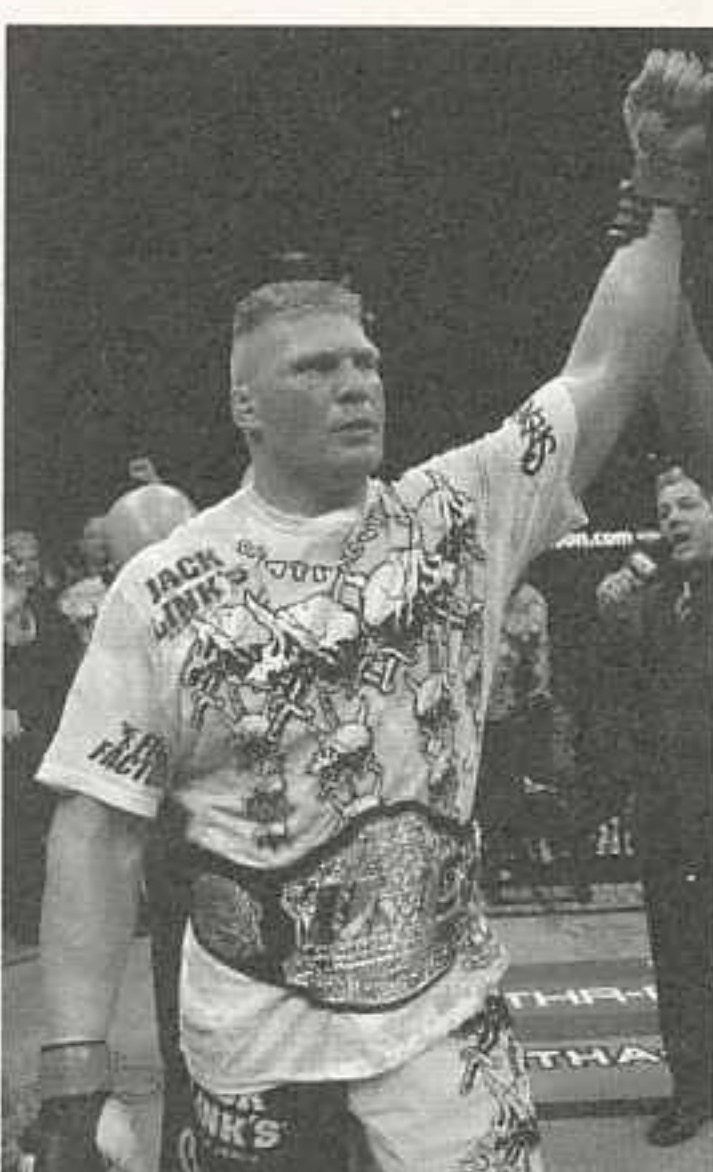
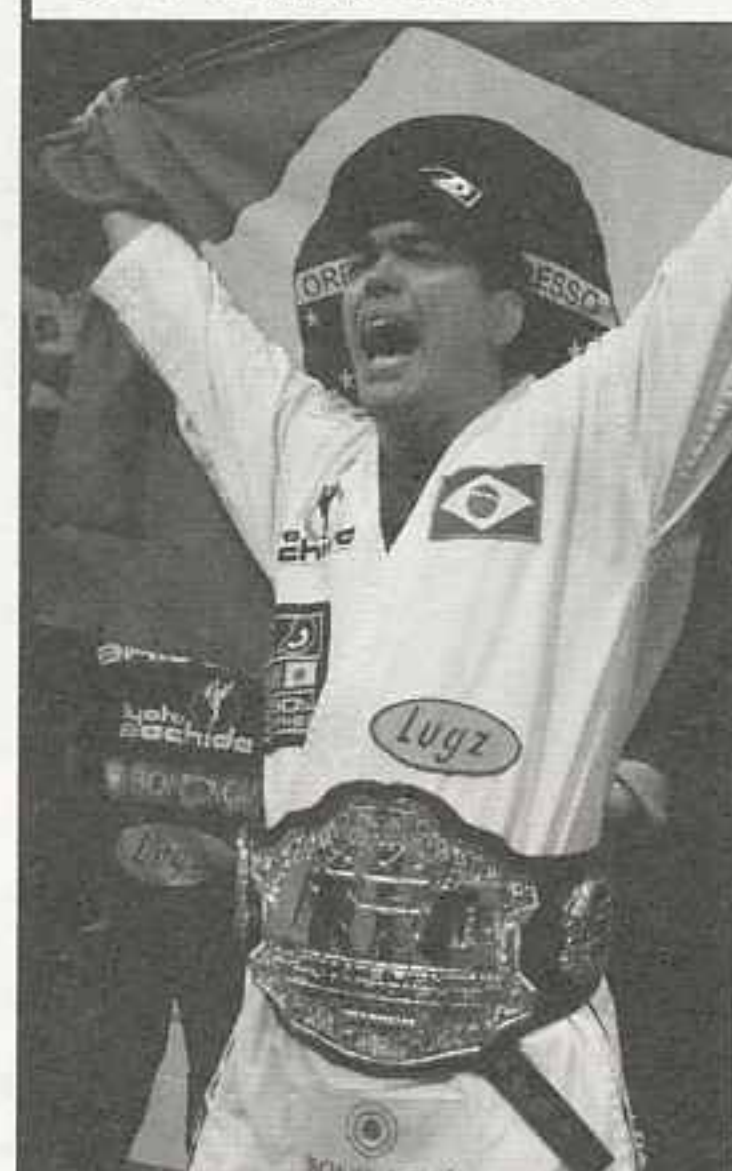
――あげく大会スポンサーのバドワイザー（バド・ライト）にも噛みついて。「バド・ライトは俺に一銭もくれねえから、俺は家に帰ってクアーズ・ライトを飲むぜ！」って（笑）。

ガンツ　試合後の会見では平謝りだったけど（笑）。

――レスナーって、もともと存在としてはヒールだったんですよね。

松林　MMAの世界でもヒールの役割をちゃんと受け入れて、それに即した活躍

BJペン
UFCライト級チャンピオン（70キロ以下）。柔術王者にして打撃も非凡な才能を持つ。寝技を見せるひまもなく、ジャブだけで試合を制することができちゃう怪物。GSPには敗れたが、ライト級ではペンの天下が続きそうだ。

GSP
UFCウェルター級チャンピオン（76キロ以下）。ジョルジュ・サンピエール。MMAの進化を10年早めた男と呼ばれるほどの超トータルファイター。人類最激戦区と呼ばれる同階級において、強豪挑戦者を危なげなく下している。

アンデウソン・シウバ
UFCミドル級チャンピオン（83キロ以下）。パウンド・フォー・パウンドの呼び声が高いミドル級の絶対王者。秋山の階級がここ。同階級では見合う相手がいないため現在ライトヘビー級に挑戦中。フォレスト・グリフィン戦は見ものだ。

リョート・マチダ
UFCライトヘビー級チャンピオン（93キロ以下）。伝統空手をベースにした独自のスタイルが全世界から注目を集めている。実力はあるがなかなかタイトルマッチまでたどり着けなかった苦労の道もファンの感情移入を誘っている。

ブロック・レスナー
UFCヘビー級チャンピオン（93キロ以上）。いま最も打倒ヒョードルに近い男と言われている。MMA経験はまだまだ浅いが、圧倒的なパワーと120キロとは思えないスピードは驚異的。いちばんPPV件数を稼げるUFC戦士でもある。

こんなビッグマッチをやったあとに8月に2大会もビッグマッチがある

をすると、ここまでの人になっちゃうんだっていう。入場のときも観客を挑発するようにちょっと薄ら笑いのような表情で、完璧だよね。

ガンツ　そうそう。ブーイングを聞きながら薄ら笑いで出てきて。

松林　そういう態度で、観てる側はさらに怒りの感情を増幅される部分もあるんだろうけどね。

――ナチュラルヒール。アメリカ人からすると、"フェイクの世界"からやってきたっていうこともあるし。

ガンツ　要はスポーツ界の人間じゃないっていう感じなんだよね。にもかかわらず本当は誰よりもスポーツマンなんだけどね。

松林　真の姿は、レスリングもアメリカンフットボールもやっているアメリカ人が大好きなアスリートだからね。向こうの人もみんな言ってたけど、いま一番観たいのはレスナーvsヒョードルだって。

ガンツ　そして、多くの人が「金網だったらヒョードルはヤバイだろ。押さえつけられてパンチでいかれるんじゃないか」って思ってる。ヒョードルのとんでもなさをあれだけ見続けてきた我々でもそういうふうに思っちゃう。本当にやったらどうなるのかっていうのはわからないけどね。それこそが夢の対決の醍醐味だからね。

――ちょっとヒョードル戦は見たいですね。ヒョードルもそうだし、こうなったら青木や五味もUFCで観てみたいですよね。

ガンツ　行ってほしいよね。

――魔王と呼ばれた秋山があんなふうになっちゃったわけじゃないですか。で、日本が誇る"底なし"のファイターたちが「どうなるんだろう？」という興味はつきないですね。

ガンツ　日本格闘技界が盛り上がってくれるのがいちばんいいけど、強い選手がいちばん強いところに行ったらどうなるんだろうっていうのは、これはもうあたりまえの感情だから。

――ホント、五味と青木には行けるんだったらUFCに行ってほしいなぁ。戦略に長けた青木がどう闘うのか、五味もBJペンとのリベンジマッチが観たい。

ガンツ　五味ぐらいの実績とコア層へのネームバリューがあれば、UFCだってウェルカムだろうからね。で、UFCの何が凄いってさ、こんな凄まじいカードを注ぎ込んだビッグマッチをやったあとに、8月に2大会もビッグマッチがあって、カードももう完璧に揃ってるっていう。

――ちなみに6日後の『DREAM・10』はまだ全カードが揃ってないです（笑）。

松林　フィラデルフィア大会がBJペンのタイトルマッチで、ポートランド大会がノゲイラvsクートゥアーのヘビー級戦か。

ガンツ　しかもBJの試合がある大会のセミファイナルはフォレスト・グリフィンvsアンデウソンの階級を超えたスーパーファイト。

――そりゃあ観たいわ！

ガンツ　たぶんメインよりも注目される

日本が誇るファイターたちがUFCでどうなるんだろうという興味はつきない

ぐらいのカード。BJはケニー・フロリアンとやるんだけど。これもまた最強対決ではある。

――しっかし、UFCはホントに選手が揃ってるなあ。

ガンツ　ちなみに『UFC100』のメイン終了後、スイングバウトでジョン・フィッチが出てるんだよ。

――スイングバウト?

ガンツ　要はPPVの時間調整マッチ。時間を調節する試合だから、いつやるのかわからないんだけど、ジョン・フィッチって相当な選手なんだよ。それを「おヒマなら観てってください」っていうカードで組んでる（笑）。

――あのジョン・フィッチがそんな扱い。郷野を完封してるぐらいの人なのに……。ところでUFCはいつ日本に来るんですかね。

松林　ホント、早く来てほしいんだけどなあ。なんなら香港でもシンガポールでもフィリピンでもいいよ。アメリカよりは近いから（笑）。

ガンツ　たぶん来年はない。再来年という話ですね

松林　おそらく戦略的にはヨーロッパの次の都市が優先されるよね。イギリス、アイルランドに続く第二の拠点として。

――再来年かあ。その頃の日本は、興行規模が下がると同時にファイターの実力も下がってきてるのかもしれないですね。

ガンツ　アメリカはホントのアスリートがやってるし、アメリカは底辺が広いんだよね。やっぱりね、スポーツをやる人が日本よりもあきらかに多い。

松林　そうそう。ヴァンダレイのジムに行ったときにガンツと話してたんだけど、「アメリカ人って、誰もが何かしらスポーツやってるよね」って。「でも、普段からあれだけの量のメシを食ってて、運動してなかったら大変なことになるんじゃないの」って（笑）。

ガンツ　だからジムとかもホントそのへんのおばちゃんやおっちゃんからスーパーアスリートまでいろんな人が来てる。

松林　ラスベガスでタクシーに乗ると、ドライバーがいきなり「俺はエクストリーム・クートゥアーに通ってるんだ」って話しかけてきたりとか（笑）。

ガンツ　「週末はゴルフやってます」とあんまり変わらないし、今回スポーツ店に行ったのよ。そしたら普通にUFCのオープンフィンガーグローブを売ってんだよ。

いまUFCにいちばん参戦してほしい日本人。五味隆典は集大成&ベンのリベンジのために。青木の場合は「20代の現役・日本人ファイターがどこまでできるのか?」という興味がつきない。

――日本は普通のスポーツショップにオープンフィンガーグローブなんか売ってないもんね。

ガンツ　野球のグローブの隣にオープンフィンガーグローブがあるの（笑）。で、ライフルまで売ってるっていう。東京なら格闘技専門店とかまで行かなくちゃいけないのに、近所のスポーツ店で全部揃うみたいな。

――そういう話を聞くと、日本はヤバイですね〜。

松林　普通に競技って、人が集まるから進化するっていうのがあたりまえにあるから、その部分では日本のほうの競技はちょっと心配だよね。

――なんか、うまくUFCの勢いを日本に取り込めないですかね。

ガンツ　UFCがDREAMの人たちにPRIDEをやらせるっていうのはどうかな（笑）。せっかくPRIDEを持ってるんだからさ。

松林　いまみたいにPRIDEを塩漬けにしておくのはもったいないからね。WECみたいな扱いでいいんだからさ。強引にカテゴリーを設けるとすれば、ズッファ主催のリングファイト部門ということで（笑）。

ガンツ　名義貸しみたいなもんでさ。いまは笹原さんたちリアルエンターテインメントが主催FEGの大会を制作してるわけでしょ。主催ズッファの大会を作ったっていいんだよね。UFCが日本進出しなくてもPRIDEっていう部門を復活してくれればっていう。

――べつに日本でやらなくたっていいんだしね。アメリカでPRIDEやって、それをどこかのテレビ局が流してくれればいいもんね。

ガンツ　リングでやるんだったらレスナーvsヒョードルも実現するんじゃないのかな。ヒョードルは頭がいいから「オクタゴンではもしかしたら負けるかもしれない」って思ってると思うんだよね。そういう危機管理能力に長けている。

――というか、ボクがヒョードルなら、なんでわざわざUFCに乗り込まなきゃなんないんだって普通に思いますよ（笑）。

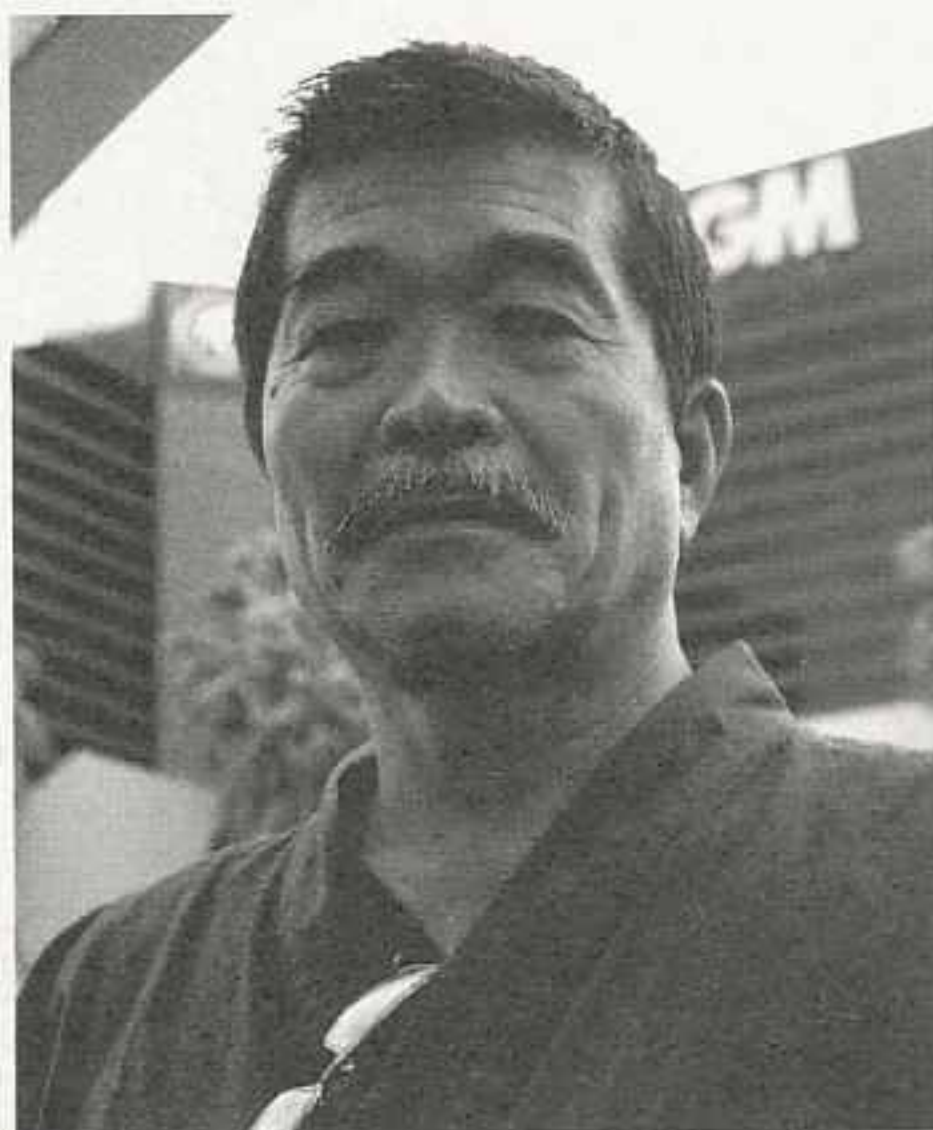
ガンツ　じつはここ1年でいちばん厳しい試合をやってるよね、ヒョードルは。というわけで、あらゆる問題を解決するのは、ロレンゾさんにPRIDE復活させてもらうことです！

――やっぱり日本はUFCよりPRIDE!?

【09年7月14日／お金のにおいがしない『kamipro』編集部にて収録】

あの石井慧も特訓した“町田カラテ”のルーツとは？

UFC世界王者を生んだ男の
空手バカ一代記

リョート・マチダの父
町田嘉三

5月の『UFC98』で見事にラシャド・エバンスをKOで下し、
世界ライトヘビー級のベルト奪取に成功したリョート・マチダ。その父であり、
町田空手の師範こそが町田嘉三氏だ。いまなお、地球の裏側で
空手道を追求する達人に、その激動の半生を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

――今日はリョート選手、そして〝町田カラテ〟のルーツであるお父さんの経歴について、いろいろとお聞きしたいと思いますのでよろしくお願いします。

嘉三　こちらこそよろしく。

――そもそも空手を始められたのはおいくつのときですか？

嘉三　空手は15か16歳の頃、高校生のときに始めました。そのあと日大の農業工学部を出てから、すぐにブラジルに渡ったんです。

――なぜブラジルに行こうと？

嘉三　昔、海外移住事業団というのがありまして、そこの測量の仕事に就職したんですね。まぁ、空手ばっかりやってたから、どこの試験を受けてもなかなか受からなかったんですよ（笑）。

――就職できなくてブラジル行き、と（笑）。

嘉三　あとは自分を試してみたかったんです。夢を追うというか、他人と違うことがやりたかったんですね。

――でも、当時のブラジル移民というと生活が苦しいというイメージがあるんですが？

嘉三　苦しかったですよ。だからうちのばあさんや親父は「なんでブラジルなんか行くんだ？」って言いましたから。それでもブラジルを選んだのは、事業団がただで船に乗せてくれるというのが大きかったですね。あとは、ブラジルには親戚も知り合いもいなかったんで、逆に「これはおもしろいじゃないか」と思ったんですよ。

――心細くはなかったですか？

嘉三　それは正直ありましたね。出航のときに、ウチの空手部や応援団の連中をはじめ、200人ぐらいが見送りにきてくれたんですね。だから元気よく「行ってきまーす！」と言ったものの、一人になったら涙が出てきて。お金もないし、もう日本に帰ってこられないんじゃないかと思いましたから。そのときの私の手持ちは100ドルだったんですけど、一週間でなくなっちゃいましたね。あの頃、日本はバナナが高かったので、ブラジルに着いたらバナナをいっぱい買って、一週間ずっとバナナを食べ続けて（笑）。

――バナナが嬉しくて（笑）。

嘉三　そうそう、そういう時代だったんです（笑）。それで、ブラジルに渡ってから1年間はジャングルで仕事をしてました。トメアスというところで道路を作ったり、橋を架けたり。そこは〝黒いダイヤモンド〟といわれた胡椒が採れた地域だったんですけど、日本から来る移住者を受け入れて、土地を区画整理してたんですよ。要は日本がブラジルから安く譲り受けたジャングルの開拓ですよね。で、その仕事を辞めてから、ベレンというところに移って空手の道場を始めるんです。

――ブラジルに渡って1年で道場を出せるまでに？

嘉三　いや、その当時はベレンには空手道場がなくてね。斎藤道場という柔道の道場を間借りするかたちで、そこで寝泊まりしながら空手を教えてたんです。その斎藤さんは秋田高校で柔道をやってた方なんですけど、もの凄く強かったですよ。当時、練習に来てた生徒の中にはイワン・ゴメスもいましたね。

――へぇ～、あのイワン・ゴメスが柔道を習った先生ですか。そういえばベレンというと、コンデ・コマ（前田光世）がいたところですね。

嘉三　そうですね。そこで私は6カ月間ほど空手を教えまして。でも、食っていくのは大変でしたよ……（しみじみと）。

家族一丸となってリョートをサポートする町田ファミリー。次男のシンゾーは06年日本空手協会世界大会準優勝者の猛者であり、長男のタケヒコはLYOTOのセコンドを務める。

UFC世界王者を生んだ男の空手バカ一代記

水と芋を食いつなぎながらなんとか生きてました。体重なんか痩せて60キロを切っちゃいましたから。

——相当苦労されたんですね。

嘉三　それからほぼ無一文の状態でサンパウロに渡ったんですが、そこで（アントニオ）猪木さんのお兄さんと出会いまして、1年間居候させてもらったんです。

——猪木さんとの関係は、それが始まりなんですか？

嘉三　そうなんです。そのお兄さんは相良さんといって、猪木さんの母方の名字を継いだ人で。その人が空手の道場をやっていたので、私は師範代というカッコいい肩書きをいただいて居候させてもらったんです。まぁ、要はタダメシだけを食ってたんですけどね（笑）。

——師範代という名の居候ですか（笑）。ちなみに猪木さんご本人とはどういうふうにお知り合いに？

嘉三　相良さんの紹介ですね。うちの子ども、つまりリョートが総合をやりたがってるという話を彼にしたんです。それで猪木さん本人に話を通してもらいOKということになって、すぐにリョートを日本に行かせて。あのときは猪木さんサイドが航空チケットとかも全部払ってくれましたね。

——面倒を見てくれたわけですね。

嘉三　それでホテルで猪木さんがリョートの身体を見て、何かを見出してくれたのか、それから2～3年稽古をつけてくれたわけですよ。いろいろとリョートも勉強になったと思いますよ。

——いまでも猪木さんとお話しすることは？

嘉三　先月、ホテルニューオータニで猪木さんが出席する式典でお会いしました。そこで猪木さんが「やあ、リョートはどうしてる？」って聞いてきたので、「アメリカで闘ってますよ」って答えて。そしたら「それは知ってるよ。うちの秘書はそっちに電話してるか？」って言うから、「どうですかねえ」って（笑）。でも、リョート自身はもう日本に行きたくないって言ってますね。遠いから寂しいみたいで。

——ホームシックになる、と。話を元に戻すと、サンパウロに1年間滞在したあとはどちらへ？

嘉三　それからブラジルの真ん中にあるバイーア州のサルバドールという町に移動して、10年ぐらい滞在しましたね。

——ノゲイラが生まれた町ですね。そこでも空手を？

嘉三　はい。そこで現地の言葉を覚えたんですよ。女の子をひっかけて、悪い言葉ばっかりね（笑）。

——女の子でポルトガル語を覚えましたか（笑）。

嘉三　ブラジルの女の子は情熱的ですから。私もスポーツカーを買って、空手と女で楽しい日々でしたね（笑）。

——なるほど（笑）。その頃には生活は楽になってきたわけですか？

嘉三　道場が軌道に乗ってからは、生徒がどんどん増えましたね。一緒に道場を経営していたブラジル人がやり手で、一時は生徒が1200人、支部が26もありましたから。

——そんなに集まったんですか!?

嘉三　でも、やはり最初は大変でしたよ。ブラジル人ですから、日本人とは慣習も違うわけです。たとえば、その共同経営者も初めの頃は、練習の開始時間一つにしろルーズなわけですよ。だから私は「それじゃあ生徒は集まらない。空手というのは武道

道場が軌道に乗ってからは生徒数が1200人、支部も26まで増えました

だから教育的にやらないと。闘いを教えただけじゃ俺たちは食っていけないよ」って言ったんですよ。それから礼節を重んじた日本式でやることになって、時間もキッチリ管理するようになりましたね。

—ちゃんとスケジュールを立てたわけですね。

嘉三 はい。朝は4時半に道場に行って、5時から7時半ぐらいまで自分の練習をして、それが終わると生徒たちに10時頃まで指導。そのあとに昼ごはんを食べて昼寝をして、16時頃から21時まで指導、それが一日の流れでしたね。

—それは相当ハードですね。

嘉三 それを10年間、土日も祭日も休まずに続けましたから。そのあいだにサルバドールだけで220人の黒帯を育てて。それで一段落したということで、またベレンに戻ったんです。

—ベレンには何か思い入れがあるんですか？

嘉三 私、アマゾン川が好きなんですよ。ベレンはアマゾン川流域最大の都市ですから。アマゾン川は見たことありますか？

—いや、ないですね。

嘉三 いやあ、凄いですよ！　世界最大の流域面積ですから。もう、海のように波が立ちますからね。風が吹く時期になるとサーフィンもできますし。そういうスケールの大きな場所なんですよ。

—川というイメージじゃないんですね。

嘉三 そうですね。コンデ・コマもそれが印象的でベレンに住んだんじゃないですか？　本当に凄いですよ、向こう岸が見えないですからね。言葉じゃ表わせないですけど、一日いても飽きないですよ。

—とにかく凄い、と（笑）。でも、アマゾンというと危険なイメージもあるんですが？

嘉三 いえ、そんなことはないですよ。むしろ危険なのは街のほうですね。いまは子どもたちが危ない薬を飲んで、お金がないと手当たり次第に盗みをやりますから。私の友だちなんかも飛行場で持ち金を全部盗られて。

—都市部のほうが危険だ、と。

嘉三 そうですね。14〜15歳の子たちがやるんですよね。貧乏で困っている連中以外に、お金持ちの連中も遊び半分にやりますから。

—それは物騒ですね。

嘉三 いまはだいぶ厳しくなりましたけど、ピストルも手に入りますし。ピシッとした格好をしてると狙われやすいですね、お金を持っていると思われるんで。

—なるほど。さて、リョートさんのことをもう少しお聞きしたいんですが、生まれたのはどちらで？

嘉三 リョートはバイーアで三男坊として生まれました。それで、生後3ヵ月でベレンに連れていって。

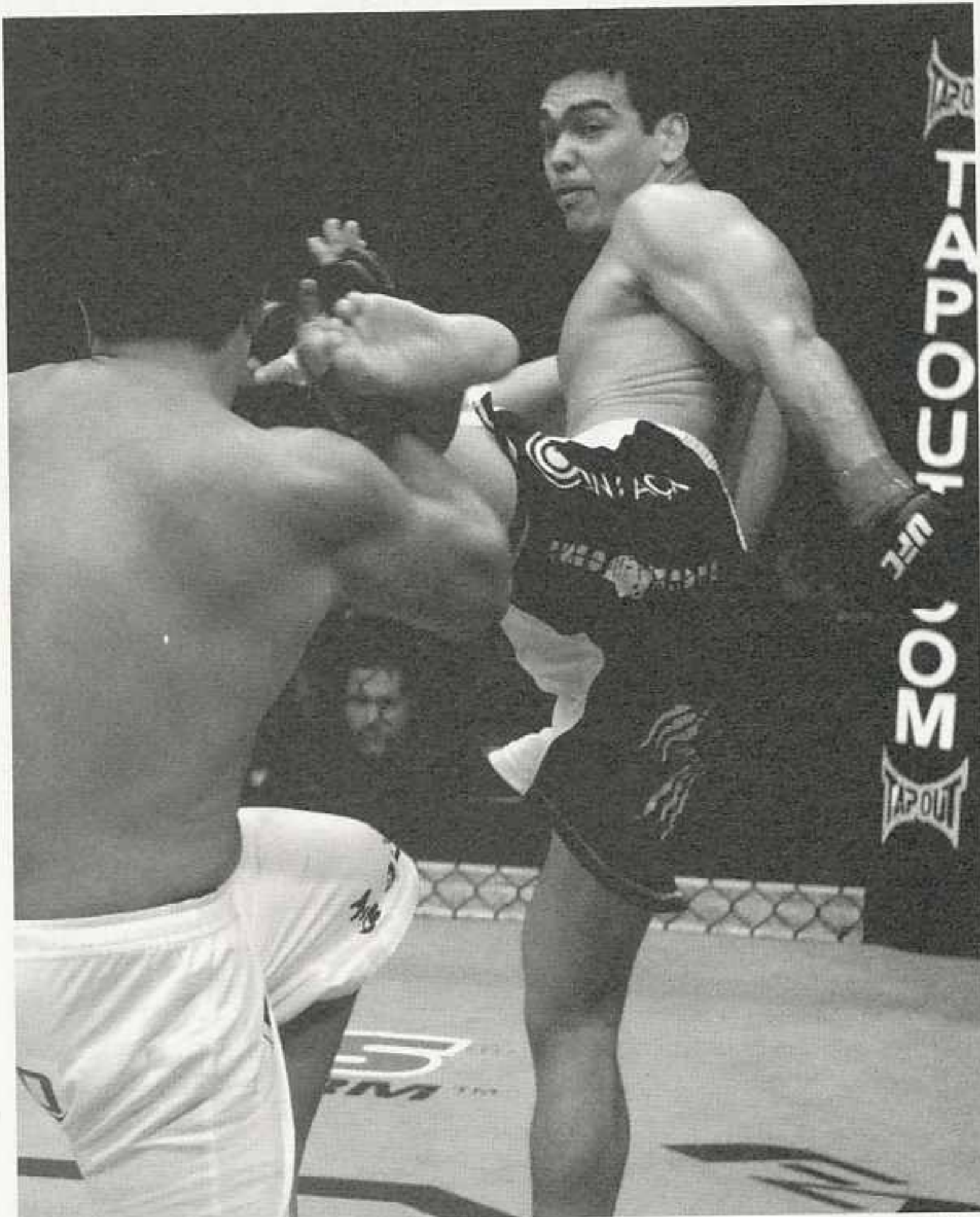
—生活を落ち着けてベレンに行ったんですね。

嘉三 そうですね。空手の生徒にベレンの農場をもらったんですよ。そこで何かやろうと思ってカカオなんかを植えて。でも、5年間で稼いだ金がゼロになりましたね（苦笑）。

—えぇ、ゼロに！

嘉三 ブラジルの農業は、時期によって政府もほとんど援助してくれないですし。で、ガソリン代なんかもドンドン高くなって全然身動きがとれなくなったので、農業は我慢して空手の道場だけをやり続けました。

—また、今度は貧乏生活に戻った、と。

嘉三 そうですね。ブラジルで貧乏生活したのは3〜4回ありますから。もう、貧

町田氏はリョートを右利きから左利きの構えに改良。半身の構えから拳をやや上段に構える伝統派空手のスタイルを、うまく総合用にアレンジしている。さらに文中にあるように試合で大切なのは"心構え"と説く町田氏は、リョートの試合一週間前から般若心経を読ませるとか。

〝地上最強のカラテ〟復権！ 空手出身のMMAファイター

ジョルジュ・サンピエール

いまやMMA界全体で最も旬な格闘家である、現UFC世界ウェルター級王者のGSP。父親が極真空手の師範ということもあり、自身も幼少の頃から空手を始めた。日本の日の丸が描かれたハチマキを必ず着けて入場するなど、空手の母国である日本に敬意を抱いており、「まだ日本に行ったことはないけど、〝精神の故郷〟である日本で試合することはボクの一つの夢」と語っている。

菊野克紀

今年4月に松本晃市郎を破り、DEEPライト級王座を奪取。6年間の内弟子生活を送った極真空手をベースに〝世界のTK〟髙阪剛に弟子入りし、空手を活かす総合格闘技のスタイルを確立した。前蹴りとミドルキックの中間の軌道で蹴り込む「三日月蹴り」はまさに一撃必殺の武器！　7月にDREAM初参戦、アンドレ・ジダに鮮烈TKO勝利を収めた。

アンドリュース・ナカハラ

極真会館ブラジル支部所属の日系ブラジル人3世。06年の「オールアメリカンオープン2006」では、あのエヴェルトン・テイシェイラに勝利を収めて優勝。08年の『DREAM.2』での総合デビュー戦（vs桜庭和志）こそ一本負けを喫したもの、その後はユン・ドンシク、大山峻護に連続TKO勝利。今後のさらなる躍進が期待されるミドル級の新鋭だ。

リョートには試合のたびに「これが最後の試合」と思わせて闘わせてます

乏のどん底でしたよ(笑)。日本みたいに親戚もいませんしね。家内はブラジル人なので親戚はいますけど、べつにウチらの援助ができる余裕があるわけでもない。もう子どもを3人抱えてどうしようかと思いましたね。

——なるほど。そこからはもう空手一本という感じですか?

嘉三　はい、道場の運営一本です。で、私が52歳のときに長男が経済大学に入ったんですね。そのときに「おまえ、試しに道場やってみるか?」って聞いたら、「やってみるよ」と答えて。「じゃあこの道場は借金をしてるから、それも含めておまえに任せる。頼んだぞ」って託して、10年前に私は道場の運営からは下りたんです。

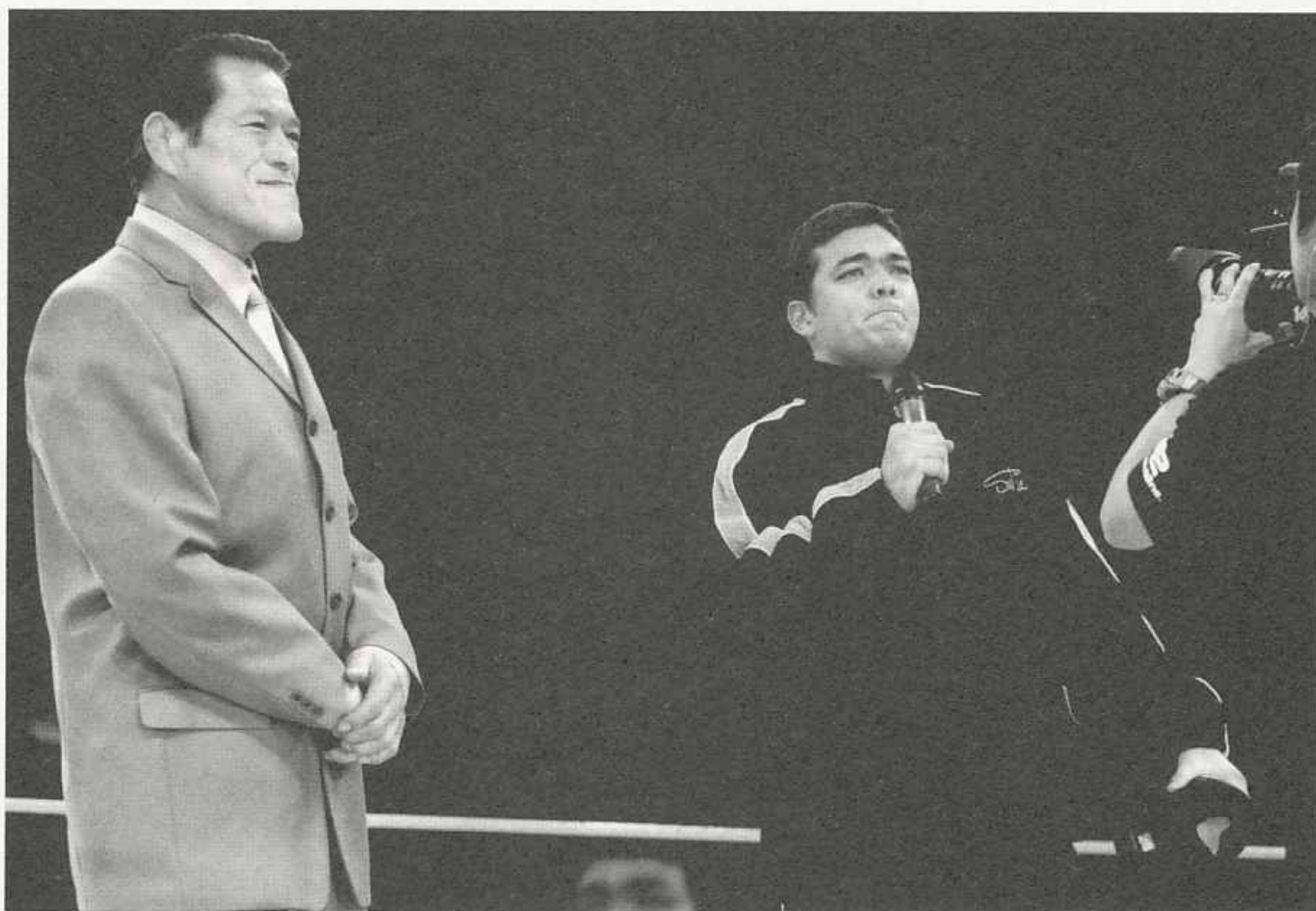
——では、いまはお子さんが跡を継いでるんですね。

嘉三　はい。私は運営にはかかわらず、道場に行って生徒の練習を見たり、ブラジル大会や世界大会の監督になるという役目で。教えるのも一日1時間、それも毎日行くわけではないのでだいたい一週間に3時間程度ですね。

——では空いた時間は?

嘉三　あとは遊んでますよ、プールに入ったり、馬に乗ったり(笑)。

——悠々自適な生活ですね(笑)。

嘉三　まぁ、子どもたちも空手が好きですし、あとは任せて。だから、結局は子どもたちも私と同じで、自分の好きなことをやって生きてるわけですよね。リョートも12歳ぐらいのときから格闘技をやってますし。次男は2004年の空手の世界大会で2位になりました。四男はテレビのアナウンサーをやってますね。ベレンではけっこう有名なアナウンサーですよ。顔も私みたいに人相悪くないから(笑)。

リョートは伝説の大会「アルティメット・クラッシュ」でプロデビュー。謙吾と対戦し、3-0の判定勝ち。試合後、リングサイドのアントニオ猪木は試合内容に納得がいかなかったのか、リョートに鉄拳制裁！ しかし、なぜかそれを笑顔で受けきったリョート。のんきが一番！

UFC世界王者を生んだ男の空手バカ一代記

——ダハハハ! ハーフでかっこいいですよね。

嘉三　それはどうかわからないですけど、年増の人たちにモテますよ(笑)。なんにしろ、ブラジルはおもしろい土地ですよ。空手にしろ、自分の好きなことをやっていけますから。普通、日本だったらよっぽど有名じゃないと好きなことで食べていけないでしょう? 私なんか空手じゃ全然有名じゃなかったですからね。ただ、日本の道場のシステムをそのままブラジルに持ってきて教えただけで。で、道場生には健康になりたい、強くなりたい、護身術とか、いろいろなニーズがあるので「じゃあ、君はこういう練習をしなさい」というかたちで指導をして。

——もちろん精神面も指導するわけですよね?

嘉三　はい。うちみたいな道場はブラジルでも数えるぐらいしかないんじゃないですかね? ちゃんと雑巾掛けからさせますから。普通、外国人はそんなことさせないですよ。うちは生徒の保護者が靴を履いて道場に入ってくると、子どもたちが「駄目だよ、靴を脱がなきゃ。道場は神聖なところなんだから」ってちゃんと言いますからね。道場もいつもピカピカにしてますよ。

——そういった教育も行き届いてるわけですね。

嘉三　それ以外に専門的な空手の技術にしろ、私は常に何か新しいことを考えるようにしてます。警察に教えるような護身術を考えたりとかね。

——普通の型稽古だけじゃないんですね。

嘉三　もちろん。組手もバンバンやりますよ。日本ではあまりないですけど、うちの道場では4つか5つぐらいの子どもたちも防具の柔らかいのを着けて、組手をやってるんです。みんなうまいもんですよ。気を抜くとパーンッとこっちが入れられちゃいますから(笑)。

——リョート選手は小さい頃から才能があったんですか?

嘉三　そうですね。空手も強かったですしね。あいつは小さい頃からいろんな格闘技をやってましたよ。相撲やレスリング、柔術もキックボクシングもやったし。それからヨガみたいな呼吸法も学んでました。総合格闘技には、やっぱりそういういろんな要素が必要なんでしょうね。その中でも、とくに私が一番大切だと思うのは、技術じゃなくてここなんですよ(頭を指しながら)。

——頭、ですか?

嘉三　そうです。それは言い換えれば心構えというか、気の持ちようということですね。闘いは相手を見て「これは強そうだ」と思ったら、それは相手に飲まれちゃっているわけですし半分負けなんです。リョートがそういう気持ちにならないように、今回も二人の兄貴がサポートに来てますよ。

——ご兄弟が精神面を支える、と。

嘉三　はい。あとリョートには試合のたびに「これが最後の試合」だと思わせて闘わせてるんです。

空手を45年以上やっているので相手を見ればある程度弱点はわかります

——だからこそすべてを出しきれ、と。

嘉三　それにリョートは、一番最初に日本で闘ったときとは全然闘い方も違いますしね。闘い方は常に進化させないと、相手にパターンを覚えられますから。だから試合のときは家族みんなでいろんなところから相手の映像を手に入れて、一週間ぐらい「この選手はここがいい。ここが悪い」とか言いながらチェックしてるんですよ。それをもとに練習するんです。

——対策を充分に練るわけですね。

嘉三　私も空手を45年以上やってますから、相手を見ればある程度はどこが弱点かわかりますから。首を見て、顔のかたちを見て、肌の色も見て。たとえば黒人というのは、のぼせ上がらせるとドンドン凄い力を出してくるんですよね。だからリョートがソクジュと闘ったときは、相手の出鼻をくじくような作戦を立てて。そうしたらソクジュもどうしていいかわからなくなって困ってましたね。だから試合も簡単にひっくり返して勝ったわけですよ。毎回、そういうふうにいろんな作戦を組んで試合に臨んでいます。

——なるほど。

嘉三　たとえば白人でメキシコ系のティト・オーティズだったらとっぽいんで、とっぽい組手をさせるとかね（笑）。

——とっぽい組手ですか（笑）。

嘉三　そういうふうに人種によっていろいろ特徴があるんです。日本だったら日本人だけですけど、ブラジルにはいろんな人種がいるので、地方によっても全然違いますし。リオデジャネイロやバイーアで生まれた人はもの凄いとっぽいんです。それからサンパウロ、ミナスで生まれた人は真面目。東北で生まれた人は貧乏人が多いから、のし上がろうと思って必死になってきます。こっちがスポーツのつもりでも、向こうは命を懸けてくるんだから意識が違いますよね。

——なんでもやってくるわけですね。

嘉三　私の道場があるベレンなんかも地方なので、「なんだ、ベレンなんか」ってバカにされるんですよ。だからこそ、生徒は一生懸命やりますし。ほんの2週間前に空手のブラジル大会があったんですよ。6歳の子どもから30歳の大人まで、個人戦で点数をつけていく大会だったんですけど、私の道場は1位になりました。

——はー、それは凄い！

嘉三　去年も同じ大会で優勝しました。試合前に生徒には「この俺が先生なんだからな。俺がいつもうしろで見てるから心配するな」って声をかけて、「絶対に勝つ」という自信を植えつけるんです。

——精神面から後押しする、と。ちなみに（ヴァリッジ・）イズマイウとはもう交流はないんですか？

嘉三　イズマイウはいまのところないですね。イズマイウがリョートに「オレのチームに入らないか？」って声をかけたらしいんですけど、リョートが「嫌だ」って答えてからは連絡がないそうです（笑）。

——そうなんですか（笑）。イズマイウもおもしろい人ですよね。

嘉三　そうですね。あの人は貧乏な家の息子で、リオに流れていってカーウソン・グレイシーのところで柔術を覚えて。ゼロからやって上がってきたんだからたいしたもんですよ。ハングリー精神が凄いじゃないですか。うちの子どもなんか、一回もイズマイウや私みたいな生活はしてないですよ。

——イズマイウを見習え、と（笑）。

嘉三　たいした苦労もせずに好きなことをやってるんですから恵まれてますよね。これが今度は町田カラテの3代目になると、どうなるかはわからないですけどね。もしかしたらそこで駄目になっちゃうかもしれないし（笑）。

——いやいや（笑）。嘉三さんはこれから目標のようなものは何かありますか？

嘉三　私は80歳ぐらいまでは空手をやりたいですね。

——生涯現役といった感じですね。

嘉三　そうですね。あとは子どもたちがどこまで登っていくか見ていきたいです。世界の頂点になるのか、それとも中途半端で終わるか。でも、いいところまで行くんじゃないですかね。私は一つのことを突き進むように育てましたから。そうすれば必ず何かが見えてくると思いますし。私もいろいろなことに手を広げてたら、いまのようにはなってないでしょうね。

——空手一筋だということですね。

嘉三　あと、先ほどリョートに毎回「これが最後の試合」だと思って闘わせてると言いましたけど、それは私のポリシーでもあるんですよね。明日のことはわからない、私はいつも今日が最後と思ってるんです。そうやって一生懸命生きてきたし、これからもそうやって生きていきたいですね。

【08年5月23日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・アリーナにて収録】

まちだ・よしぞう■1946年1月29日、茨城県出身。日本空手協会七段で松濤館流師範。高校生の頃から空手を始め、日本大学在学中に全国大学選手権において型で優勝、組手3位。68年にブラジル、トメアスへ移住。その後、サルバドール、ベレンで町田道場を開き、師範を務める。今年5月には石井慧が道場で稽古に訪れ、その教えを受けた。

“決して外務省のラスプーチン”佐藤優ではない!!

日本時代のリョート・マチダ

現UFCライトヘビー級チャンピオン

再録インタビュー

“アントン最後の遺伝子”としてプロデビューしたリョートは、いまやUFCのチャンピオンに上り詰めたわけだが、ここでは日本時代のリョートを振り返ってみよう。それでは、デテコーイ!!(アントン調)

聞き手／ジャン斉藤

LYOTO MACHIDA

現ＵＦＣライトヘビー級チャンピオン、リョート・マチダ。いまだにＭＭＡ無敗なうえに伝統派空手をベースにした独自のファイトスタイルが全世界から注目を浴びているが、〝日本時代〟の彼のことを覚えている読者はどれくらいいるのだろうか。

リョートは藤田和之と同じく猪木事務所所属のファイターだった。リョートの父・町田嘉三と接点があったアントニオ猪木がブラジルでスカウト。そして01年『猪木祭り』開催直前、藤田和之が負傷欠場となりジェロム・レ・バンナの相手が決まらずカード編成が大混乱に陥っていたとき、我らがアントンは大あわてのＫ−１やＴＢＳ関係者にのんきにこう言い放ったそうなのだ。

「ブラジルに若くて強えヤツがいるから、そいつにやらせよう！」

そう、その若くて強えヤツこそがこのリョートなのだ！　……とはいっても、リョートは〝ド無名のド新人〟。大晦日のメインイベントに抜擢されるわけがなく、当時はのんきなアントンジョークとして扱われていたのであるが……。

その後、リョートは謙吾戦でデビューが決定するも、格闘技専門誌からは「猪木の弟子なんて所詮はフェイク」みたいなさんざんな扱いを受けている。つまり完全にノーマークな存在であった。

いまから再録するインタビューは03年のその謙吾戦直後、〝闘魂ストーカー〟イズマイウがプロデュースする『ジャングルファイト』直前に収録したインタビューを再構成したものである。〝日本時代〟のリョートはこんなにのんきだったんです！

通訳　（いきなり）今日は直接、日本語で話されますか？　それとも通訳したほうがいいですか？

——というと、リョートさんは完全に日本語をマスターされたんですか？

リョート　スコシ！（日本語で）

——そうですか（笑）。

通訳　そうですね。日本語で話す場合はゆっくりしゃべってもらえるとリョートも話せるんですけどね。

リョート　ワカリマス。

——今回は通訳つきでお願いします（笑）。それで今日はリョートさんが9・13『ジャングルファイト』、10・5『PRIDE・武士道（以下武士道）』に出られるんじゃないかと小耳に挟みまして、いろいろとうかがいに来ました！（編集部注※結局『武士道』には出場せず）。

リョート　あぁ、『ジャングルファイト』ね。

——『ジャングルファイト』はリョートさんの出身地でのイベントですもんね。『武士道』にも出られるんですか？

リョート　どうなるんだろう？　出るのかなあ。

——そっちの話は聞いてない？

リョート　いや、『猪木祭り』ももちろんだけど、『武士道』には出たいよ！　もともとのボクの夢はPRIDEに上がることだったから。

——リョートさんは昨日の『PRIDEミドル級GP』を観に行かれたんですよね。

リョート　イマシタ（日本語で）。ミルコ・クロコップ。あのハイキック、凄かった！　ボクもああいうKO勝ちがしたいよ。

——リョートさんは空手家出身ですし、「必殺技はパンチ！」というぐらい打撃に自信があるみたいですけど、デビュー戦となった謙吾戦ではあまり打撃を使いませんでしたね。

リョート　やっぱり試合によって闘い方は変わってくるからね。ケンゴサンとの試合は寝技で闘おうと思ってたんだよ。今回は寝技で攻めよう！ってね。

——聞くところによると試合前にケガをされたってことでしたけど。その影響もあって打撃を出せなかったこともあるんですか？

リョート　ああ、確かに試合前にケガをしてました。まあ、ケガをしてるとはいえ試合のときにはベストな状態だったから。

——あの試合、リョートさんはブラジルの民族衣装をコスチュームにして入場しましたよね。あれは誰のアイデアだったんですか？

リョート　誰だろう？　よく知らないけど、ボクはアマゾン出身じゃない？　そういう雰囲気を出したかったからああいう格好で入場することになったんだよ。次もまた、みんながビックリするような登場をします！

——謙吾戦は勝ちましたけど膠着しちゃって消化不良だったじゃないですか。試合後、猪木さんからも怒りの鉄拳が飛び出しましたし。

リョート　会長のパンチはウレシイ！（日本語で）。

——リョートさんは試合後のコメントでも「ウレシクテタマラナイ！」って言ってましたね（笑）。

リョート　いや、殴られた瞬間はビックリしたよ。だって普通は一発じゃない？　まさか3発も食らうとは思わなかった！

——いつもの闘魂注入とはあきらかに違いましたよね。

リョート　だから、なぜ会長があんなに殴ったのか自分で考えたんだよ。考えながら花道を歩いて、コメントルームに着いたときわかったんだ！

——またずいぶんと早く理解したんですね（笑）。

リョート　理解したよ。ファンが求めていた試合ができなかったから3発も殴られたんだって。会長やファンに申し訳ないって反省しました。

——あの鉄拳制裁の意味をちゃんと理解してるんですね。

リョート　プロとしてのあり方を教えてくださった会長には感謝してます！　次はファンにも会長にも認められるような試合ができるように、もっともっと練習します。

——次回は『ジャングルファイト』での試合が予定されてますけど、対戦相手はほぼ決まってるみたいですね。

リョート　相手はアメリカ人……って聞いてるけど、あんまりよくは知らないんだよ（のちの『TUF』ファイター、ステファン・ボナー）。それも変わるかもしれないしね。でも、相手は誰でもいい。誰とやってもボクはかならず勝つからね。

——いろいろと謎の多い『ジャングルファイト』ですけど、何かしらの情報は聞いてますか？

リョート　何も知らない。ボクは練習して試合に出るだけだよ。

——『ジャングルファイト』のキーマンと言われているイズマイウさんからも何も聞いてないんですか？

リョート　フッフッフ！　イズマイウさんかあ。

——何がおかしいんですか（笑）。

リョート　いやいや、べつに（笑）。

——実際、イズマイウさんとリョートさんってどういう関係なんですか？

リョート　イズマイウさんとはロス道場で会っただけ。たまに一緒に練習するんだよね。

——イズマイウさんはリョートさんのセコンドにつくために自費来日までしてますけど。

リョート　いやいや、本当は一緒に練習しているrAwチームにセコンドを頼んだんだよ。でも、ボクはあんまり英語が話せないからさ。セコンドとしては不都合じゃない。ポルトガル語を話せるイズマイウさんがロス道場にいたから、それで来たらしいよ。

——なんだか微妙な関係ですね（笑）。

屈託のない笑顔でインタビューを受けるリョート。師匠気取りのイズマイウについては、ちょっと小馬鹿にする発言をしていたが、事務所のチェックで削られた記憶がある。ンムフフフフ。

イズマイウさんはファイターとしてはどうでしょうか？　リョートさんは他誌のインタビューで「イズマイウさんは強い」って言われてましたけど。

リョート　はい。イズマイウさんはいい選手だし、精神力も強いよ。ただ、ここ何ヵ月かは一緒に練習してないからなあ。

——イズマイウさんがロス道場に来るのは、猪木さんがいるときだけって話ですしね（笑）。先ほどのお話だと、リョートさんはｒＡｗチームとも練習されてるんですね。

リョート　うん。ロス道場とｒＡｗチームで練習してるんだよ。ｒＡｗでは（ウラジミール・）マティシェンコ、リコ（・チャパレリ）とやってる。あとフランク・トリッグ。月曜日から土曜日まで毎日練習！

——それだけ練習漬けだと、当然、遊ぶ時間なんかはないわけですよね。

リョート　ないねえ。朝から練習して、夜の7時か8時に帰ってきて、そのままグーグー寝ちゃうからね。

——ブラジルに彼女がいたりしないんですか？

リョート　彼女はいないけど……、ガールフレンドはいるよ。悪い？（笑）。

——問題ありません（笑）。日本では菊田さんとスパーリングをしたことがあるって聞いてますよ。〝寝技世界一〟の実力はどうでしたか？

リョート　ツヨイ！（日本語で）。キクタサンの道場には一回行ったことがあるんだけど、ボクがスパーリングした感じでは、いままで練習した日本人の中で寝技は一番だね。

——菊田さんもリョートさんの柔術を評価してるんですよ。猪木さんも「今年中に日本人では寝技で敵うやつはいなくなる」って言ってますし。リョートさん自身にもそういう手応えはありますか？

リョート　どうなんだろう……？　日本人選手の中ではそうなるかもしれないね。でも世界は広いし、いろんな選手がいるから。たとえばノゲイラさん、彼が相手になると難しいかなって思うよ。いきなり強くはなれないから。一つ一つの試合をキチッとやって強くなりたいです。

——そういえば、リョートさんの兄弟もかなり強いって聞いてますよ。

リョート　強いよ。兄弟は4人いるんだけど、上からタケヒコ、シンゾウ、ボク、ケンゾウ、シーコ。ちょうど家族の写真があるんだけど……。

（アルバムから写真を取り出して）これ、ボクのお父さんとシンゾウアニキだよ！

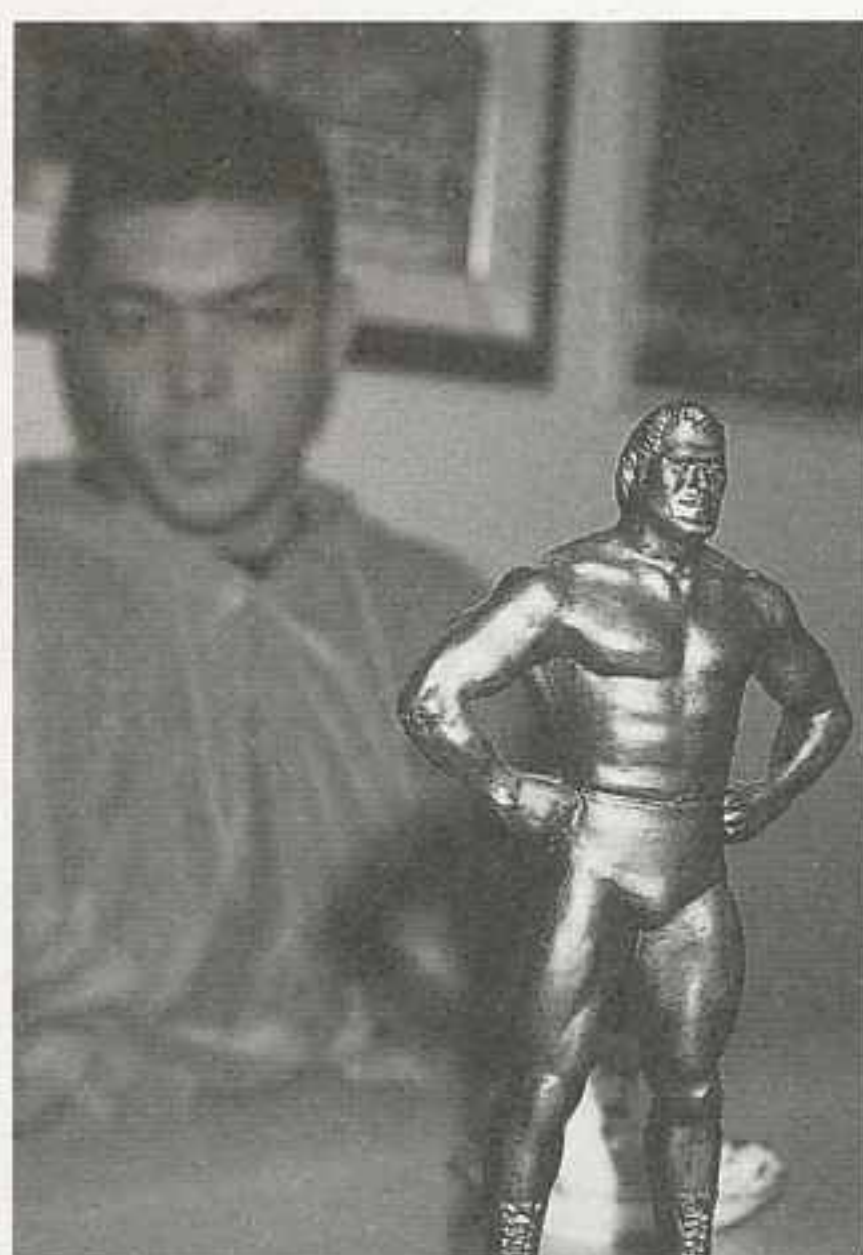
——うわーっ、お父さん、強そうですねえ！　たしかブラジルでは有名な空手の先生なんですよね？

リョート　はい。名前は町田嘉三といいます。空手だけじゃなくて、柔道、柔術、合気道もやってます。

——同じ空手でいうと、猪木さんの実兄である相楽良介さんがブラジルでやってた三次元神手（さんじげん・からて）とは接点があったりするんですか？

リョート　会長のお兄さんのこと？　ボクは小さい頃に会ったことがあるみたいだけど、あまり覚えてないなあ。サガラサンはお父さんがよく知ってるよ。お父さんは一時期、サガラサンのところに下宿してたそうだから。

——そんなつながりもあったんですか。しかし、お父さんも強そうですけどシンゾウさんも強そうですね！

リョート　アニキは強いよ！　南米の空手選手権ではボクかアニキのどっちかがいつも優勝してたからね。決勝戦は必ずボクとアニキが闘ってたんだよ。ボクは負けたくないからアニキの2倍も3倍も練習してたけど、まったく敵わなかったんだよ。こんなに練習してるのになんで勝てないのかってホントに嫌になってさ、悔しくて泣いたこともあったよ。

りょーと・まちだ■本名・町田龍太。日本人の父を持つブラジル生まれの日系二世。幼少の頃から相撲、空手、柔術を体得。ブラジル訪問中のアントン総帥に見出された。MMA無敗。185cm、94kg。

——そんなに強いんですか！　ホイス・グレイシーは「兄のヒクソンは10倍強い」と言ってましたけど、お兄さんはリョートさんの何倍強かったですか？

リョート　昔はボクの10倍ぐらい強かったよ。でも一生懸命練習してたら、勝てはしないけど負けなくなったんだ。そして、ついに勝てるようになった。いまは会長の教えを受けてプロデビューもしたし、今度アニキに会ったら「いまのボクはアニキの何倍強い？」って聞いてみたいよ（笑）。

——シンゾウさんもプロデビューする話はあるんですか？

リョート　アニキは今度、空手の世界選手権に出るんだけど、そこで優勝したらありえるかもしれないね。

——そうなったらリョートさんもプロの先輩として負けられないですね。

リョート　アニキはボクのライバルでもあり先生でもあるから、競い合っていくつもりだよ。そして、いつかお父さんを超えたい。

——お父さんはいまだにリョートさんより強いんですか（笑）。

リョート　ツヨイ！（日本語で）。あの精神力は超えられそうにないね。お父さんは本当に凄いんだよ。

——写真からもそれは伝わってきますよ（笑）。

リョート　お父さんはボクが小さい頃から「力や技術に勝るものは精神力だ」と教えてくれたんだ。「力があっても技術がなければそれを使いこなせないし、力と技術があってもそれを使いこなせる精神力がないと試合に勝てない」と。あるときは説教されたり、あるときは練習で直接指導してくれたり、あるときは何も言わずに背中で教えてくれたんだ。

——いまでもお父さんからアドバイスを受けたりするんですか？

リョート　ブラジルから電話がかかってきて「自分が練習してきたことを信じて試合をしなさい」ってアドバイスしてくれたよ。

——お母さんからは何か言われませんか？　リョートさんが17歳のときにＭＭＡに出ようとしたら、お母さんが猛烈に反対して出場できなかったと聞いてるんですけど。

リョート　お母さんはとっても怖い（笑）。

——一番強いのはお母さんなんですね（笑）。

リョート　そうなるね。お母さんはボクが選んだ道に反対したことはなかったけど、ＭＭＡに出ることだけには反対したんだよ。いまでも凄く心配してるし、「もうやめなさい」って言ってる。

——そんなに心配なら試合なんか観られないんじゃないですか？

リョート　お母さんは「観たくない」って言って、来なかったよ。でもね、「次はいつ試合があるの？　ケガしないように、お母さんが毎日お祈りしてあげる。あなたが試合してるときもお祈りしてるから」って言ってくれるんだ。

——そんなお母さんのためにも絶対に負けられないですね。

リョート　そうだね。試合内容も大事にしたいし、凄い試合をみんなに観てもらいたいよ！　とりあえず今回の『ジャングルファイト』でスキルアップしたボクの姿をお見せするよ。

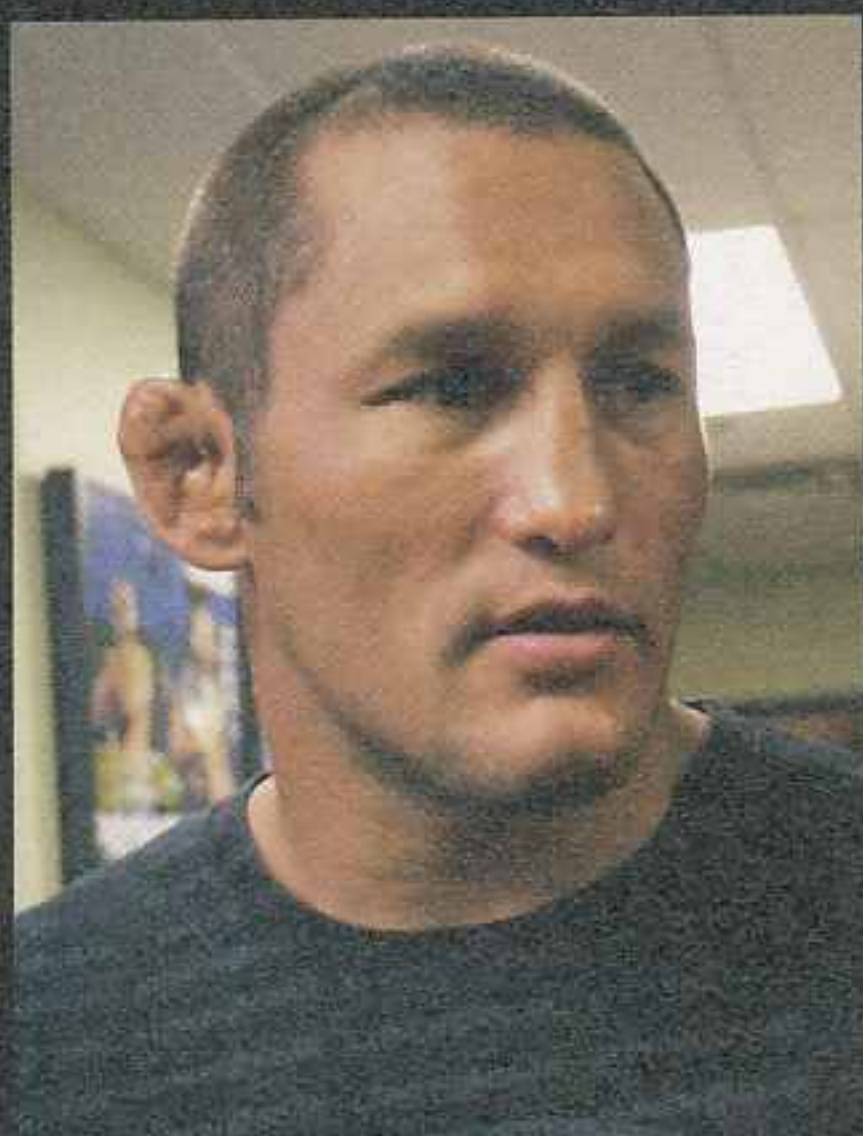
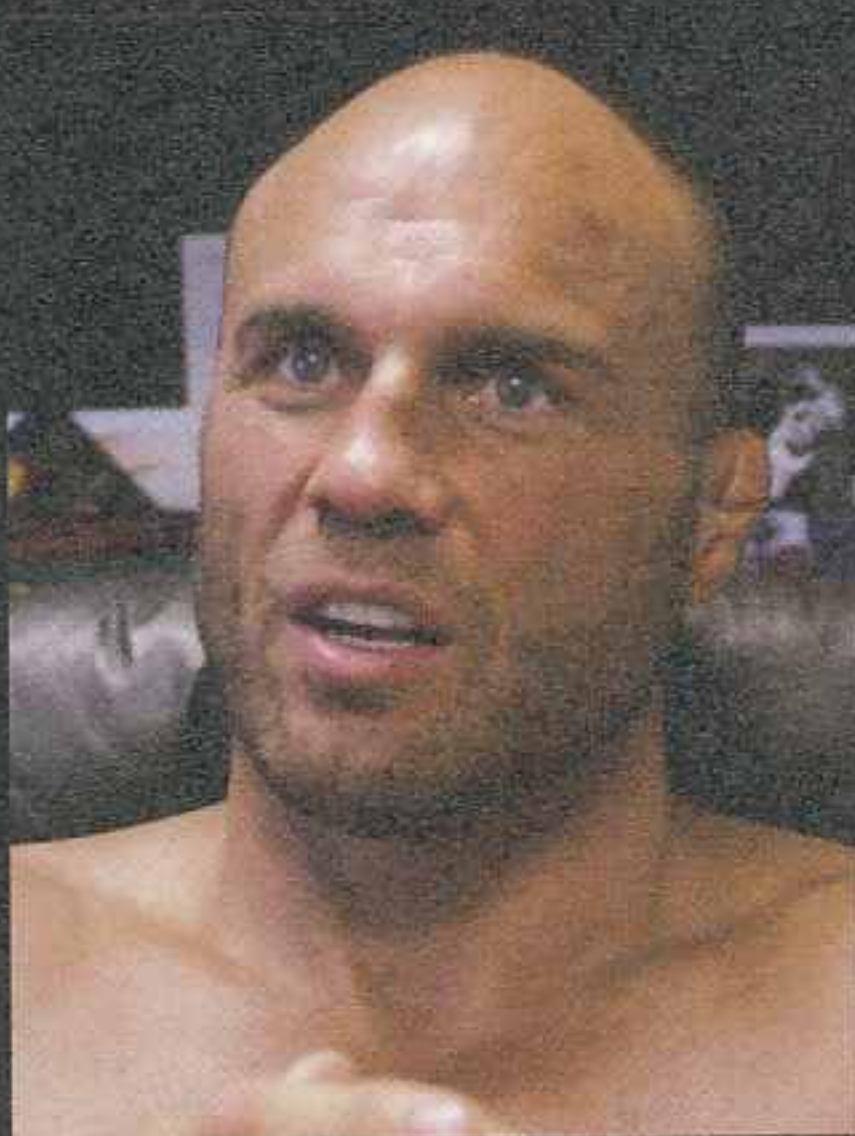
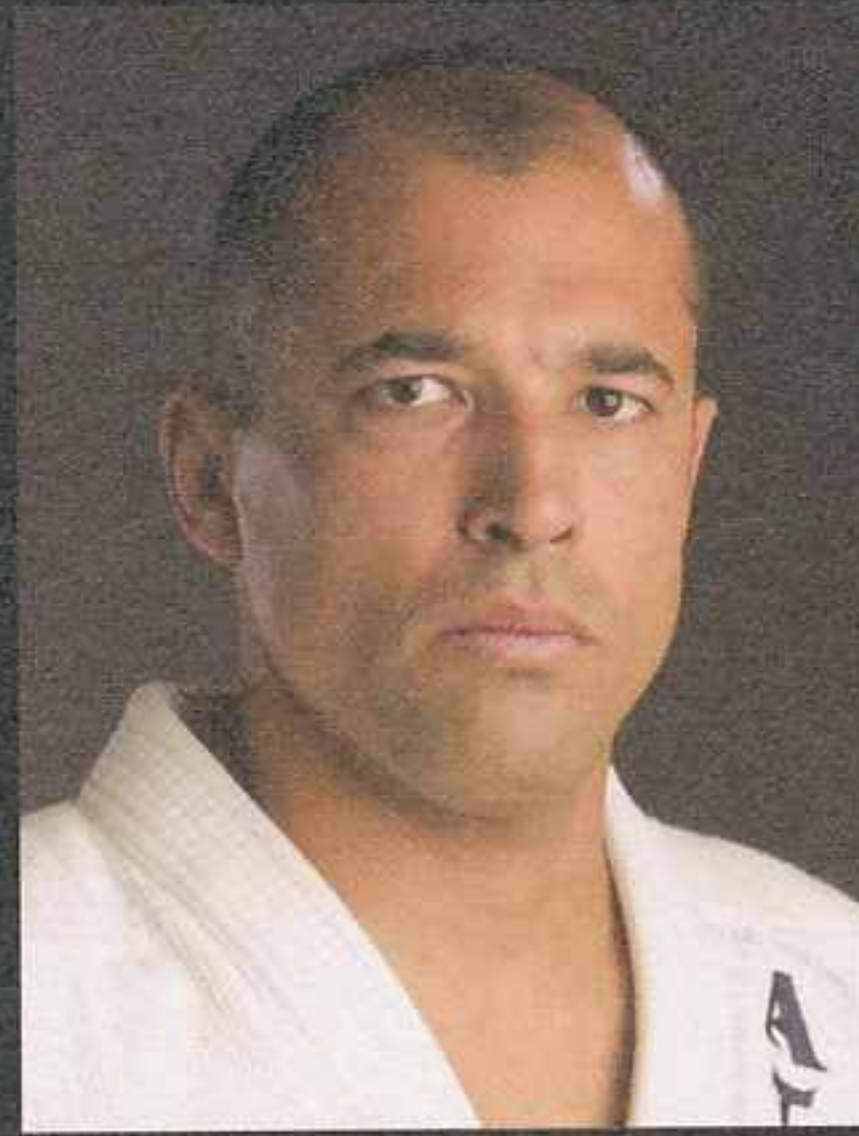
——猪木さんが言うには、『ジャングルファイト』で負けた選手はピラニアのエサにするつもりみたいですから、ぜひとも頑張ってください！

リョート　ピラニアに食べられないように、もっともっとトレーニングしなきゃね（笑）。

【03年8月11日／猪木事務所にて収録】

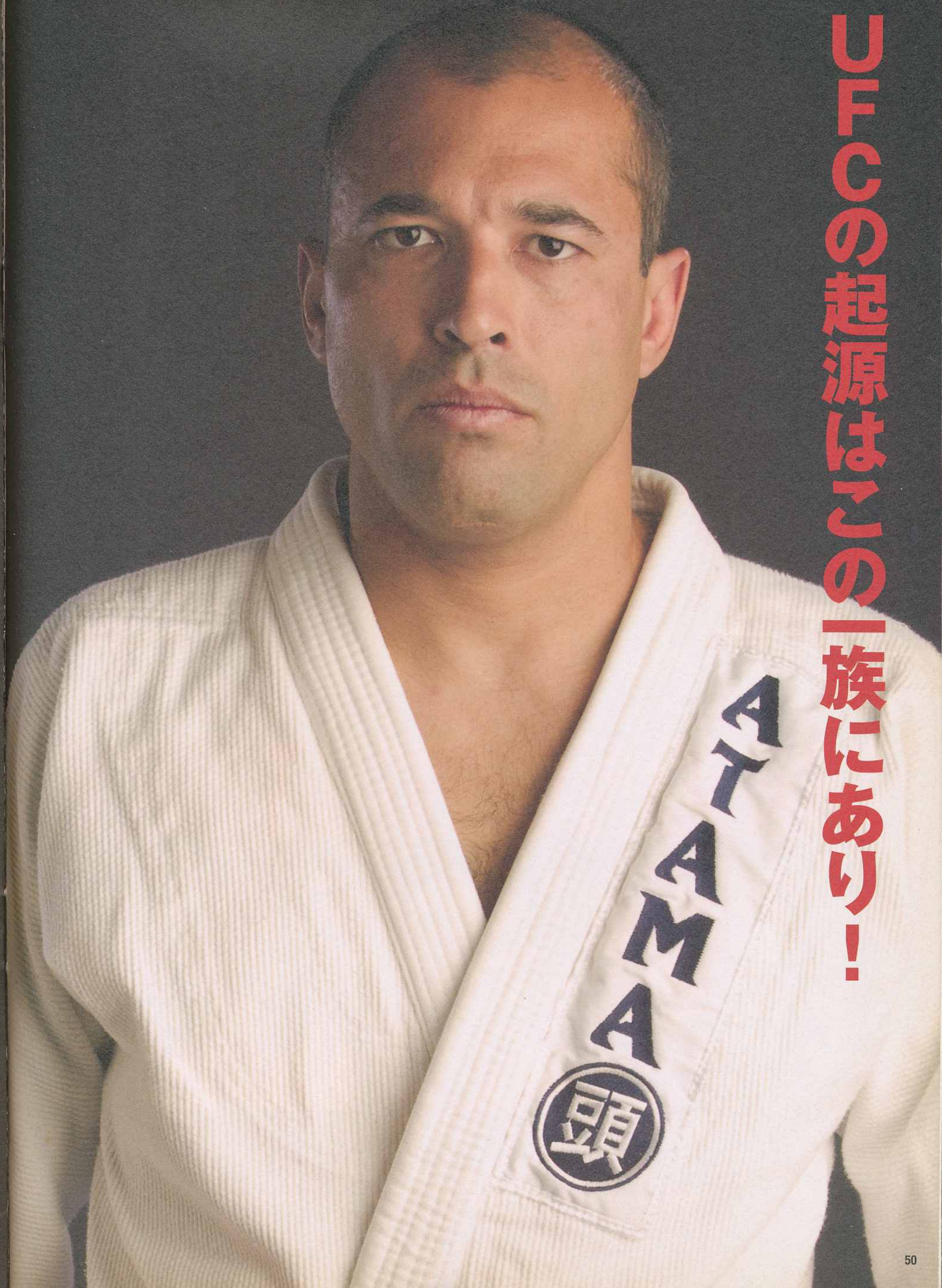
100の大会でオクタゴンには何が刻まれたのか――

UFC

MAKING HISTORY

ダン・ヘンダーソン　ランディ・クートゥアー　ホイス・グレイシー

さる7月11日のラスベガス大会で、ついに100回目を迎えたUFC。
この記念すべき大会を機に、UFCと縁の深い3人のレジェンドファイターに
オクタゴンでの思い出を語ってもらった。この3人が金網の中で見てきた風景とは?

写真協力／ZUFFA, LLC

UFCの起源はこの一族にあり！

ATAMA
頭

―ＵＦＣが１００回を迎えたことについての感想を聞かせてください。

ホイス　ＵＦＣが１００回を迎えたということは、自分が年を取ったということだね（笑）。

―まあ、あれから16年ですからね（笑）。

ホイス　ただ、この感慨は自分の特権であり、名誉なことだと思っている。自分のファミリー、グレイシーファミリーがこのＵＦＣを築き上げたんだ。もし、私の父（エリオ・グレイシー）がブラジルで、今日のＭＭＡの基盤となることを始めなかったら、いまのＵＦＣは存在しなかっただろうね。

―そもそも第1回ＵＦＣで、なぜあなたが大勢いるグレイシーファミリーの代表に選ばれたんですか？

ホイス　体重、体格、年齢、そしてタイミング的にも、当時のファミリーの中では私がベストだったんだ。ヒクソンやホイラーでも、私と同じことができたと思うけど、ホイラーは体重が軽すぎたし、ヒクソンはタイミングが合わなかった。だから私が一族を代表することになったんだ。

―年齢が若く、身体が小さすぎず大きすぎないあなたが、グレイシー柔術の強さをアピールするのにちょうどよかった、と。

ホイス　そうだね。グレイシーファミリーを代表してアルティメット・ファイティングという大会に出場することは、自分にとってとても名誉なことだった。また、あの大会に私が代表して出場することができたことで、その後の人生がまったく違うものにもなったからね。そういった幸運に感謝しているよ。

―あなたがもしＵＦＣで負けていたら、柔術はもちろん、ＭＭＡもこれほど普及することがなかったでしょうね。

「私の父が作った グレイシー柔術がなければ UFCは存在しなかっただろう」

ホイス・グレイシー

Royce Gracie

UFCの起源を作ったファイターといえば、このホイス・グレイシーをおいてほかにはいない。当初はこの男のために旗揚げされたというイメージがあるほど、UFCにとってははずせない"主役"であったホイスだが、当時のUFCをどう思っていたのか。グレイシーという名の幻想を背負うその魂の声を聞いた。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　写真協力／ZUFFA, LLC

ホイス　もちろん、歴史そのものがまったく違ったものになっていただろうね。私は柔術というファミリーで受け継がれた技術で、バイオレンスと思われていたバーリ・トゥードがスポーツになりうることを証明したんだ。父が作ったこの柔術は偉大なる発明と言っていいだろうね。

―ホントにそうですね。〝ケンカ〟同然のルールで行なわれた大会で、ホントにケンカ自慢みたいなファイターが優勝していたら、単なる野蛮な大会として、すぐに消えていたと思います。

ホイス　そうだろうね。このＭＭＡというスポーツが生まれたこと、そして柔術の素晴らしさが世界に広まるきっかけになったという意味で、初期のアルティメット・ファイティングはとても意義深いものだったよ。

―一族の命運を背負ってＵＦＣに出場するプレッシャーはいかほどのものだったのでしょうか？

ホイス　いや、プレッシャーなんて感じなかったよ。

―そうなんですか⁉

ホイス　一族を代表できるということは誇りであり、なにより「自分に与えられた特権なんだ」と受け取っていたからね。私はグレイシー柔術を信じていたし、負けることなんて考えなかった。私がファミリーとして、グレイシー柔術の素晴らしさをアピールできるなんて、嬉しさでいっぱいだったよ。

―でも、ノールール、ベアナックル（素手）で闘うなんて、当時は「死」すら覚悟するものだったと思いますけど。

ホイス　ほかの出場選手にとってはそうかもしれない。でも、私とほかの選手の決

定的な違いは柔術を知っていることだった。柔術さえ知っていれば、自分の身体を守ることができる。あの大会で、私だけが柔術という最大の武器と最大の防具を身につけていたんだよ。

――なるほど。そこが、いまのあらゆる選手が柔術を身につけているUFCと、昔の違いなんでしょうね。

ホイス　当初のUFCは"スタイルvsスタイル"の闘いだったんだ。そして、アルティメット・ファイティングという究極の戦場において、柔術こそが最も優れた格闘技であり、スタイルであることを私が証明したんだ。だからこそ、あれ以来、すべてのMMAファイターが柔術を学ぶようになった。そして、みんなが柔術を学んだことで、"スタイルvsスタイル"だったUFCが、現在の"アスリートvsアスリート"に

旗揚げ当初はまさに"決闘"という雰囲気を醸し出し大注目を集めていたUFC。その主役であったホイスは、日本でも抜群の知名度を誇っていたケン・シャムロック、そして市原海樹を破り、まさに日本マット界にとっては"恐怖"の対象となった。

Royce Gracie

UFCでの一番の思い出? やはり一日で4試合もした一回目のUFCだよ

なったんだよ。

――ブラジルで行なわれていたバーリ・トゥードが、いまの"アスリートvsアスリート"というスポーツになったことについては、ホイスさんはどう思っていますか?

ホイス　確かにバーリ・トゥードといまのMMAはいろんな面で違ってきている。決定的な違いは、さっきも言ったような、スタイルvsスタイル、流派vs流派の"決闘"ではなくなったことだ。ただ、そのことによってプロフェッショナルが生まれ、多くの人がこの新しいスポーツで生活できるようになったことは、とても喜ばしいことだよ。私自身もお金持ちになったしね(笑)。

――あなたがUFCで一番思い出に残っていることはなんですか?

ホイス　やはり、初めてUFCに出場したあの日だよ。一晩で4試合もしたんだからね(笑)。

――究極の闘いを一晩で4試合ですからね。いま考えても凄まじいことですよ。

ホイス　とにかく人生で最も厳しく、最も充実した一日だったことは間違いない。

――では、その4試合も含めて、一番印象に残っている試合はなんですか?

ホイス　最初のUFCはもちろんだけど、そのほかすべての試合が印象に残っている。なぜなら、私にとって一戦一戦すべてがファミリーを背負った闘いだったからね。対戦相手としては、ケン・シャムロックやサクラバはもちろん、キモやアケボノとの試合も、思い出として残っているよ。

――今後のUFCはどう発展してほしいですか?

ホイス　いまここにクリスタルボールがあれば占いにかけるけど、持っていないの

ホイス・グレイシー戦績
20戦14勝3敗3分

- ○ vs 桜庭和志 (3R終了 判定3-0) 07.6.2『Dynamite!! USA』
- × vs マット・ヒューズ (1R 4分39秒 TKO) 06.5.27『UFC60』
- △ vs 所英男 (3R終了 判定なし) 05.12.31『Dynamite!!』
- ○ vs 曙 (1R 2分13秒 リストロック) 04.12.31『Dynamite!!』
- △ vs 吉田秀彦 (2R終了 判定なし) 03.12.31『PRIDE男祭り』
- × vs 桜庭和志 (15分6R終了時 TKO) 00.5.1『PRIDE GP 2000 決勝』
- ○ vs 高田延彦 (15分1R終了 判定3-0) 00.1.30『PRIDE GP 2000 開幕戦』
- △ vs ケン・シャムロック (36分1R終了 ドロー) 95.4.7『UFC5』
- ○ vs ダン・スバーン (15分39秒 三角絞め) 94.12.16『UFC4』
- ○ vs キース・ハックニー (5分34秒 アームロック) 94.12.16『UFC4』
- ○ vs ロン・ヴァン・クリフ (3分49秒 裸絞め) 94.12.16『UFC4』
- × vs ハロルド・ハワード (1R開始時 棄権) 94.9.9『UFC3』
- ○ vs キモ (4分40秒 アームロック) 94.9.9『UFC3』
- ○ vs パトリック・スミス (1分17秒 TKO) 94.3.11『UFC2』
- ○ vs レムコ・パドゥール (1分13秒 裸絞め) 94.3.11『UFC2』
- ○ vs ジェイソン・デルーシア (1分07秒 腕ひしぎ十字固め) 94.3.11『UFC2』
- ○ vs 市原海樹 (5分08秒 片羽絞め) 94.3.11『UFC2』
- ○ vs ジェラルド・ゴルドー (1分40秒 裸絞め) 93.11.12『UFC1』
- ○ vs ケン・シャムロック (0分57秒 裸絞め) 93.11.12『UFC1』
- ○ vs アート・ジマーソン (2分11秒 試合放棄) 93.11.12『UFC1』

で想像がつかないよ（笑）。なにより、UFCがスタートしたあの日、この大会が100回まで続くなんて、誰も想像できなかったんだからね。

——あなたが再びオクタゴンに上がることはありますか？

ホイス　どうだろう？　これもクリスタルボールがないから、未来のことはわからないよ（笑）。

——今後、あなたは第2のホイス・グレイシーを育てたい気持ちはありますか？

ホイス　若い選手を育てるのは好きだけど、第2のホイス・グレイシーを育てるなんて、不可能に近いよ。UFCがスタートした当時、世界中の格闘家にとって、私は宇宙人みたいなものだった。私の使う柔術が、どんなものなのかまったく知らなかったわけだからね。あんなセンセーショナルな格闘家を育てるというのは、並大抵のことではないし、このスポーツではもう現われないんじゃないかな。

——そうかもしれませんね。以前、あなたは「グレイシー柔術のためだったら死ねる」ともいってましたが。

ホイス　それはいまでも変わらないよ。グレイシー柔術は、我々ファミリー全員にとって〝命〟なんだ。それに比べたら、私一人の存在なんて小さなものさ。そういう気持ちは、ファミリーみんなが持っていることだよ。

——『UFC1』が『UFC100』となりました。最後に日本のファンへ一言お願いします。

ホイス　エニシング・ポッシブル。一期一会。その言葉を贈りたいね。

【09年7月10日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・リゾート&カジノにて収録】

約11年ぶりにオクタゴンに上がったホイスは、当時UFCウェルター級王者であったマット・ヒューズと対戦。このときのPPV件数がとてつもない数字となり、UFCが"帝国化"する一つの分岐点となった。

ROYCE GRACIE■1966年12月12日、ブラジル・リオデジャネイロ州出身。UFC第1回、第2回、第4回で優勝し、グレイシー幻想を増幅させた男。00年にはPRIDE GPで桜庭和志と対戦し90分間の死闘を展開。06年5月の『UFC60』では約11年ぶりにUFCに参戦し、UFC世界ウェルター級王者マット・ヒューズと対戦した。07年には因縁の桜庭和志と再戦し、勝利。183センチ、80キロ。

interview

ヘナー・グレイシー

UFCが100回記念大会を迎えたのを機に、ぜひ話を聞いてみたい人が一人いた。第1回UFC設立者の一人、ホリオン・グレイシーだ。

エリオ・グレイシーの長男で、ヒクソン、ホイスの実兄であるホリオンは、グレイシー柔術の強さをアピールするために、93年11月に第1回UFCをプロデュース。目論見どおり、グレイシー柔術を爆発的に普及させるきっかけを作ったが、運営方針の違いから当時の主催会社SEGと対立し、『UFC5』を最後に、プロデュースから手を引いている。

現在はロサンゼルスにグレイシー・ミュージアムを併設したグレイシー柔術アカデミーを設立し、その運営に当たっているホリオン。取材に訪れた7月中旬は、リオデジャネイロに出かけており会うことはできなかったが、ホリオンに代わり、彼の次男であるヘナー・グレイシーがインタビューに答えてくれた。

——今回はUFCが100回大会を迎えたのを機に、いま一度、ホリオンさんを取り上げたくて取材に訪れたんですよ。

ヘナー　UFCは父ホリオンが作ったものだからね。ホリオンは1978年にアメリカに渡ってきたんだけど、その当時から彼の夢は『グレイシー柔術を世界の人々に紹介すること』だった。そのためにUFCを設立したんだ。

——やはりグレイシー柔術を広めるために始まったものだったんですね。

ヘナー　それまでも、アメリカには100以上のマーシャルアーツの技術というのは紹介されていたが、中にはあまり役に立たないものも含まれていた。その中でグレイシー柔術のシステムは唯一小さい身体でも大きな身体の相手に有効なてテクニックであった。それを実際に証明するために、UFCを設立するに至ったんだ。そのためにホイス・グレイシーが柔術の代表として選ばれ、ほかの格闘家たちと闘い、その素晴らしさを証明したんだよ。

——第1回のUFCはあなたもご覧になっているんですか?

ヘナー　いや、93年11月12日、記念に残る『UFC1』が行なわれたその日、私はまだ10歳だったので、リングサイドに行くことは許されず、家のテレビで観戦したよ。その後もホイスが勝ち続けたことで、マーシャルアーツ界にとって大革命が起こったよね。

——当初のUFC旋風は、グレイシー旋風でした。

ヘナー　ファミリーは皆、そうなることを信じていたけどね。自分の父親であるホリオンがアメリカに来たとき、周りの誰もがグレイシー柔術の素晴らしさを信じずに、挑戦してくる者もたくさんいたんだけど、みんなチョークで落としてしまったんだ。

——当初はそういった他流試合や道場破りによって、強さを証明していたわけですよね。

ヘナー　柔術は最も有効なテクニックで、今日現在はすべての格闘家は柔術を学ばないといけないという状況にまでなってるけど、これがホリオンが目的としたところなんだ。世界に対して「最も有効なテクニックである」ことを証明することをね。

——ホリオンさんは、これだけ大きくなった現在のUFCをどう思っているのでしょうか?

ヘナー　設立者としてこれだけUFCが大きくなったことをとても誇りに思ってる。ただ、現在のUFCは多くのファンが楽しむイベントにはなったけれど、彼が設立した当初と現在の目的は異なったものとなっているんだ。

——当初はどんな目的だったんですか?

ヘナー　設立した当初のコンセプトは「どのマーシャルアーツが一番優れているか?」を決める、異種格闘技戦だった。でも、いまはキックボクサーやレスラーもみんな柔術がなければ勝てないことを理解していて、それによって「どのマーシャルアーツが強いか」ではなく「誰が一番素晴らしい選手か?」ということになってきている。当然ながら柔術家同士の闘いもあるしね。昔は流派の名誉を懸けた「決闘」的な要素があったが、いまは「スポーツ」であり「娯楽」になってきているね。

——今後、グレイシー一族からUFCに参戦する選手が再び現われる可能性はありますか?

ヘナー　もちろんだよ。それだけファミリーは大きいし、その中でUFCやほかのMMAイベントに参戦したがっている選手はたくさんいるよ。現に私の弟ハレックは、日本のDREAMに参戦しているしね。ただし、昔と異なるのは「グレイシー柔術を代表して」ということではなく、あくまで個人レベルで自分の力を試すという意味合いになってきているんだ。

——では最後に、ここ「グレイシー・ミュージアム」は、ロサンゼルス国際空港から車で15分ほどと、とても便利な場所にありますが、日本のファンが訪れても歓迎してくれるんですか?

ヘナー　もちろん。このミュージアムは誰にでもオープンドアで歓迎するし、柔術の故郷である日本のファンが来てくれることは光栄だよ。もし来てくれたら、私をはじめグレイシーファミリーの誰かが時間があるかぎり、ミュージアムの解説をしてあげられるので、ぜひ来てほしいね。

【09年7月8日／米国カリフォルニア州ロングビーチ、グレイシー・ミュージアムにて収録】

8・29『UFC102』でノゲイラ戦決定！

——8・29『UFC102』でアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ戦が決定しましたが、体調はいかがですか？

クートゥアー　ちょうど一週間前にキャンプをスタートしたところで、非常にいいコンディションでトレーニングできているよ。ノゲイラは耐久力と破壊力を兼ね備えたアスリートだからね、いま自分の持っているテクニックに磨きをかけて、試合に挑むつもりだよ。

——今回の一戦は、キャリアの長いファンにとっては、たまらないドリームマッチですよね。

クートゥアー　そうだろうね。私がUFCのチャンピオンベルトを巻いていたとき、ノゲイラはPRIDEのチャンピオンだった。この一戦は当時のファンが待ち望んでいたものだったからね。それがいま実現できるようになったんだよ。

——ノゲイラという存在を意識して見るようになったのは、いつ頃からですか？

クートゥアー　99年に日本のリングスで行なわれたKOKトーナメントで、ノゲイラはダン・ヘンダーソンと試合をしているんだけど、そのとき私はダンのセコンドだったんだ。そのときからだね。彼はその当時から素晴らしい動きを見せていて、翌年の第2回トーナメントでは見事に優勝をはたしたからね。

——第2回のKOKはランディさんも出場していますよね？

クートゥアー　そう。ノゲイラはファイナルまで進んだけど、私は準決勝でヴァレンタイン・オーフレイム敗れてしまい、そのときは対戦が実現しなかったんだ。

——となると、今回は10年越しの闘いとなるわけですね。

「12年前と違って、UFCはもう“野蛮な見世物”じゃなくみんなの愛するスポーツなんだ」

ランディ・クートゥアー
Randy Couture

UFCの歴史に鉄人あり! UFCとともに成長を遂げ、今年46歳を迎えるいまもなおヘビー級のトップファイターである鉄人ランディ・クートゥアー。97年からUFCを主戦場に闘っているランディは、UFC、そしてMMAの発展をどう見てきたのか。そして『UFC102』で対戦が決定したノゲイラについても聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　写真協力／ZUFFA, LLC

クートゥアー　そう言えるかもしれないね（笑）。KOKのあとも、彼がPRIDEで活躍している姿をビデオ等で観てきたけど、やはり偉大なコンペティターだと思うよ。

——ノゲイラとの対戦は、ランディさん自身にとっても意味のある試合ですか？

クートゥアー　もちろんだよ。彼と試合ができることを楽しみにしている。素晴らしい試合になるだろうからね。

——ノゲイラと闘ううえで、注意しないといけない点はなんですか？

クートゥアー　いろんな局面で危険な相手ではあるけど、とくにグラウンドゲーム。彼は相手をコントロールしながら、どんな体勢からでもサブミッションを狙ってくるからね。

——スタンドアップに関してはどうですか？

クートゥアー　トップレベルではあるけど、彼の得意とするところではないよね。でも、うまくスタンドのテクニックを使い、自分の得意なポジションにもっていく能力があるので、そこを注意しなくてはならない。

——最近のノゲイラ選手の試合を観て、どう思いますか？

クートゥアー　彼はUFCに来て3試合を消化しているけど、ティム・シルビアを素晴らしいサブミッションで仕留めた以外は、あまり印象づけるような試合ができていないね。最初のヒース（・ヒーリング）との試合は、勝つには勝ったけど、彼本来の力が出せているとは言いがたい試合だった。ヒースのハイキックでダウンしたとき、すべって逃げられなかったら、展開は変わっていたよ。そしてフランク・ミア

自分自身、12年間も金網の中で闘い続けるとは思ってもみなかったよ

との試合では、まったくいい動きができていなかった。背中のケガのせいもあったらしいけどね。周りのみんなは「ノゲイラは試合をしすぎているから、ダメージが蓄積しているのでは」と言うけど、自分としてはそういったことは考えてない。とにかくベストのノゲイラと闘う準備をしなくちゃいけないんだ。

――ノゲイラはアゴが弱くなったように感じるのですが、どうでしょうか？

クートゥアー 確かに、昔はミルコやヒョードルのベストショットを受けても倒れなかった彼が、ヒースやミアのようなハードパンチャーでもない選手にダウンを奪われたことは事実だよね。それは興味深い質問だけど、私に聞く質問じゃないな。ノゲイラ本人に聞いたほうがいい。

――ノゲイラ戦は、やはりスタンドとテイクダウンの攻防がカギになると思いますか？

クートゥアー その二つは自分が優位な面であり、自信があるところだからね。とくにスタンドアップはパワーもついてきたからね。実際、ティム・シルビア、ガブリエル・ゴンザガを倒しているし、レスナーにもグッドショットを打ち込んでいるからね。自信もあるし、スタンドはリラックスして闘うことができる。またクリンチなどのレスリングテクニックは試合をコントロールするのに非常に重要で、グラウンドになったらあえて攻めずに、そのポジションを回避する必要も出てくるだろう。私はグラウンドゲームもそれなりに自信があるので、怖がる

2000年リングスKOKトーナメントに参戦したランディは、ジェレミー・ホーン、柳澤隆志を破り準々決勝へ。そこでヴァレンタイン・オーフレイムに惜しくも敗れるが、もし勝ち進んでいれば、今大会で優勝したノゲイラとの対戦がこの日実現していたのだ！

Randy Couture

必要はないんだけど、彼はマスターだからね。注意深さが絶対に必要だということなんだ。

――このノゲイラ戦は、次のヘビー級タイトル挑戦者を決める以上の意味合いがあると思いますか？

クートゥアー ファンがそう感じてくれれば嬉しいけど、自分としてはとくにないよ。その質問はダナに聞くべきじゃないのかな。私はシンプルにこの試合にフォーカスして、勝つことを考えているだけだよ。

――今週末のレスナーvsミアは、どうなると思いますか？（このインタビューは『UFC100』の前に収録）。

クートゥアー ブロック・レスナーが勝つと思うよ。予想は難しいけど、2ラウンドか3ラウンドにTKOで勝つんじゃないかな。レスナーは巨大で、強靭な身体から繰り出すパウンドは凄いパワーだし、リーチも長いし、素晴らしいアスリートだからね。

――レスナーのパンチはほかのファイターと違いはありますか？

クートゥアー あの長いリーチから繰り出すパワフルなパンチだけど、とくに違いはないよ。前回、彼と闘ったときはパンチが右のうしろの部分にヒットしたので、効いてしまったんだ。

――やはり、レスナーとの再戦を希望しますか？

クートゥアー 私は常に次の試合に集中しているんだ。だから、その先の話はノーコメントだね。

――わかりました。では、今回『UFC100』という記念大会を迎えましたが、感慨はありますか？

クートゥアー そりゃあ、もちろんあるよ。私のUFCデビュー戦はもう12年も前になる『UFC13』だったからね。あの頃から考えると、UFCがここまで大きくなったこと自体驚くべきことだし、自分自身、12年間も金網の中で闘い続けるとは思ってもみなかったよ。UFCが100回を迎えたというのは、スポーツにおいて非情にユニークなマイルストーンだよね。長い時間をかけてここまできたわけだから。

――クートゥアー選手自身にとって、この12年間というのはいかがでしたか？

クートゥアー 私はこのスポーツをとても楽しみながらやってきたし、多くのクールな場所に行き、クールな人たちと出会えたことに満足しているし、また感謝もしている。

――ボクはクートゥアー選手の日本での最初の試合を観戦しているのですが、そのときはレスリングだけの選手だったのが、ここまでコンプリートな格闘家になっているのは驚きです。

クートゥアー あの試合は私が初めてUFCヘビー級のベルトを腰に巻いた試合だったので、思い出深いよ。あのときは対戦相手がキックボクサーのモーリス・スミスだったこともあり、当時まったくキックボクシングを知らなかった自分は、テイクダウンしてコントロールするしか、闘う術がなかった。いまのUFCヘビー級のレベルとはずいぶん違う試合展開だよね（笑）。

――あとは、クートゥアー選手のコスチュームが、黒のロングタイツというきわめて地味なものだったのが、いまではサーフショーツとファッショナブルになっていますよね（笑）。

クートゥアー でも、いまは何人かのファイターがまたタイツを穿きだして、そういうオールドファッションがよみがえるか

ほかのアスリートと違って、犯罪者のような目でも見られることが多かった

もしれないけど、自分はいまのままだろうね。

――この12年間で一番変わったことはなんだと思いますか？

クートゥアー　何かなあ……。いろんなことが変わったからね。たとえばイベントを開催する町や会場も大きなものとなってるし、いまではウェートイン（公開計量）に来てくれるファンの数は、昔の総観客数より多くなっている。ルールもずいぶんと整備されたしね。また、メディアのカバーレイジも、いまやESPNや『スポーツイラストレーテッド』といった、その分野で一流のメディアがスポーツとして扱ってくれるようになったし、MMA業界全体が大きくなってきている。12年前のメディアは、MMAを野蛮なグラジエーター的な見世物としか見てくれなかったし、我々ファイターのことも悪いヤツらを見るような扱いでしかなかったからね。

――12年前に今日のような状況になることを想像していましたか？

クートゥアー　「自分たちはスペシャルなんだ」って考えていた。これはほかのスポーツアスリートたちと同様で、マーシャルアーツに関する質問をたくさん受けたよ。ただ、自分たちはそれだけじゃなく、ケージの中で試合をしたり、クレイジーな動きを見せたりしたこともあり、犯罪者のような目で見られることが多かった。普通、あそこまで偏見に満ちた見られ方をしたら、そこから抜け出せずに終わってしまうものだけど、運よく我々はここまで成長させることができたんだ。ここまで来るのには、適材適所の選手とスタッフがいて、周りのいろんな人たちを、辛抱強く教育していく必要があったんだ。「我々のスポーツは、野蛮なショーとは違うんだ」ということをね。

――やはりMMAの黎明期は、偏見で見られて大変でしたか？

クートゥアー　大変というより、とても時間がかかることだったね。おもしろいのは、6月に初めてドイツ大会を開催したわけだけど、その際にドイツで受けた質問の多くは、8～9年前に受けたものと同じなんだよ。「クレイジーなヤツらがケージの中で殴り合いをするのはいかがなものか」ってね（笑）。おかげで昔のことを思い出させてくれたよ。こういった新しいスポーツを普及させるためには、多くの段階を踏んで、時間をかけて周りを教育していかないとダメなんだと思う。そしてダナを含めた我々はみんな、このスポーツを愛しているし、その可能性を信じていたから、それができたんだろうね。

――いまではMMAはスポーツとして、ランディさん自身はアスリートとしてリスペクトされていますが、それについてはどう思いますか？

クートゥアー　昔と比べられないほど、そういった素晴らしい扱いをしてもらえることは、本当に嬉しく思うよ。

――黎明期、クレイジーな野蛮人扱いされたときは、自分の感情をどのようにコントロールしていたんですか？

クートゥアー　常に自分は自分でしかないからね。いつも普段同様に周りの人たちに笑みを浮かべながらフレンドリーに接して、このMMAというスポーツはなんなのか、なぜ自分はこのスポーツに取り組み、なぜ自分はこのスポーツを愛しているのか、という思いを伝えていったんだ。そうやっていくうちに、徐々に周りの人たちから理解してもらえるようになったんだよ。

97年12月に横浜アリーナで行なわれた『UFC Japan』では、当時王者だったモーリス・スミスを判定で破り、ランディが第3代UFCヘビー級王座に君臨。この瞬間がランディのUFC鉄人街道の始まりだった。

ランディ・クートゥアー戦績 25試合16勝9敗

× vs ブロック・レスナー（2R 3分07秒 TKO）
08.11.15『UFC91』
○ vs ガブリエル・ゴンザガ（3R 1分37秒 TKO）
07.8.25『UFC74』
○ vs ティム・シルビア（5R終了 判定3-0）
07.3.3『UFC68』
× vs チャック・リデル（2R 1分28秒 KO）
06.2.6『UFC57』
○ vs マイク・ヴァン・アースデイル
（3R 0分52秒 裸絞め）05.08.20『UFC54』
× vs チャック・リデル（1R 2分06秒 TKO）
05.4.16『UFC52』
○ vs ビクトー・ベウフォート（3R終了時 TKO）
04.8.21『UFC49』
× vs ビクトー・ベウフォート（1R 0分48秒 TKO）
04.1.31『UFC46』
○ vs ティト・オーティズ（5R終了 判定3-0）
03.9.26『UFC44』
○ vs チャック・リデル（3R 2分40秒 TKO）
03.6.6『UFC43』
× vs リコ・ロドリゲス（5R 3分04秒 ギブアップ）
02.9.27『UFC39』
× vs ジョシュ・バーネット（2R 4分35秒 TKO）
02.3.22『UFC36』
○ vs ペドロ・ヒーゾ（3R 1分38秒 TKO）01.11.2『UFC34』
○ vs ペドロ・ヒーゾ（5R終了 判定3-0）01.5.4『UFC31』
× vs ヴァレンタイン・オーフレイム
（1R 0分56秒 フロントチョーク）01.2.24
『リングス KING OF KINGS 2000』
○ vs 高阪剛（2R終了 判定3-0）01.2.24
『リングス KING OF KINGS 2000』
○ vs ケビン・ランデルマン（3R 4分13秒 TKO）
00.11.17『UFC28』
○ vs 柳澤龍志（2R終了 判定2-0）00.10.9
『リングス KING OF KINGS 2000』
○ vs ジェレミー・ホーン（延長R終了 判定3-0）
00.10.9『リングス KING OF KINGS 2000』
× vs イリューヒン・ミーシャ
（1R 7分43秒 キムラロック）99.3.20『リングス』
× vs エンセン井上（1R 1分39秒 腕ひしぎ十字固め）
98.10.25『VALE TUDE JAPAN '98』
○ vs モーリス・スミス（21分1R終了 判定）
97.12.21『UFC Japan』
○ vs ビクトー・ベウフォート（1R 8分16秒 TKO）
97.10.17『UFC15』
○ vs スティーブン・グラハム（1R 3分13秒 TKO）
97.5.30『UFC13』
○ vs トニー・ホーム（1R 0分56秒 裸絞め）
97.5.30『UFC13』

43歳にしてティム・シルビアとのUFCヘビー級のタイトルマッチに挑んだランディ。なんとこの試合に判定勝利し、見事にUFC王座を奪還。この偉業はもはや誰もマネできない！

Randy Couture

12年間の中でとくに思い出に残っているのはティム・シルビアとの試合

——なるほど。では、これまでの12年間で最も記憶に残っていることはなんでしょうか？

クートゥアー　たくさんのグレートメモリーが頭をよぎるね。初めてビクトー（・ベウフォート）と試合をしたときは、自分にとって最大の試合だったし、周りの誰しもから「ビクトーには勝てない」と言われていたんだ。その試合に勝ったことが自分をMMAファイターにしてくれたと思っているし、チャック（・リデル）やティト（・オーティズ）との初戦も思い出深いものだよ。その中でもとくに思い出に残っているのは、一昨年のティム・シルビアとの試合だね。

——へえ、ティム・シルビアですか。

クートゥアー　あの巨人と、しばらくケージから遠ざかっていた44歳の男が戻って挑戦した試合だよ（笑）。周りの誰もがあれだけの体格差や年齢を考慮して、頭がイカれたんじゃないかと思われたんだ。でもあの夜、満杯になった客席からの声援は、いまだに耳に響いてくるし、忘れられない素晴らしい夜になったんだ。

——あれこそビッグカムバックと呼ぶにふさわしいものでしたよね。

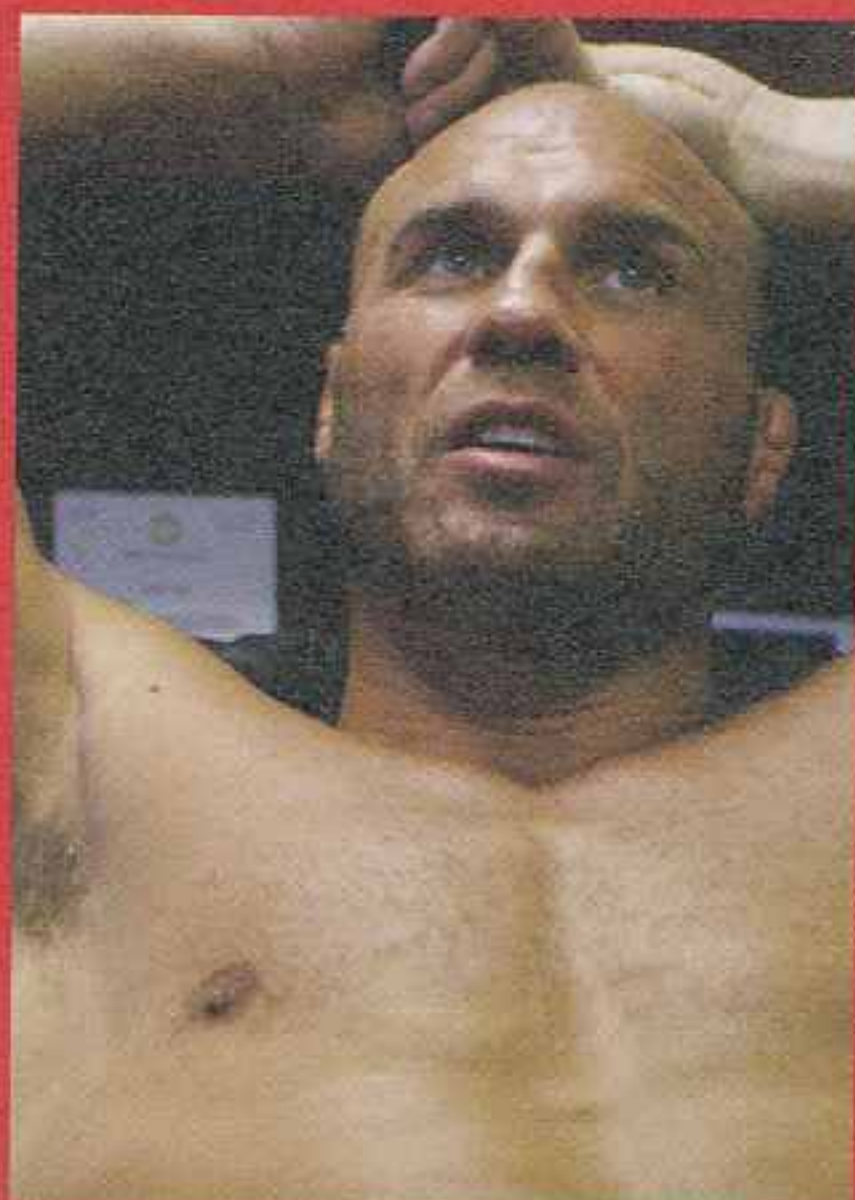
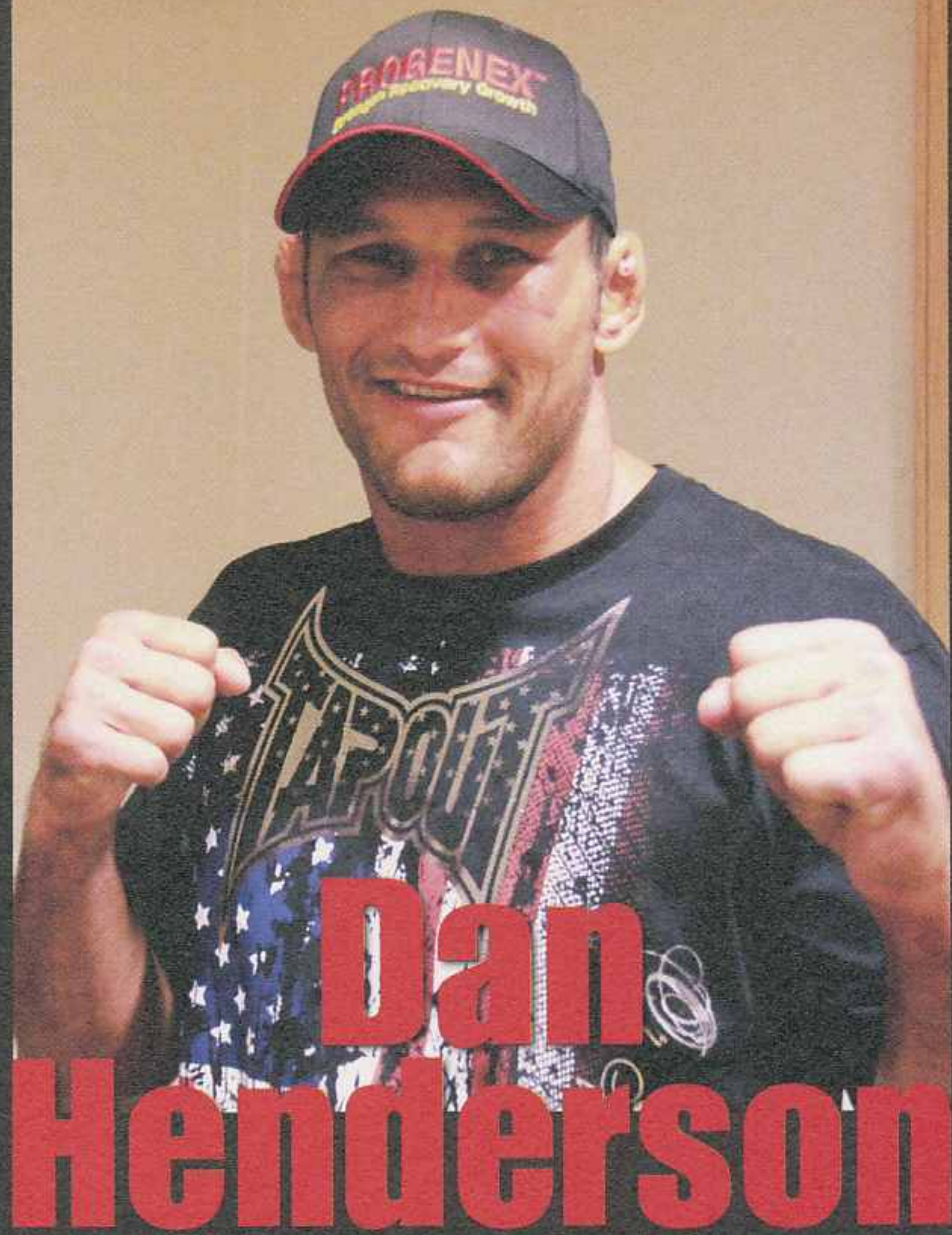
クートゥアー　同時にラーニングステップではあるけど、ビジネスも個人的なことも順調に来ていることが嬉しいよ。

——クートゥアーさんの次のステップはなんですか？

クートゥアー　私は好きなことを楽しみながら、ビジネスも含めてここまで来ている。だからできるかぎり試合は続けていきたいし、これまでどおり楽しみながらできたらと思うよ。

——では最後に、あなたにとってUFCとはなんですか？

クートゥアー　私は過去12年間試合をしてきたわけだけど、同時にUFCを代表する一人であるし、UFCは私の身体の一部にもなっている。大変なこともたくさんあったけど、同時に楽しい思いもしているからね。UFCとは、自分にとってたくさんの意味合いがあり、とても一言では言い表わせないよ。いまはとにかく、ここまでUFC、MMAと育ってこれたことがとても嬉しいし、これからも私はこのスポーツを愛し続けるというだけさ。

【09年7月9日／米国ネバダ州ラスベガス、エクストリーム・クートゥアーにて収録】

RANDY COUTURE■1963年6月22日、米国ワシントン州出身。97年「UFC13」にデビューし、同年「UFC Japan」でモーリス・スミスに勝利し、第3代UFCヘビー級王座に君臨。さらに「UFC44」にはティト・オーティズ戦で第3代ライトヘビー級王者となり、UFCでは2階級通算6度の王座戴冠という前人未到の記録を達成している。8・29「UFC103」でA・ホドリゴ・ノゲイラ戦が決定。188センチ、102キロ。

Dan Henderson

MMAデビューから12年、御年39歳ながら、いまだ世界のトップ戦線を走るダンヘン。UFCの100回記念について聞いてみたが、いまなお全盛期を更新するダンヘンだけに、考えているのは『UFC100』で対戦するマイケル・ビスピンのことだけだった!?

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦

――ＵＦＣが１００回の記念大会を迎えましたが、何か感慨はありますか？

ダンヘン　デビュー戦からこれまでにいろんな思い出があるけど、いまはマイケル（・ビスピン）との試合だけにフォーカスしているんで、センチメンタルな思いに浸るヒマなんてないんだよ（7・11『ＵＦＣ１００』大会前日に収録）。ただ今後、ＵＦＣがどこまで続くのか楽しみだね。常にエキサイティングな試合を見せたいし、自分もそのファイトを楽しんでいるんだ。今回は『ＵＦＣ１００』という記念大会なので、通常より大きな舞台になるかもしれないけど、自分にとってはいつもどおりのファイトをするだけだよ。

――それにしても、あなたはキャリアが長く、いまやランディ・クートゥアーとともに、ミスターＭＭＡのイメージがありますね。

ダンヘン　ありがとう（ニッコリ）。俺もランディもＭＭＡデビューは97年。もう12年も前だからね。じつは、俺はチャック（・リデル）とＵＦＣデビューの日が同じなんだよ。

――あ、そうでしたか。

ダンヘン　俺のＵＦＣデビューは、４人参加のミドル級ワンナイト・トーナメントで、たしかアラン・ゴエスとカーロス・ニュートンを下して優勝したんだけど、チャックはそのリザーバーとして出場していて、それが彼のＵＦＣデビュー戦のはずだ。まあ、当時闘っていたファイターが、いまや数えるほどしかいなくなってしまったことで、いかに自分が年を取ったかって痛感させられるよ（笑）。

――しかし、本当に自分で年齢を感じていますか？

ダンヘン　いいや、自分ではまったく感じてないよ。

――そうですよね。動きもまったく衰えていないし、いまが全盛期なんじゃないか、と思うほどです。

ダンヘン　体力自体は若い頃よりは落ちているかもしれないけど、そのぶん、頭を使うようになったからね。このスポーツでの闘い方がよくわかってきたし、いまだにテクニックは毎年向上していると思う。そういった意味で、いまの自分が一番強いという自信はあるよ。

――これまでで一番印象深い試合はなんですか？

ダンヘン　どうだろうな？　明日のマイケル戦になるんじゃないか？（笑）。いまはとくに試合前なので、昔を振り返ることはしたくないんだ。いまラスベガスには、たくさんファンが来ているから、ファンにどのファイトが一番よかったか聞いたほうがいいと思うよ。今回の『ＵＦＣ１００』は、いままでにないベストカードを揃えているし、メディアに対してもいろいろと働きかけているから、ファンの思い出に残るようなファイトになればと思っているけど、自分自身は普段と同じファイトをするだけなんだ。もちろん、明日の試合が終われば、もう少し昔を思い出してセンチメンタルになるだろうし、『ＵＦＣ１００』という節目がどうだったかを振り返ると思うけどね。とにかくいまは、明日の相手をノックアウトすることしか考えてないんだ。

――では、日本にいる多くのファンに一言お願いします。

ダンヘン　ぜひＵＦＣと俺のファイトをこれからも楽しんでほしい。いつも日本のファンのサポートには感謝しているんだ。これからも俺はベストパフォーマンスを見せるつもりだし、近い将来、またまた日本で試合できることを楽しみにしてる。

――日本のファンもあなたのオクタゴンでのファイトを生で観たがってますよ。

ダンヘン　俺もできたら一年に一度は日本で試合をしたいんだけどね。日本とアメリカのファンは気質がちょっと異なる面があるけど、俺は日本のリングで育ったファイターだから、日本のファンは大好きなんだ。ファイターを尊敬してくれるし、サブミッションや細かい技術をちゃんと評価してくれる。アメリカは自分の母国だし、ファンはうるさいほど会場を盛り上げて、エキサイティングにサポートしてくれるけど、俺は日本のＰＲＩＤＥで感じたあの雰囲気が好きなんだ。とにかく、明日の『ＵＦＣ１００』ではエキサイティングなファイトをするので、これからも応援してほしいね。

【09年7月10日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・リゾート&カジノにて収録】

「俺のMMA人生の中で、いまの自分が一番強いよ」

©Josh Hedges/UFC

リアリティショー『TUF9』のコーチ同士の対決となった7.11『UFC100』のマイケル・ビスピン戦。2ラウンド終盤に強烈な右フックをヒットさせると、殺人的なパウンドで凄まじいKO勝ち。間違いなくいまが全盛期である！

ダナ・ホワイトはまだ世界征服をはたしていない!?

非UFC実力派ファイター名鑑

世界最大のMMAイベントとして、MMA食物連鎖の頂点に立つUFC。高額なファイトマネーをバックに世界中のトップ選手を集めているのはご存知のとおり。しかし、この世界にはそんなUFCに背を向けて名を上げる男たちもいるのだ。もちろん今後、待遇次第でUFCと契約する選手もいるだろう。また、メジャー団体での頂点を目指してオクタゴンに入る選手もいるだろう。しかしここに挙げる選手たちは、いずれもUFC以外の場所でその実力を示すという難題をクリアした強者ばかり。彼らの一挙手一投足が今後の世界のMMAを変えると言っても過言ではないのだ。

文／高橋ターヤン

エメリヤーエンコ・ヒョードル

皇帝。WAMMAヘビー級王者にして、ダナ以外の世界中の誰もが認めるリアル60億分の1の男。ということで結果的にヒョードルの上がるリングが世界最強の男を決めるリングとなっており、ヒョードルの参加するイベントが反UFCの総本山となる。そんな意味でも非UFC系ファイターの中でも、その動向が注視される最重要人物と断言していいだろう。今後もクレイジーロシアンたちとともにダナを歯ぎしりさせてくれるはずだ。ちなみにヒョードルにボコられた少なくない歴代の強敵が悲惨な末路をたどってしまっている点も恐ろしい。

ジョシュ・バーネット

元UFCヘビー級王者にして現キング・オブ・パンクラシスト。UFC王者になったときからアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとの対戦を熱望してダナに疎まれ、いろいろあって王座を剥奪されてしまう。PRIDEに参戦して世界のトップレベルであることを再度証明したのち、大物フリーエージェントとして現在はアフリクションに参戦中。プロレスやパンクラスへの参戦、さらに高額なファイトマネーの折り合いがつかないため、独占契約を望むUFCへの復帰はないとの見方が大勢を占めている。次戦は天王山ヒョードル戦だ。

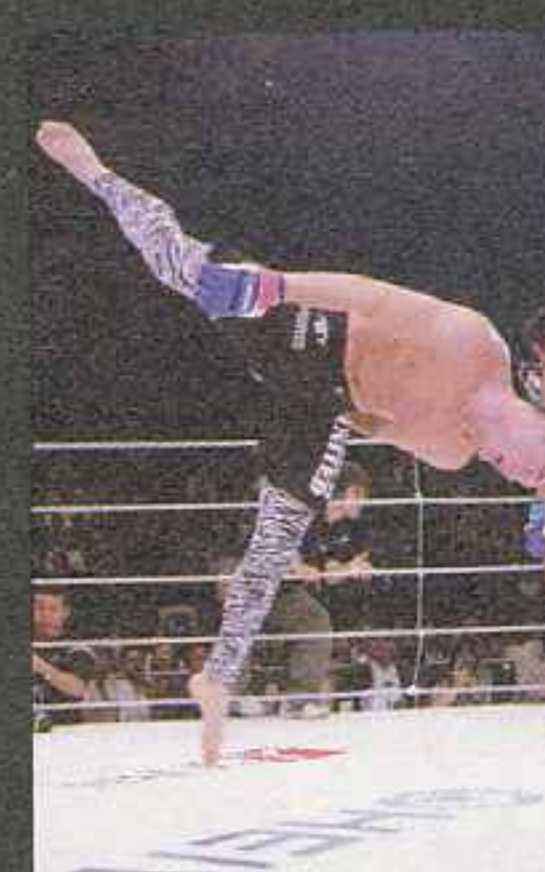
ジェイク・シールズ

UFCが選手をほぼ独占する人類最激戦区ウェルター級にあって、非UFC系ファイターでありながらトップ集団に伍する実力を持つと評価されている数少ないファイターの一人がこのシールズ。エリートXCウェルター級王者として君臨し、エリート崩壊後はダナとの相思相愛が伝えられたためUFC行きは決定かと思われたが、ストライクフォース側の必死の遺留もあって非UFCであり続けることを選択。ストライクフォースのデビュー戦ではエリートXCミドル級王者のロビー・ローラーを瞬殺。階級変更も含めて今後の動向に世界が注目する強豪だ。

ニック・ディアス

総合格闘技界随一の暴れん坊。点滴中の天敵ジョー・リッグスを相手に病院で殴り合いを演じたり、KJヌーンズの父親と本気の乱闘騒ぎを起こすといった武勇伝だけでなく、「大麻大好き!」を公言。評価が最高に高まっていたときの五味隆典を撃破しながら禁止薬物違反で失格になったりと、とにかく話題に事欠かない悪童。ライト級からミドル級まで幅広く試合を行なっているが、同じジムの盟友ジェイク・シールズのミドル級転向を受けて照準をウェルター級に定めたらしい。チャンピオンシップの相手は天敵リッグスだ。

ジェイソン・"メイヘム"・ミラー

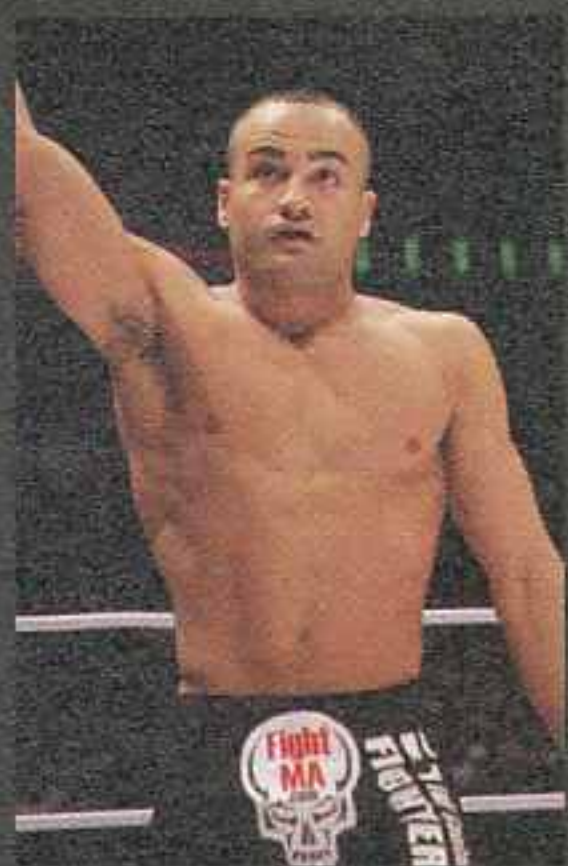
プロレス心を解し、入場から試合後のマイクまで「魅せる」ことに命を懸ける傾奇者。唯一のUFC参戦試合ではのちのウェルター級の絶対王者GSPと渡り合い、評価をおおいに高めたまま自由を求めてUFCを離脱。ハワイのアイコンスポーツという団体での活動を経て、DREAMに参戦した。またMTVのリアリティショー『BULLY BEATDOWN』でホスト役を務めて大ブレイク。日本を主戦場にしているにもかかわらず、アメリカではチャンピオンクラスの知名度を誇る人気者となっている。

青木真也

一度もオクタゴンに足を踏み入れぬまま、欧米のMMAサイトでその実力を世界トップクラスと評価される日本が誇るライト級戦士。打撃とレスリング偏重の現代MMAにおいて、奇天烈な寝技で相手を仕留める青木の試合はまさにワン・アンド・オンリー。UFCに敢然と反旗を翻し、北米至上主義にケンカを売る姿は、多くのアンチUFCファンの拠りどころとなっている（でも本人は北米MMA大好きっ子）。ちなみに昨年末のエディ・アルバレス戦でWAMMAライト級王者となったものの、まだベルトをもらっていないらしい。

五味隆典

PRIDE武士道を牽引するライト級の絶対王者として、世界的に愛されたファイアーボール・キッド。しかしライト級の頂点をきわめたPRIDE末期から燃えつき症候群となっており、煮えきらない闘いが続いたが、今年5月の修斗では現ウェルター級王者の中蔵隆志を撃破。ついにオレたちの五味が帰ってきたのだ。 3度目の海外進出となる今回の舞台はアフリクションに決定。海外ニュースサイトのインタビューで「ダナによろしく言っといて」と語った五味がその先に見据えているのは、もちろん一度完敗したBJペンへのリベンジだろう。

エディ・アルバレス

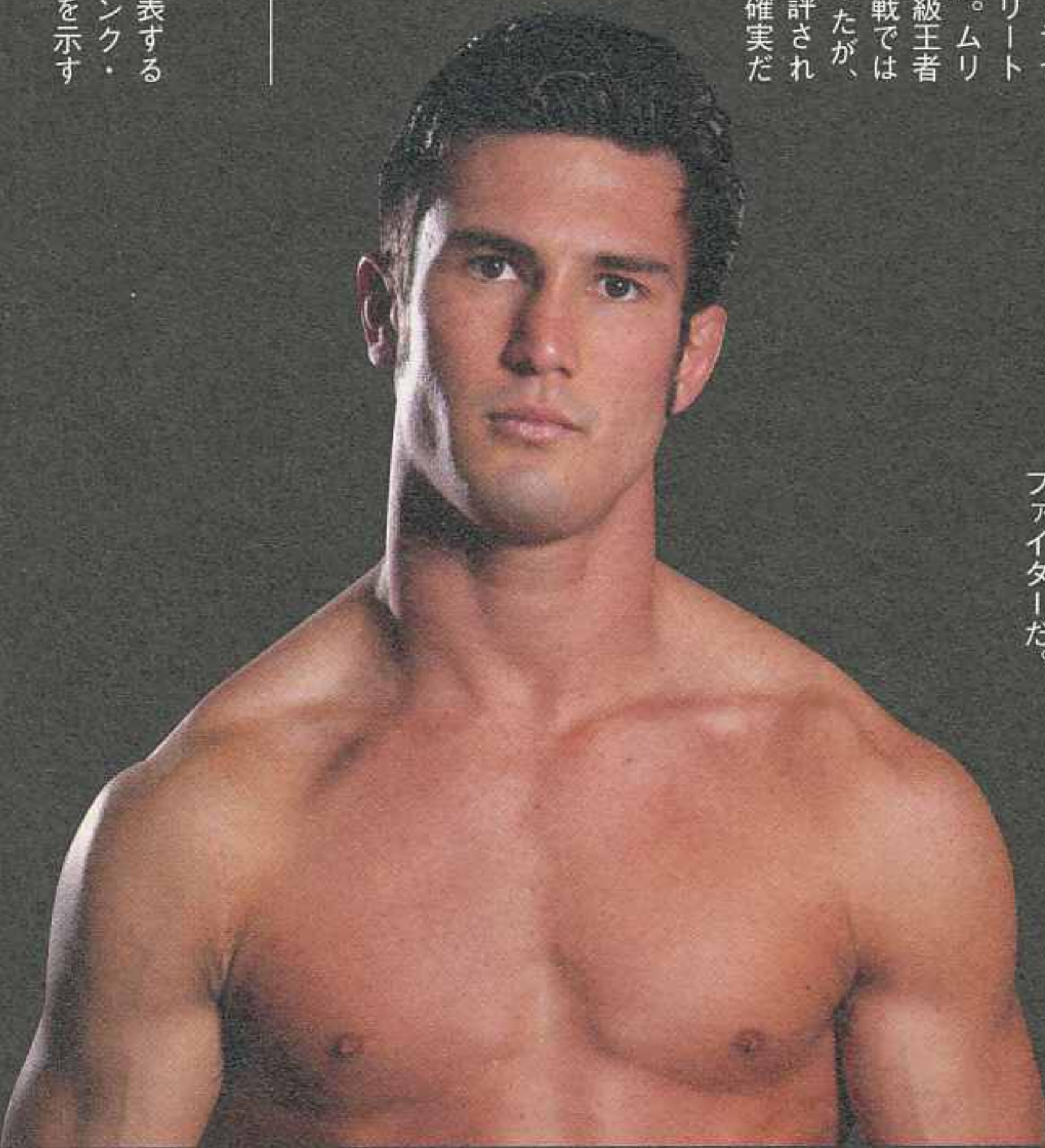
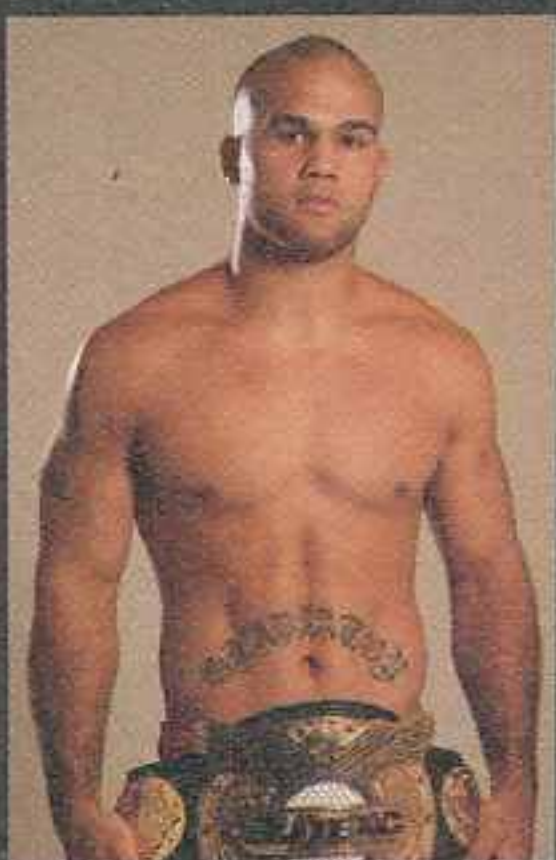
伝説のズンドコ団体ボードッグにあって、唯一ダナが獲得の食指を動かしたのがアルバレス。小さな身体でウェルター級で闘い続け、ボードッグ崩壊後にライト級へ転向。その際にUFCという道もあったがアルバレスが選んだのは日本の新団体DREAMだった。そこではハンセンと年間ベストバウト級の激戦を展開。ほかの試合もアグレッシブにしてファンタスティックとしか言いようのない素晴らしい闘いで、世界中のMMAファンのハートをガッチリつかんだ。今年に入ってからはアメリカの新団体ベラトールFCに参戦。ライト級トーナメントを制して、あらためてその実力を満天下に示している。

ヨアキム・ハンセン

元・修斗ウェルター級王者。日本の各団体を渡り歩いてその実力をいかんなく発揮。しかしPRIDE崩壊後にUFCから提示された待遇はPRIDE時代の半額。ハンセンは「死んでもオクタゴンに入らん」と激怒して、キックボクシングの試合をしながら浪人していた。その後DREAMライト級GPでリザーバーから優勝というウルトラCを見せて完全復権している。現在は長期休養中だが、早く復帰して半額のオファーを出したダナを悔しがらせてほしい。

ロビー・ローラー

5年前までUFCに参戦していたがそこでは結果が伴なわず、ローカル団体を渡り歩く。その後PRIDEのアメリカ初進出興行の第一試合で、キング・オブ・ザ・ケージ王者のジョーイ・ヴィラセニョールを秒殺して実力を再評価される。エリートXC参戦後はミドル級の中心選手として活躍。ムリーロ・ニンジャを降してエリートXCミドル級王者として君臨した。ストライクフォース参戦初戦では一階級下のジェイク・シールズに不覚をとったが、非UFCミドル級の中でもトップクラスと評されるアグレッシブな闘いで復活をはたすのは確実だろう。

ビクトー・ベウフォート

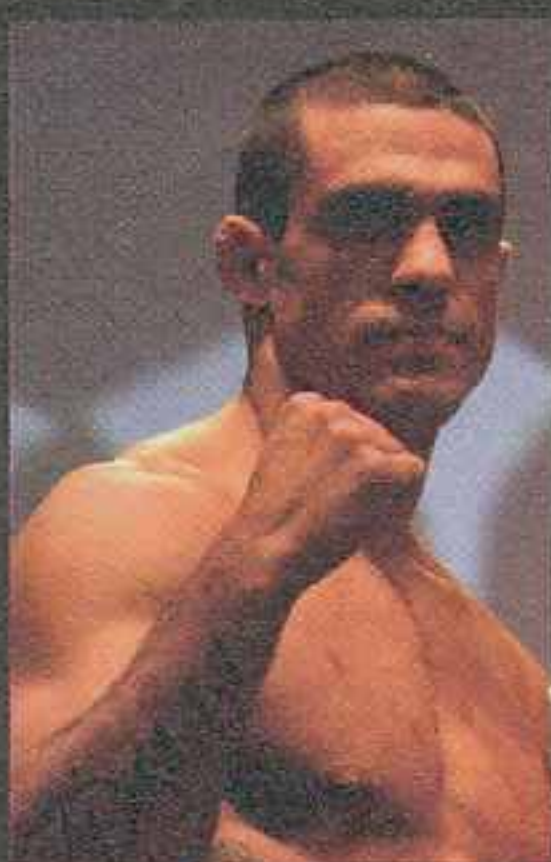
柔術黒帯のプロボクサーというUFCを代表するオールラウンダー。とくに『UFC13』でタンク・アボットを破った試合は、UFCの競技化を示すエポック的な試合と位置づけられているほど。ライトヘビー級でランディ・クートゥアー、ティト・オーティズに連敗した後にUFCを離れ、現在はミドル級に転向。アフリクションで連勝して、その実力が衰えていないことを世界にアピールした。8月のアフリクションでは戦極ミドル級王者のジョルジュ・サンティアゴと対戦予定。この試合でフリーエージェントとなるビクトーに、再びダナの魔手が伸びていると言われ、UFC復帰の可能性も少なくない。

KJヌーンズ

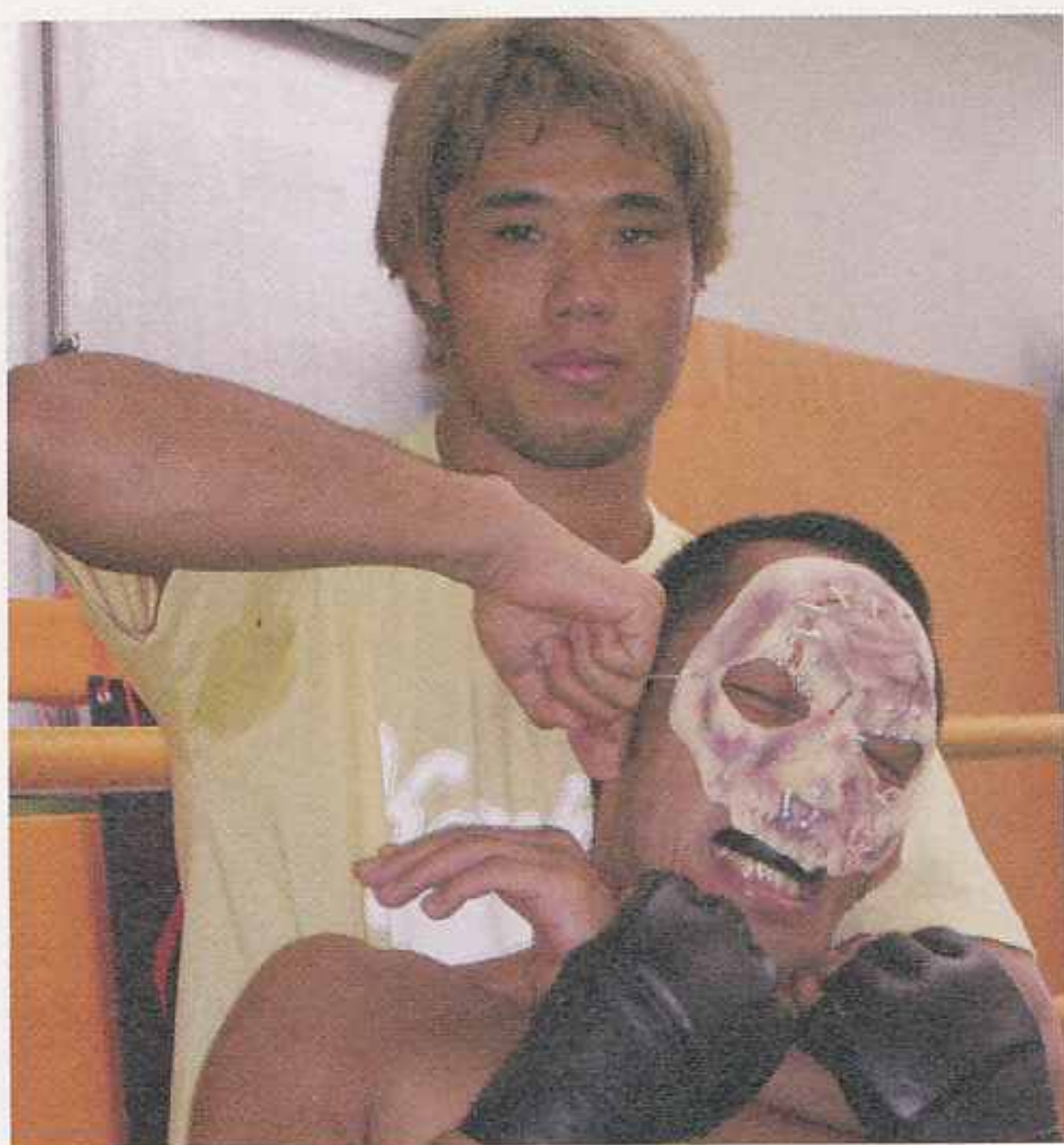
キャリアはわずか9戦。しかもチャールズ〝グレイジーホース〟ベネットにKO負けしていると聞くと、その実力を疑いたくなるが、ニック・ディアス、イーブス・エドワーズという実力者を次々と撃破してエリートXCライト級王者に輝く。その後はイベント上層部と揉めたために試合を組んでもらえずに、チャンピオンのままエリートXCを離脱。本業でもあるボクシングの試合をしていたが、最近満を持してMMAの世界に復帰することを発表している。まだ実力の底を見せていない非UFCファイターだ。

ジョシュ・トムソン

ライト級の実力者。山本KIDとも対戦経験のあるトムソンはUFCに定期参戦していたが、イーブス・エドワーズ戦後に離脱。PRIDE武士道では、日本に着くまで対戦相手がわからないという中、杉江〝アマゾン〟大輔に快勝。その後はストライクフォースを主戦場とし、クレイ・グイダに判定負けしたのみで現在は8連勝中。現在はストライクフォースライト級王者。日本や世界の団体の強豪と闘えるストライクフォースLOVEをアピールしており、当面UFCに戻ることはなさそうだ。

マット・リンドランド

長らく北米のMMAランキングでミドル級1位とされてきた実力者。早くからUFCに参戦しており、勝ち逃げ状態で主戦場を非UFC団体に移す。ミドル級では敵なし状態だったため、階級を上げてクイントン〝ランペイジ〟ジャクソンやヒョードルと闘ったりしていたが、現在は階級をミドル級に戻している。アフリクションではビクトーに敗れてしまったが、レスリングをベースにした固い闘いはまだまだ錆ついていないはずだ。盟友ダン・ヘンダーソンが活躍するUFCにはあまり興味はないとされている。

本誌じゃ読めないインタビュー

ここに載ってます!!

kamiインタビュー

"ZST最強の男"

8.2戦極フェザー級
トーナメントベスト4

金原正徳

対戦が決定した日沖発に「プロ意識はあるのか?」と痛烈な挑発!!

このほかにも最近はMIKU、宮田和幸、映画『チョコレート・ファイター』主演女優ジージャー、日沖発、小見川道大、菊野克紀など濃厚インタビュー掲載中!!

新日本プロレス NOW通信

新時代を迎えてリング内外でさまざまな変化が生まれつつある新日本プロレスの"いま"を伝える連載企画。ここだけでしか読めない情報満載です。

長南亮の『ピラニアUSA日記』

8.23『DEEP』で日本マット復帰が決定した長南亮。日々の生活の中で感じたこと、試合のこと、家族のことを本音で綴る注目の連載です!

こちらプロレス村役場ドットコム

元『週刊ゴング』編集長・金沢"GK"克彦氏が、プロレス界の最前線で見てきたこと、取材したことを週一回のコラムで激筆!!

青木真也の『週刊ワオ木真也』

7.20『DREAM.10』さいたまSA大会でビトー"シャオリン"ヒベイロと激突した"バカサバイバー"青木真也が心境を綴る!!

ポッドキャスト番組『mimipro』

カリスマ司会者・原タコヤキ君がお届けするプロレス&格闘技トーク番組。多彩なゲストも登場、ここでしか聞けない話もあります!!

試合速報

注目の試合の内容をいち早く速報します。試合の写真はもちろん、試合後のコメントなども細かくレポート!! 生観戦後も必読ですよ。

ニュース

カード発表や重大発表など、規模の大小にかかわらず記者会見の模様を素早くお伝えします。最新情報はここで読もう!!

最新号情報

次号の表紙は? 内容は? そんな疑問にいち早くお答えします。雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!!

このほかにも読者プレゼントなど嬉しい企画を多数ご用意してます

プロレス&MMAのニュースサイト

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

無料です!

レッツ毎日アクセス http://www.kamipro.com/

ニュース、動画、コラムが充実のプロレス&MMA携帯サイト

kamipro Move
カミプロムーブ

『1976年のアントニオ猪木』著者・柳澤健の連載コラム

『1993年の女子プロレス外伝』

本誌で絶賛連載中の女子プロレス対抗戦全盛期の90年代に焦点を当てた柳澤健氏の連載『1993年の女子プロレス』。残念ながらそこに掲載できなかったものの、お蔵入りにするにはあまりに惜しい貴重なエピソードを毎週お届けしている携帯サイト『kamipro Move』の連載が、この『1993年の女子プロレス外伝』だ。柳澤氏の徹底した下調べと相手の心の底に深く潜っていくインタビューが大好評です! 現在掲載中のアジャ・コング編の第3回の一部を紹介します。

▼09年7月17日更新 アジャ・コング編・第3回より抜粋

——では、当時のアジャさんは中野さんとコミュニケーションを取るってことはあまりなかった?
アジャ　そうですね。付き人だったので、仕事道具の管理は全部してるんですけど、いつも同じように同じモノを出して置いておいて、終わったら片づけるというだけの話なので。それ以外に特別「何をしろ」とか言われたこともなかった。逆に言うと、何を考えてるのかわからなくて、ダンプさんより怖い部分も多かったですけどね。
——ブル様は、あんまり自分が思っていることを外側に出す人ではなかったと。
アジャ　そうです。
——私の考えでは、ブル様というのは実に偉大な方で、最初に申し上げたように、ブル中野とアジャ・コングこそが全女を根本から変えてしまった人だと思っているので、アジャ様が見たブル様像には非常に興味があります。
アジャ　でも、途中から中野さんも変わってはいきましたけどね。やっぱりトップに立ってからは変わりました。
——ダンプ松本が引退したときにブル中野を芸能界に誘いますよね。「ブルちゃんも一緒に辞めて芸能界に行こうよ」みたいな感じで。
アジャ　ええ。
——それはプロレス的な話題作りなのか、それともホントに誘ったんですかね?
アジャ　自分はその当時ペーペーの新人だったんで、直接話は聞いてないですけど、ホントに誘ってたらしいという噂は聞きました。
——そのときはどう思いました?
アジャ　その当時に直接聞いてたわけではないので。あとあと、「そういう話があったらしいよ」っていうふうに聞いたので、何を寝ぼけたこと言ってんのかなと思いましたけど。
——「あんたと一緒に行くわけねえだろ!」と。
アジャ　そうですね。ただ、中野さん自身は、ダンプ松本さんが引退して極悪同盟がなくなった時点では、それを引き継ぐつもりは一切なかったらしいです。
——そうですか。ブル様にもいつかはお話をうかがいたいと思っているのですが、ダンプさんが辞めた時、ブル様はどうするつもりだったんでしょうか?
アジャ　自分ひとりで、一匹狼としてやっていくつもりだった。もう極悪同盟とか、そういう枠にとらわれたヒールをチームとしてやっていく気は、実際にはまったくなかったらしいです。
——ヒール軍団を作ってしまえば、極悪同盟の延長線上になってしまう。自分はダンプ松本とはまったく違う、まったく新しいヒール像を作り上げていこうと考えていらっしゃったんですか?
(※この続きは『kamipro Move』でご覧ください!!)

毎日ブログ好評連載中

金原弘光
『金ちゃんのどこまでやるの!?』

MIKU
『格闘ブロガール』

本誌で好評連載中の女子プロレス&女子格闘技企画が動画になった!!

掟ポルシェ『萌え萌え女々苑Move』

今月は女子プロレスラー・さくらえみが掟ポルシェを返り討ちに!?

充実のコラム連載陣も要チェック!!

月	郷野聡寛の『MONDAY NIGHT FEVER』	『戦極』参戦が決まった郷野聡寛が本音トークで送る! 試合やパフォーマンス同様に文章でもマルチな才能を発揮してます!
火	ニュース特選『kamiの一週間』	ここ一週間の出来事をヨタ話で振り返るいろんな意味で反響が大きい爆弾企画。これを読まずにマット界は語れない!
水	橋本宗洋の『格闘裏グルメ』	昨年、激痩せした元・重量級ライター(現在はライトヘビー級?)橋本宗洋が格闘技界の見どころをズバリ解説!
木	高橋ターヤンの『This Week MMA』	最先端と言われる北米のMMAを中心に日本の目線で読み解きます。海の向こうの気になる話題を掘り下げろ!!
金	柳澤健の『1993年の女子プロレス外伝』	『kamipro』本誌と連動する柳澤健の女子プロレス連続インタビュー企画で、誌上には掲載されなかった話をお蔵出し!!
土	マット界の事件を徹底追求『kamipro事件簿』	マット界には日々、さまざまな事件が起こる。そんな迷宮入りの事件をピックアップして真相を解明する大反響連載!
日	マッスル坂井の『ゴー・フォー・ブログ! 週刊マッスル坂井』	鬼才・マッスル坂井がその華麗なる日常を大公開! いかにしてマッスルが生み出されるのかをここでチェック!

主要3キャリア全端末対応(※端末により一部非対応コンテンツあり)

アクセス方法

iモード	iメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
EZweb	EZトップメニュー	スポーツ・レジャー	格闘技	
Yahoo!ケータイ	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

サービス利用料 月額315円(税込)

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
[お問い合わせ] 株式会社エンターブレイン カスタマーサポート TEL.0570-060-555(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00〜17:00) メールでのお問い合わせは support@ml.enterbrain.co.jp まで。

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早1年あまり——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘！ さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録！

B6変型判 292ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

新日本プロレス学習帳

"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発！

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』誌上に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に！ これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり！

B6変型判 320ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

八百長★野郎

ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載！

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考！"プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る！

B6変型判 296ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

生前追悼 ターザン山本！

え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証！

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る！

B6変型判 304ページ
定価=1,470円（本体1,400円+税）

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇

プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫★三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り！

B6変型判 304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐！

★UWF★前田日明★船木誠勝★髙田延彦★桜庭和志★ターザン山本！★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か？（菊地成孔スペシャルインタビュー）★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す！

B6変型判 296ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本

井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録！

B6変型判 312ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集

破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★折鶴兄弟 ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん！みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録！

B6変型判 304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

殺し 活字プロレスの哲人 井上義啓 追悼本

"殺し"文句が心を打つ！
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★I語録★井上義啓とは何か？／アントニオ猪木／水道橋博士／金沢克彦／松島弥生（井上義啓・姪）★『kamipro』未公開"喫茶店トーク"ほか

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"の追悼本!! プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続けた男の凄みを感じろ!!

B6変型判 304ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

女子プロレスの父逝く——

全日本女子プロレス会長
松永高司追悼特集

09年7月11日、松永高司・全日本女子プロレス会長が間質性肺炎で亡くなった。享年73。
力道山が日本のプロレスの幕を開ける前から女子プロレスにたずさわり、一時代どころか二時代、
三時代とさまざまな女子プロレスブームを仕掛け、日本中を熱狂させてきた稀代の興行師である。
本誌も何度となく取材を通じて、松永会長のスケールの大きさに触れてきた。この特集では
松永会長の偉大な功績を振り返りつつ、故人を偲んでみたい。

お金のプレッシャーに強すぎた男・松永高司会長は稀代の興行師であり、女子プロレスの父だった——

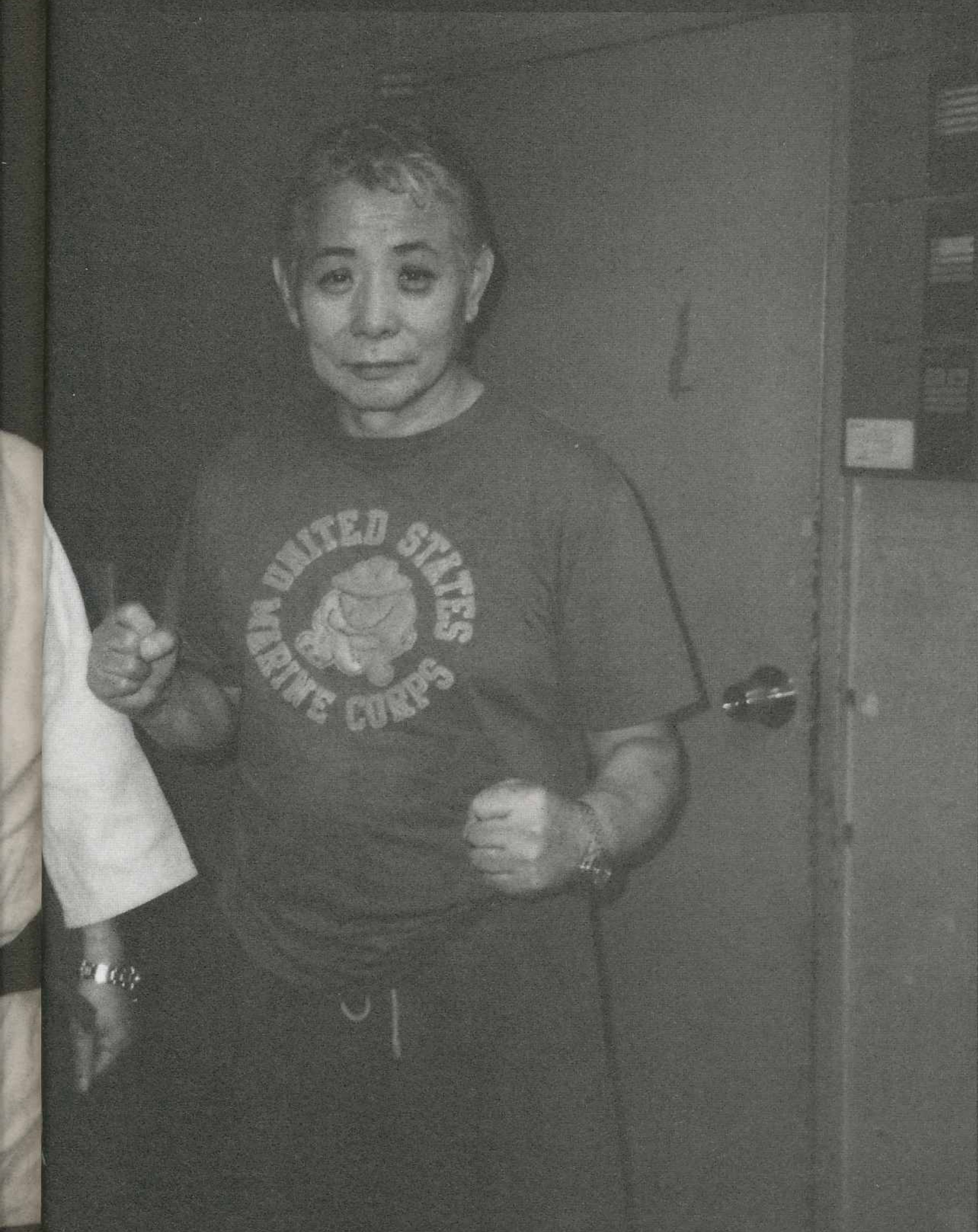
僕の知り合いに会社の社長さんがいる。昨今の厳しい経済状況とは無縁でなく、やはり会社の経営は厳しいようだ。しかし、その社長さんは、泣き言を言う僕をこう叱り飛ばした。

「おまえはお金のプレッシャーに弱すぎる！」

「あんたが強すぎるんだ」という言葉を僕はグッと飲み込んだ。お金のプレッシャーは仕事や家庭をすべて飲み込んでしまう。追い詰められて自ら命を絶つ者もいる。どこか無責任な部分がないと経営者は務まらないだろう。無責任ではあるものの、とてもじゃないが僕には真似できない。

真似できないという点では、全日本女子プロレス・松永高司会長はその上をいっている。なにしろ借金30億円だ。はたしてどれだけのプレッシャーを背負っていたのか、想像するだけで背筋が寒くなる。

何度か取材をさせていただいたが、どんな状況でも笑っていたのを思い出す。97年の倒産時には「借金30億円だ！」と笑い飛ばしていた。

さらには「クルーザーを買いたい」「移動動物園をやりたい」とご機嫌な夢を語り「スターが一人出れば、こんな借金は1年で完済だ」と言っていたのも思い出す。もちろん、借金については「返したいけど、ないものは返せねえ！」と嘆きながらだが……。負（債）の因果律に巻き込まれなが

らも、あくまでポジティブ。僭越ながら「本当にこの人は強いなぁ」と感じたのを思い出す。

その松永会長が〝破壊王〟橋本真也さんの祥月命日である7月11日、73歳で亡くなった。1953年頃から女子プロレスと関わり始めてから全日本女子プロレス解散の2005年まで53年間、女子プロレスにたずさわった、女子プロレスの父であり、稀代の興行師である。ビューティー・ペア、クラッシュギャルズ、団体対抗戦で女子プロレスの大ブームを三度も作り、全国各地で札束がアタッシェケースに収まりきらないぐらい稼ぎまくっていたという。サイドビジネスでもカラオケ店「しじゅうから」や羅漢果ラーメンなどの外食系のチェーンを手がけていた。松永会長は巨万の富を築き上げることに成功する。

しかし、稼いだ金以上に散財してきたというスケールのでかい人でもある。目黒に道場と事務所と寮と飲食店が一緒になった本社ビルを持ち、秩父の山を買い取ってリングスターフィールドというリングつきの宿泊施設も作ってしまった。

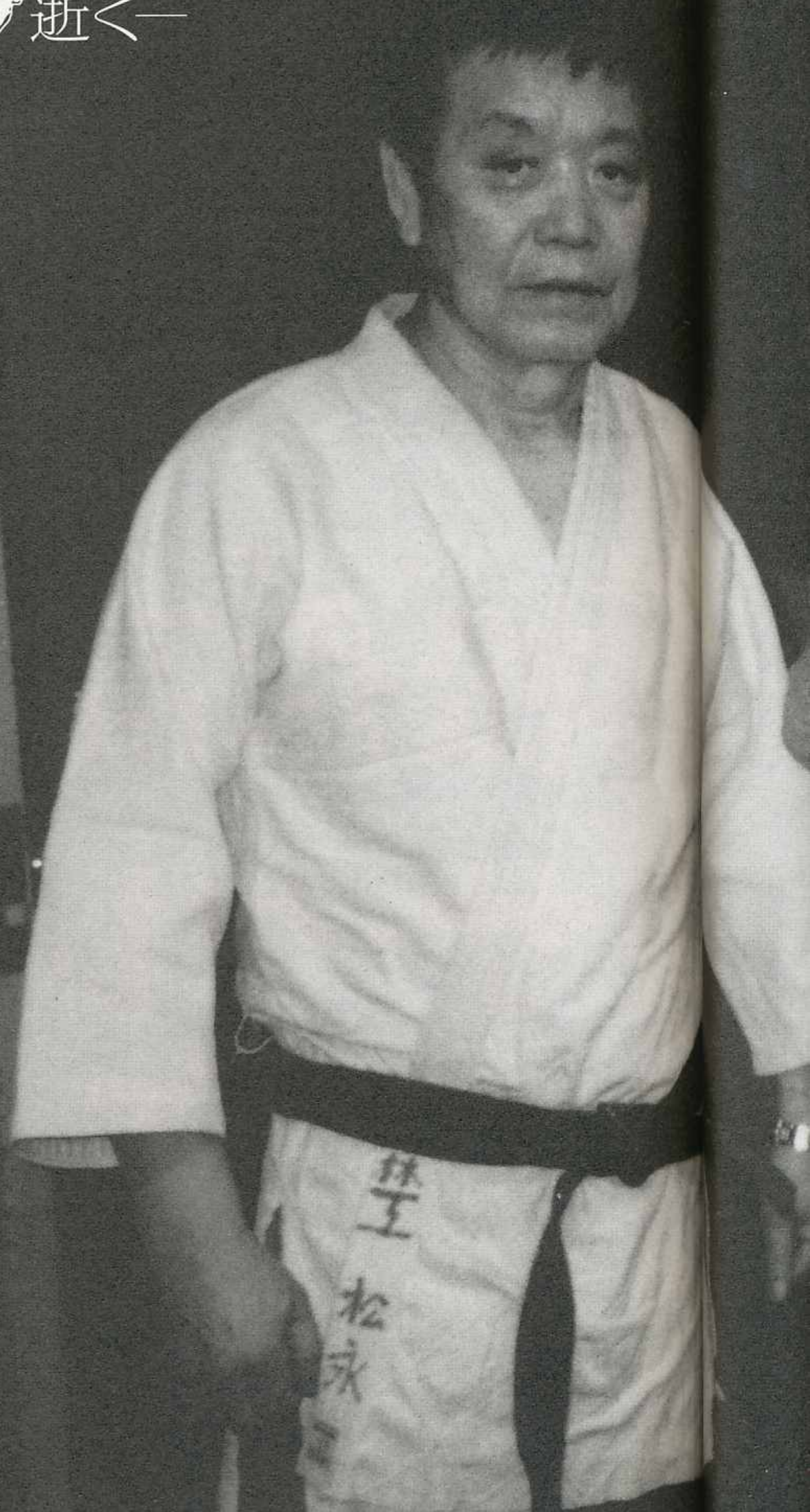
外車やクルーザーなどもさんざん乗ってきたというから力道山以降のプロレス界ではアントニオ猪木と並んで、最も派手に稼いで派手に使ってきた人ではないかと思う。結果的に不動産投機、株に豪快に金をつぎ込んでバブル崩壊とともに会社の経営が傾いていったのだが。

松永会長が興行の世界に飛び込むきっかけは柔拳だった。あのユセフ・トルコさんも活躍した柔道 vs ボクシング（拳闘）の異種格闘技戦だ。ドサ回りをしながら柔道家とボクサーが闘うという興行で、講道館柔道で二段だった松永会長と兄の健司氏（写真左）は腕っぷしの強さを買われて当時、リングで大暴れした。酔っぱらい客から一升瓶が飛んでくるような物騒な会場で、シロウトがリングに上がってくればそれをキッチリとKOしていたというから本職並みの実力だったことがうかがえる。ヤクザが乗り込んできたときも松永四兄弟で大暴れして追い返したという伝説もある。

97年に全女から選手が大量離脱したときには、その二人がリングで柔拳を披露した。ボクサーのフィリピン人チャン・マメルトに扮する松永会長と健司さん扮するミスター郭のエキシビション対決を当時、僕も会場で観た。二人とも高齢であっという間にスタミナが切れて正直グダグダな内容だったが、いざとなったら原点回帰して身体を張ればいいという松永会長の経営哲学が反映された試合だった。どんなに団体が大きくなっても会場で焼きそばを焼き続けていた人でもある。「お金、大好き」と公言する松永会長にとって倒産後の貴重な現金収入だったということもあるだろうが、現場主義の人だった。

松永会長は「選手は商品」とドライな発言もしていたが、現場で誰が売れそうかファンのリアクションをチェックして見定めて私情抜きで誰をプッシュすればいいのかを見きわめていたということでもある。選手からの反発もあっただろうが、ビジネスとして考えれば当然の姿勢と言える。その一方で、「預かった女の子は25歳で引退させて、親御さんにお返しするのが一番」と〝25歳定年制〟と酒、タバコ、男を禁止した〝三禁〟を導入した。時代の移ろいとともに両方とも有名無実化してしまったが、女子プロレスラーたちの親代わりとして、選手のケアもしっかり行なっていた。デタラメなようでいて、ヤクザの排除、選手のケアとスターの育成、ビジネスの規模拡大と非常に真っ当で筋の通ったことをやっていた。どこかで歯車が狂っていなければ……、と思わずにはいられない。お金のプレッシャーに強すぎたゆえなのかなとも思ってしまう。

松永高司・全日本女子プロレス会長のご冥福をお祈りするとともに、この追悼特集を女子プロレスの父に捧げたいと思います。

（坂井ノブ）

女子プロレスの父
逝く―

追悼再録

こんなBIGな対談が実現していた！
（『紙のプロレスRADICAL』No.10収録）

平成のズンドコ船長揃い踏み！

全日本女子プロレス
松永高司×
みちのくプロレス
ザ・グレート・サスケ

女子プロレスの父逝く—

世間の荒波を突き抜けろ!!

いまから約10年前に本誌誌上でこんなステキな顔合わせが実現！
当時、全女は倒産による莫大な借金、さらに相次ぐ選手の離脱と窮地の真っただ中。
みちのくも離脱者が続出し、ともにマット界不況の荒波をモロ被りしていた。
しかし、どういうわけかそんな状況でも元気な二人が、クルーザーの上でマット界について大放談！
在りし日の松永会長、そしてのちに覆面議員となるサスケの狂ったようなパワーを体感せよ！

聞き手／山口日昇　撮影／遠藤政文

――今日はわざわざ遠いところを夢の島までいらしていただいて、ありがとうございました。去年、倒産直後の松永会長にインタビューしたら、「いまの夢はクルーザーを買うことだ！」っておっしゃってましたよね。今回は、ささやかながら夢をかなえてさしあげようということで、クルーザーの上で対談を組ませていただきました。会長的にはどうですか、この超豪華クルーザーの乗り心地は。またクルーザーがほしくなったんじゃないですか（笑）。

会長　いまでも毎年、クルーザーの展示会は見に行ってるんですよ。いまでも「♪船がほしい〜、船がほしい〜」って歌ってるからね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　奇遇ですねぇ〜。ボクも毎年、リムジンの展示会に行ってるんですよ！

会長　サスケさんもこれを機にクルーザー買わない？

サスケ　いいなと思いましたね。でも、本気で買おうとは思わないです。というのはね、ボクはまず泳げないんですよぉ（笑）。

会長　こりゃダメだあ（笑）。

サスケ　水が苦手なんですよ（笑）。

会長　オレは子どものときから潜りをやってきたからね。逆に高いところはダメなんだよね。それでサザエとかアワビをゴソゴソ捕るわけですよ（笑）。

サスケ　僕なんかは山ですもんね。

会長　だから、体力があるんだね。

サスケ　いやいやいや（笑）。

――山の神と海の神みたいだ（笑）。

サスケ　いやぁ〜（笑）。

会長　うまくまとまりましたね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　まとまってどうすんの（笑）。始まったばかりですよ。潜りといえば最近のプロレス界もモグリみたいなヤツも出てきてますけど、どうなんですか？　最近の全女さんなんかは。

会長　ダメだ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　ボクはレスラーになった頃、なんといっても全女さんにお世話になってますからね。

会長　このあいだも（97・11・21）、ノーギヤラで試合を提供してもらって、恩返ししてもらった（笑）。

サスケ　いや〜、これからも恩返しさせてください。

――社長から見て全女の魅力ってなんですか。

サスケ　それはね、なんといっても多角経営ですよぉ（笑）。

会長　ワハハハハハ！

サスケ　これはね、ボクらの教科書ですよ（笑）。全女さんは常にベクトルが「対世間」に向いてますからね。みちプロも目指すべきはそっちだなと思うわけですよ。

会長　確かに、都内で焼肉屋とかラーメン

全女の魅力はなんといっても多角経営！ これはボクらの教科書ですよ(サスケ)

屋とかをやってたけどねえ、かわいそうだなあと思うのは食材屋さんだよ。売り上げは全部プロレスに使っちゃうから、金は払わねえし（笑）。家賃も払ってねえな。だからこそ、生き延びてきた！　だって毎月1億円の手形決済するんですから（笑）。

サスケ　へぇ〜、凄いなぁ（笑）。

会長　いやあ、もうまいった（笑）。借金しまくってね。そのあげくに潰しちゃった（笑）。ワハハハ！

サスケ　うんうんうん、ガハハハハ！

会長　生き延びるときにはしょうがねえもん、みんな共倒れだあ！（笑）。

――ガハハハ！　倒れちゃいけませんよ（笑）。だけど会長、多角経営やってたから全女が倒産したんですよね？

会長　違うの！　バブルがそうしたの。うちだけじゃねえんだから（笑）。だいたい、うちより先に銀行が潰れちゃうんだから。多角経営を全女だけがしてたのかっつうと、そうじゃない。やはり全日空でも日本航空でもホテル作ってダメになって。

サスケ　そうですね、うんうん。

会長　そういうことだから。逆にいうと、それを手放して生き延びてるわけですよ。

サスケ　そうかあ、うんうん。プロレス界にとっては多角経営ってのは異色かもしれないけどね。でも、やっぱりやるべきですよ。

会長　サスケさんの会社は最近どう？

サスケ　う〜ん、どうなってるんですかねえ（笑）。

――ダメだ、この経営者も（笑）。似たもの同士だ。

会長　ワハハハハハ！

サスケ　なるようにしかならないでしょ（笑）。いまは不景気ですから、どこの業種も厳しいんじゃないですか。

会長　たかが知れてるよ、プロレスだけで儲かるといったって。だからオレが悪いんじゃねえんだ。世間が悪いんだから！

サスケ　（手を叩いて喜んで）ガハハハ！　そうですね、世間が悪い（笑）。

会長　国が悪いんだよ（笑）。プロレス一本で食っていくっていうと日本人好みだぁね。でも、そりゃ難しいよ。プロレスもいまはドン底でしょ？

サスケ　プロレスだって流行りすたりがあるんだからね。

会長　だから、興行をやればやるほどドンドン赤字。それをわかりながら赤字でもやらなきゃいけない。それだと、資金が途絶えたら終わっちゃう。そのためにも多角経営が必要だということなんですよ。生き延びるためにね。そのときにはやっぱり、いろいろと捨てていけばいいんですよ。

サスケ　それで会長はクルーザーも買ってたりしたんですね。

アカデミー賞受賞映画『タイタニック』のあまりにも有名なポーズをとる二人。決して海に向けてブランチャしようとしているサスケを、松永会長が止めてるわけではありません。

会長　それで頭が狂っちゃった（笑）。でも、自分としては、この世の中に生まれてきてやりたいことは全部やってきたし、人ができないこともやってこれた。だから、自分としては男冥利につきる！（キッパリ）。みんな、やりたいことを全部はできないでしょ。ねえ？

サスケ　そうですねぇ。クルーザーがほしくても買えないですからね。

会長　でも、いまはもう生命保険も解約しちゃった。

サスケ　あらら？　保険さえも（笑）。

――ワハハハハ！　だから老後は大変だわ、オレ（笑）。その前にもう遊んじゃったからね（笑）。

――ガハハハハ！

会長　どっちが得だったかといえば、先に遊んだほうがいいやね（笑）。

サスケ　いやいやいや、こりゃまた凄い話が出たね（笑）。

会長　だから、若いうちに好き勝手なことをしといたほうがいいんじゃねえかな（笑）。

サスケ　ボクもまったく同感ですね。

会長　だから仕事は大勢ですよ。うまいモンは一人！

サスケ　うまい汁は一人で吸えばいい、と。ガハハハハハ！　会長は経営者の鑑だね、うん（笑）。

会長　その代わりにダメなときは自分の身を切ってでも投資しないとね。いまのインドネシアでもねえけど、大統領が裸になって、持ってるものを全部投げうたないとダメだ。それだけの器量がないと倒産してもみんなついてこない。

サスケ　だから、全女さんにはあれだけ選手が残ってるんだよね。

――全女が倒産したとき、いろんな団体に分散したじゃないですか。そのときにサスケ社長が名言を吐いたんですよ「これからは全女の時代だ」って（笑）。

会長　ああ、どうも（笑）。（とサスケ社長に深く頭を下げる）

サスケ　いやあ（笑）。急に頭を下げなくてもいいじゃないですか。もう、うふ、うふ、うふ（と恐縮しながら照れ笑い）。

会長　だからね、倒産したでしょ？　オレとしてはホッとしたんだよ。●●がいなくなって（笑）。

一同　ガハハハハハ！

サスケ　（机をバンバン叩いて）わかるよ、それ（笑）。猪木さんが昔さぁ、選手が大量離脱したときに「これで大掃除ができた」っていう発言したでしょ？　あれと一緒なんだよね（笑）。

――ガハハハ！　そうですね（笑）。

サスケ　でもねえ、それは企業の宿命ですよ。大きくなったら、どっかで大掃除しなきゃ！　ね？

会長　だから25歳定年があるんですよ。ババアのプロレスなんて観たくもない！

サスケ　あ～あ（笑）。

会長　昔なんかひどいよ。水着だって昔はいい水着を買えないわけ。だから中にズロースみたいなパンツを穿いてさ。横から色のついたパンツがチラチラ見えて、横からヒモがズルズル出てきてるんだから（笑）。たまらないよ。

この世に生まれてやりたいことは全部やった。男冥利につきる！（松永）

サスケ　でも、そういうのが逆にエロチックだったのかもしれないね（笑）。そういうことを乗り越えてくるとたくましくなりますよね、みんな（笑）。

会長　なんでもありだよね（笑）。

サスケ　競技としてのバーリ・トゥードよりも人生としてのバーリ・トゥードですよ（笑）。

会長　もう人生、苦しいけどこんな楽しいことないと思う！

サスケ　いまでも毎日借金取りとか来るんですか？

会長　取りには来ないけど電話でガンガン来るわ。でも、オレが殺されても払えねえ。

――ガハハ！　サスケ社長はどうですか、こういう会長の生き様を見て（笑）。

サスケ　いやあ、見習いたいねえ（笑）。あのですねぇ、ボクが思うに全女さんが飲食店をやったというのは凄いことなんですよ。欲望産業ですよ、人間の欲望の一番目には食欲がありますからね。

――サスケ社長は性欲も激しいですけどね（笑）。

「オレがクルーザーを持ってた頃は大島に行ってサメを釣ったもんです」と言いながら、身も心もサメになってしまった松永会長と、オレンジジュース片手に、話に耳を傾けるサスケ社長。自前のアロハが決まってるぜ！

サスケ　激しいけどね（笑）。でもね、そこに目をつけたっていうのは凄いです。だから、プロレス界も不況、不況って言ってないでやんなきゃダメだ。

会長　そう、やんなきゃダメだ！

サスケ　だから、みちプロもいずれも飲食店をやりたいな、と（笑）。飲食店をやるときの注意とか、ありますか？

会長　コックを使わないこと。

――え？　どういうことですか。

会長　レスラーに教えてやらせるんです。道場でメシ作らせて、それで「うめえ」って言われるもんを店で出せばいいんですよ。いまのSUN族が開店したときもコックを使わなかったら、女房とかババア連中に怒られてね。「コックを使わねえでどうすんだ！　コックはどこにいる」って（笑）。だから言ってやったよ、「どこにいるもなにも、オメエらがコックだ！　コックはどこにいる？　家でメシを作って食わしてるだろ。それを出せ！」ってね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　うんうん。

会長　そしたら「そんなことできるわけないでしょ！」って怒られた（笑）。だからいまのSUN族も副会長がコックやって、お昼にオレも入るわけよ。

サスケ　会長が自ら（笑）。それはボクが道場に通った頃からですか？

――社長がメデューサの着替えを覗いてた頃からね（笑）。

サスケ　（大あわてで）だぁ～から、見てないっていうの！　そういう話をよく言われるんだけど、な～んでそうなっちゃっ

たのかなあ。もう、ホントにねえ（笑）。いや、だからね、欲望産業なのよ（笑）。うちも飲食店やりつつ、風俗店もやりたいなという野望があるんですよ（笑）。

会長　あ、それはオレもやりたいなって考えてた（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　やろう、やろう！　やらなきゃ、やらなきゃ！

会長　ノーパンしゃぶしゃぶを見てひらめいた！　21世紀はノーパン・プロレスときたもんだ（笑）。

――くだらねえなあ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！（大喜びで）やろうやろう。おもしろい、おもしろい（笑）。

――ノーパン・プロレスって、それじゃストリップじゃないですか（笑）。

会長　どうせ、ストリップから来たんだもん（笑）。沖縄かどっかの無人島を一つもらって。ね？

サスケ　東京からツアー組んだりしてね。いいですねえ（笑）。だけど、普通の神経だったら会長みたいに10億ぐらい借金があったら精神的にまいっちゃいますけど、会長は凄いわ（笑）。

会長　まいってるよ、オレ。

サスケ　まいってる人がノーパン・プロレスとは言わないですよ（笑）。

会長　そうか、ワハハハハハ！

――もし、いま会長のとこに1億円が転がり込んできたらどうします？

会長　やっぱりプロレスに使いたい。

サスケ　なんだかんだ言って会長はプロレスが好きなんですね。

男子プロレス界はカッコつけすぎ。きれいごとばっかりじゃダメ！（サスケ）

会長　だけどね、試合は観ない。

サスケ　なんでですか？

会長　つまんねえ！（キッパリ）。

――またそんなことを（笑）。社長はどうしますか、1億円が入ったら？

サスケ　やっぱりリムジンを買いますよぉ～（笑）。なにせ毎年、リムジンの展示会には行きますからねえ（笑）。

――外国人の展示会もね（笑）。そういう点ではサスケ社長も精神的にタフなんですよね。会長から見たサスケ社長ってのはどういう人に見えます？

会長　似てるなって思うよ。まじめな人ですよね。サスケ社長は。

サスケ　いやいやいや！　うふ、うふ、うふ（と照れ笑い）。

――まあ、ある意味ではね（笑）。お二人は親子ほどの年の差ですよね。

会長　いや、同級生だよ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　親子だけど同級生なんですよ、うん（笑）。会長も40何年もやってるんだから、日本プロレス界では日本一じゃないですか。

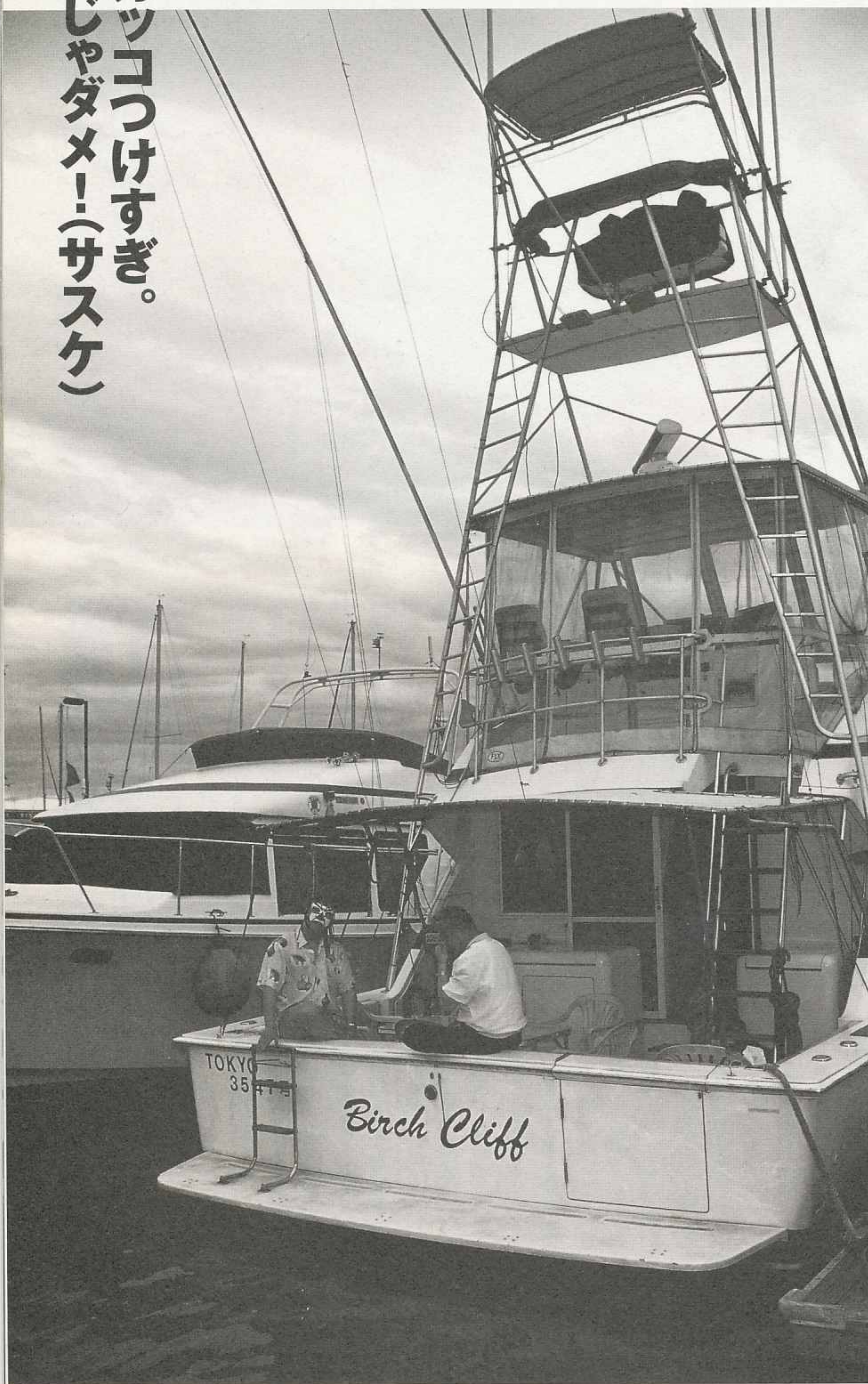
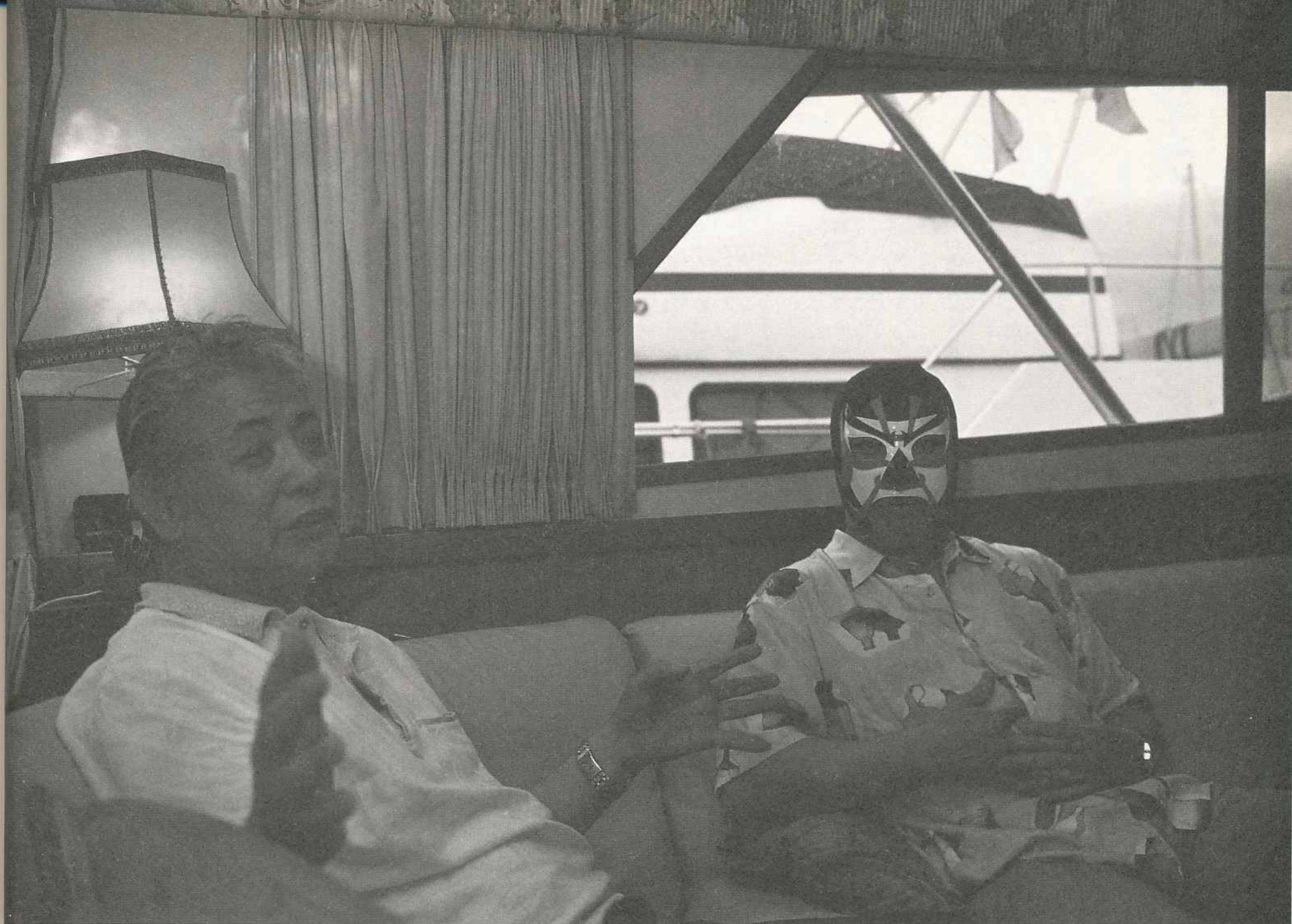
会長　古きゃあいいってもんじゃないよ（笑）。

サスケ　いやいやいや（笑）。男子プロレス界もそういう全女さんの生き様を学び取らなきゃダメだよね。やっぱり、きれいごとばっか言ってちゃダメだよ。いまの男子プロレス界はみんなカッコつけたがるからね。

会長　一時的にはそれはいいかもしれないけど、どうせ年を取っていくからね。

サスケ　やっぱり選手が売店に立ってさ、会長が自ら焼きそばを焼くとかね（笑）。そういうのを男子プロレスでもやんなきゃダメだよね（笑）。

会長　会場は、ホント楽しみに来る場所だからね。だんだん日本もサーカスみてえ

Takashi Matsunaga & The Great Sasuke

この撮影はすんばらしくかっこいい豪華クルーザー「Birch Cliff」号のオーナー・福田氏の協力のもとに行なわれた。そのクルーザーに負けないくらいの存在感を誇るのは、プロレス界広しといえどもこの二人くらいだろう。

対談は、クルーザーの中のゴージャスなリビングで行なった。金はなくても、あふれんばかりの夢と勇気があるじゃないか！　ということで、対談も熱が入りまくり、暴走し、脱線しまくった。

五輪で審査員の前であんなことする ハーディングはプロレス向き（松永）

なもんもなくなってきたからさ、代わりみてえなもんだね（笑）。

サスケ　ガハハハハハ！　サーカスの代わりみたいなもんだって。いいなあ（笑）。そういう意味じゃあ、全女さんは絶頂期の頃でも地方巡業を大事にしてましたよね。あれはびっくりだった。

会長　そうなの？

サスケ　バスで巡業して、ちょっとした広場でも青いブルーシート張って目張りして。選手は、どんな地方に行っても全力ファイトをやってたんですよ。みちプロも学ばせてもらいました。

――ボクも横浜アリーナで観る全女より、府中競馬場横駐車場で観る全女のほうが全然おもしろかったですよ（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。ナントカ青果市場とかね（笑）。オレも大好きなんですよぉ～。

会長　ある程度年齢のいった人っていうのは地方に行くと遊ぶ選手がいるわけですよ。まあ、手抜きだな。これが一番困るのね、みんな右にならえになっちゃうから。そのためにも我々が常に行って目を光らせないと。

――いまでもサスケ社長はリング設営、撤収を自らやってるんですよ。「なんだか見慣れない人がいるな～」と思ってると素顔の社長なんですよ、タオル被ってね（笑）。

会長　ワハハハ！　そういう姿勢がね、やっぱりリングに上がっても出てくるんじゃないかね。みんなを引っぱっていくうえでも先頭に立っていく人のほうがお客さんに伝わるわけですよね。親近感も出るしね。知らなくても自然とそういうものが身体から出るんです。

――苦しいときにも選手がついてきてくれる、と。

サスケ　う～ん。ついてきてくれるといいんだけどねぇ。

会長　こないだも選手たちに「金くんなきゃ、私たちもうやれないわ！」って怒られたんだけどね。だから「そんならオレは辞める」って言った（笑）。そしたら「会長がそんなことを言っていいんですか！」って、また怒られちゃった（笑）。「辞めたほうがよっぽど楽だ！」って言ったんだけどね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　全女さんはそういう意見をぶつけ合えるからいいよね。うちは意見をぶつけてこないから。ぶつける前にみんなアメリカに行っちゃったから（笑）。それでオレは黙々とリング作ってるしな。どうなってるんだってね（笑）。

会長　サスケさんだって選手から文句が出たほうがおもしろいわけでしょ。

サスケ　そうですね。それでよくなっていけばいいわけだからね。

――やっぱ、みちのくもちょっといい思いしたから、選手もそれにはまっちゃったんじゃないですか。

サスケ　うん。甘やかしたとは思いますよ。まあ、いいですよ、バラバラになっても最後は元に戻ればね、うん。

アラン（・リード）はなんとしてもみちプロにからませたいね（サスケ）

会長　そうね。ウチもいずれは女の子だから辞めていかなきゃいけない。「一生いることはできないんだよ」ってオレはいつも言ってるからね。だから、25歳定年っていうのは心の中にはいまでもある。25歳すぎたら、その人を売り出そうとかメインイベンターにさせようとか、そういう気持ちはないんだよね。

サスケ　その点は女子プロレス界は特殊ですよね。

会長　ほっといたらいつまで経ってもいられちゃうからねえ。

——ちょっと話は変わりますけど、サスケ社長は今年後半はどうやって盛り返していくつもりですか。

サスケ　う～ん。会長、どうしたらいいですかねぇ？　そうだ！　合同興行でもやりますか。

会長　いいねえ。

サスケ　ガハハハハ！　即決だ（笑）。

会長　今年はうち、30周年だからね。

——全女とみちのくの合同興行はいいですよね。単純に観たいですね。

会長　ミックス（ド・マッチ）をしようって言われるんじゃないかと思ってドキドキしたよ。

サスケ　あれ？　ボクはそのつもりでいましたよ（笑）。

会長　アメリカで女子のプロレスがダメになる間際にミックスのプロレスが盛んだったのね。それを最後に消えていったわけ。だからミックスをやるのは、もう最期だ（笑）。

サスケ　それを出したら最期なんですね（笑）。ガハハハハ！　やったらマズインだ。でも、いまと時代が違いますからね。ボクもミックスドマッチはやってますから。

会長　なるほど。でも、サスケさん自身を下げるみたいでダメですよ。

サスケ　う～ん。実際、下がってないよ（笑）。でも、ミックスを敢えてやらない合同興行もいいかもしれないですね。

会長　（真顔で）だってさ、ミックスやって女の股から顔を出してベロベロって舌出したら、サスケさんが下がっちゃうでしょ？

サスケ　ガハハハハハ！　そんなこと誰も言ってないですよ（笑）。

会長　（さらに真顔で）そしたらイメージが壊れちゃうじゃない？

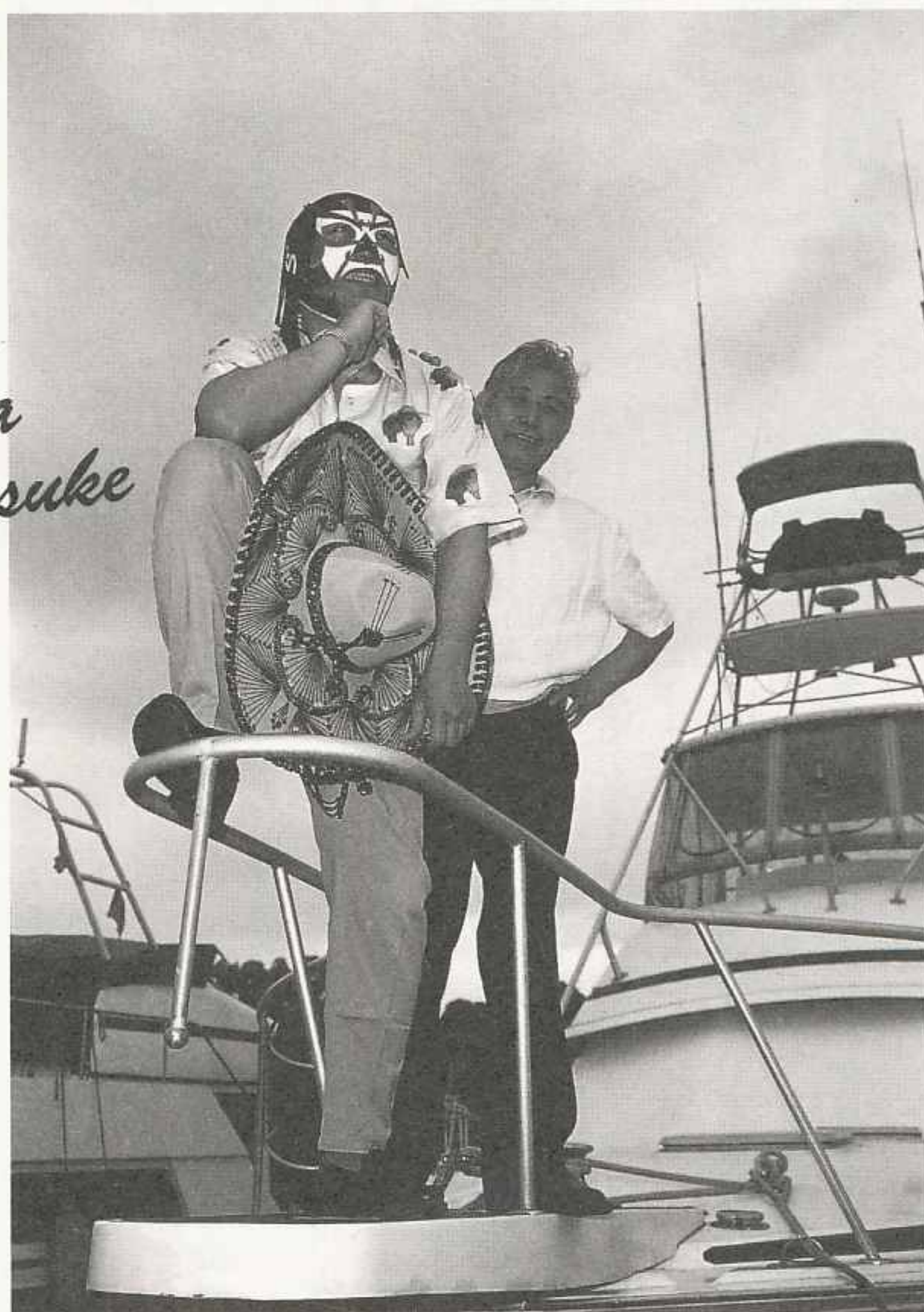
サスケ　誰もそんなことやるとは言ってないじゃないですか（笑）。できないですよ（笑）。

——メチャクチャだな、もう（笑）。

会長　オレも昔、横田基地とか行ったんですよね。だけど選手なんかいないから、見つけて3時間ぐらい教えて連れていったこともあったよ（笑）。

サスケ　ガハハハ！　凄い凄い（笑）。

会長　ジャンボ宮本っていたでしょ、あれがウチの親戚なんだけどさ。学校から「ただいま」って帰ってきたときに、「ちょうどいいや」と思って四畳半で受け身を教えて。こうやってやるんだって3時間教えて、それで試合に連れてった。

サスケ　うわあ（笑）。

往年の加山雄三ばりに「海よ～、俺の海よ～♪」とポーズを取るサスケ。自前のアロハもバッチリ決まってるぜ！　そのうしろで仁王立ち、貫禄たっぷりな松永会長。きっと若い頃は海辺でブイブイ言わせていたに違いない。

Takashi Matsunaga & The Great Sasuke

会長　プロレスでよくあるでしょ？　上から首絞めて「まいったか」って聞くでしょ？　そしたらジャンボが「まいった」って言っちゃったもん。これにはマイッタ（笑）。

——いいのか、こんな話して（笑）。

会長　もうメチャクチャだったよ（笑）。昔のどさくさの時代だから、そんなこともありましたよ。

サスケ　昔はそんなメチャクチャでも、いまでは組織をしっかり築いてますからね。東京ドームで興行もやったし（笑）。

会長　東京ドームも何も感覚は一緒だから。東京ドームでやったときもあたりまえだと思ったもん。

サスケ　あのときは、スケートの（トーニャ・）ハーディングを連れてくるとかいう話もありましたよね（笑）。あ～れはホントおもしろかった。

会長　あれはテレビを観ててね、ああいう神経の人間がプロレスに来るのがいいと思ったわけよ。で、そういうことを言ったら、みんなバタバタって書いて、それであんなことになっちゃった。みんなに踊らされたようなもんだよ（笑）。

——ガハハハハ！　みんなを踊らせたのは会長ですよ（笑）。

会長　だいたいオリンピックで、審査員の前で足を上げて、どうとかこうとかいうのはプロレスと一緒ですよ。あんな神経の持ち主はプロレス向きだ。

サスケ　やっぱり彼女はプロレスに来るのが一番いい、と（笑）。

——サスケ社長はどうなんですか、アラン・リードは？

サスケ　アランね（笑）。ハーディング並みの神経があればいいんじゃないかなあ。接点ができたからにはなんとしても、みちプロに絡ませたいよね。

会長　アラン・リードって誰？

サスケ　松田聖子と付き合ってた人で「セイコに逆セクハラされた」って暴露本を書いたんですよ。

——サスケ社長は、その人をみちのくに引っぱり込もうとしてるんですよ。サスケ社長の場合も新聞報道が先走った、と。

サスケ　うん。だけど、彼はまじめすぎるんで、ちょっとレスラー向きではないです

不況の時代こそプロレスが国民にエネルギーを与えなきゃいかん（松永）

ね。「逆セクハラされて、ホントに嫌だったんだ」って。じゃ、ヤるなっていうんだよねえ（笑）。

会長　ワハハハハ！

サスケ　それで「松田聖子にイヤらしいことをされた」って裁判で訴えちゃうんだからさ（笑）。

——まあ、そういう女だよね、アレ。

サスケ　ガハハハハ！

会長　ああいうタイプは、しなきゃいられないんだよ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　もう、女性を見続けてきた人だからね、言うことが違う（笑）。

会長　ああいうタイプは一晩に100回ぐらいイクんだから（笑）。

サスケ　ガハハハ！　ホントかよ！

——さ、このへんで次の話題にいきますか（笑）。今度全女さんから堀田（祐美子）選手が参院選に出馬するって話がありましたが。

会長　オレはよく知らねえ（笑）。

サスケ　ガハハハハハ！　そんな（笑）。なんで堀田さんは選挙に出ることになったんですか？

会長　ボクの友だちの西銘一（にしめ・はじめ）という男がスポーツ平和党の幹事長になってね。あれとは25年の付き合いなんですよ。もう腐れ縁（笑）。まあ、助けたり、助けられたりでね。で、「1位指名をもらった。誰かレスラーがいないかね？」って言ってきた。資格が30歳以上だっていうから、堀田が30歳すぎてたでしょ。で、「堀田しかいねえんじゃねえの」って二人を引き合わせたわけ（笑）。

サスケ　受かればいいですね。受かったら儲けもんですよね。

会長　まあね。受かるとけっこう儲かるんだって。でもそれはムリだろ（笑）。

——借金返せますね（笑）。

会長　そんなことといったって、それはオレの金じゃないからね（笑）。

——議員になる人もいればヌードになる人もいますからね（笑）。女子プロはホントになんでもありだよなあ（笑）。会長は選手のヌードをどう思いますか？

会長　オレはどっちでもいいや。最初は反対したけどね。そういうものは見せるもんじゃないと思ったから。

サスケ　ビジネスとして考えた場合はいいと思いますよ。なんてったって、多角経営ですからね（笑）。いや、でも真剣な話、それこそきれいごとじゃないですよ。裸一貫で稼ぐわけですからね（笑）。

会長　本一冊で1000万ぐらいの金が入ってくるんだからね。飲食店やなんかで1000万の利益を出すっていったら大変ですよ。

サスケ　ああいう芸能仕事も女子プロの特色の一つですよね。

会長　そうですね。だからビューティ・ペアのときは365日一日も休みなしでしたよ。フジテレビのプロデューサーがね「ホントにスターになりたかったら一日も休むヒマも寝るヒマもない。そこまでやったらおまえは完全にスターになる」ってビューティに言ってましたけどね。

サスケ　いまの選手にそれをやったらついてこれないんだよね。

会長　だから、クラッシュギャルズのときも同じようにやったわけ。そしたらマネージャーの（ロッシー）小川がヒーヒー言ってたから（笑）。「殺してやる！」とかね。でも、最終的には本人が一番いい思いをするんだから。だからクラッシュは年収一人5000万円ぐらいあったんじゃないのかな。

——それだけ会長も当時の小川さんも選手に対して悪者になってたわけですよね。

会長　誰が悪者になっても最終的には本人が一番いい思いをするんだから。それは憎まれても仕方ないわな。

——その思いがサスケ社長の場合は選手に伝わらないんですよね。

サスケ　そうなんだよな〜、うん。だからさあ、全部の仕事をオレがやっちゃってさ、オレの知名度だけ上にいっちゃう。そうするとますますほかの選手との格差が出てきてしまうんだよね。

——まあ、みちのくに限定せずに、いまの選手はなんでそういうことを嫌がるんですかね。

サスケ　昔、パンクラスの船木さんが「なぜ自分は人気が出ないんでしょうかね」って質問する近藤有己選手に言ってるわけですよ。「それはさあ、与えてないからだよ」って。お客さんに対して何かを与えるっていう気持ちじゃないと人気っていうのは上がらないしさ。いまは、おいしいところだけ取って人気を得ようとするレスラーが多いんじゃないの？

会長　そうだね。

サスケ　極端な話、ノーギャラでも汚い仕事でも喜んでね、有名になるためにはやらなきゃいけないときもあるんですよ。スターになるためには喜んでやらないと。そういう気持ちを持ってるレスラーってほとんどいないんじゃないかな。少なく

まつなが・たかし■1936年6月6日、東京都出身。趣味は鮫釣り。座右の銘は「死にくたばるまで一日も休まない！」。68年に全日本女子プロレスを旗揚げ。社長、会長職を歴任し、ビューティ・ペアをはじめ、クラッシュギャルズなど数多くのスター選手を輩出。今年7月11日、間質性肺炎のため死去(享年73)。

ともみちプロの中にはまだまだ出てこないね。
会長　ホントに一般大衆がやらないようなことをやっていかないと。
サスケ　そうですよ、ホントそうだよ。
会長　はぁ〜、銀行強盗やっても10億も20億もねえしなあ（タメ息）。
サスケ　ガハハハハ！　たしかに一般の人は銀行強盗しないけどね（笑）。
会長　1億、2億じゃ足りないよ（笑）。
サスケ　でも不況でも活気のある業界ってのもあるわけでしょ。ゲーム業界とかさ。だから抜け道はあるんですよ。
会長　不況の時代こそプロレスが国民にエネルギーを与えなきゃいけないわけですよ。力道山がやってた頃は敗戦直後で、それによって元気をもらったんです。その点、サスケさんは現役レスラーだから、考えは違うかもしてないけど。
サスケ　そうですね、不況仮面とかを呼んで退治するしかないよね（笑）。
会長　ワハハハハ、そりゃいいや。

不況のせいにしても何も始まらない！なんとか突破したいですね（サスケ）

サスケ　あとは消費税ですね。5パーセントになってから観客動員が落ちましたからね、ガクンと。
――じゃあ、堀田選手の代わりに参院選に出ますか。「消費税にラ・ケブラーダ」って（笑）。
サスケ　ガハハハハ、初の覆面議員でも狙いますか！　まあ、時代とか不況のせいにしても何も始まりませんからね。なんとか突破したいですねえ。
会長　それに、いまは猫も杓子もレスラーになっちゃうからね。
サスケ　猫も杓子もレスラーにしてたのは会長ですよ（笑）。3時間教えただけでレスラーにしてたんだから（笑）。
会長　ワハハハハ！　まあ、それでも最終的にはジャンボ宮本もWWWAのチャンピオンになったからね。
サスケ　そう考えるとジャンボ宮本っていうのも凄い人材ですね（笑）。
会長　まあ、昔は誰も教える人もいなかったからね。見よう見まねで「足上げたらそれがもうレスリングだ」って言ってたよ（笑）。だからレスラーもコックと一緒だ。コックも教えないんだから、「見て盗め」ってね。
サスケ　そういう教えはやっぱり猪木イズムですよね。「プロレスは盗むもんだ」って藤原組長も言ってたしね。だからいまの人はどこのジャンルでもそうだけど、「それは教えてもらってないからできない」ってけっこう言いますよね。
会長　そういう時代なんだよ。
――時代っていう意味でいうと、全女は一番時代の影響を受けてますよ。
サスケ　時代によってお客さんが変化してますからね。
会長　いまは男が多いけど、ビューティやクラッシュのときは小中学生から高校生の女の子だったね。
サスケ　理想型でいったらそっちのほうが理想的ですよね。
会長　結局、その人たちにとってはあの子たち（ビューティやクラッシュ）が一つのLOVEなんですね。
サスケ　LOVEっていうかね（笑）。猪木さんも言ってましたからね、やっぱり基本はLOVEだね。
会長　だから、プロレスよりもその人だね。昔、ジャッキーに会いたいために田舎から出てきた子がいて、オーディションも受けたんだけど最終的には落としたの。そしたら田舎帰って自殺しちゃった。
サスケ　えぇ⁉⁉⁉⁉　いやいや、でもね、そこまで惹きつける力っていうのも凄いよ！　そういう意味じゃX−JAPANのhideも凄いしね。
会長　だから、それだけのエネルギーをプロレスにも取り入れられねえかってことだよね。
サスケ　猪木さんも言ってましたよね、「好きになることも大事だけど好きにさせることが一番大切だ」って。いまのレスラーは一生懸命やってれば好きになってくれるもんだって思ってるわけですよね。だから、みちプロの中にもホントのスターが出てきてほしいよね。
会長　サスケさんがそうじゃないの？
サスケ　いやいやいや（笑）。
会長　長嶋（茂雄）が引退したときもみんな泣いたでしょ。こないだ死んだフランク・シナトラとかね。そうならないとホントのスターって言えないよ。スターは死ぬまでスターなんだから。
サスケ　一人ビッグなスターが現われれば、借金なんて帳消しですよ（笑）。
会長　そうだね。オレなんかひたすら、その夢ばっかり見てるから（笑）。
サスケ　うちもそうですよ。早く次のスターを見つけてクルーザーでも買って隠居したいですよ（笑）。じゃあ、そのきっかけを作るために全女さんと合同興行をやりますか（笑）。
会長　やろうよ（笑）。
【98年5月18日／都内・ゴミとクルーザーと夢追い人の楽園、夢の島にて収録】

Takashi Matsunaga & The Great Sasuke

ざ・ぐれーと・さすけ■本名・非公表。1969年7月18日、岩手県出身。新日本プロレス学校を経て、90年3月にユニバーサル・プロレスにてデビュー。現在はみちのくプロレス会長として、さまざまなリングで活躍中。180cm、88kg。サスケブログアドレス→http://ameblo.jp/thegreatsasuke/

【〝女子プロレスの父〟松永高司語録】

「5、6歳の頃、空襲ですわね。初めて戦闘機が来たとき、全員家にいたんだけど、うちの一つ上の兄貴と俺とで『アメリカなんてどうってことねえや！ やれるもんならやってみやがれ！』って言って外に出て戦闘機見ながらね、威嚇してたの。そうしたらブゥーンって戦闘機が急に来て、ダダダダダって（笑）。撃たれた」

このほかにも、空襲を受け家族総出で山に逃げた際にも一人だけ家に置いていかれるなど、「生まれてから何度も死に損なった」という松永会長。驚異的な生命力を誇った松永会長が亡くなったのはいまだに信じられない。

「俺、決めてたんだよね。30になったときに俺の前にパッと現われたのが女房だと。それがどんなブスでも、どんな人でも、それは構わないと。そう言ってたんですよ」

実際に30歳のときに結婚したのが当時、女子プロレスラーだった恵子さん。結婚後も、選手がいないときには娘がお腹に入っているときにも試合をさせていたというから、さすが松永会長！

「俺は八百長は好きじゃないんですよ！ 最初からストーリーが全部決まっている、決め事でやるっていうのは好きじゃないんだよね。だから、〝ピストル〟でやれっていう試合をやってきたけどね。ピストルは全女の用語でね。一般的には〝シュート〟って言うんですかね」

4兄弟ともにボクシング、柔道、柔拳など格闘技の経験があったこともあってか、日本、いや世界も含めたプロレス団体の中でも屈指のピストル率を誇った全女。そこに女の感情も複雑に入り組むのだから、おもしろくならないはずがない。

「後楽園ホールでは、ダフ屋40人と、あの5階のフロアで大立ち回りしたこともあった。兄弟4人でダフ屋をバッタバッタちぎっては投げ、ちぎっては投げてね。後楽園ホール側も止められないんだよね。『話し合いをしてくれ、してくれ』って言うんだけど、『そんなの、できるわけねえじゃねえかっ！』ってダフ屋が入り口から入ってきてね。それでお客からチケットをみんな巻き上げて、それを下へ行って売っているんだから」

ス、スゲェ！ まさにデンジャー！ 松永兄弟最強!!

「（1年間で興行を）300日やったのは、いちばんいいときの1年間ですよ。あとは200から250くらいを維持していたのかな？ でも、売り興行はなるべくやりたくなかった。お金を持っていかれちゃうから（笑）」

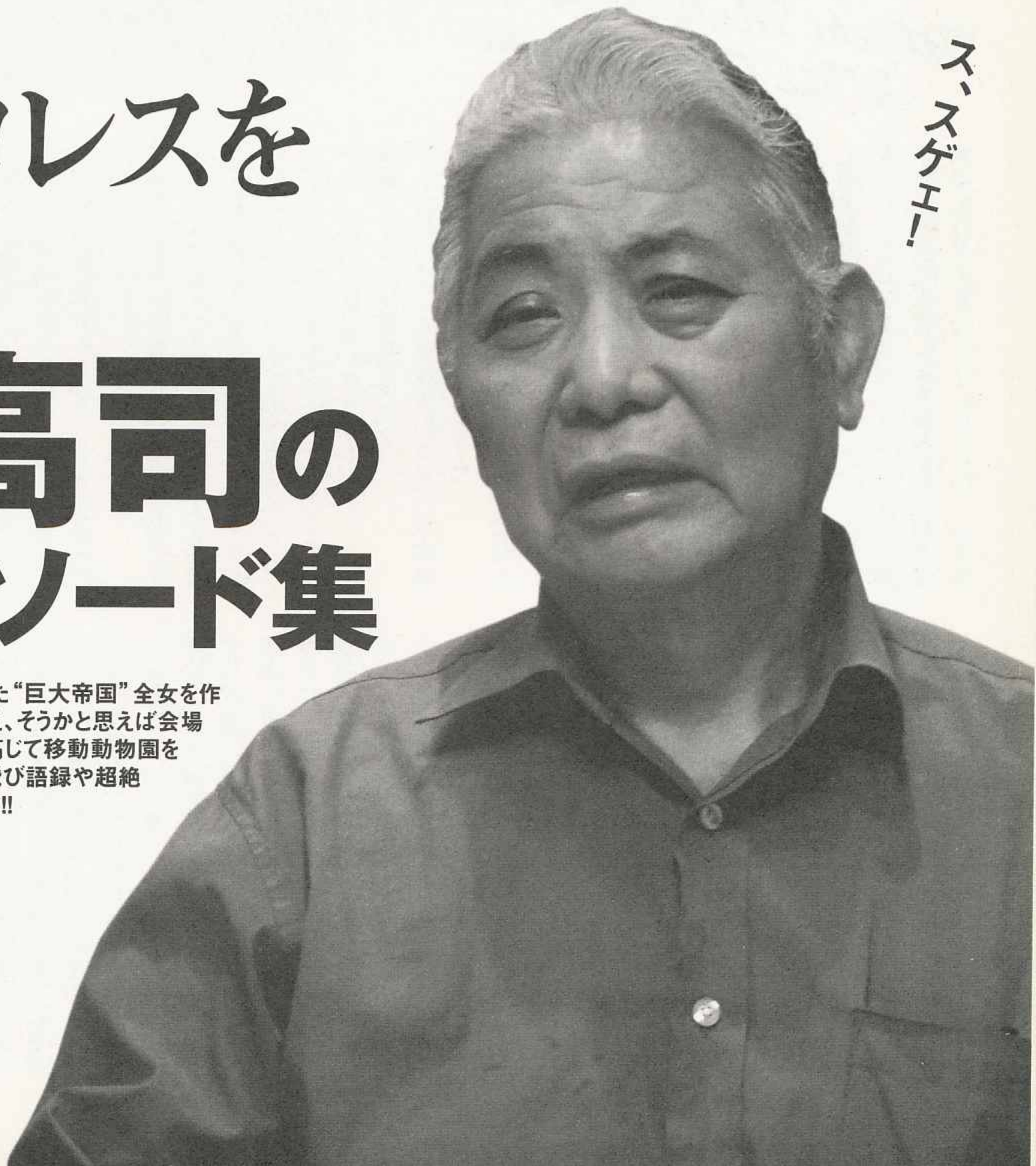
「ここで興行打つんなら通行税をよこせ」と脅してくる地方のヤクザ相手にも「一度払ったら毎年取られるから」という理由で決して屈しなかったという松永会長。さすがですねぇ！

「（一回ブームが来ると）もう金

ス、スゲェ！

女子プロレスを作った男 松永高司の超絶エピソード集

松永会長といえば、何度かのブームを巻き起こした"巨大帝国"全女を作り上げる一方で、株や不動産で莫大な借金を抱え、そうかと思えば会場では楽しそうにヤキソバを焼いたり、動物好きが高じて移動動物園を夢見るなど、ネタの宝庫。そんな松永会長のブッ飛び語録や超絶エピソードを一挙公開！ こんな男が実在したんです!!

構成／阿修羅チョロ

の顔見るのがイヤになるね。とにかく金が次々に追っかけてくるんだから。『日本の国は俺のもの』って感じ。日本全国津々浦々で待ってんだ、お客が金を持って」

ワ〜オ！　一度でいいからお金に追っかけられてみたいものです。

「（ライオネス）飛鳥が、マンションを買うんでお金を貸してもらいたいと言ってきたことがある。お母さんのためにね。でも、貸しても取れないじゃん。だから、あげるしかなかったのね、1000万円。いつもあると思われちゃうと困るけど」

同時期にマンションを購入したダンプにもキャッシュでポーンと500万円プレゼントしたという松永会長。ちなみに長与千種は「そんなお金いらない。この先、絶対困ることがあるから、そのときのために取っといて」と最後の最後まで受け取らなかったという。長与の予言的中!?

「選手が離脱したときも、悔しさなんてないない、ないない（笑）。俺、ホッとしたもん。『これで身軽になった』って」

退団を申し入れてきた選手を一度も引き止めたことがないという松永会長。去る者は追わず、来る者は拒まずが松永会長のポリシーだったのだ。

「選手にはオレら4兄弟が一切触らせなかった。最初の頃は試合が終わってから『選手を連れてこい』だのうんぬんだのあったけど、俺は宴会とかの席には選手を一切連れていかないということでやっていた。だけど、だんだんだんだん（笑）。夜、試合が終わってから食事ってかたちで、みんな呼ばれていくんだよね」

「酒・タバコ・男」禁止という、ある意味、全女名物とも言える三禁を徹底していた松永会長。「セックスを覚えるとヒザか腰を必ずケガするんですよ。筋骨隆々の選手でも男の精液が入ると身体が変わるんだよね。恋をするとキレイになるって言うけど、それなりにホルモンが出るの」との長年の経験に基づく理由があるんだとか。三禁万歳！

「俺もどうせだったら30億なんてケチな額じゃなくて、100億ぐらい借りておけばよかったよね。失敗しちゃった（苦笑）。借金で自殺？　そんなことしてたら俺、何度自殺したらいいんだよって言うんだよね（笑）」

た、確かに、としか言いようがありません。

「ヤクザによく言ってたのは、『じゃあ、おまえに刺されたら、もう俺を殺せよ。おまえに刺されたら、俺がいちばん楽になるんだ』って」

任侠映画のワンシーンに出てきそうなカッコいいセリフですが、松永会長なら言ってても全然違和感はないですね。

こちらの写真は1974年9月、WWWA会長ミルドレッド・バーグさんと握手をかわす若かりし頃の松永会長。全女の象徴"赤いベルト"ことWWWA世界シングル王座はバーグさんから300万円で買い取ったもの。生前、松永会長は「あのベルトで10億以上は稼がせてもらったよ」としみじみ語っていた。

女子プロレスの父 逝く——

「移動動物園やろうと思ってね、ジャコウ猫を買ってきて、うちの軒下においといたんだよ。全身で2メートルあってね。クルって尻尾を巻いて自分の身体をぶら下げたりなんかして。でも、そいつが果物をこのぐらい（と両手をいっぱいに広げる）買ってくるでしょ。そうすると一回で全部食べちゃうのね。そうすると、食べてる矢先からものすげえ糞たれるんだ（笑）。それが臭くて臭くてね、女房に怒られたよ〜。このあいだはキタキツネを買ったんだけど、放し飼いにしてたら、半月ぐらい前にいなくなっちゃった（笑）」

このほかにも小型カンガルーのワラビーも飼っていたことがあるという松永会長。移動動物園はぜひ実現してもらいたかったです！

「一時は看護婦から『こんな血糖値高い人見たことがない』って驚くぐらい血糖値が上がっちゃってね（苦笑）。普通は血糖値って100以下なんですけど、それが990までいったんですよ。最初、肺炎になったときは、医者に『普通の肺炎じゃない。鳥の羽根や糞が癒着してる』って言われて。私は山でニワトリから七面鳥からホロホロ鳥とか百羽ぐらい飼ってたんですけど、そういうものを知らないうちに吸っちゃってたんですよ」

血糖値990って完全にアントンを超えちゃってます。しかも、ダイレクトな鳥インフルエンザに冒されながらも73歳まで生き延びた松永会長はやっぱり凄い！

「焼き鳥屋をやりたいという夢は昔からあったんだよね。なぜかと言えば、儲かるから（笑）。そりゃ高い肉を買ってきたんじゃあダメだけど、俺は目が肥えているから。プロレスで売店やって焼き鳥を焼いていたから、目が肥えたんだよ」

数年前まで神田で焼き鳥屋をやっていた松永会長。今頃、天国で焼き鳥orヤキソバを楽しそうに焼いてることでしょう。味の素はほどほどに！

「赤いベルトを1億で売ってくれって言われたら？　1億なんかじゃ絶対売らない。あのベルトは10億以上稼いでくれたんだから、いくら出されても売らないよ。10億で買うっていうモノ好きもいないだろうけど、それだけはできないやね」

全女の象徴でもあった赤いベルトことWWWA世界シングル王座。いまはいずこ？

「女子プロレス？　家族以上のものじゃないですか。もう、好きで好きで好きで、たまらないですね。女房、子どもも以上に愛してる。だから、こういうことを語ると、涙が出ちゃう……」

プロレスLOVEといえば武藤敬司でおなじみですが、女子プロレスLOVEといえば、やっぱり松永会長がイチバーン！　合掌。

【参考資料文献】
「女子プロレス 終わらない夢 全日本女子プロレス元会長 松永高司」（柴田惠陽著・扶桑社）

【"女子プロレスの父"松永高司証言集】

北斗晶

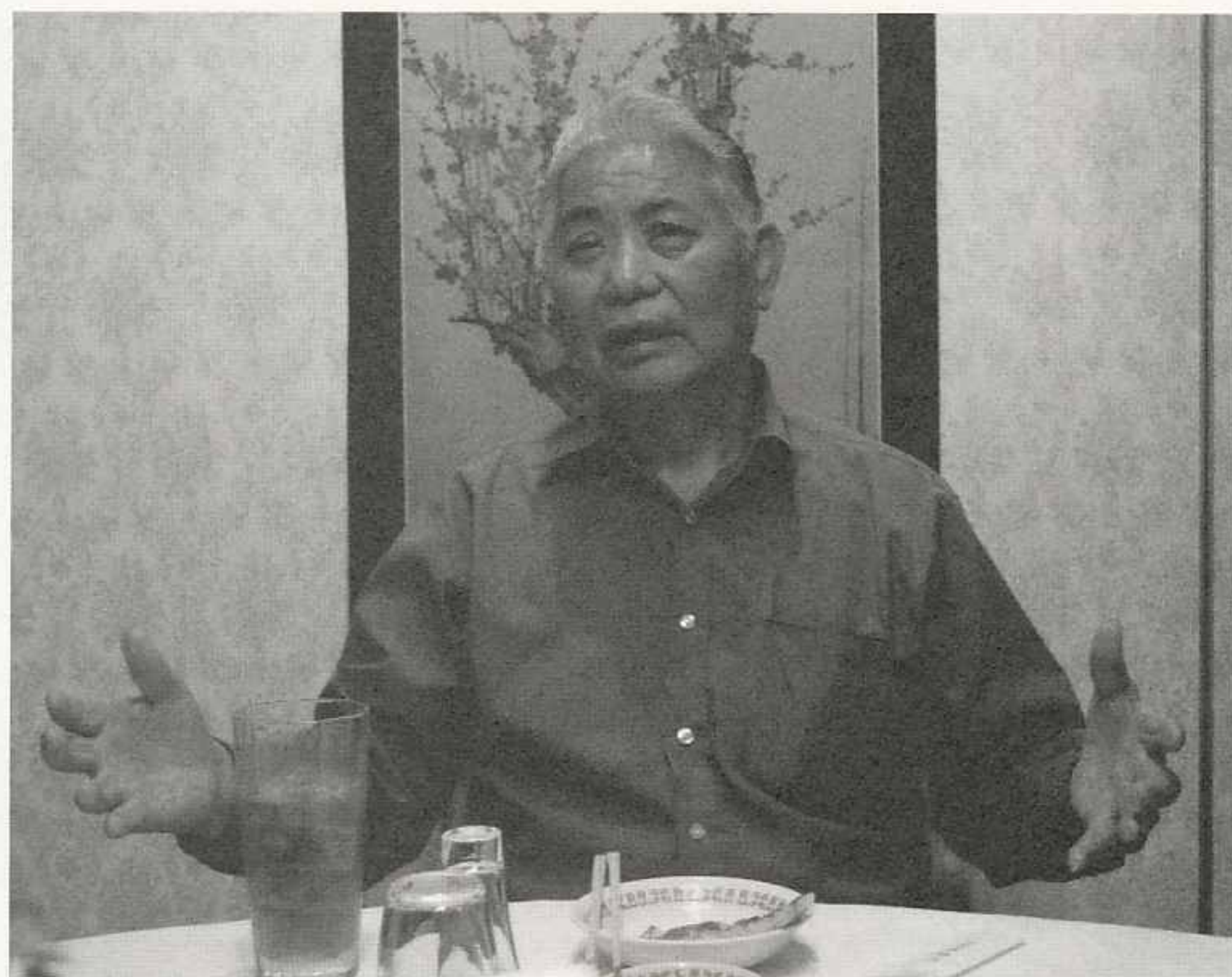
【松永会長追悼コメント】

「もしかしたら（選手・関係者で）一番最近会ったのは私なんじゃないかな。2ヵ月前ぐらいに病院にお見舞いに行ったときも、甘い物も摂らなきゃいけないんで、たい焼きを持っていったらおいしそうに食べてたの。

最後の最後まで女子プロレスをやりたがってたんだよね。最後に交わした言葉も『北斗、おまえが赤いベルトを持ってるのが一番だった。おまえに任せたかった』とか『もう一回だけでいいから、やりてぇなあ』って言ってて。『じゃあ、早く退院してやろうよ』って。それが最後の会話になっちゃったね。

でも、顔を見るまで信じられない。私にとっては国松さんもそうだし、松永兄弟は育ててくれた恩人だからね。一番かわいがってもらったし、『一番手がかかった』って私のこと言ってたけど、『だからかわいいんでしょ？』って言ったら『うん』って。

でもこれでホントに全女が終わったね。誰かが全女をやろうって言っても、もう誰もできないよね。いまの女子レスラーで全女魂を引き継いでる人はいるけど、全日本女子プロレスは誰にもできない。松永高司が全日本女子プロレスだったから」

【7・11／健介オフィス興行後のコメントより】

堀田祐美子

「会長との思い出は山ほどあり過ぎる……。私が25年前に初めて全日本女子プロレスの社長室（当時は社長だった）に挨拶に行ったときから、今年の1・4自主興行に来ていただいたときまで語ったら日が暮れてしまうであろう……。

温厚でいつもニコニコ笑顔。その会長に『お前はクビだ〜』と怒鳴られたことが。若手の頃、同期の事務員と喧嘩をして、その子が『堀田にイジメられたから辞める』と……。会長室に呼ばれ『お前は今日でクビだ!! 俺は弱いものイジメが一番大嫌いなんだ！』と。歌を出して売り出すかという時期に……。そんなことは会長にはお構いなし。本当にクビにしようとしてたみたい!! 理由を説明して誤解は解けてクビにはならなかったけど!! 会長に怒られたのは、それが最初で最後の一回だけだった……。

全女を退団したいと言いに行ったときも『はい!! お疲れ様でした。私はマッハもビューティも辞めると言ってきたときも止めなかったよ』と笑顔!! 女子プロレスは5年〜10年周期で人気がまた来ると信じて夢を諦めなかった会長……。夏になると野外の試合会場で焼きそばのおやじに変身……。甘い食べ物が大好きでいつも大福やらをほおばって食べていましたね……。

一年前、昔から患っていた糖尿病が悪化して『足が痺れるんだよ』と言ったときに足を揉んであげたら『凄く楽になったよ』と……。『今度、家に行ってマッサージやってあげるね』と言ったことが実現されないまま……。

今年の1・4自主興行のときもゲストで来てくれてリングに上がって昔話をしてくれました。私に対して『優しすぎるからこの子は』がいつもの口癖だった……。とにかく、たくさんの思い出がありすぎる。

松永会長!! 私は全日本女子プロレスに憧れ、入門してプロレスラーになりいまもプロレスラーであります!! 『まだやってるの？』って返ってきそうだけど……。会長が作った全女!! 会長が愛した全女!! 私がリングを降りるときまで……全女のプロレスを貫き通します」

【ブログより】

女子プロレスの父 逝く—

ロッシー小川

「全女＝松永会長は古き良き時代の、興行師でありテキ屋みたいな感じだった。そこに理屈は要らない。お金がわんさと儲かって、夢のためにバァ〜と使う。

会長自身は決して派手な生活を好んでいたわけでなかったが、クルーザーを購入したり、自社ビルを建てたり、秩父の山にネバーランドみたいなログハウスを作ったりした。これぞ全女ドリームである。だから選手たちも、それなりに稼ぐことができた。ビューティ・ペアの対決のときには、ファイトマネーを1千万も出したり、東京ドームではボーナス並みのギャラを弾んでいた。全女の経営は37年間、アップダウンが激しかったが、いつも一山当てるという山っ気を持っていた。

小さな街での野外興行から、東京ドームまで、そこに空き地があるなら、どこでも興行を打ってきた。まさにドインディーからメジャーを地でいった。これが全女イズム、会長の逞しさだった。そこで利益率はいいが、大きな収入にもならない焼きそばを一生懸命に販売していた。「こういった細かい利益が大切なんだ」とよく言っていたが、それだけ働き者だったわけだ。泥を飲んでも生き延びる、こんな全女は世の不況をも吹き飛ばしてきたのだ。

会長のことはいくら書いても、書ききれない。数年前、神田でおでん屋をやっていて何度かお邪魔したが、物を売ることが生き甲斐で、人生そのものだったのだろう。昨年、全女は幻の40周年だったが、興行を行なうプランもあった。いつまでも現場が好きだった会長に、晴れ姿を作ってあげるべきだった。それが唯一、悔いが残ることだ」

【ブログより】

【松永会長エピソード集】

今井良晴
（元全日本女子プロレスリングアナウンサー）

「会長の根本的な優しさの原点って、動物愛なんですよね。全女が解散したときに専門誌のインタビューで『次の構想は？』って聞かれたら、『移動動物園だ』って言ったんですよ（笑）。1週間くらいずつ動物を見せながら、日本全国を渡り歩くっていうのがひとつの夢だと。その動物園の一角でプロレスを見せて、それで焼き鳥を焼くっていうわけがわからない構想なんだけど、でも会長らしいんですよ。なぜかというと、会長は人間に対する優しさというより、動物に対する優しさがあるから。動物って直感的だから、会長にもの凄く懐いていて。犬でも猫でも、秩父のリングスター・フィールドで飼っていた鶏やヤギとか、みんな懐いてるんですよ」

【『女子プロレス終わらない夢』（扶桑社）より】

井上京子

「会長がよく言ってたのは『性格悪いほうが売れるんだ』って。私も入ってすぐにそれを言われました。『おまえはブスだから絶対スターになれない』って。それでまず落ち込んで。そのあとも『ブスだ、ブスだ』って言われ続けて、あげくのはてには『おまえは性格が優しすぎるからダメだ。見てみろ、北斗晶もそうだけど、性格が悪いヤツがああやって上に行くんだ』って。まぁ、見る目はあるんでしょうけど、金の使い方がわかってないんだよね（笑）」

【『kamipro』No・135より】

全日本女子プロレスとして最後の興行となったのが05年4月17日の後楽園ホール大会。体調不良のため来場できなかった松永会長は、「もう一度だけ女子プロレスの興行をやりたかった」との夢を持っていたが、残念ながら、その夢はかなうことなく天国へと旅立ってしまった。

志生野温夫
（全日本女子プロレス中継　実況アナウンサー）

「会長たちは、性格とか人間関係を上手く利用して対立関係を作ったと思いますよ。じゃんけんポンでお前はこっち、お前はあっちってやらない。こいつとこいつは相容れないって会長はよく見てますから。コンビを作るのも、ある意味で相容れない2人を組ませるんですから。仲のいい奴は絶対に組ませませんよ。コンビは仲の悪い奴がいいんですって。それで上手く作るんですから見事ですよね。（長与）千種もダンプ（松本）も、あらゆる選手たちが血みどろの抗争をやりながら、会長に対してはいつも従ってた。ある意味では天皇陛下でしたね」

【『女子プロレス 終わらない夢』（扶桑社）より】

豊田魔波

「最後の最後に『おまえいくらか持ってないか？　それを貸してくれ』って会長に言われたんですよ。『それがないと今日会社が潰れる』とか言われて、さすがにそう言われたら出すじゃないですか。その時点で自分はスッカラカンですよ（笑）。その3日後、人づてに倒産したことを聞いたんですけどね」

【『kamipro』No・137より】

福田富昭
（日本レスリング協会会長）

「（最初に会ったときは）いちばんいいときだったんでしょうね。秩父の山の中に施設を作るんだと。そこに人が集まるときはラーメン作って売るんだよって言うので『美味くできるんですか？』って聞いたら『いいんだよ、化学調味料をいっぱい入れればいいんだ』って。そんなバカな話をして。

面白いのはね、あの人は糖尿病が長いじゃないですか。朝、小便をするとき、それをコップにとって自分で舐めてみるんだって。そうしたら甘いって言うんですよ。だから『ええ？』って言ったのね（笑）。兄弟それぞれ性格は違うんですけども、会長は茶目っ気があってとても面白い人ですよね」

【『女子プロレス 終わらない夢』（扶桑社）より】

長嶋美智子

「会長にはよく〝山（秩父・リングスター・フィールド）〟に行かされてたんですよ。あそこにはプールがあったんですけど、よくそこに落とされたりとかしてましたね。Tシャツと短パンで、水かけられるとスケスケになるじゃないですか？　それが見たいがために会長はホースで水かけたりするんですよ。『いや～、パンツが透けとるわ！』とか言いながらよく笑ってましたね（笑）」

【『kamipro』No・135より】

女子プロレス 終わらない夢
全日本女子プロレス元会長 松永高司

「人から見たらバカみたいな人生だけど、ありじゃねぇかな。真似はしないけどね（笑）」
元全日本女子プロレス／デンジャラスクイーン 北斗晶

数多くの超絶エピソードを持ちながらも〝松永会長本〟として一冊にまとめられているのはこの本だけ。08年2月に扶桑社（柴田惠陽著）から発売されたこの本では松永会長が女子プロレスへの終わらない夢を語りまくり。関係者の証言集も必読です！

Mayhem Miller "OBAKA TALK" from L.A.

ジェイソン・"メイヘム"・ミラー

ド派手な入場パフォーマンスと薄ら笑いを浮かべての狂乱ファイトで、日本でも人気のメイヘム。本国アメリカではいまMMAファイターとしてだけでなく、MTVのリアリティショー『Bully Beatdown』や、衛星ラジオ『Meyhem Mondays』のおバカパーソナリティとして人気爆発しているのだ。というわけで今回は"TV&レディオスター"メイヘムの実像に迫る!

聞き手＆撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦
DREAM 入場写真／山口比佐夫

メイヘム　ヘイ、〝オチャカイ〟ヤルゾ！
——お茶会（笑）。なんでそんな古式な日本語知ってるんですか？
メイヘム　日本語のほとんどはバッドワードばかり覚え始めたんだけど、中には逆に丁寧な言葉を教えようとするヤツがいるんだよ（笑）。今日の〝オチャカイ〟では何を話せばいい？
——今日はMMAファイターのメイヘムではなく、テレビ&ラジオ界のスター、メイヘムについてインタビューをしたいんですよ。
メイヘム　バカなハナシだな。
——そうです。バカな話をしていただこう、と（笑）。アメリカではすっかり、ラジオDJとして有名人なんですよね？
メイヘム　まあね。最近髪の毛を短く切って、あご髭を伸ばし始めたから、以前よりは気づかれなくなったけどね。今朝までハワイに行ってたんだけど、ハワイではみんなに追い回されて大変だったから、帽子にサングラス姿で、周りに人がいるときは話さないようにしていたんだ。
——声だけでバレちゃいますか。
メイヘム　声とあとは話している内容だね。以前、友だちと飛行機に乗って、二人で冗談を言い合ってたら、数席前に座っているヤツがうしろを振り返って「メイヘム！　いつもラジオを聴いてるぜ！」って話しかけてきたんだ。顔は知らなくても声とバカな話でオレだってわかったらしいんだよ。
——「こんなバカなこと話しているのは、メイヘムに違いない」と（笑）。
メイヘム　顔は知らなくても、声だけでわかってくれるなんて嬉しかったよ。でも、今回ハワイに行ったときは、人ごみに行くと「へ〜イ、ジェイソン！」って声をかけられて、マクドナルドにも行けなかった。もちろんファンは大好きなんだけど、たまにはバーガーだけがほしいってときもあるからね。
——おちおちハンバーガーも買いにいけないほどですか。MMA界の異端児が、どのようにしてテレビ&ラジオ界のスターになったんですか？
メイヘム　今年2月撮影した、いじめっ子を格闘家に挑ませるリアリティショーが4月に放映されたんだけど、そのときから急激に人気が出て、いまに至ってるんだよ。あと、ラジオショーは長いあいだやってるんだけど、そのプログラムを聴いたテレビプロデューサーから声がかかって番組を持てることになったんだよ。
——インターネットラジオの評判から、テレビ出演が決まり、人気が出たわけですか。
メイヘム　そういうこと！

Mayhem Miller

オレが友だちとバカな話をしてるだけで声とバカな内容で周りに気づかれちゃうんだ（笑）

——で、そのラジオ番組ではおバカなことばかり話してるらしいですけど、どんな内容なんですか？
メイヘム　すべてくだらないことだよ。ゼンブバカ！
——全部バカ（笑）。
メイヘム　たとえば女の子とどうやって知り合い、どう付き合えばいいかとか、あとはファイティング、スケートボーディングなど、主にティーンエイジャーが興味の

と「ヘ～イ、ジェイソン！」って声をかけ
を格闘家に挑ませるリアリティショーが
メイヘム　そういうこと！
グなど、主にティーンエイジャーが興味の

オレにはティーンエイジャーたちをクレイジーに導く使命があるんだ（笑）

あることを話してるんだ。

――リスナーのターゲットはティーンエイジャーが中心なんですか？

メイヘム　ティーン向けではあるけど、実際に聴いている層は幅が広くて、かなりアダルトな内容も話したりする。番組のリスナーは「ＭＡＮ」と「クレイジーウーマン」だね（笑）。

――男とクレイジーな女性ですか（笑）。

メイヘム　すべての男はクレイジーで、バカで、スケベだからね（笑）。

――ラジオ番組を始めたのは、いつ頃からなんですか？

メイヘム　もともとは、プロフェッショナル・スケートボーダーの友だちが格闘技を習いたいって言ってきたんだ。で、チーム・クエストで一緒に練習を始めたんだけど、格闘技はイマイチだった。でも、いろんなテクニックを教えると同時に、いつもバカな話ばかりしていたら、「ラジオ番組の収録に来いよ！」っていう話になったのがきっかけかな。「メイヘムはいつも話しっぱなし、笑いっぱなしだ」ってことでね。

――テレビ番組のほうのターゲットはどんな感じなんですか？

メイヘム　基本的にヤングガイが対象で、自分はアメリカのティーンエイジャーの男たちへの“ボイス（声）”になりたいんだ。ヤングガイがクレイジーになるためには、何かのきっかけが必要だけど、そいつらに対してエンターテインするのが自分の使命だと思っている。

――サテライトラジオでは放送コードの制限があまりないので、下品な言葉も使えるでしょうが、テレビはそうはいかないんじゃないですか？

メイヘム　もちろん、ラジオと同じことをしゃべったら大変なことになる（笑）。だからテレビではクリーンな言葉を使うように心がけているよ。それもあって視聴者の年齢層はラジオよりもスコシ若いね。たまに8歳の子どもがテレビ番組を観てコメントを寄せてくるときもあるんだよ。

――きっと俗悪番組呼ばわりされてるんでしょうね（笑）。

メイヘム　ダマレ！（笑）。

――いま格闘技のファンとテレビのファンでは、どちらが多くなってますか？

メイヘム　いまはテレビのファンのほうが間違いなく多いよ。テレビというメディアは、ラジオと比べものにならないほど大きいネットワークを持ってるからね。

――ラジオ番組はどのステーションで放送されてるんですか？

メイヘム　サテライトラジオのシリアス28とＳＭ25という局だね。

――ＭＭＡファンとテレビファンの違いはわかりますか？

これがシリウス衛星ラジオで放映されている、おバカ番組『メイヘム・マンデーズ』の収録風景。ハリウッドにある小さなラジオスタジオから、世界に向けておバカなトークをぶっ放しているのだ。

メイヘム　ファンが声をかけてきたとき、ＭＭＡファンは「アイ・ラブ・ユア・ファイト！」っていう感じだけど、テレビのファンはいきなりバカなジョークを飛ばしてくるんで、すぐにわかるんだ。俺はたまにアメリカ国内向けのファイトマガジンの記事を書いたりするんだけど、その記事に対してもファンがいてね。自分の人生の個々の面であるファイティング、ラジオ、テレビが一緒になって、自分のキャリアが急速に展開していっているのに、驚きも感じているよ。

――それらは自分の描いているキャリアパスなんですね。

メイヘム　そりゃ、一生他人の頭を蹴り飛ばしてはいられないからね（笑）。格闘技はどこかで辞めなければならないだろうし、そのときはほかに何かしないといけないからね。そういう意味では、自分は格闘技以外のことをする準備ができているんじゃないかと思うよ。

――では、ＭＭＡマガジンなんで一応、格闘技の話もちょっと聞きますか。

メイヘム　一応かよ！（笑）。

――前回のＤＲＥＡＭの試合は、入場のダンスが最高でした。

メイヘム　まあ、オレにはファイティング、トーキング以外に、ダンシングという才能もあったということだな（笑）。

――須藤元気選手は入場の際にダンスをすると、エネルギーを消耗するって言ってたんですけど。

メイヘム　そうなのか？　オレはコンディショニングがよかったし、ウォームアップにちょうどよかったけどな～（笑）。コンディショニングも良くて、ダンスで盛り上げたのに、あんな試合になってしまって（ノーコンテスト）悲しかったよ。

――メイヘムから見て、須藤元気選手や郷野聡寛選手の入場はどう思いますか？

メイヘム　サイコー！　ゲンキ・スドーはＭＭＡで初めて入場にエンターテインメントを導入したオリジナルだからね。彼のビッグイベントでの入場は、「ライオンキング」のショーを観ているかのようだったよ。そして、ゴーノはそれを、おバカ方面に一歩レベルを上げたんだ。

――おバカ方面にレベルアップ（笑）。

メイヘム　でも、その価値をＵＦＣは理解できなかったようだね。前回のザ・スプリームスのモノマネは最高だったよ。カツラとドレスでなりきってて。

――あれはザ・スプリームスのマネをした、日本の矢島美容室のマネなんですけどね（笑）。

メイヘム　あそこまでやってくれるんだから、ＵＦＣもちゃんとした入場ゲートやステージを準備してあげればいいのに、普段、清掃員が使う裏の出入り口からの入場でかわいそうだったよ（笑）。

――メイヘムもジャカレイとの再戦では、入場だけじゃなく、試合でも魅せてくださいね（笑）。

メイヘム　アタリマエダ！（笑）。前回の試合は、去年みたいにジャカレイにグラウンドでコントロールされなかったし、すぐに自分のポジショニングができたから、いい試合になると思ったんだ。でも、グラウンドから立ち上がって、キックを打ち込むテクニックのタイミングが悪くて、反則になってしまった。チクショー！

――再戦に向けて、どんな練習をしているんですか？

メイヘム　ジャカレイ戦に向けてスペシャルなトレーニングもしているよ。柔術家にグラウンドで押さえ込んでもらって、

Mayhem Miller

UFCと契約したら、バカなことできなくなるからファイターとして興味はないよ

エスケープのテクニックを磨いたり、テイクダウンディフェンスの練習を積んだりね。とにかくカギはテイクダウンと柔術、コンディショニングになるだろう。

――メイヘムもちゃんと試合のこと考えてるんですね（笑）。

メイヘム　アタリマエダ！　フザケルナ！（笑）。

――ミドル級は世界的に強い選手が揃ってますけど、現在の世界トップ3は誰だと思いますか？

メイヘム　アンデウソン・シウバ、ジャカレイ、そしてメイヘムだね。

――秋山成勲選手のことはどう思いますか？

メイヘム　あいつはビーストだね。「バケモノ」になる可能性もある。いつか彼とバカな試合をしたいよ。

――バカな試合（笑）。UFCには興味ありますか？

メイヘム　どうかな？　ファイターをコントロールしすぎる対応もよくないし、UFCに関連する人たちがみんなハッピーとは思えないんだ。UFCはアメリカで最大のMMA団体だから、好き勝手なことができちゃうからね。でも同時に、それが永久的に続くなんて考えられないしね。いまは日本のDREAMで闘いながら、テレビやラジオとか好きなことができてるんで、とくにファイターとしてUFCに興味はない。さっきも触れたとおり、オレはキャリアパスとしてファイティングだけじゃなく、ほかに大きなプランがある。ファイティングは大好きだし、できるかぎりはやっていたいけど、ファイティングだけになってしまうのは嫌なんだよ。

――UFCと契約すると、いろんな縛りが生まれるんでしょうね。

メイヘム　オレがバカなことできなくなる（笑）。だって、UFCは「EAスポーツ」というビデオゲームの会社とMMAに関連する契約をした選手は一生UFCで試合ができないって言ってるんだよ。オレもそんなこと知らずにサインしちゃったしね。

――あ、そうなんですか⁉

メイヘム　それを知ったときはちょっと驚いたけど、オレは「あっ、そう」って感じで、全然悲しくなかった。でも、将来UFC参戦を考えてたファイターが知らずにサインしてたらかわいそうだよね。

――それは悲惨ですね。やっぱりUFCの独占市場になるのは、問題がありますね。

メイヘム　バカなことタクサンある！　オレはあんまり関係ないけどね。

――メイヘム自身は、プロのファイターとして、またプロのエンターテイナーとして次のステップはどう考えていますか？

メイヘム　いまファイティングとタレント活動の両方ができていることに幸せを感じているし、これからも両立させていきたいよ。スケジュールが許すかぎり、ファイティング、ライティング、エンターテイニングとすべてをこなしていきたい。いまよりもより大きなレベルでね。ライティングに関してはファイティング雑誌の記事以外に二つの本を書いてるんだ。一つは自分自身のこと、もう一つはフィクション系のMMAでの友だちに関するものだけどね。

――エッセイと小説まで書いてますか。では、将来の夢は？

メイヘム　何を言ってるんだ。いますでに、その夢に乗って生活してるんだよ！　ゴールはもっと大きくしたいけどね。とにかく、いまやっているすべてのことをよりビッグにしたいし、記憶に残る忘れられないものにしたいんだ。まあ、そのうち恋に落ちて、大失恋するかもしれないので、そのときはみんなが観たがるように、すべてビデオに収めるよ。

――自分の失恋ドキュメンタリー番組まで作りますか（笑）。

メイヘム　あとは、みんなが読みたがる本も書いているから、楽しみにしていてほしい。

――では、また日本でお会いできるのを楽しみにしていますよ。

メイヘム　オレも日本が大好きだから、また行きたい。ちゃんと名前入りのPASMOだって財布の中に入ってるんだぜ（と言ってPASMOを見せる）。

――ホントだ。アメリカにいる際も財布にPASMOを入れてますか（笑）。

メイヘム　だから次の試合前にもチャンスがあったら日本に長期滞在したいけど、8月の日本は気候がサイアク！

――蒸し暑いですよね。

メイヘム　だから秋にジャカレイと試合をしたあと、東京にウィークリーマンションを借りて、アメリカで新しいテレビ番組が始まるまで、しばらく滞在したいね。去年は五反田駅の近くにあるウィークリーマンションに滞在したんだけど、JRや地下鉄が乗り入れてて、どこに行くにも便利だった。またあそこに住むのもいい。

――メイヘムは五反田の住人でしたか（笑）。ちなみに日本語はどうやって覚えたんですか？

メイヘム　去年、日本に2カ月間住んでたのがきっかけで覚えたんだ。でも、周りがキタナイ言葉ばかり教えたんだ（笑）。

――では、もっと日本語がうまくなったら、日本でもおバカなラジオ番組をやってくださいよ（笑）。

メイヘム　それはイイ！　ニホンのバカナハナシ最高！　ハッハッハッハ！

【09年7月7日／米国カリフォルニア州ロサンゼルス市内のホテル、プールサイドにて収録】

JASON"MAYHEM"MILLER■1980年12月24日、米国ネバダ州ラスベガス出身。01年MMAデビュー。チーム・クエストで磨いた寝技の強さと、薄ら笑いを浮かべながらのファイトで狂乱のサイコスターと呼ばれる。元ICONミドル級、現kingdomMMAミドル級王者。185cm、84kg。

rren

KIDを破った超レスリングエリート
DREAMフェザー級GP優勝候補はこの男だ!!

「MMAのテイクダウンに革命を起こす!」

ジョー・ウォーレン

Joe War

今年、レスリング世界王者の実績を引っさげ、DREAMフェザー級GPに出場。
しかし、出場選手中唯一MMAの試合経験がなかったため、一部で噛ませ犬扱いされていたが、
1回戦で元WEC王者チェイス・ビービを破り、2回戦では山本“KID”徳郁まで撃破。一躍、優勝候補筆頭に躍り出たウォーレン。
この男のポテンシャル、どこまで高いのか。ラスベガスでこのスーパーアスリートを直撃した。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／乾晋也

——今日は「KIDを破ったウォーレンとは何者か？」という企画なんですよ。

ウォーレン　そうなのかい？　ナイスな企画だね！

——DREAMフェザー級GPの初戦で元WEC王者チェイス・ビービを破り、2回戦では山本〝KID〟徳郁選手まで破ったことで、一躍注目の的となっているんですよ。

ウォーレン　日本のメディアにこのようなインタビューをしてもらえるなんて光栄だよ。レスリング時代からそうなんだけど、試合をするときはいつも強いハートで、110パーセントのパフォーマンスができるように心がけているんだ。日本のファンにも、そういう部分が伝わってくれていればとても嬉しいよ。

——では、あらためて先日のKID戦を振り返ってもらえますか？

ウォーレン　実力、人気ともにトップのグレートチャンピオンであるKIDヤマモトと闘える時点で光栄だったから、勝つことができて本当に嬉しいんだ。KIDのテクニック、とくにムエタイのストライキングやキッキングのレベルの高さには驚いたよ。どうやって防御したらいいかさえもわからなかったから、痛みを我慢して前に出ることぐらいしかできなかった。その後、練習を積んで先週やっとムエタイ技術の対応を覚え始めたぐらいでね。

——ムエタイスタイルはまったくの未知でしたか。

ウォーレン　それまでストライキングの練習は積んでいたけど、ほんとどがボクシングで、ムエタイは疎遠だった。試合前にKIDの闘いをVTRで研究したけど、それまでKIDがムエタイスタイルで闘うシーンなんて、観たこともなかったんだ。

KIDは素晴らしいストライカーだけど一発のパンチで俺が倒れることはないよ

——確かにそうですよね。

ウォーレン　KIDはそれまで左のフックでKOしているのがほとんどだったからね。ボクもずいぶんKIDのパンチをもらってしまったんだけど（笑）。とにかくKIDとの試合は学ぶことがたくさんあって感謝しているんだ。

——でも、打撃の対応が不充分なままで、よく勝てましたよね。しかも、デビューしたばかりでKIDのような大物に。

ウォーレン　勝因の一つには精神面での強さも影響したんだと思う。ボクは子どもの頃からレスリングで、ハードかつビッグなイベントを経験しているからね。ワールドカップファイナル、パンアメリカンファイナルなど、とくにここ9年間は、ワールドチャンピオンシップのファイナル、世界各地へ遠征して、大きな会場で大観衆の前で最高のパフォーマンスを見せてきたから、それが自信になっているんだ。

——プロのキャリアが短くても、気後れするようなことがなかった、と。

ウォーレン　そうだね。MMAのキャリアは短くても、大観衆の前で闘うという経験は、誰よりも持っているつもりだよ。

——へんな話、2回戦でKIDの相手にあなたが選ばれたとき、プロモーターがKIDを勝たせたくてMMAキャリアの短いあなたを相手に選んだんじゃないかと思った人もいたと思うんですよ。

ウォーレン　ハハハハ、それはボクも思ったよ（笑）。

——ご自身でも思いましたか（笑）。

ウォーレン　おそらくアメリカ人のレスリング・ワードルチャンピオンが、KIDにこてんぱんにやられる姿をファンに見せたかったんだろう（笑）。ただ、自分のコーチ陣はDREAMに対して、このカードはバッド・マッチアップだって言ってたんだよ。ボクはMMAのトレーニングを始めてから毎日の練習で、レベルが向上していることを実感できているし、それが自信にもなっている。今日だってこのあとの練習後には異なるファイターになってるはずだよ。

——そこまで急成長してますか（笑）。

ウォーレン　やはり人間、何かうまくできるようになると、そのことが好きになったり、自信を持ったりする。ボクも最近、とてもいいパンチが打てるようになって、MMAのトレーニングがどんどん好きになっていっているんだ。フェザー級GPの決勝大会では、二つのベルトを獲って、できるだけ長く防衛していきたいよ。

——でも、優勝するには一日に2試合やって勝利する必要がありますよ。

ウォーレン　たった2試合だろう？　MMAとは比較できないかもしれないけどレスリングでは5～6試合を一日にこなすのがあたりまえなんで、まったく問題ないよ。

——KID選手はあなたと同様に、レスリングがバックボーンですが、同じバックボーンであることでやりやすい面はありましたか？

ウォーレン　お互いに子どもの頃からレスリングをしていて、KIDはフリースタイル、自分はグレコと異なるけど、レスリング勝負には自信があったね。それにKIDは素晴らしいストライカーだけど、KIDを含めて一発のパンチで自分が倒れることはないと信じていたんだ。それぐらい自分の首は強いと思うしね。ただ、MMA2戦目ということもあり、試合の展開がまったく読めなかった。だから、これからもっと経験を積んでいきたいし、その中でKIDとの再戦もいいんじゃないかと思っている。できたら一緒にトレーニングするのも興味があるんだ。

——バックボーンが同じですから、参考になる部分も多いでしょうしね。

ウォーレン　KIDはチャンピオンだからね。また、競技は違うけれど、ボクもそのチャンピオンになること、長いあいだチャンピオンでい続けることが、どれだけ大変かは理解しているつもりさ。長いあいだ厳しい鍛錬に耐え、精神的にもタフで本当の戦士でなくちゃいけないからね。そういうKIDが対戦相手だったからこそ、最後までタフな試合を見せることができたんだと思う。

——では、あなたのバックボーンであるレスリングについて聞きたいのですが、オリンピックに対する思いはどんなものがありますか？

ウォーレン　2004年に行なわれたオリンピックトライアルは、全米第2位で代表の座を逃してしまったんだけど、ぜひ2012年のオリンピックトライアルに挑戦したいと思っている。自分では自信もあるし、代表の座を勝ち取ると信じてるんだ。レスリングを始めたのは小学校5年生のときからで、その頃からの夢がオリンピックで金メダルを獲ることだったからね。いまはDREAMのトーナメントの

Joe Warren

スカウトしたダンヘンが語る　ウォーレンの強さと可能性

ジョー・ウォーレンをMMAにスカウトしたのが、ダン・ヘンダーソンだ。ウォーレンと同じグレコローマン・レスリング出身で、MMAのトップファイターとして長らく君臨するダンヘンは、ウォーレンのどこに才能を見いだしているのか。

——ジョー・ウォーレン選手の強さについて聞かせてください。

ダン　ジョーはチーム・クエストの中で、誰よりもベストありたい、最強といわれるファイターを倒したいという意思が強いんだ。素晴らしいアスリートで、毎日のハードトレーニングを一つも苦にせずこなして、MMAの技術も目に見えて上達していている。MMAデビューから2戦ともトップレベルのファイターと対戦し、その素質を充分に見せることができたんじゃないかな。このままいけば、近い将来、世界でトップのファイターになれると信じているよ。

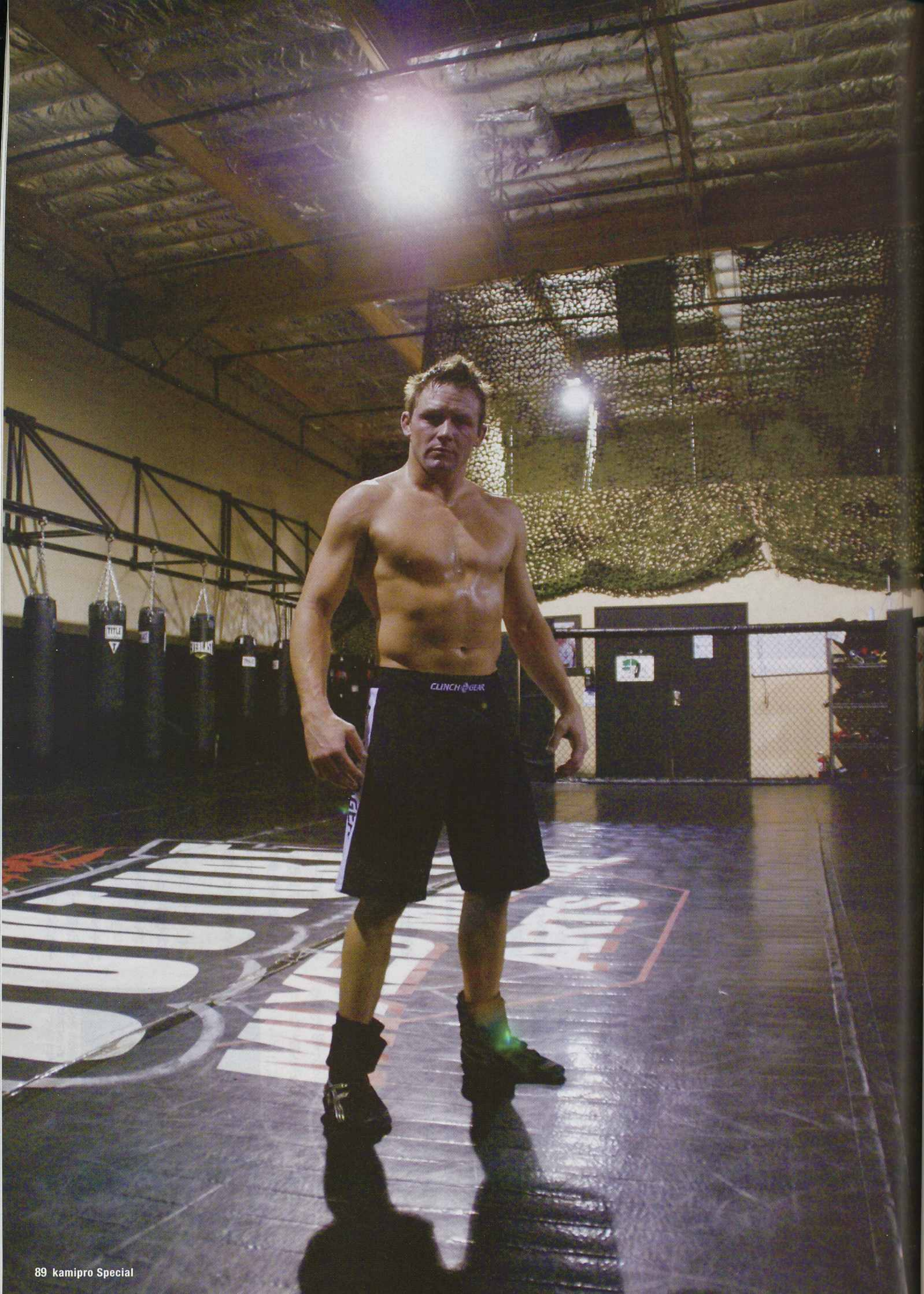
——彼のテイクダウンはとても独特だと思うのですが。

ダン　ジョーが使うテイクダウンはグレコからきているもので、グレコのレスラーなら知っているものだよ。自分も試合ではクリンチと織り交ぜて多用している。でも、とくにテイクダウンがうまいプ選手の中でも、彼はグレコのトップから、相手にとってはディフェンスしづらいタフなアタックになっているよね。

——山本KID戦でのゲームプランはどのようなものでしたか？

ダン　とてもシンプルなもので、常に正面に立ち、テイクダウン、パウンドという流れで休まずにアタックし、常にゲームを支配することだった。そして肉体的にも精神的にもダメージを与えることだったんだよ。この明確なプランと、それを実行するだけの力があったから、試合前からジョーが勝つだろうと想像できたんだ。

——今後、どんな面を伸ばしていくべきだと思いますか？

ダン　ストライキング、サブミッション、サブミッションディフェンスなど、学ぶべきことはたくさんあるよ。いまは相手に捕まえられないこと、パンチをもらわないことなどは身につけてきたんだけど、とにかく毎日の練習で目に見えようによくなってきてるから、今後どれだけMMAのテクニックを習得できるかがますます楽しみだね。とんでもないファイターに成長する可能性を充分に秘めているよ。

DREAMフェザー級GPでは、レスリング力には定評があるKIDを何度となくテイクダウンしたウォーレンのタックル。グレコ世界王者がMMAのテイクダウンを変えるか?

メダルを勝ち取り、ほかにもMMAのタイトルを総なめにしてから、2012年のオリンピックでレスリングのキャリアを終えたいと思っているんだ。

――あなたをMMAの世界に導いたダン・ヘンダーソンも、かつてはMMAに参戦しながらオリンピック出場を狙ってましたね。

ウォーレン　そうだったね。ダン、ランディ(・クートゥアー)、マット(・リンドランド)は、自分と同じコロラドにあるオリンピック・レスリング・トレーニングセンターのチーム出身なんだよ。しかもみんな同じグレコローマンのね。ご存知のとおり3人ともオリンピック代表となり、マットは銀メダルを獲得しているんだ。彼らのような先輩がいるからこそ、ボクがMMAをやり始めたことは確かだね。

――ほかにも現在MMAを行なっているレスリング仲間っているんですか?

ウォーレン　UFCに参戦中のジョシュ・コスチェックはとてもいい仲間でカレッジ時代には一緒にレスリングをしたことがあるんだ。先週も電話で話したばかりだよ。

――そのコスチェックら、アメリカを代表するレスリング選手がオリンピックではなくMMAを目指すようになったのは、金銭的な問題があったと聞きますが。

ウォーレン　確かにアマチュアレスラーとしてオリンピックを目指し続けるのは、経済的にとても大変なことだ。生活費だけじゃなく、練習のための費用、さらに遠征費も自分で負担しなければならないわけだからね。でも、いまではMMAの試合をすることで、生活費を稼ぐことができるようになったし、ぜひ次のオリンピックに出場して、自分や家族のために闘いたいと思っているんだ。

――レスリングとの両立はできるものなんですか?

ウォーレン　MMAはまだ始めたばかりで、現在はMMAのトレーニングにフォーカスしているけど、自分の人生すべてがレスリングだったし、またそのトップレベルにいたので勝つためには何をすべきかを知ってるんだ。現在、レスリング、柔術、ストライキングとMMAの練習を行なっているが、オリンピックなど大きな大会の1年前からは、フォーカスをレスリングに切り替えて、毎日レスリングの練習をするようになるだろうね。オリンピック以外にもスケジュールが合えば、ワールドカップなどにも参戦していきたいんだ。

――ウォーレン選手は、レスリングでテイクダウンの記録を持っているらしいですね?

ウォーレン　高校時代に1シーズンにおけるテイクダウンの記録を作ったんだ。その内訳は、1シーズン計52試合のテイクダウン数が487回だった。これは各試合10回のテイクダウンを奪っていた計算になるんだよ。それまでの記録は約250回だったから、一気に倍近い数字を記録したんだ。

――一気に倍ですか! 一試合10回テイクダウンというのも、とんでもない数字で

ウォーレンの打撃コーチは、〝ザ・スネーク〟のリングネームでPRIDEにも上がったシリル・ディアバテ。マンツーマンのコーチングで、打撃能力も目に見えて向上しているという。

俺にはあらゆるタイプの選手からテイクダウンを奪う技術と知識がある

Joe Warren

すね。

ウォーレン　記録が残せたことは、とても幸せだったし、光栄でもあった。でも、この記録はフリースタイルでのものなんだ。ボクはいまグレコの選手だけど、フリースタイルでも実力があるのが証明できるだろう？　ちなみにグレコに変えたのは、ミシガン大学に行ってからなんだ。

――なぜフリースタイルからグレコに変えたのですか？

ウォーレン　子どもの頃から毎日フリースタイルの練習をしてたんだけど、大学に入ってからあと8年はレスリングをやろうと決め、勝つためにどうするか考えたとき、グレコにも挑戦してみたくなったんだ。周りからは「無理だからやめたほうがいい」と言われたよ。ちょうどいまレスリングからMMAに参戦し始めたときと同じようにね。

――いまMMAファイターのテイクダウンディフェンスの技術が著しく向上していますが、誰からもテイクダウンを奪う自信はありますか？

ウォーレン　もちろん（キッパリ）。自分のテイクダウンとほかのMMAファイターのテイクダウン技術はまったく違うものだ。ほかのファイターはダブルレッグ（両足タックル）か、シングルレッグ（片足タックル）かの違いはあっても、だいたい足にアタックするタックルばかりだ。でも、ボクはボディにアタックする。足は動くけどボディはすぐに動かせないからね。ボクのテイクダウンを防ぐことはできないんだ。

――グレコのトップ選手であるウォーレン選手ならではのタックルというわけですか。

ウォーレン　MMAもレスリングも常に技術が向上していくプログレッションスポーツ。ハイレベルな試合になれば、当然僅差の勝負になるので、自分の得意な技をいかに有用できるかだと思う。ボディへのアタックはグレコのテクニックだけど、いままでMMAではテイクダウンといえばシングルレッグ、ダブルレッグというイメージが強すぎたんだと思う。新しく出てくるファイターというのは、何か特別なものを必ず持っている。新しいテクニックを持った人間に、古い人間はかなわないものなんだ。プログレッションスポーツとは、そういうものなんだ。

――そして自分こそが、MMAに新しいテクニックを持ち込んだ男だ、と。

ウォーレン　ボクという存在がMMAに現われたことで、このスポーツのテイクダウンという概念が覆されるだろうね。革命を起こすよ。それにボクは子どもの頃からレスリングに取り組んでいるから、どんな試合、どんな選手を観ても「どうやってアタックしたらいいか」という目で観察するクセがついているんだ。だから、あらゆるタイプの選手からテイクダウンを奪う技術と知識がある。そこがほかのMMAファイターとの大きな違いだよ。

――テイクダウンを奪ったあとのグラウンドテクニックはどうですか？

ウォーレン　いろいろとテクニックを身につけてきているよ。先週よりも今週のほうがよくなっているのが実感できるほどなんだ。だから練習するのが楽しくてしょうがない。でも、まだまだトップクラスの寝技に対応するには時間がかかるだろうから、そのためにも毎日欠かさずテクニックのドリルを含めた、グラウンドの練習をしていかなければならないと思っているよ。

――次の相手は所英男選手になる可能性があります。彼はサブミッションが素晴らしい選手ですが、どう評価していますか？

ウォーレン　グラウンドゲームが得意で素早い動きをするよい選手だということは知ってる。ただ、ボクは彼との試合をまったく恐れていないよ。逆に彼はどうやって自分と闘ったらいいか、しっかり対策を練っておかないと大変なことが起きるということを伝えておいてほしい。自分には勝利を導く明確なゲームプランがあるので、対戦相手が誰であろうがそれを実践するだけなんだ。もちろん柔術王者であるビビアーノが相手でもそれは同じことだよ。とにかく自分の試合にフォーカスしてコントロールすることが重要なんだ。ハイレベルな試合では、メンタルゲームが勝敗を支配するからね。

――KID選手の打撃をかなりもらっていたにもかかわらず、必ずクラッチしてテイクダウンにいっていたのは、それを証明しているんですね。

ウォーレン　じつは自分の家に帰り、あらためて試合のビデオを見直すまで、あんなにパンチやキックをもらっていたなんて知らなかったんだ。一度だけKIDのカカトが胸に入ったときは痛みを感じたけど、それ以外は何も感じなかった。ビデオを観たとき「えっ⁉　こんなに食らってたの？」って驚いたと同時に、そのあと痛みを感じ始めたぐらいだよ（笑）。グレコローマンは脇腹を強化するので、ミドルキックの痛みを感じなかったんじゃないかな。

――現在はどのような分野を強化する練習をしてるのですか？

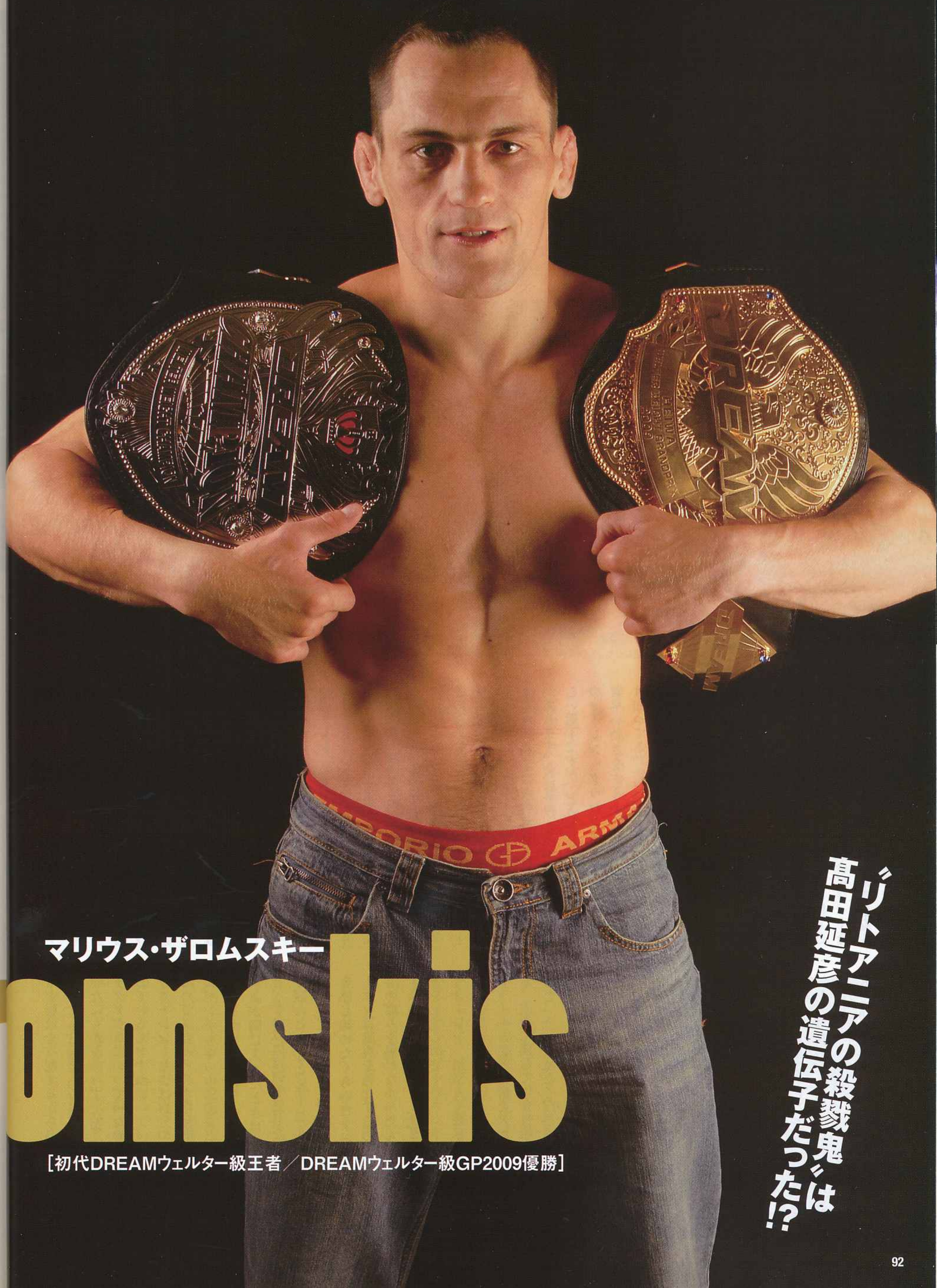
ウォーレン　MMAで要求されるすべてのことを学んでいるけど、いまは毎日毎日ストライキングと柔術を欠かさず練習している。柔術に関しては今日現在は相手を極めるというのではなく、バスター等でいかに逃げ、コントロールし、パウンド等でダメージを与えるというような〝バイオレント柔術〟で、ブラジリアンのそれとは異なるけどね。我々がやっているのは、レスリングをベースにMMAで勝つことなので、ほかと異なっても当然だと思っている。

――では、フェザー級GP決勝に向けて、日本のファンにメッセージをお願いします。

ウォーレン　またエキサイティングな試合をするので、楽しみにしていてほしい。必ずチャンピオンになって、できるだけ長く日本で試合をしていきたいので、応援よろしく！

【09年7月9日／米国ネバダ州ラスベガス、エクストリーム・クートゥアーにて収録】

JOE WARREN■1976年10月31日、米国ミシガン州出身。10歳でレスリングを始め、05、06年に全米選手権2連覇、グレコローマン全米最優秀選手に選ばれるなど、輝かしい実績を挙げる。07年にはワールドカップ60キロ級でも優勝。08年にMMAの練習をスタートし、現在2戦2勝。168cm、62kg。

“リトアニアの殺戮鬼”は
髙田延彦の遺伝子だった!?

マリウス・ザロムスキー

romskis

[初代DREAMウェルター級王者/DREAMウェルター級GP2009優勝]

「あのハイキックは北尾戦へのオマージュだ」

Marius Zaro

ウェルター級GPを制覇したのはリトアニアの妖刀使い！
「優勝は使命」と宣言したマッハを左ハイ、そしてまさに返す刀のように
決勝では右ハイでジェイソン・ハイを叩き斬ったザロムスキー。
バク宙キックやコスプレ姿での入場など、謎の多いファイターの喜びの声をお届け！

聞き手／鈴木佑　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

—このたびはDREAMウェルター級GP優勝おめでとうございます！　優勝後のインタビューでは「まだ夢の中にいるようだ」って言ってましたけど、一夜明けて気分はどうですか？

ザロムスキー　……うん？　あぁ、まだ夢の中みたいだね（眠そうな表情で）。

—あれ、本当に夢の中にいるみたいですね（笑）。興奮して眠れなかったとか？

ザロムスキー　いや、昨日はゆっくり寝たんだけど、取材が多くて疲れちゃって（笑）。でも、いまだに自分が優勝したなんて信じられないよ。まさに僕にとってはDREAM（夢）が実現した感じだね。

—昨日は試合後に祝勝会を兼ねてビーフステーキを食べに行ったそうですね。

ザロムスキー　うん、仲間たちとみんなでね。いつも試合後はエネルギーを回復させるためにけっこうパンチの効いたものを食べに行くんだけど、やっぱりビーフステーキが一番だね！　優勝して食べるステーキはいつもよりもおいしかったな〜（しみじみと）。

—その優勝の喜びは家族や大切な人には伝えましたか？

ザロムスキー　うん。家族はもちろん、恋人にも連絡したよ。凄く喜んで、「早く帰ってきて」って言ってくれてね（照）。もしかしたら、僕より喜んでるかもしれない。彼女は31歳で僕より年上で、いつも「あなたがチャンピオンになるのよ」って僕のことをサポートし続けてくれたんだ。

—じゃあ、優勝賞金で彼女にプレゼントを買ってあげないといけませんね！

ザロムスキー　そうだね。何か驚かせるようなものを買ってあげたいな（笑）。

—さて、昨日の試合を振り返ってもらいたいんですが、準決勝の相手は今回のGPの主役と言っても差し支えない、桜井〝マッハ〟速人選手でした。

ザロムスキー　マッハのことはPRIDEの頃から観てるし、僕の中ではレジェンド的な存在なんだ。経験が豊かでグラウンドもスタンドのスキルも優れてる選手に、ああいうかたちで勝利できてよかったよ。

—マッハ選手は「こっちの攻撃も効いてると思って、パンチで倒そうと焦ってしまった」と語っていましたが、実際はどうでしたか？

ザロムスキー　確かにマッハのパンチは重かったね。でも、僕は試合が始まるとスイッチが入ったように一点集中できるんだ。そうすると、ある程度のパンチを受けたとしても耐えることができる。ただ、スイッチがオフになって油断すると、パンチ一発でKOされる可能性もある。そういう意味では昨日の僕は運がよかったと思うね。それにスタンドのスキルなら僕のほうが勝っていたと思うんだけど、マッハがこっちの土壌で勝負してくれたのもラッキーだったね。

—最初に奇襲攻撃のように跳びヒザを出しましたけど、ザロムスキー選手の闘い方が変則的なのは戦略どおりなんですか？　それとも本能的なものなんですか？

ザロムスキー　もちろん、試合前にはちゃんと相手の資料を見て研究するよ。バックボーンがレスリングなのか柔術なのかキックボクシングなのか、その特徴をつかんでゲームプランを立てる。でも、試合になれば作戦どおりなのは最初だけで、後半になると本能のおもむくままだね（笑）。

—なるほど（笑）。1回戦での池本誠知戦ではバック宙キックを繰り出してましたけど、あれなんかまさに本能なんじゃ？

ザロムスキー　そうだね。あれはサクラバ（桜庭和志）の試合を思い出して、とっさに出た動きなんだよ。ああいうのは試合前のプランにはないね（笑）。僕は試合では自分の思いつき、直感を大切にしてるんだ。

—準決勝の左ハイに続いて、決勝のジェイソン・ハイ戦では見事に右ハイでTKO勝利を収めましたね。

ザロムスキー　作戦としては、とにかく短期決戦狙いで一気に間合いを詰めて、マッハ戦とは逆に相手の中に入っていこうと思ったんだ。最後は理想的なかたちでKOできたね。できれば試合後にその喜びを爆発させたかったけど……。

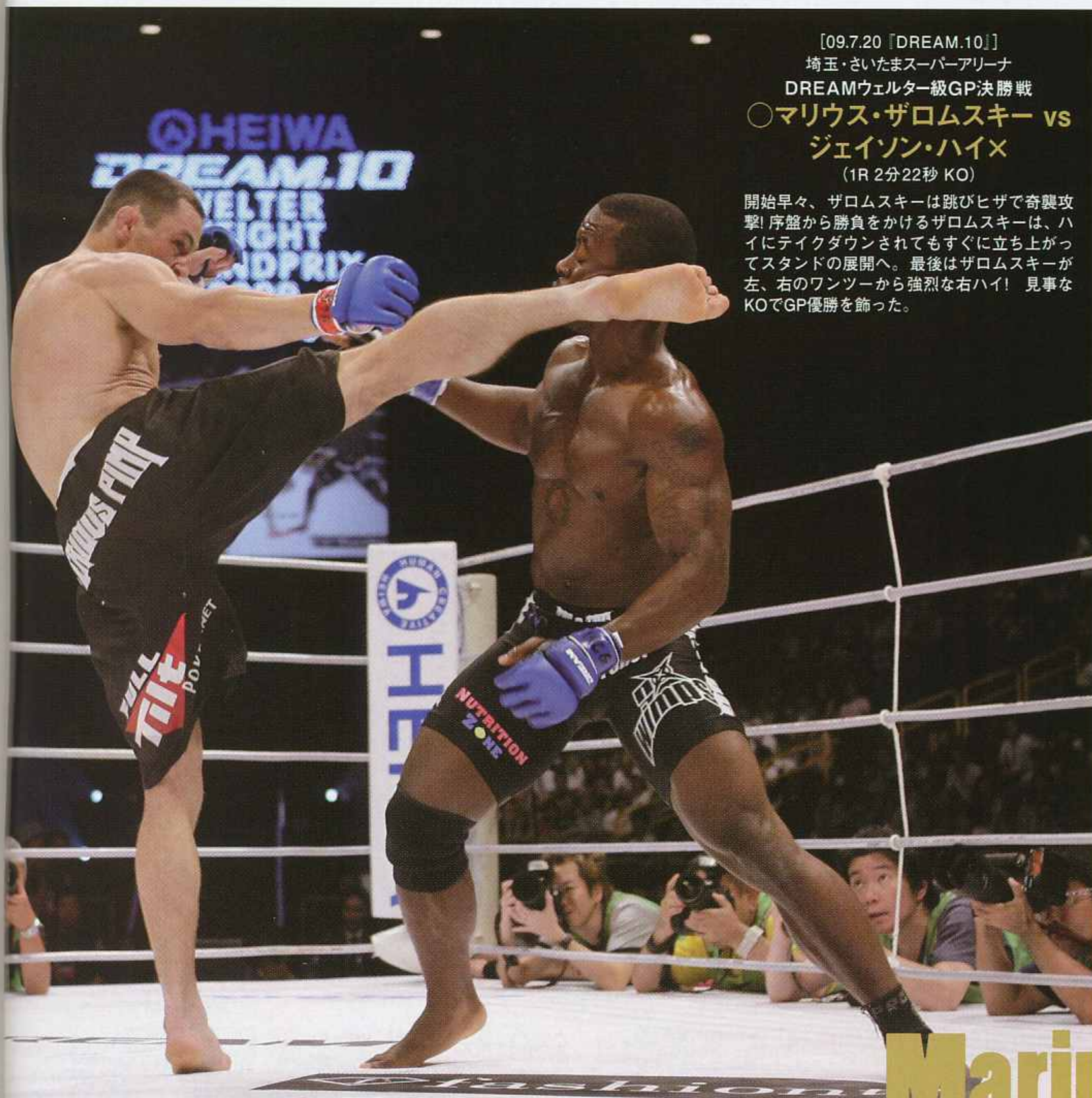
—ハイが起き上がらないのが心配になって、それどころじゃなかったんですよね。

ザロムスキー　うん。試合前はベルトを勝ち取ったら大声で叫びまくって大爆発しようと思ったんだけどね。普段の僕は感情の起伏が激しくないから、周りにもあまり見せないような姿を出そうとしたんだけど……まぁ、しょうがないね（笑）。

—喜びを内に秘めた、と（笑）。ザロムスキー選手はアグレッシブで日本受けするファイトスタイルだと思うんですが、プロとして心がけてることはありますか？

ザロムスキー　やっぱりファンに喜んでもらえるように、いつもKO勝利を狙ってるよ。今回、日本で試合をするのは2回目だったんだけど、この国のファンはほかの国と比べて、選手に対してとてもリスペクトがある。前回の初来日のときもそうだけど、非常に試合がやりやすかったよ。

—もともと日本という国には興味はありましたか？

ザロムスキー　うん。僕が小さい頃、リトアニアで『BUSHIDO』っていう格闘技のテレビ番組をやっていて、日本の試合が放送されてたんだ。僕はそれを夢中に

なって観てたんだよ。それから本格的に格闘技にのめり込んでいった感じだね。

―なんでも髙田延彦が好きだったとか？

ザロムスキー　そうだね。あとはタムラ（田村潔司）、サクラバ、それにヴォルク・ハンやディック・フライも好きだった。でも、やっぱり一番の僕のヒーローはタカダだったよ。タカダがゲーリー・オブライトをローキックで追い詰めてた場面が凄く印象に残ってる。あとはハイキックで大きな空手着の男をKOしたシーンも凄かったな～（しみじみと）。昨日の僕みたいだったね（笑）。

―北尾光司戦ですね（笑）。

ザロムスキー　僕はPRIDEも観てたし、ずっとタカダのファンだったんだ。

―噂に違わぬ髙田マニアなんですね～。ちなみに髙田の古くからの友人で、髙田総統という方がいるんですけど知ってます？

ザロムスキー　タカダソウトウ？　う～ん、ちょっとわからないな。有名な選手なのかい？『YouTube』で観られる？

―観られると思いますよ。ぜひ検索してみてください（笑）。さて、今回はMMAのリングで結果を残したわけですが、そもそもザロムスキー選手はキックボクサーだったんですよね？

ザロムスキー　そうだね。でも、もともと小さい頃からさまざまな格闘技をやってたんだよ。キックのほかにも空手、柔道、柔術、レスリング……とにかくいろいろ経験してきた。で、プロのキックボクサーとして18歳のときにイギリスでデビューしたんだ。

―MMAに転向した理由は？

ザロムスキー　本当に世界に通用するような、強い選手になりたいと思ったのが理由だね。そのためにはキックだけじゃなく、いろいろな技術を身につけないといけないし、その成果を発揮できるのがMMAのリングだったってことだね。

―立ち技からMMAに転向した代表的な選手といえばミルコ・クロコップですが、昨日の大会終了後に笹原（圭一・イベントプロデューサー）さんがザロムスキー選手のことを、「ミルコみたいだ」って言ってたんですよ。

ザロムスキー　それは嬉しいね！　ミルコは尊敬する選手だからね。あとMMAファイターで好きなのは（エメリヤーエンコ・）ヒョードルとGSP。キックボクサーだとマサト（魔裟斗）や（アルトゥール・）キシェンコがいいファイターだと思うね。

―ザロムスキー選手はK-1には興味はありますか？　DREAMの選手でK-1ルールの試合に臨む選手も少なくないんですが。

ザロムスキー　う～ん、ちょっといまはなんとも言えないかな。自分の立ち技のスキルに自信はあるけど、5年くらいかけてやっとここまでのMMAファイターになれたんだし、いまはMMAのキャリアを優先させたいね。もちろんK-1のオファーがきたときは考えるけど、両立よりはいまは一つに専念したい気持ちが強いかな。

―でも、きっと谷川さんはK-1のオファーを出してくると思います（笑）。では今後どんな相手と防衛戦をしたいか、これからのビジョンは？

ザロムスキー　自分的には誰でもかまわないよ。このベルトに挑戦する資格がある選手ならば問題ない。ただ、僕は初めて手に入れたMMAのベルトだから、ずっとキープしようと思ってるけどね（ニヤリ）。

―今後でいうと、日本には大晦日に『Dynamite!!』というビッグイベントがあります。

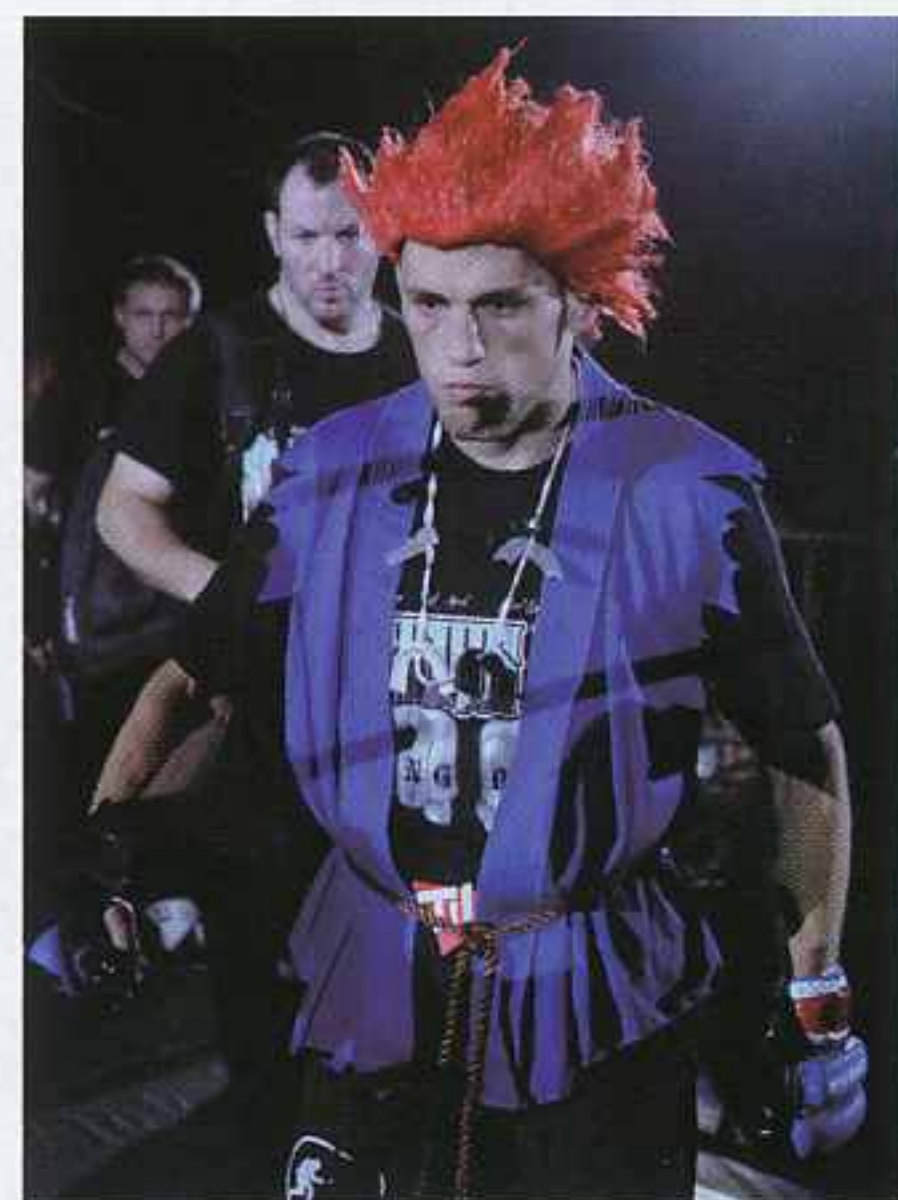
ザロムスキー　ぜひ出場してみたいね！　オファーがあれば考えるよ。いや、電話を一本もらえればすぐ行くよ（笑）。

―出る気マンマンですね（笑）。でも、一年の締めくくりくらい大切な人とゆっくりすごしたいって思いませんか？

ザロムスキー　大丈夫！　彼女も連れて

Marius Zaromskis

[09.7.20『DREAM.10』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMウェルター級GP決勝戦
○マリウス・ザロムスキー vs ジェイソン・ハイ×
（1R 2分22秒 KO）

開始早々、ザロムスキーは跳びヒザで奇襲攻撃！序盤から勝負をかけるザロムスキーは、ハイにテイクダウンされてもすぐに立ち上がってスタンドの展開へ。最後はザロムスキーが左、右のワンツーから強烈な右ハイ！　見事なKOでGP優勝を飾った。

これが入場時の姿。確かにノリノリのコスチュームとは裏腹に、その表情はいまいちノリきれてない？　ちなみに入場テーマは『ファイナル・カウントダウン』。本人いわく「総合デビュー戦で使用した曲だから思い入れがあるんだ」とのこと。

入場コスチューム？　じつはそんなに気乗りしてないんだよ（笑）

くるから問題ないよ（笑）。まだ日本に来たことないから凄く興味を持ってるしね。

――なるほど（笑）。あの、ザロムスキー選手は入場のときに『ストリートファイター』の豪鬼ってキャラクターのコスプレをしてるじゃないですか？

ザロムスキー　あ、う、うん……（バツが悪そうに）。

――あれはゲーム好きが高じて？

ザロムスキー　いや、じつは僕としてはあのキャラクターよりは、どちらかというと『ドラゴンボール』のほうが好きなんだ。もちろん、あのゲームもキャラクターも知ってはいるんだけど、じつはそんなに気乗りはしてないんだよ（笑）

――あ、意外な事実発覚ですね（笑）。じゃあ、なんでまたあの格好を？

ザロムスキー　あれはコーチとかチームメイトが考えてくれたんだよ。「目立つために着ろ」っていうから。僕自身は試合に集中しているし、格好に関してはそんなに気にしてないっていうか、どうでもいいっていうか……。

――どうでもいい（笑）。てっきりコスプレ好きなのかと思いました。ちなみに長嶋☆自演乙☆雄一郎というコスプレで有名な選手は知ってますか？

ザロムスキー　ジエンオツ……？　う～ん、それもちょっとわからないな。『YouTube』で観られるかな？

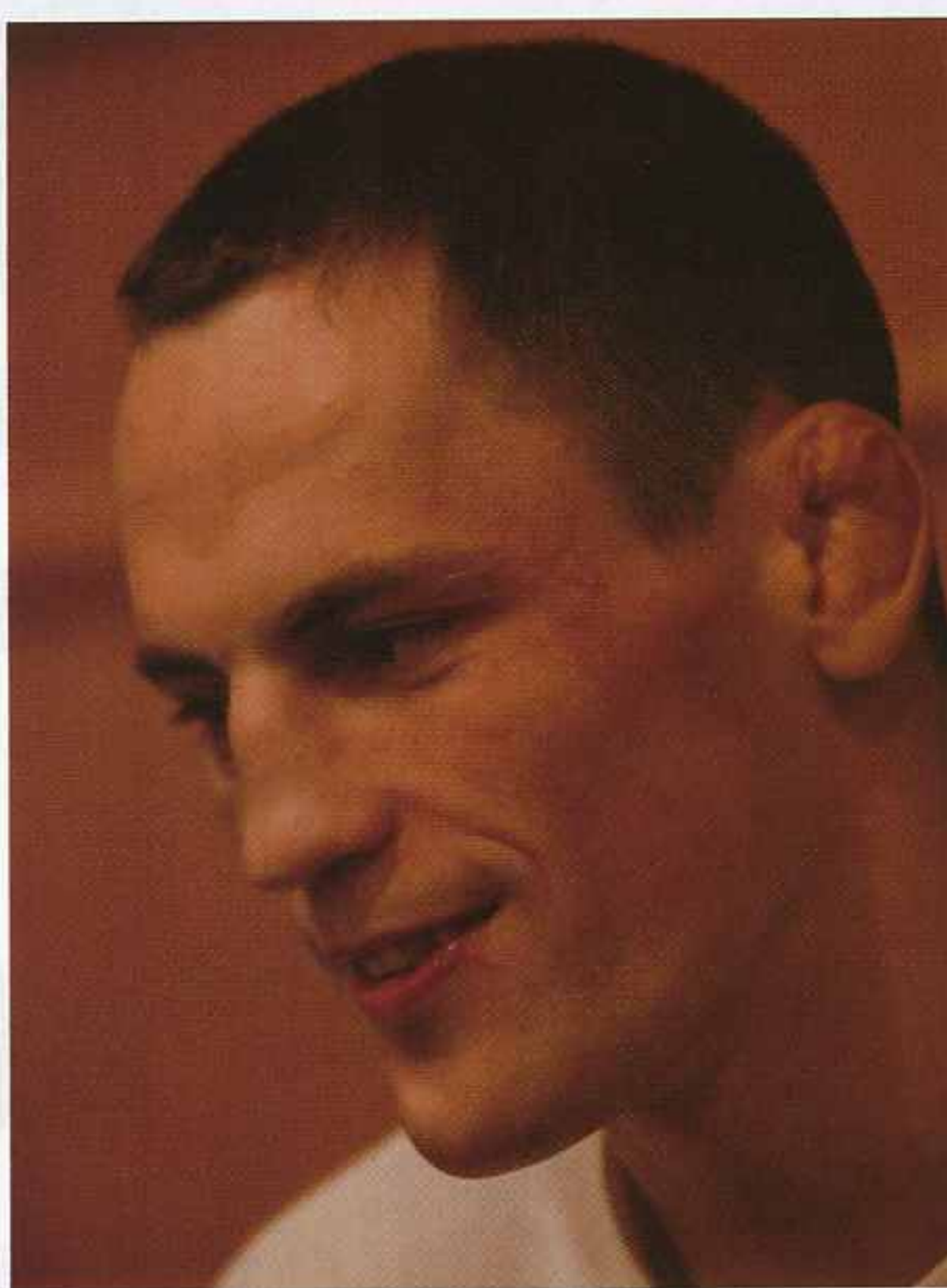
――観られると思いますよ。ぜひ検索してみてください（笑）。あと、今日の一夜明け会見でザロムスキー選手が「今日は朝の7時に起きて日記をつけた」ってコメントしたら、その日記についていろいろ質問というか、突っ込まれてましたね（笑）。

ザロムスキー　は～（タメ息をつきながら）。日本人はおもしろいね。どうして日記をつけてるくらいで興味を持たれるのか、逆にこっちが質問したいよ（笑）。

――ダハハハ！　でも、そもそも何がきっかけで日記は始めたんですか？

ザロムスキー　練習や試合で自分のミスしたことを忘れないうちに書き込んで直していこうと思って、05年頃から書きだしたんだ。まぁ、練習以外のことも書いたりしてるんだけど。

――中身は「トップシークレットだ」って言ってましたね。

ザロムスキー　うん、僕の「X－ファイル」だよ（笑）。いろいろと心理的なこととかも書いてるからね（意味深に）。

MARIUS ZAROMSKIS■1980年7月30日、リトアニア出身。キックボクサーとして活躍後、05年11月にMMAデビュー。ケージレージなどを経て、DREAMウェルター級GPで日本初登場。その圧倒的な打撃力で見事に優勝をはたした。ロンドン・シュート・ファイターズ/MMAブシドー所属。175cm、76kg。

――へ～。ちなみにそれは彼女には見せてるんですか？

ザロムスキー　いや、これぱかりは彼女と言えども見せられないね。一回「見せて」って言われたんだけど、「絶対ダメ！」って断ったんだ。

――彼女にも内緒とはますます気になりますね～。ザロムスキー選手は性格的に秘密主義なんですか？

ザロムスキー　う～ん、そんなことはないと思うんだけど。まぁ、誰しも一つ二つは絶対に譲れないものがあるもんだよ。ま、まぁ、とにかく練習後には日記をつけてる、これ以外には何も言えないね！（キッパリ）。

――了解です（笑）。ちなみに練習のストレス発散というか、趣味は？

ザロムスキー　バイクでドライブすることかな。風に当たっていると嫌なことがあっても忘れられるんだ。あとはバスケットボールやフットボール、やっぱり身体を動かすことが好きだね。

――一日2試合の激闘を終えて、いま一番何がしたいですか？

ザロムスキー　そりゃあ、彼女に会いたいさ！（即答）。

――やっぱり（笑）。

ザロムスキー　彼女は僕とは正反対の性格なんだ。僕はどちらかというとリングを降りるとおとなしいんだけど、彼女はとにかく明るいんだよ。たまに、こっちが「ちょっと黙ってて」って言いたくなるくらいにおしゃべり好きだしね（笑）。でも今回ばかりは、いっぱい僕にしゃべりかけてほしいね！

――では優勝の喜びを彼女とおおいにわかち合ってください、おめでとうございました！

【09年7月21日／都内・某ホテルにて収録】

[09.7.20『DREAM.10』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMウェルター級GPリザーブマッチ
○タレック・サフィジーヌ vs 池本誠知×
（2R終了 判定3-0）

池本はダブルパンチ、エアーハンマーを見舞っていくが、サフィジーヌは冷静に対処。顔面への飛びヒザ、左アッパー、右ローなど打撃で終始ペースを握ったサフィジーヌが判定3-0で勝利。池本は新技"ホワイトキャット"のお披露目ならず。

[09.7.20『DREAM.10』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMウェルター級GP準決勝
○ジェイソン・ハイ vs アンドレ・ガウヴァオン×
（2R終了 判定2-1）

1R、ガウヴァオンはグラウンドで肩固めや十字を仕掛けるも決まらない。2R、ハイはガウヴァオンの寝技に付き合わず、左ミドルをヒットさせていく。判定は2-1でハイ。マッハに対する"対抗"と目された柔術王者だったが、ここで姿を消した。

[09.7.20『DREAM.10』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMウェルター級GP準決勝
○マリウス・ザロムスキー vs 桜井"マッハ"速人×
（1R 4分03秒 KO）

左右のフックで前へ出るマッハだが、ザロムスキーも打撃で応戦。マッハはパンチで左目周辺をカット。これで「焦ってしまった」というマッハにザロムスキーの左ハイがクリーンヒット！初のDREAM日本人王者誕生の夢は途絶えた……。

一、十、百、『戦極』と契約!

アテネ五輪柔道銀メダリスト

泉 浩

このモンスターがMMAの世界をデストロイしま〜す!!

アン・ジョー司令長官も太鼓判!

シャキーン！　かねてからプロ格闘家転向が噂されていたアテネ五輪銀メダリスト泉浩の『戦極』参戦が決定！来たるべきデビュー戦へ向け、本格的なMMAのトレーニングを行なっている泉が指導を受けているのは、なんと安生洋二。安生をよく知るアン・ジョー司令長官も「このジュードー・オーは本物デ〜ス！」と太鼓判を押す泉浩とは何者なんだ!?

聞き手／橋本宗洋　撮影／丸山剛史　試合写真／Josh Hedges（UFC）　司令長官撮影／山口比佐夫

――今回、泉選手が総合デビューするにあたって僕らが一番驚いたのは、安生洋二さんに指導を受けているってことだったんですよ。あまりにも意外な組み合わせというか。知り合いを介して出会ったということなんですが「この人に教わりたい」と思ったきっかけは、どんなところだったんですか？

泉　（安生さんは）型にはめない人だったので。自分は、この階級（ライトヘビー）では身長とかリーチとか、体形が独特だと思うんですよね。その中で、自分のベースである柔道っていう型にはめない考え方をしてくれる人なんです。

――これまでお話をされた中で、印象に残ってることってありますか？

泉　いや、全部覚えてるので。言えないこともいっぱいありますし（笑）。それに自分だけの秘密でもありますからね。

――あ、そうなんですか（笑）。

泉　でも、「自分に合った闘い方を一緒に考えていこう」とは言われました。「疑問に思うことがあったらどんどん言って」と。

――一方的に教えるわけじゃない、と？

泉　そこがやっぱり、安生さんに教えてもらおうと思った決め手ですね。

――僕たちにとっても、指導者としての安生さんっていうのは初めて見る姿なんですけど、教わっていかがですか。

泉　レベルが高いですね。めっちゃ高いです。他の人に教えてもらってるわけじゃないんで、一概には言えないんですけど。

――これまで柔道をやってきた経験からしても、レベルの高さを感じるというか。

泉　そうですね。凄い刺激を受けてます。あと、ジムで教えてもらってることがあるじゃないですか。「こういうときはこうしたほうがいいよ」っていう。

――はいはい。

泉　それを、試合を観に行ったときに自分でシミュレーションしてみるんですよ。そうすると、安生さんが言われていたとおりになってる選手が多いんですよ。

――「安生さんの言ったとおりだ！」っていう。理論派指導者なんですね。

泉　理論派なのと、常に自分に考えさせてくれるんですよ。そういう部分でも、安生さんは頭がいいなって思います。

――そういう人に教わってると、身体はもちろんですけど、頭もしんどい感じじゃないですか。

泉　しんどいですね。若干バカなので。

――若干バカ（笑）。『ハッスル』での安生さん……というかアン・ジョー司令長官も観てるんですか？

泉　よく観てます（笑）。でも、凄くプロだと思います。プロレスのフィールドにも格闘技のフィールドにも合わせられるんで。本当に尊敬できますね。安生さんの言うことは素直に受け入れられるっていうか。

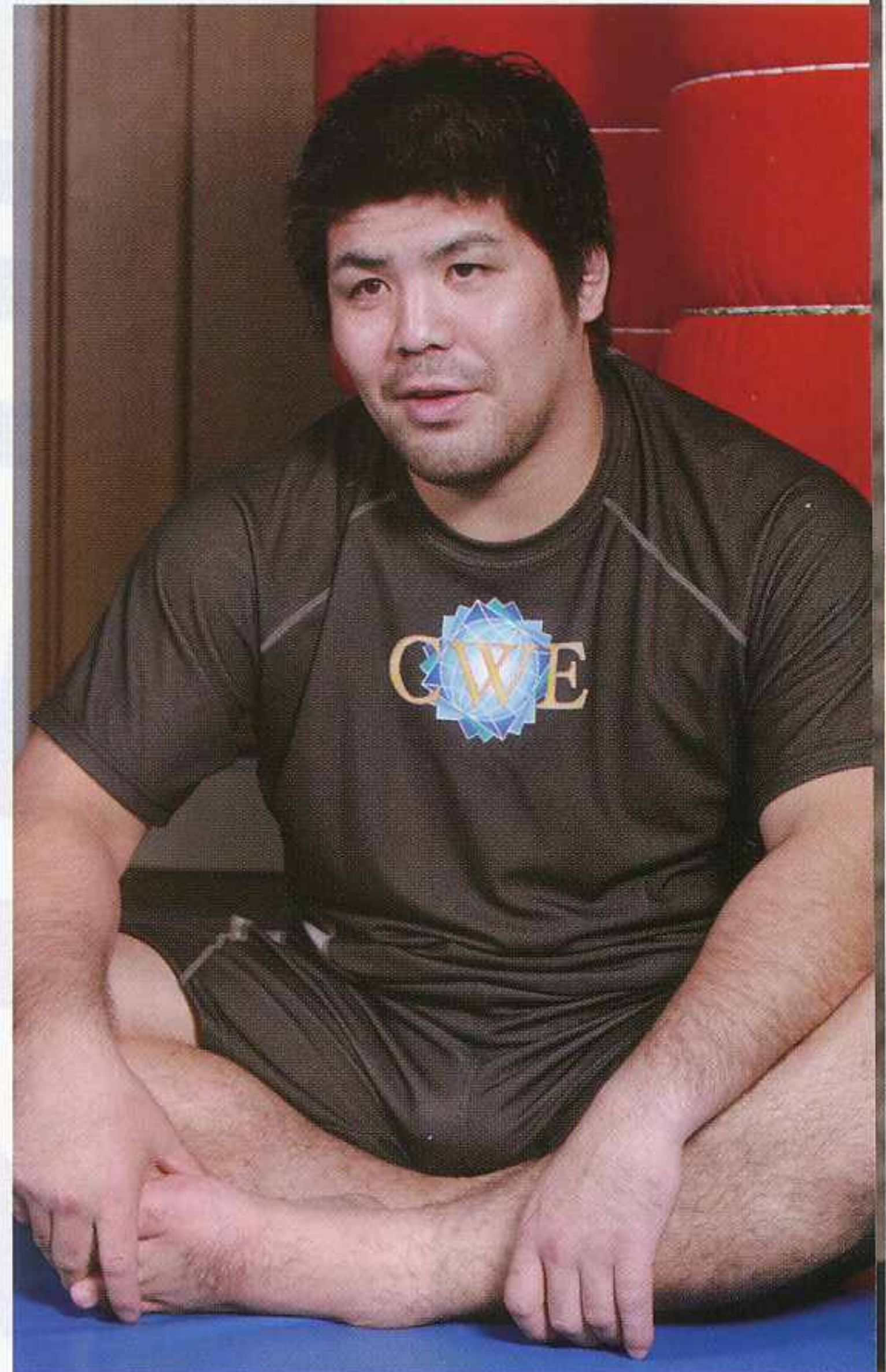
安生　（近くで取材を見守っていた師匠が突如乱入）でも、泉は凄いですよ。僕らが何年もかかってできるようになったことを、数分でできちゃいますからね。

――おお～！　そこはやっぱりメダリストのセンスですかね。

泉　数分でできるわけないじゃないですか（笑）。

安生　いや～、でも俺が知ってる選手の中でも、物覚えは抜群に早い。

――へぇ～、そうなんですか。泉さんは、現時点で何か得意技ってできました？

泉　なんですかねぇ……。いまは教わったこととか課題を一つ一つクリアしていく段階なので。逆に言うと、教わってクリアしたこと全部に自信があります。

――それだけ充実感があるんですね。

安生　得意技は〝肉体〟でしょ。稀に見るパワーを生み出す下半身。

泉　得意技が〝肉体〟って、それボディビルダーじゃないですか！（笑）。

――いい師弟コンビですねぇ（笑）。話を戻すと、実際に総合の練習をやってみてどうですか。難しさもあると思うんですが。

泉　難しいところはいっぱいあります。大まかに言えば、やっぱり打撃。それに組み方や投げ方も柔道とはだいぶ違いますし。

――練習で、初めてパンチをもらったときはどんな感じがしました？

泉　まあ、痛いは痛いですよね。

――あ、でもその程度というか。

泉　はい。覚悟をして、この世界を選んだんで。

――逆に楽しさもあります？

泉　ありますね。難しいからこそ、それをクリアできたときに達成感がありますし。詰め将棋みたいにコンビネーションで打っていくっていうのが、難しいし楽しいです。

――プロの総合格闘家としての道を選ぶときに、迷いはありませんでした？　柔道の指導者としての道もあったわけですよね。

泉　それも考えてました。だけど、「もう一回、燃えたいな」っていう気持ちが正直あって。もともと（総合に）興味もありましたし。

――新しい世界で、フリーとして生きていくことに不安は感じないですか？

泉　正直ありますよ。でも、不安もあるから頑張れるというか、チャレンジャーとしてやっていけると思いますし。それに、究極、生きていくことはできるじゃないですか、いまの社会では。アルバイトしたっていいんですし。

――そういうことまで考えてるんですか。

泉　究極、ですけどね。フラットに考えて、そうなったらそうなったでいいやって。それでも、いま自分がやりたいことをやって、目標を達成したいなって。

――泉選手って、吉田（秀彦）選手の直系の後輩ですよね。講道学舎～世田谷学園～明治大学と。

泉　はい。

――で、明治出身の人って、独立志向じゃないですけど、枠に収まらない傾向があるのかなって思ったんですよ。小川（直也）さんも明治ですし、さかのぼれば坂口（征二）さんもいますし。

泉　大学の校風もあると思うんですけど、チャレンジャーはチャレンジャーですよね。

――明治大学柔道部っていうのも、柔道界の中でチャレンジャーの立場みたいな感じなわけですか。

泉　僕はそう理解してますね。それと、僕の場合は生まれ育ちもあると思いますね。

――青森県の大間というマグロで有名な漁師町の出身ですよね。気質も都市部のサラリーマンとは違うもんなんでしょうね。

泉　だいぶ違いますね。やっぱり、漁師町の人間っていうのは我が強いし、プライドもめちゃくちゃ高いですから。

――そこで培われた根っこの性格が、泉さんの原点というか。

泉　漁師って、サラリーマンよりリアルな世界なんですよ。（マグロが）捕れなかったら収入ゼロですから。だからこそ、漁師はロマンを追いかけてるとも言えますし。

――そういう生き方って、格闘家にも共通するのかもしれないですね。勝つか負

Hiroshi Izumi

泉浩、柔道時代の主な戦績

00年
全国高等学校総合体育大会90kg級優勝
全日本ジュニア体重別選手権大会90kg級優勝

01年
全日本学生体重別選手権90kg級優勝

02年
全日本学生体重別選手権90kg級優勝
ベルギー国際柔道大会90kg級優勝

03年
全日本選抜体重別選手権大会90kg級優勝
講道館杯全日本体重別選手権大会90kg級優勝
大邱ユニバーシアード 90kg級優勝

04年
フランス国際柔道大会90kg級優勝
アテネオリンピック柔道90kg級銀メダル

05年
カイロ世界柔道選手権大会90kg級優勝

07年
リオデジャネイロ世界柔道選手権大会90kg級 3回戦敗退
嘉納治五郎杯東京国際柔道大会2位

08年
フランス国際柔道大会90kg級2回戦敗退
ドイツ国際柔道大会90kg級優勝
北京オリンピック柔道90kg級2回戦敗退

吉田先輩とシウバの殴り合い。ああいう試合を自分もやりたいです

けるか、いい試合ができるかできないかで評価も収入も激変するっていう。

泉　そうですね。性に合うと思いますし、そういう世界のロマンを追いかけてるんだと思います。

——違和感を感じないというか。

泉　まったくないです、はい。僕もサラリーマンだったんですけど、それを捨てるっていうのも普通の感覚でしたし。そういう血筋なのかな、と。

——勝負師の血筋ですね。

泉　そういう気はします。

——話は変わるんですが、総合格闘技はいつ頃から観てたんですか？

泉　PRIDEのときからずっとですね。

——きっかけは、やっぱり吉田さんの参戦ですか。

泉　それはありますね。自分の先輩ですし。最初の試合、2002年の『Dynamite‼』から見てます。その前からも興味を持ってましたし。

——それは、どういうかたちの興味だったんですか？

泉　やっぱり、テイクダウンのときの身体の移動とか、身体の入れ替え方ですね。見ていて柔道の勉強になるというか、「何か使えるものがあるんじゃないか」って。

——あ、じゃあ「別物として楽しむ」って感じではなかったんですね。

泉　はい。やっぱり武道、格闘技として共通するものがあると思いましたし。だから〝観戦〟ではなくて〝見学〟でしたね。

——PRIDEを〝見学〟ですか。その〝見学〟の中で、印象に残ってる試合っていうと何になりますかね。

泉　一つだけ挙げるとするなら、吉田先輩とヴァンダレイ・シウバの試合ですね。

——吉田さんがヴァンダレイと殴り合った試合ですね。

泉　あの試合で、吉田先輩は倒れなかったじゃないですか。それに、あの殴り合いですよね。ああいう試合を自分もやりたいなって思います。

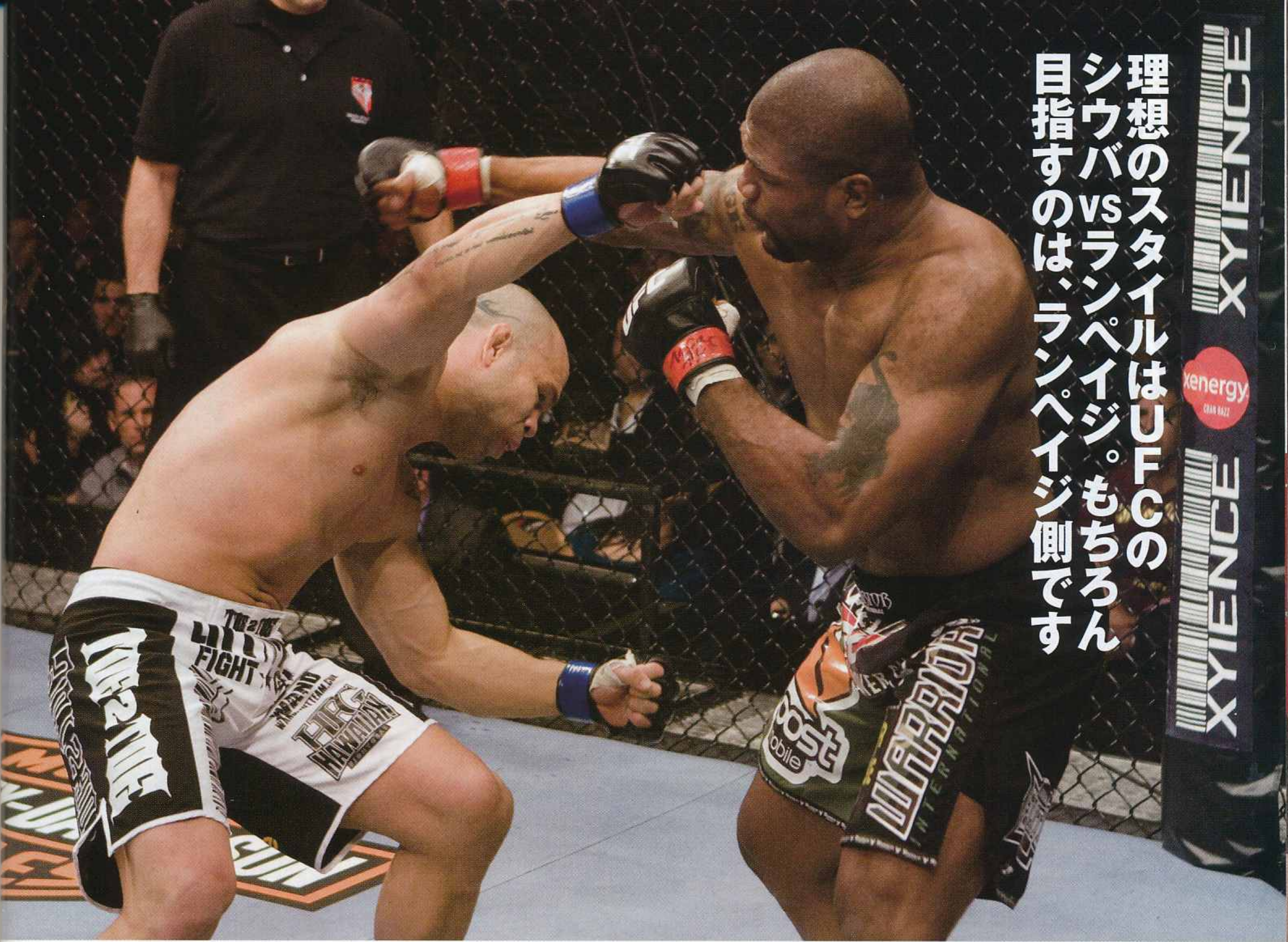
——ある意味、原点の試合というか。

泉　あのときは殴り合うっていうのは未知の世界だったので。衝撃でしたし、感銘も受けましたね。そこで、少し「やってみたい」って気持ちも芽生えましたし。

——殴り合う姿に反応するっていうのはおもしろいですね。「なんで寝技にいかないんだ⁉」とは思わなかったわけですか。

泉　自分の中で「こうやったら投げれるんじゃないかな」っていうシミュレーションをすることはあるんですけど、それよりも「ああ、こういう闘い方をするんだ」っていう思いのほうが強かったですね。「こういう闘いもあるんだ」っていうことのほうが気になって。たぶん、想定外だから気になるし、印象に残ったと思うんですよ。

泉は09年6月いっぱいで所属していた旭化成を退社し、7月7日に『戦極』との契約を発表。金メダリストの石井慧に続き五輪メダリストを獲得した『戦極』の國保広報は「できるだけ早い時期にデビューさせたい」と語っていたが、プロデビューはいつになるのか？

理想のスタイルはUFCのシウバvsランペイジ。もちろん目指すのは、ランペイジ側です

——いまも試合はけっこう観てるんですか?

泉　見てますね。ほとんど見てます。

——ほとんど(笑)。じゃあ、サムライなんかも観て。

泉　……サムライってなんですか?

——CSの格闘技チャンネルなんですけど。ということは、実際に会場に足を運んでるわけですね。

泉　最近でいったらDEEPに行きましたし、ケージフォース、あとHEATも。

——観てますねぇ。格闘技マスコミ以上ですよ、そこまで観てるのは(笑)。

泉　じゃあ、そろそろ抑えようかな(笑)。でも、そこで得られるものがあればいいなって思うので。

——そこも〝見学〟なわけですね。

泉　もう勉強のためだけに見てます。練習で得たものを、試合を見ながらシミュレーションしたりとか。

——楽しんでる場合じゃない、と。

泉　プロで充分やっていけてるんだったら、そこまで見ないと思うんですけど。いまは初心者ですからね。

——あ、そういえば先日、この雑誌に谷川(貞治)さんのインタビューが載ったんですけど、急に島田裕二レフェリーから「安生がMAXを見たがってるんでチケットはないか」って連絡があったそうで(笑)。泉選手も一緒だったんですか?

泉　はい。見させてもらいました。

——どの試合が印象に残ってますか?

泉　やっぱり、山本優弥選手のコンビネーションですね。

——ほぉ〜。

泉　いま、自分がテーマにしてるのがコンビネーションを何発続けられるかなので。そういう部分で、山本選手の細かい連打っていうのは勉強になりましたね。

——総合ではUFCが最高峰ですけど、やっぱりWOWOWで観ます?

泉　もう全然見ます!

——全然観ますか!(笑)。

泉　そのへんのチェッキングは半端ないですね、周りにいる人が見せてくれるのもあって。

——気になるのは、やっぱり自分と同じライトヘビーの選手ですか。

泉　やっぱりLYOTO選手ですね。間合いの作り方が凄いと思いますし、一撃必殺の技もありますし。いまのライトヘビー級で一番強いと思います。

——ヴァンダレイとリッチ・フランクリンの試合は観ました? あれも凄い殴り合いでしたけど。

泉　ただ、大振りになってましたよね。それよりも、僕が勉強になったのはシウバとランペイジの試合のほうが衝撃的でした。

——ああ、コンビネーションを読みきっ

勉強のため、格闘技マスコミも驚くほどのペースで総合格闘技や立ち技の大会に行きまくっている泉。当然のように魔裟斗vs川尻戦が行なわれた7.13K-1MAXも観戦。一番印象に残ったのは山本優弥のコンビネーションだったんだとか。かなりマニアックです!

コスチュームはゼブラ柄のロングスパッツでいこうかな、と（笑）

Hiroshi Izumi

てカウンター一発でKOっていう。
泉　ああいうのは凄いと思いますね。
―先ほども話が出ましたけど、泉選手の中では「柔道出身だから」「柔道の技を活かして」という感じはあまりないみたいですね。むしろ打撃を重視してて。
泉　柔道はところどころ使っていきたいですし、柔道の技で勝てれば一番いいんでしょうけど、この身長、このリーチでは組むまでが大変だと思うんですよ。
―簡単に懐に入らせてはもらえないですよね。
泉　組めない場合にどうするかっていったら、打撃から入るしかないですし。それに、僕が選んだフィールドは総合格闘技なんで。総合で勝つためには、柔道という型にはまらないほうがいいですよね。
―そのへんの感覚はシビアというか、リアリズムですよね。これまで、柔道出身の選手というのはプロモーションを含めてなんでしょうけど「柔道家として」というスタンスの人が多かったですけど。
泉　「自分は柔道家」という気持ちのままだったら、柔道をやってればいいと思うんですよね。
―確かにそのとおりですね（笑）。
泉　柔道は僕にとって凄く大事なものなんですけど、これからは畳じゃなくてリングで闘うんで。柔道の技で使えないものがあるんだったら、それは排除していくしかないですよね。
―シビアですねぇ。一方で、プロの舞台には華やかさっていう部分もあるじゃないですか。会場の盛り上がりとか。そういうところも意識しますか？
泉　会場の熱っていうのは、やっぱり感じると思いますね。でも、それくらいっていうか。へんに意識はしないと思います。
―それがプレッシャーにはならない、と。
泉　パニクったりはしないと思いますね。でも、いい意味では影響されると思います。ノッていけるっていうか。
―じゃあPRIDEを見ている頃、「俺もこういう雰囲気の中で試合したいな」っていう感じもあったり。
泉　それは正直、ありましたね。「どんな感じなんだろう？」っていう、未知の世界、わからないことなんで。
―そこも未知の部分、想定外のことに惹かれるんですね。やっぱり柔道の会場とは違うでしょうしね。僕、何年か前に柔道の全日本選手権を観に行ったことがあるんですけど、凄く独特な雰囲気で。
泉　あの会場は……非常に独特ですね。
―日本武道館が超満員になってて、しかもそこにいる人ほとんど全員が柔道やってるという（笑）。
泉　ああいう中で試合するのも、気持ちいいんですよね。観られてるっていう雰囲気がありますし。
―逆にプロのリングでは、一般のファンも多いわけですが。
泉　まさにそこが未知の部分なんで、楽しみですね。
―入場曲とかコスチュームとか、もう考えてたりします？
泉　コスチュームはもう、ゼブラ柄のロングスパッツでいきます。
―クククク！　安生さんから継承して（笑）。
泉　黒のレガースも着けようかな、と（笑）。
安生　アホか（笑）。
―そういう楽しみもありつつ、という。
泉　正直、自分の立ち位置がまだそこまでいってないんですよね。自分が格闘家として成長の段階を踏んで、「いつでも試合できるよ」って言われるくらいになってから考えればいいと思ってるんで。まだ、コスチュームとかは考えられないです。
―まだ学ぶことがいっぱいありすぎるというか。
泉　そうです。安生さんが教えてくれることのレベルが高いんで。それを消化するので精一杯ですね、いまは。
―そういう中で、いま理想としてるファイトスタイルは打撃ですか。
泉　そうですね、打撃中心で。打ち合いたいっていう気持ちがあります。打撃が性に合いますし、やってて楽しいですし。
―凄いですね、それは。
泉　それが僕の中では普通ですし。でも、打ち合うんですけどパンチはもらいたくないんですよ。パンチをさばいて、いかにパンチを当てるか。わかりやすく言うと、さきほども言ったシウバvsランペイジ。
―……の、ランペイジですよね。
泉　もちろんです！　デビュー戦でシウバ側になったらやばいですよ（笑）。
―打撃っていうのは、何度も出てきた言葉ですけど未知のもの、想定外のことだからこそやりたいっていう。
泉　そうですね。初めてのことですし。
―ライトヘビーっていう階級も、強い外国人が多いですから大変なぶん、やりがいもありそうですね。
泉　そこも初めての部分ですね。ライトヘビー級でトップになった日本人って、まだいないじゃないですか。
―日本人で初めて、ライトヘビーで世界トップを獲る、と。
泉　いままで日本人がやってないことをやりたいですね。ファイトスタイルも、いままでの日本人にはなかったものになると思いますし。
―結果の面でも内容の面でも「こんな日本人いままでいなかった」っていう。
泉　はい。歴史を作りたいと思います！

［09年7月21日／都内・某道場にて収録］

いずみ・ひろし■1982年6月22日、青森県下北郡大間町出身。中学より柔道私塾講道学舎に入門し、本格的に柔道を始め、04年アテネオリンピック柔道93kg級では銀メダルを獲得。09年6月、所属していた旭化成を退社し、プロ格闘家転向を表明。今年7月、『戦極』と契約したことを発表した。173cm、90kg。オフィシャルサイト→http://www.izumi-hiroshi.com

ンも『戦極』もどっちも観られるぞ!!

そりゃないよ、ジョシュ……

“最強”は幻に……
ヒョードルvsジョシュは中止!!

“最強”決定戦が、まさかの消滅……。締切間際に残念すぎる情報が飛び込んできた。すでに読者の皆さんもご存知かと思うが、8・1『アフリクション』でエメリヤーエンコ・ヒョードルとのタイトルマッチが決定していたジョシュ・バーネットがカリフォルニア州アスレチック・コミッションの禁止薬物検査でステロイドの陽性反応が出たため、出場ライセンスが発行されず、大会に出場できないことになってしまったのだ。ガッデム！

ジョシュといえば、02年のUFCでのランディ・クートゥア戦の際にもステロイドの陽性反応が出て、ネバダ州アスレチック・コミッションから半年間の出場停止処分を受けた過去もある。

大会直前でのジョシュの欠場により、メインのタイトルマッチでのヒョードルの対戦相手は23日現在未定だが、本誌発売時には決定しているはず。

世紀のドリームマッチは消滅となったが、我らが五味隆典やゲガール・ムサシ、『戦極』王者のジョルジ・サンチアゴなど日本でもおなじみの選手も多数参戦。

スカパー！で初の生中継も行なわれる『アフリクション』は注目ですよ！

MMAファン
に朗報!!

8月2日はアフリクションも

石井慧、泉浩は何をするんだ?

“キモ強”、“ネコ柔道”そして三崎の運命はいかに……!?

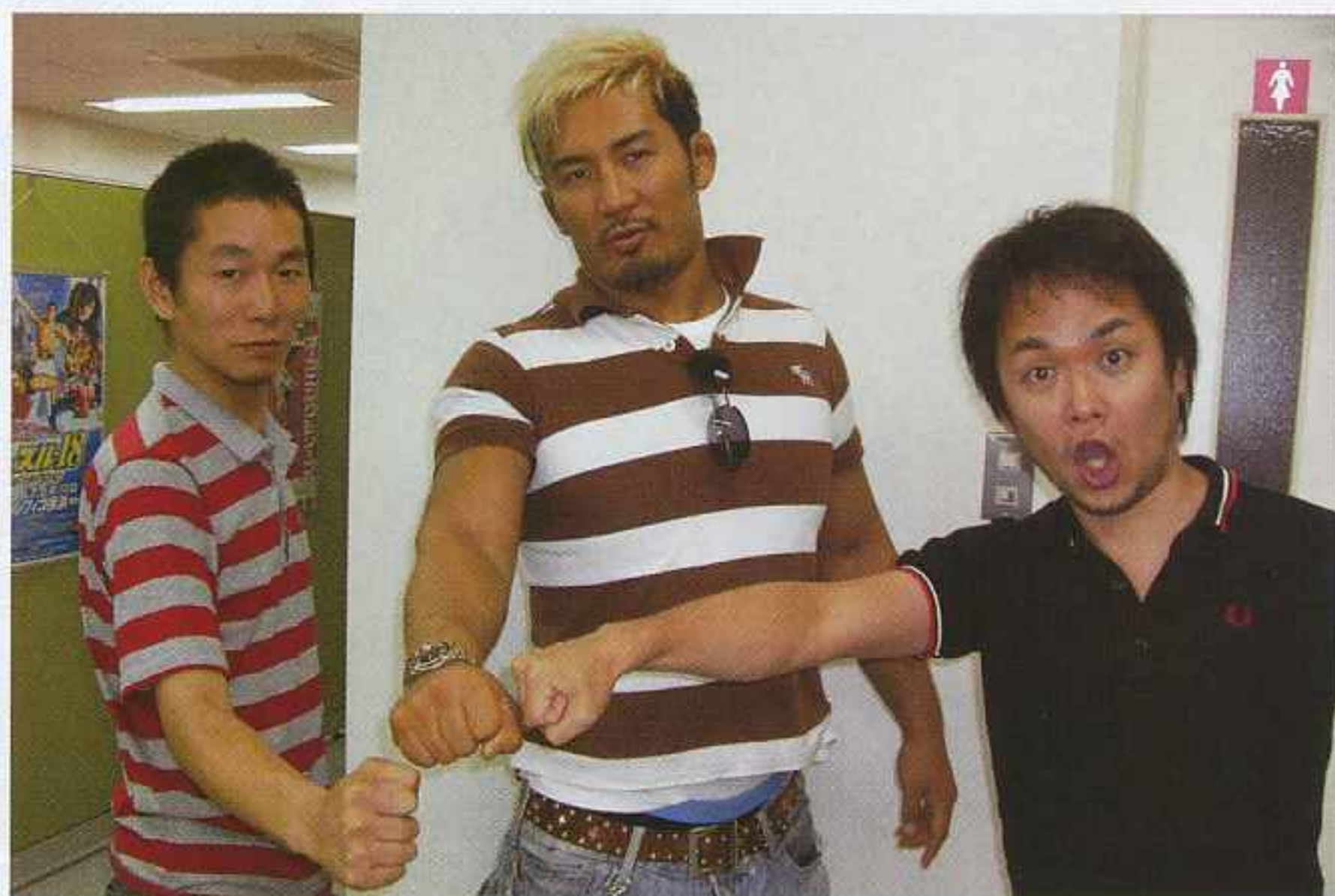
日本時間では『アフリクション』の大会が終わった頃ぐらいに開催されるのが8・2『戦極～第九陣～』だ。

今回の『アフリクション』は、欠場となったジョシュを除いても、ミドル級王者サンチアゴやフェザー級GPに参戦したLCデイビス、さらに五味も参戦するなど非常に『戦極』色の強い大会となっているが、それに負けじと『第九陣』は好カードが目白押し。中でもメインで廣田相手に防衛戦を行なう“キモ強王者”北岡悟の入場から試合後まで、その一挙手一投足は必見……というか、目が釘づけになること間違いなし。

ほかにも本誌でプッシュしてきた“ネコ大好き”小見川がフェザー級GPファイナルに登場。すでに自分でベルト姿のイラストまで描き上げ、イメージトレーニングもバッチリの小見川が“猫百烈拳”でGPを制覇してしまうのか、注目だニャ～!

それ以外にも、大会翌日から無期限出場停止処分が発表されている三崎和雄や、ひさびさの日本マット凱旋となる郷野聡寛、“ヒョードルを倒した男”と対戦する藤田和之などなど、気になる男がズラリと出陣。金&銀メダリストの石井慧と泉浩の何かしらのパフォーマンスも期待しましょう!

「寝技最高。俺最高。人生超絶好調」

ウェブサイト『kamiproドットコム』の人気コーナー mimipro誌上再録!!

格闘技界のカリスマブロガー

ポジティブ独演会

GUEST

高瀬大樹

これまでの格闘技人生を赤裸々に綴った「格闘界の光と影」連載が話題を呼び、
一日最高26万アクセス超えを達成したという人気ブログを日々更新しまくっている高瀬大樹。
今回は高瀬さんに『kamiproドットコム』内のポッドキャスト番組「mimipro」に登場してもらった回の模様をほぼ完全再録。
"絶口調"高瀬さんのポジティブ論をラジオを聴くような軽いノリで読んでいただけると幸いです!

構成／阿修羅チョロ

俺のブログは自分が見てきた世界を書いてるだけ。暴露ではないです

タコヤキ　こんばんは、mimiproのお時間です。MCを務めるのは私、カリスマ司会者、原タコヤキ君です。よろしくお願いします。いつものごとく番頭さんは……。

坂井　『kamipro』編集部・坂井伸行です。よろしくお願いします。

タコヤキ　今日もまた超ビッグなゲストに来ていただきました。早速ご紹介しましょう、高瀬大樹選手です！

高瀬　どうもブラッド・ピットで～す。よろしくお願いします！

タコヤキ　おっ、いきなりかましていただきました（笑）。番頭さん、こんなビッグな方お一人でいいのにもかかわらず、誰かくっついてきてるんですが、自己紹介をお願いします。

チョロ　ビッグつながりで登場しました、セクシー山、あき……よしひろです。

タコヤキ　ププッ。

高瀬　噛んでんじゃん！

タコヤキ　噛むなよ、ボケるんやったら！　どなたですか？

チョロ　阿修羅チョロです。

高瀬　どっちもわかんないよ！

タコヤキ　なんで阿修羅さんが？　高瀬さんがいてはったら、キミいらんがな。

チョロ　いやいやいや、いまの高瀬さんは格闘界のカリスマブロガーとして有名じゃないですか。

高瀬　勘弁してくださいよ。

チョロ　でも、一歩間違えると、非常に危険なトークを繰り広げるかもしれないので、チェック機構として。

タコヤキ　おまえがチェックなん？　おまえこそ他人にチェックしてもらわなアカンのに！

高瀬　そうだよ、そうだよ、ソースだよ。

タコヤキ　（スルーして）まあ、そのぐらい危険なお話が飛び出すかもしれない、と。それに番頭さん、高瀬選手に出てほしいって要望が凄いあったんでしょ？

坂井　そうですね。リクエストがありまして。

高瀬　ホントですか？　3件ぐらいじゃないですか。

坂井　いえいえいえ。けっこうリクエストがあって、チョロのほうからご連絡を取らしていただいて。でもじつは、高瀬選手、チョロと関係があんまりよくないんじゃないか、と。ちょっと怒ってるんじゃないかという話もあって。

高瀬　（すかさず）全然怒ってますよ。

タコヤキ　そのへんからお聞きしましょう。高瀬選手はmimiproなるよくわからないメディアからオファーがあって、即答いただいたんですか？

チョロ　基本的に『kamipro』にはいろいろ誤解があるみたいで。それがイコール僕のことなのか、よくわからないんですけど、あまりよろしく思っていないらしくて。

高瀬　いや、どっかの記事に「自称・寝技日本一の高瀬大樹」とか書いてあって、その「自称・寝技日本一」っていうのをいつまで引っぱるんだって。それを書いてるのがそこだけだったんで。そんなのリップサービスに決まってるだろって。ちょっといいかげんにしなさいよと、今日はFAXで言いに来ました（笑）。

チョロ　FAXって、ブロガーがまた古典的な手法で（笑）。

高瀬　ここの場所もFAXからFAXで。……意味がないだろって（笑）。

な、なんと！　一日最高26万アクセス!!
高瀬大樹ブログとは？

こちらが話題沸騰中の高瀬ブログのトップページ。スタート当初は食べたモノをアップしたりと、ごく普通の内容だったが「光と影」シリーズを連載してからアクセス数が急増。最近「格闘家の人物像」という新連載も始まった。http://ameblo.jp/takase-d/

タコヤキ　（意味がわからずスルー）自称っていつまでも書いてるのは実際誰なんですか？

チョロ　それはちょっと前に言われたんですけど、ホント僕じゃないんですよ。

タコヤキ　おまえはいつもそういうところから話を始めるね。自分じゃないって。

高瀬　じゃあ、誰なんだよ。

チョロ　まあ、僕でもいいんですけど。

高瀬　結局誰なんだよ（笑）。いいかげんにしてくれよ。

チョロ　誰が書いたのかはよくわかんないですけど、今後『kamipro』ではもうそういう表記はしないです。

高瀬　ホントですね？

チョロ　はい。ただ、僕が「自称・寝技日本一」って名乗るかもしれないですけど。

高瀬　それはいい。言うのは自由だよ。

チョロ　僕の話はいいとして、今日はカリスマブロガーが主役ですから。最近は各媒体から取材殺到中らしいですし。

坂井　今日も取材あったんですよね。

高瀬　はい。『SPA！』からも取材の依頼がありましたね。

チョロ　格闘技業界以外からも注目されているわけですね。

高瀬　人生超絶好調ですよ。

タコヤキ　超絶好調（笑）。もともとブログを書こうと思ったきっかけは何からなんですか？

高瀬　やらされたんですよ。「ブログやったらどうですか？」って僕の仕掛人の一人から言われて。

タコヤキ　ほぉ、仕掛人がいるんですね。

高瀬　仕掛人は二人いるんですけど、一人のほうから「ブログやったらどう？」って言われて。自分は面倒くさがり屋なんで「いや～」と思ったんですけど、逆らえないんで「わかりました。やります」って。だから初期のほうはメシ写して、「今日は松屋に行きました。うまかったです」とかそんなもんしかないですよ。

タコヤキ　松屋多いですよね（笑）。

高瀬　一日二回は行ってますから。だから「スポンサーになってくれ」って今度言おうと思ってるんですよね。

チョロ　僕も松屋で長いこと働いてたんで、ちょっとお願いしてみます。

タコヤキ　知らんがな！

高瀬　社長のこと知らないでしょ？　社長の名前が松屋だと思ってるんじゃないですか？（笑）。

チョロ　まあ、バイトだったんで、あんまり影響力はないんですけど。

タコヤキ　（無視して）ブログは日常の身辺雑記的なところから始まって、そういうところから凄いアクセス数を叩き出すようになったのが「光と影」シリーズですよね。

高瀬　まあ、そうですね。

タコヤキ　ブログと重複するところが出てくると思うんですが、あのキラーコンテンツを書こうと思ったのは？

高瀬　キラーコンテンツですかね（笑）。

タコヤキ　そうでしょ。グイグイ引き込まれますもんね。

高瀬　書こうと思ったのは、前からPRIDE時代の裏側じゃないですけど、自分が見てきた世界を誰かには知らせておくべきだなと思って。初めの500～600しかなかったアクセス数から、せっかく見てくれてる人たちもいるし、書いて、なおかつツラかった過去を受け入れようと思って書いたんです。だから暴露ではないですね（キッパリ）。

タコヤキ　はいはい。

高瀬　暴露っていうのはどこかの週刊誌がやればいいことであって。僕が書いてるのは日常のことなんで。

坂井　自分の身の周りであったことを書いてるだけだ、と。

mimiproとは？

元『紙プロ』編集者で、現在はカリスマ司会者として活躍の原タコヤキ君がお届けするプロレス&格闘技トーク番組。"数字を持つ男"DREAMの笹原圭一EPなど多彩なゲストも登場。ここでしか聞けない話も満載なので要チェック。完全版も聴いてね！

高瀬　そうそう。日記ですよ、簡単に言えば。誰かに文句言われる筋合いはまったくない。暴露じゃないから。青木（真也）とかから「凄いッスね。よく書けますね」って言われましたけどね（笑）。「え、なんで？」って。

坂井　評判になってるっていうのは、いつ頃、耳に入ってきたんですか？

高瀬　アクセス数見てビックリしたんですよ。管理人さんが毎回教えてくれるんですけど、「なんか凄いことになってる」って言って。初めは500〜600だったのが、ある日3000になってたんですよ。「なんで3000なんだ？」って思ったら、次の日1万になってて。で、その次の日が19万になってたんですよ。

タコヤキ　お〜〜〜〜！

高瀬　いきなり、1万から19万ですよ。

タコヤキ　ありえないですよね。

高瀬　飛んだね、と（笑）。「あれ？ ゼロが一個多いんじゃないですか？」って思って。「何書いたの？」って言われて「『何書いたの？』って、知ってるでしょ」みたいな（笑）。

タコヤキ　管理人さんですからね。

高瀬　で、その次の日に最高の26万アクセスを叩き出したんですよ（ちょっと得意げ）。

タコヤキ　凄いなぁ〜。

高瀬　正確には25万8000とかですけどね。いまは平均して10万ぐらいで。昨日は10万3000いくつでしたね。

チョロ　最初は500〜600のどこにでもあるようなブログだったのが。

高瀬　そうそうそう。インチキだった俺のブログが（笑）。

タコヤキ　反響とか当然凄いですよね？ いままで高瀬選手の声が届いてなかった人にも届くようになって。コメントとか読むとブログで好きになったって人も多いみたいですし。

高瀬　そういうのは凄い嬉しいですね。「ブログを読んで身近に感じられた」とか言ってくれたりする人もいて。

タコヤキ　あとやっぱり、高瀬選手がおっしゃるように暴露じゃないっていうのは確かにそうで。そういう期待をして読み始めると、そこまでえげつない表現があるとか、いわゆる暴露としてそこまで刺激的かというとそういうことじゃないですよね。

高瀬　違いますね。

タコヤキ　それはやっぱり高瀬選手が自分の身を切るような、過去の自分の過ちとか恥みたいなことを書いてるところと、やっぱり、あの文体。独特の文体に引き寄せられてしまうんじゃないかと思いましたね。

高瀬　「続く」ですか？（笑）。

タコヤキ　どないなってんねん！ 早く読みたいっていう。「大きな渦に巻き込まれるのだった」っていう、あれがもう（笑）。

高瀬　因果律ね（笑）。闇の螺旋。負の連鎖。

タコヤキ　負の連鎖（笑）。もともと読書とか文章書いたりするのが好きだったんですか？

高瀬　いや〜、そんなことないですね。だから自分で書いてて才能あるんだなって思いましたね。読まれた方から文才あるって言われるんですよ。ヤマケン（山本喧一）さんとか（笑）。「おい大樹。おまえ、うまえなぁ、おまえホント才能あるよ」って（ヤマケン口調で）。なんでそんなに上から目線なのかなって（笑）。

タコヤキ　モノマネの才能もあるわけですね（笑）。

高瀬　いやいやいや（笑）。やっべー、怒られちゃうかな、喧さんに。凄いおほめの言葉をいろんなところからいただいて。

タコヤキ　と言いつつ、好きな作家がいるとか？

高瀬　いや、とくにないですね。小説もとくに読まないし。自己啓発書とか、須藤元気に薦められた本とかは読んだことありますけど。文体とか誰かに影響されたとかはとくにないですね。だから「ゴーストライターがいるんじゃないか」って言われたりするんですけど、それは全然ないですね。神に誓って（キッパリ）。

09年6月27日のケージフォース・ディファ有明大会では秋山成勲率いるチーム・クラウドの森川修次に判定勝ちを収めた高瀬。試合後は「実力3割、マネージメント7割の日本人選手を全員ブッ潰す!」と豪語するも、観客の「誰?」との声には応じず。その答えは年内発売予定の書籍であきらかに!?

ブログを書いてて、自分は才能があるんだなって思いましたね

チョロ　基本的にブログは携帯で書いてるんですよね？

高瀬　基本的にっていうか、全部携帯ですよ。

タコヤキ　うっそー！ 無理でしょ、チマチマチマチマ、そのごっつい手で!?

高瀬　できますよ。

チョロ　「光と影」シリーズとか凄い長いじゃないですか。

高瀬　携帯で書いてますよ。いまも「mimiproの取材を受けてます」って更新しようかなと思って。

タコヤキ　もうごっつい、しょこたんみたいなことになってますね（笑）。

チョロ　面倒くさがりって言ってましたけど、いまの更新頻度を見てたら全然面倒くさがりじゃないですよね。

タコヤキ　あの頻度とクオリティと量は携帯で書ける代物じゃないですよ。でも、反響が大きくなって、それがモチベーションになってる部分もあるでしょうね。

高瀬　ありますね、それは。だって、完全に仕事の一部になってますもんね。

タコヤキ　確かにそうですよね。それだけアクセスがあったら。

高瀬　だから今日は休みたいなとか思いますよ（笑）。今日は作者取材のため、3週間の休みいただきます、みたいな。どっかのお偉い漫画家さんみたいなことやりたいなと思ったんですけど、みんな楽しみにしてくれてるんで。

タコヤキ　10万とか20万の読者がいたらそれを許さないですよね。

高瀬　許してくださいよ。……許せ！

チョロ　カリスマ司会者もブロガーじゃないですか。

タコヤキ　一応ね。だって、あんなの何万とかいくもんじゃないですよ。たまに1万とか2万とかいくときがあって。それでもいち素人が書くとなったら凄いでしょ。

チョロ　でも、ちゃんと理由はあるんですよね。どこかにリンクされたとか。

タコヤキ　そうそう。でも、普通だった2000とか、そんなん。何十万とかいったらえらいことやで、ホンマに。何十万といくのはお金になったりするんですか？

高瀬　いや、ならないですね。ならないですけど、結局ブログによって人生が変わってきてるんで。これ全部、僕のセルフプロデュースなんで……いま管理人さんに送りました。

タコヤキ　話しながらブログを更新されてましたか（笑）。

高瀬　ええ。セルフプロデュースなんで僕がこういう人間なんだよっていうのを身近に感じてもらえれば。

チョロ　仕掛人も内容うんぬんまで仕掛けてるわけじゃないんですか？

高瀬　そうですね。「ブログやったらどう？」ってくらいまで。

タコヤキ　仕掛人の方も高瀬さんが文章うまいであろうってそういうのもなしに、みんなやってるからってことで？

高瀬　そうですよ。だから、初めは「お料理ブログみたいだね」って。「今日は晩酌しました」とかそんなのばっかりだったんで（笑）。

タコヤキ　あと形態もいいですよね。「光と影」みたいな一番みんなが読みたいような連載もあって、身辺雑記もあったり試合のこともあるじゃないですか。だか

© 乾晋也

文句言ってるだけじゃダメ。自分を変えなきゃ周りは変えられない

03年6月の『PRIDE.26』では、現在UFCミドル級王者アンデウソン・シウバから得意の三角絞めで一本勝ちを奪っている高瀬。その後、紆余曲折あり、一度は引退も考えたという高瀬だがブログをきっかけにポジティブモードに突入。現在はとっても「ついてる」らしい。

らそれ以外のコンテンツもつい読んでしまうっていう。

高瀬　ありがとうございます。

坂井　高瀬さんがおっしゃっていたように過去を受け入れる内容ってことで、自分の歩んできた道を反省しつつ振り返る感じで。先ほども言っていた因果律、闇の螺旋、負のスパイラル、ポジティブとネガティブとか、そういう精神的な部分が多いですよね。

高瀬　そうですね。前までは「なんで俺だけこんな目に遭わなきゃいけないんだ」とか、かわいがられてる選手は負けても試合に出れるのに、俺はグダグダ判定のことを言われたり。同じ悪いことしても、10言われるヤツと、2しか言われないヤツがいるじゃないですか？

タコヤキ　いますよね。

高瀬　結局、そういうのは自分に責任があるわけですよ。それを書いて受け入れることによって、文句を言うんじゃなくてさんざんツラい思いをしてきたけど、いまの自分にとってはプラスになって、人付き合いもうまくできるようになったし、感謝の気持ちももちろんあるんですよ。だから、どっかのおばかさんが某社長に「高瀬が悪口書いてますよ」とか言ったりだとか……まあしょうがないんですけど。

チョロ　ド、ドキッ。

高瀬　まあ、この世の中いろんな人がいますからね（ニヤリ）。

坂井　前だったらそれは受け入れられてなかったわけですよね。

高瀬　そうですね。だから、格闘技の世界で社会勉強をしたんだっていう感じで。読んでる人たちも、上司って選べないと思うんですよ。サラリーマンの人たちも公務員とかも。そういうところで気持ちがよくわかるとか、身近に感じてくれる人が多くて。だから、文句言ってるばかりじゃダメなんだなって。自分を変えていかなきゃいけないっていうか。自分を変えていかなきゃ周りの人は変えられないですから。

タコヤキ　なかなか、そこまで受け入れるのは凄くしんどい作業ですけど、それをブログというかたちでやってるということですね。

高瀬　そうです。一種、自己セラピー的なことを書いたら、みんながおもしろいって言ってくれるようになったっていう、結果論なだけなんですよ。

タコヤキ　悪口とか愚痴を書いてスッキリするってわけじゃなくて、書いたらしんどいですよね。

高瀬　しんどいですよ。「大丈夫、こんなの書いて？」とか言われるし。

タコヤキ　「自分がかわいがられなかったのが悪い」とかまで書いてあるじゃないですか。縁が大事であるとか、好かれることが大事なんだよっていうのが過去の自分はできてなかった、と。

高瀬　できてないです。まったくわからなかった。

タコヤキ　それはなかなかできないなって思いましたね。

高瀬　人と人のつながりの力って凄いですよ。いま「俺、こんな人と出会えるの？」っていうぐらい、普通だったら会えないような方と会わせてもらったりしてますからね。

タコヤキ　ブログに名前が出てる方だけでも凄い方の名前が出てきますよね。

高瀬　政治家の方とかもそうですし、芸能人の方、フィクサーの方、普段だったら会えない人たちと会ってかわいがってもらってるっていう。そういうツラいことがあったからこそ、勉強して人に好かれる努力もして自分をアピールして受け入れていただくっていうのができるようになった。いまは恵まれているっていうか、仲間や味方がたくさんいるんで。ホントよかったなっていうか。

タコヤキ　徐々に変わっていった感じですか？　それとも何かターニングポイントがあったんですかね。ブログを拝見するとターニングポイントだらけなんですけど（笑）。

高瀬　ターニングポイントは、もうすぐ「光と影」シリーズが現在に追いつくんですけど、HEATっていう試合に出たときにちょっとアクシデントがありまして。これが因果応報って言葉を再認識することになるんですよ。

坂井　いま、その直前まで来てますよね。

高瀬　そうです。『PRIDE26』のときにアンデウソン・シウバと闘ったときの自分じゃない自分に気づいたんですよね。神様を信じてるし、動物愛護運動とかをして、いい人ぶってるだけで、じつは悪い螺旋が自分の周りを囲んでたっていうか、自分で引き寄せていたのに気づくんですよ。そこで反動ですね。弓矢とかもそうですけど、矢をうしろに引けば引くほど前に飛ぶじゃないですか。自分はグーッともう引っぱりきれないぐらい引っぱったんで（実際に、これでもかと弓を引っぱる動作をし）、その反動で「ポジティブーーッ！」（と言いつつ発射！）って（笑）。

タコヤキ　ダハハハハハ！

チョロ　「超絶好調ーッ！」って（笑）。

高瀬　ホント、超絶好調ですよ。ちょっとしか引かなかったら手前にポンって落ちちゃうでしょ。俺はさんざんうしろに引いて、さんざん下に落ちたんで、あとは登るしかないんですよ。

坂井　そこは「光と影」シリーズのクライマックスになってくるんですかね。

高瀬　そうですね。「追いついたら何書くんだ？」ってよく言われたりするんですけど（笑）。

タコヤキ　また新連載が始まるんでしょ

うね（笑）。

高瀬　新連載始まりますよ。

タコヤキ　それだけ溜めが効いてるんでしょうね。僕らなんか、わりとプロレスから格闘技を知っていくクチなんですけど、プロレスラーの人ってキャリアが長くて溜めが効いてるところが好きだったりするんですよ。格闘家の人って選手生命も短いし、ジムに行ってそのまま選手になったとか、あんまりおもしろい経歴とかなかったりするんですけど、高瀬選手はよくも悪くもプロレスラーチックというか、凄い破天荒だなって。

高瀬　それはよく言われますね。よく言えば波瀾万丈っていうか。でも、ブログにも書きましたけど、波瀾万丈って波があるんで、やっぱりスムーズにいったほうがいいわけですよ。スムーズにいく方法もあるんですよ。波瀾万丈の人は自分で波を作ってるだけであって。

タコヤキ　スムーズにいく方法っていうのは、高瀬選手がいうところのかわいがられるってことですか？

高瀬　かわいがられるというよりポジティブ。前向き。ネガティブなことは一切排除するっていう。

チョロ　それを格闘技界でやっていくのは難しくないですか？

高瀬　難しいですよ。俺もそれを再認識した時点でいろんなところから圧力がかかってきたんで（苦笑）。もう八方塞がりですよ。あそこは出れない、あそこも出れない。それでポジティブになるっていうのは「俺、凄いな」って自分でも思いますもん。

坂井　以前はとてもポジティブになれる状況ではなかった？

高瀬　なれる状況じゃないですよ。普通に考えたら。

タコヤキ　格闘技の世界も僕らの社会と一緒で、いろんなしがらみが多い中で高瀬選手がポジティブな姿勢でやってるところに共感を得るんでしょうね。

高瀬　そうだと思いますよ。いまの世の中は不況で暗いじゃないですか。ある広告代理店の人の話によると、どこの会社も新入社員へのセミナーとか社員教育のテーマは〝ポジティブ〟だそうですよ。

タコヤキ　へぇ～。

高瀬　ポジティブってキーワードがたまたま自分とかぶってたんですよ。

タコヤキ　講演会とか行ったほうがいいかもしれないですね。

高瀬　そうですよ。僕、実際に行ってますからね。定時制高校の講演とか。

坂井　ブログで拝見しましたけど、動物愛護の講演とかもされてるみたいで。

高瀬　そうですね。また今度、広島で動物愛護の講演もあるし。

タコヤキ　ちなみになんですけど、因果律だとか、高瀬選手のいろんなキーワードはどっからきたんですか？

高瀬　自己啓発書を読んで勉強したっていうのもありますね。キリスト教、カトリック、プロテスタント。簡単に分ければですけど。あとは仏教についても勉強して。仏教でもカルマの法則っていうのがあるんですけど、生きてるときに自分がした行ないは必ず自分に返ってくる。それが来世で回ってくる場合もあれば、親の因果は子に回るって自分の子どもに回ることもある。そういう勉強からきたものなんです。だから読んでる人にも気づいてもらいたいんですけど、文句ばっかり言うんじゃなくて、なんでそうなったのかって。太ってる人はなんで太ってるのか。じゃあ、不摂生なことしてないのか、と。

タコヤキ　何か理由があるはずだ、と。

高瀬　そうなんです。よく自分の生き方を振り返って、過去を受け入れたら何かしら原因があるはずなんで。必ず結果には原因があって。僕がいろんなところのリングに出れなくなったのも必ず原因がある。その原因を作ってるのは、まさに自分なんですよ。それを他人のせいにしてたら絶対にダメ。成長できない。それこそネガティブですよ。

私利私欲のために生きていく人間は死ぬときに周りには誰もいない

タコヤキ　たとえば10年前ぐらいの自分が目の前に現われたらどう思います？

高瀬　いやもう、ヤバイですよね。考えられないですね。バカモンもいいところですよ（苦笑）。

タコヤキ　怒鳴りつけたくなります？

高瀬　説教しますね。結局、痛い目をみないとわかんないんですよね。人を傷つけたりしたのが自分に返ってきて、「あ～、あのとき自分がしたときあの人はこんなイヤな思いしたんだ」って感じないとわからないじゃないですか。俺はそこで理解できたんですけど、人間には二通りあって、いい人になろうという志を持つか、自分の私利私欲のためだけに生きるか、どっちを選ぶかですよ。私利私欲のために生きていく人間は、死ぬときに周りに誰もいない。一人で悲しく死んでいく。悲惨な結末を迎えるわけですよ。

タコヤキ　高瀬選手はそうはなりたくなっていうポジティブな生き方をされてるわけですね。

高瀬　そういうことです。

タコヤキ　そんな高瀬選手が出られるということで、質問を募集したところ、読者の方々からメールをたくさんいただきまして、その中から抜粋したもので質問コーナーにいきたいと思います。

坂井　超高瀬キングさんからの質問です。「初めまして、ブログ楽しませてもらってます。質問ですが、高瀬さんの本は具体的にはいつごろどんな内容で、どこから出るんですか。ブログをまとめた感じですか？　一説によると『ｋａｍｉｐｒｏ』から出るという噂もありますが教えてください」。

タコヤキ　ブログで、近々、書籍化されるみたいなことを書かれていますけど、そういうお話自体はどうなんでしょうか。

高瀬　具体的には今年中には出したいと思ってるんですけど、内容もブログをまとめたものプラス、ブログで書かれてないこととか。みんなＰＲＩＤＥ時代のことを知りたいと思うんですけど、ＰＲＩＤＥ時代のまだ書いてないことがあるんですよ。「これ書いちゃっていいの？」みたいなことが（ニヤリ）。

タコヤキ　まだまだあるわけですね。

高瀬　そういうものと、それ以外の、僕みたいな人間もこうやって変われてポジティブに生きて、すべて成功に導かれてるんだよって知ってもらえるような内容の本にしたいなと思ってますね。暴露本ではないです。

タコヤキ　一説によると『ｋａｍｉｐｒｏ』から出るというのは？

高瀬　まったく聞いたことないですよ（笑）。

チョロ　某媒体の人から「高瀬さんの本って『ｋａｍｉｐｒｏ』から出るんですよね」って言われたりしますけどね。

高瀬　「自称・寝技日本一って書くな」とかさんざんバトルしといて（笑）。

坂井　出版社は決まってるんですか？

高瀬　ほぼ決まってますね。

タコヤキ　それは楽しみですね。

坂井　続いては、お名前、魔王さんから。「いつも高瀬さんのブログ、楽しく拝見しております。ズバリ高瀬さんに質問です。いま一番闘いたい選手は誰ですか？

07年3月21日には上井文彦主催の『UWAI STATION』で当時の三冠ヘビー級王者・鈴木みのる戦でプロレスデビューをはたしている高瀬。現在もベイダータイムやMAKEHENなどのリングでプロレスラーとしても活躍中。

最後に川尻選手と青木選手に一言お願いします。では本日も柔道最高」。同じ内容でリスペクト井上さんという方からも質問をいただいております。

高瀬 一番闘いたい相手はDREAMに出てるホナウド・ジャカレイかアンドレ・ガウヴァオンです。

坂井 二人とも寝技が強い選手ですね。

高瀬 その二人だったら寝技逃げないと思うし、キックボクシングの試合にならないと思うんで。

坂井 あと、「川尻選手と青木選手に一言お願いします」ということですが。

高瀬 川尻選手に関しては「昨日はお疲れさまでした」と。

坂井 昨日、魔裟斗戦があったばっかりですからね。

高瀬 ちょっと残念でしたけど、魂伝わったと思います。青木に関しては、「シャオリン戦頑張れ。期待してるよ」と。あとは「大人になれよ。一皮むけろよ」と（意味深にニヤリ）。

タコヤキ いまのは重みがありますね（笑）。

坂井 続いてはお名前、モ魔☆セロさんからいただいております。高瀬選手に質問です。「実力3割、マネージメント7割の選手の○○選手をなぜそんなに意識してるんですか？ またリング上で決着つけることは難しいんですか？」

高瀬 ○○選手って名前出ちゃってますけど（笑）。

坂井 これは伏せておきますんで。

高瀬 でも、その選手のことじゃないんですけどね。

タコヤキ ブログでもその選手ではないと書かれてましたね。

高瀬 自分がブログで皆さんに投げかけたら、その選手のことを凄く言ってくるんで、みんなそう思ってるのかなって。

坂井 意図しているところと違う反応が来ていると？

高瀬 違いますね。同じ階級じゃないのもいるし、一人じゃないですよ。

坂井 高瀬選手はそういう選手に対してもいまはポジティブな感情なんですか？

高瀬 だって、実力3割、マネージメント7割って格闘技の世界じゃあたりまえですもん。

タコヤキ 僕ら会社員でいうと会社が大きい小さいとか、能力がない人でも大きい会社にいたら能力3割、会社7割ってことはよくありますからね。

高瀬 あとは上司にかわいがられてるとか。知り合いのけっこう上のクラスのサラリーマンの方が言ってたんですけど、仕事ができないけど上司にかわいがられてるから仕事をもらえるって人がたくさんいるらしいんですよ。

タコヤキ 実際にいますよね。

高瀬 でもそういうのも結局、仕事のうちというか。上司に好かれるのも必要なわけであって。

タコヤキ それ込みで仕事だ、と。

高瀬 それ込みで仕事ですよね。それにいちいち文句つけて不平不満言ってもしようがない。それこそネガティブです。

タコヤキ 人生ポジティブでいこう、と。では、そろそろお時間なので、最後に告知でもあれば。

坂井 今後のご予定としては、8月2日にベイダータイム新宿FACE大会でのスーパータイガー戦がありますよね。

高瀬 そうですね。その前に同じ新宿のロフトプラスワンでのトークイベントにも出ます。これは皆さん、来たほうがいいですよ。凄いことになりますから。

チョロ トークイベントのホスト役は慧舟會の久保豊喜社長なんですよね。

高瀬 たぶん久保社長には「バカヤロー！」って言われると思いますけど、噂されてるもう一人のゲストが来るんであれば、凄いことになると思うんで。

チョロ す、凄いことになりますか！

高瀬 「あれはどういうことなんですか？」とか僕もガンガン言っちゃうと思うんで、皆さんも来たほうがいいと思います（※収録から数日後、もう一人のゲストがDREAM笹原EPに決定！）。

坂井 8月2日の昼はロフトプラスワンのトークイベント、そして夜は新宿FACEでのベイダータイムに全員集合、と。

タコヤキ まあ、ここで告知せんでも、20何万のメディアを持ってますしね。

高瀬 いやいや、それは多いときですから（笑）。これから人生よくしていきたいと思ってる人、幸せになりたい人、トークショーが終わったら僕と一緒に新宿FACEまで行きましょう！

チョロ 今回のベイダータイムはベイダー本人も来ますからね。ベイダーもポジティブじゃないですか。いつも「ガンバッテーー！」って言ってるし（笑）。

高瀬 ヒザとかいろんなところ悪くされても前向きに頑張ってますからね。

坂井 総合の試合の予定は？

高瀬 総合は9月か10月ぐらいにやりたいんですけど、相手次第で。いろいろ調整してる最中です。それがなかったら打撃の試合とか出ようかなって。総合の試合は今年はあと2回か3回はやりたいと思ってるんで。

坂井 そのへんは高瀬大樹オフィシャルブログを読んでいただく、と。

タコヤキ 『kamiproドットコム』のほう忘れずもチェックしていただくとして、高瀬選手、今日はありがとうございました！

坂井 じゃあ、締めは例のヤツでお願いしましょうか。〝最高〟で。

タコヤキ じゃあ、締めていただきましょう！

高瀬 寝技最高。mimipro最高。俺最高。潮田玲子さん最高。人生超絶好調！ ありがとうございました!!

【09年7月14日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

たかせ・だいじゅ■1978年3月20日、埼玉県出身。和術慧舟會に入門し、98年6月24日の『PRIDE.3』で体重が3倍以上あるエマニュエル・ヤーブロー相手にプロデビュー。その後はパンクラスを中心に活躍。慧舟會を離れてからはJ-ROCKと契約し、フリーとしてPRIDEを主戦場に。それ以降の波瀾万丈な高瀬さんの格闘技人生＆日々の動向はブログでチェック！ 180cm、85kg。

8月2日のトークイベントは絶対に来たほうがいい。凄いことになります

想定内な読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年9月10日(火)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦青木真也は好きですか?　嫌いですか?⑧その理由は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「笹原さん、いいですよね?」係まで

※応募締切は2009年8月31日(月)当日消印有効

PRESENT*01

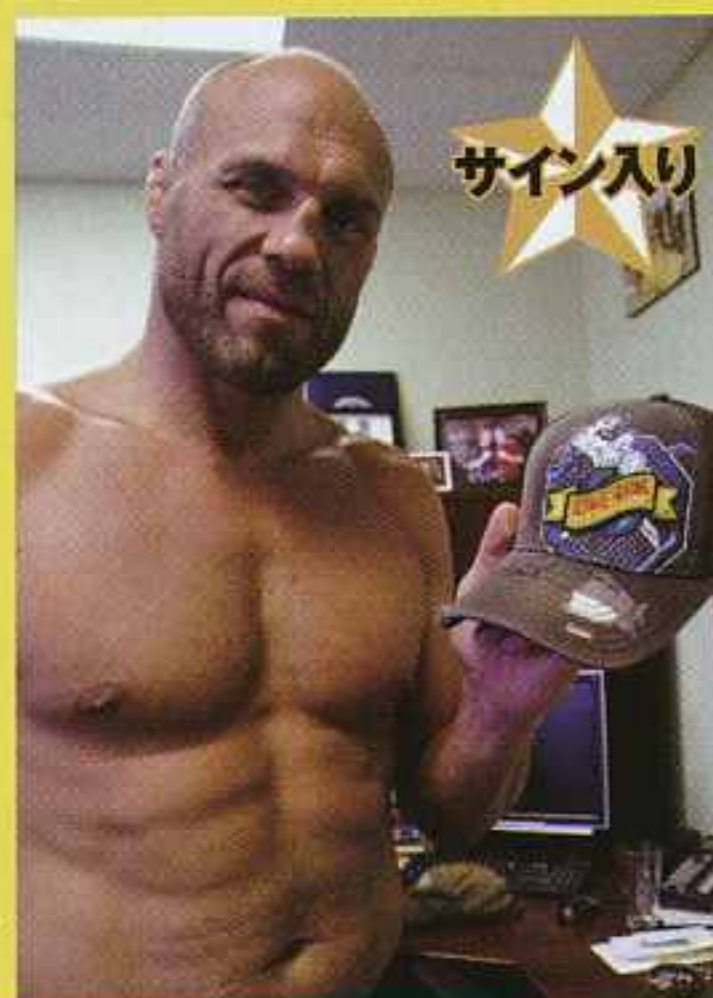
1名様

サイン入り

ランディ・クートゥアー サイン入りUFCキャップ

[UFC]

UFC初期ロゴをでかでかとプリントしたキャップに、"レジェンド"ランディ・クートゥアーのサインを入れてプレゼント。貴重だ!

UFC■http://www.ufc.com/

PRESENT*02

1名様

泉浩 サイン色紙

[非売品]

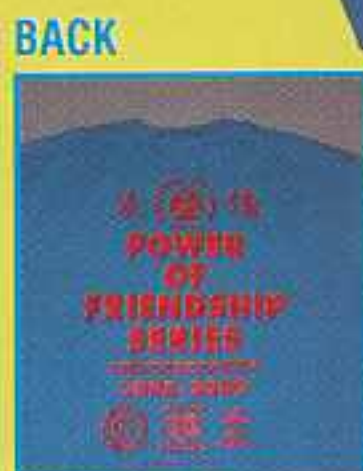
戦極参戦が決定したアテネ五輪柔道銀メダリストの泉浩がMMA転向の決意を語った!　はたしてデビュー戦は、いつ、誰と!?

戦極■http://www.sengoku-official.com/

PRESENT*03

1名様

FRONT

BACK

アートジャンキー 肉のカーテンTシャツ

[アートジャンキー／¥3,990(税込)]

『キン肉マン』ゆでたまご先生公認、肉のカーテンTシャツが、おなじみアートジャンキーから登場!　サイズはXLです。

アートジャンキー■http://www.artjunkie.jp

PRESENT*04

1名様

FRONT

BACK

グレイシー・ミュージアムTシャツ

[グレイシー・ミュージアム]

本誌取材班のアメリカ取材土産です!　グレイシー・ミュージアムのTシャツをプレゼント!　なかなか手に入りませんよ。

グレイシー柔術アカデミー■http://www.gracieacademy.com/

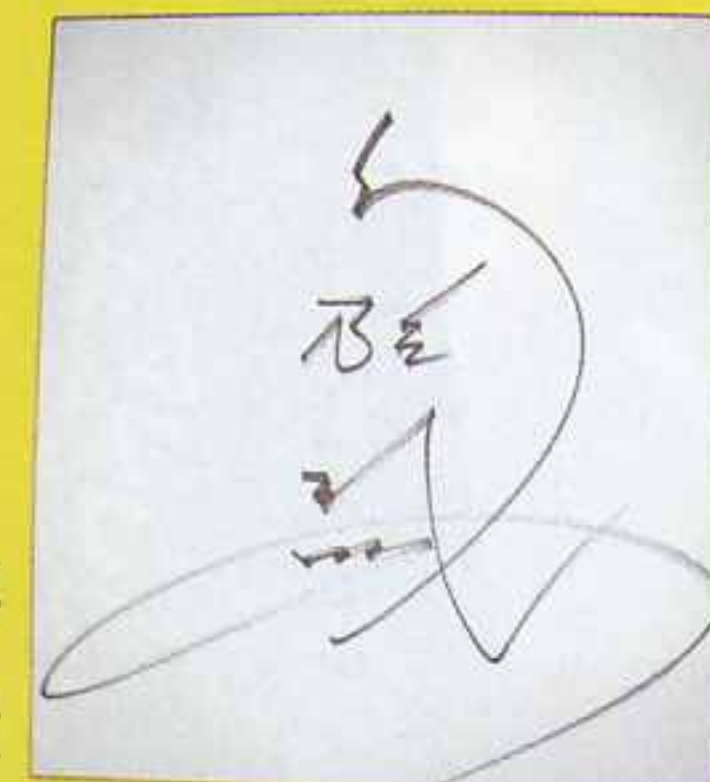
PRESENT*05

1名様

高岩竜一 サイン色紙

[非売品]

現在、フリーで活躍中の高岩の貴重なサイン色紙をプレゼント!!　本誌137号で、現在のプロレス業界の現状を語った衝撃インタビューは必読です。

高岩竜一ブログ『現実逃避』■http://deathvalley.eplus2.jp/

PRESENT*06

1名様

BACK

FRONT

アフリクション新作ポロシャツ

[アフリクション]

アメリカでは大々的に展開している大人気ブランド、アフリクションのポロシャツをプレゼント!　クールなデザインです。

PRESENT*07

1名様

FRONT

BACK

アフリクション半袖Tシャツ

[アフリクション]

こちらはアフリクションの半袖Tシャツ。ホント、アメリカでは格闘技の枠を越えて大人気のブランドです。

PRESENT*08

1名様

アフリクション長袖Tシャツ

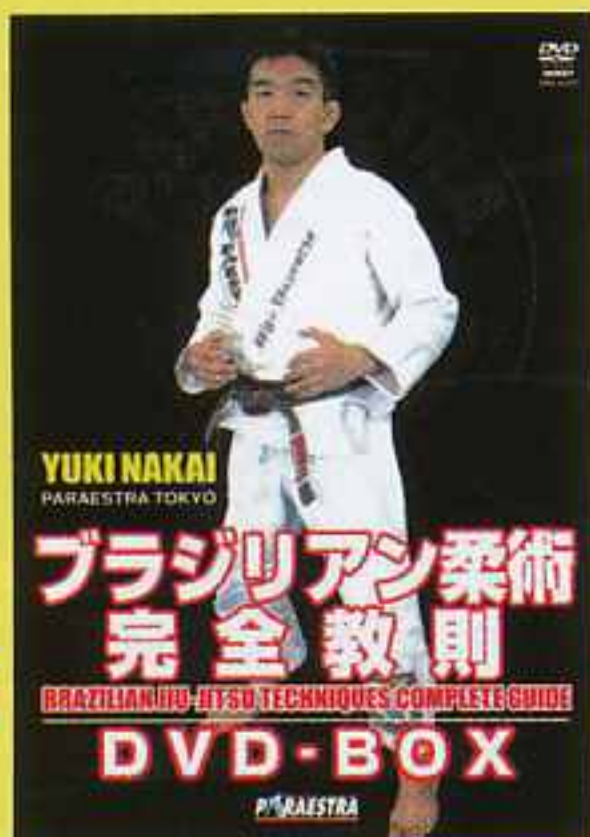
[アフリクション]

独特の風合いでダメージ加工されたロンT。袖にはヒョードルvsジョシュの一戦を告知するタグがついている。いまとなってはマニアにはたまらない!?

アフリクション■http://afflictionclothing.com/

PRESENT*09

1名様

YUKI NAKAI
PARAESTRA TOKYO
ブラジリアン柔術完全教則
BRAZILIAN JIU-JITSU TECHNIQUES COMPLETE GUIDE
DVD-BOX

DVD-BOX
『ブラジリアン柔術完全教則』

[クエスト／¥15,750(税込)]

青木真也や北岡悟の師匠であり日本でブラジリアン柔術の礎を築いた中井祐樹がブラジリアン柔術のテクニックを3枚組450分で完全伝授!!

株式会社クエスト■http://www.queststation.com/

PRESENT*10

3名様

究極の打撃格闘技
キックボクシング
実戦テクニック
[入門編]
最強を目指すための技術を1冊に凝縮

単行本
究極の打撃格闘技
『キックボクシング実戦テクニック』
入門編

[スタジオタック／¥1,995(税込)]

元キックボクシングフェザー級王者・鈴木秀明が、パンチやキック等の正しい攻撃方法や実戦的な使いどころを徹底解説!

スタジオタック■http://www.studio-tac.jp/

PRESENT*11

1名様

格闘家に学ぶ体脂肪コントロール
なぜ格闘家は
3時間で3kg体重を
落とせるのか?
= FAT OFF
カラダをまわせ!
すべて、不要です!!

単行本
格闘家に学ぶ
体脂肪コントロール
『なぜ格闘家は3時間で3kg体重を落とせるのか?』

[佐々木豊・著／ベースボール・マガジン社／¥1,575(税込)]

いま話題の格闘家の減量を科学的に解説、実際にダイエットを考えている人にも有効な単行本!　目からウロコ、腹からぜい肉を落とすべし!

ファットオフ■http://www.fatoff.jp/

kamipro SP
応募券
ムエタイ

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!!

http://kamipro.com/

ところで、8.9 IGF有明大会にジョシュは来れるんでしょうか？

触ってねえですから。ムフフフフ

次号特集テーマは……

“最強”でいきますかーッ!!

8.1『アフリクション』&
8.2『戦極～第九陣～』徹底詳報!!
kamipro No.138は
8月22日(土)発売予定!
※地域によって発売日は多少遅れるんダーッ!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2009 AUGUST
2009年8月12日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎(期間限定ヨコスカン)
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
編集次長(超緊縮財政中)
松林 貴

デザインGM
出田さん(TwoThree)
デザイニングマネージャー
金井ヒサくん(TwoThree)
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐘田やっちゃん
白木みのるちゃん(以上、TwoThree)
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
お勘定
工藤ちゃん
いつでもどこでも
入江ダイヤモンドリング(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
業務部
樽本“まぐろ”義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
白倉“クララ”明子
三日月蹴りマダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)
印刷
大日本印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport
■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン スポーツ企画編集部
☎03-3265-7166

お兄さんも

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]☎0570-060-555(受付時間／土日祝祭日を除く12:00～17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。